

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム 成果報告書2021



国立大学法人
信州大学

ごあいさつ

持続可能な社会の必要性がこれまで以上に認識され、持続可能な開発目標として、SDGs が社会の中で広く知られるようになってきました。SDGs の達成には、持続可能な社会をつくる「人づくり」が不可欠です。そのためには、持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) を推進していくことが不可欠でしょう。こうした中、長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と、ESD の普及に向け、本学部の関係の皆様が中心となり、平成 28 年 2 月に「信州 ESD コンソーシアム」を立ち上げ、活動を進めてまいりました。

「信州 ESD コンソーシアム」は、県内各地に広がったユネスコスクールや地域のさまざまな組織、そして先行する他地域のコンソーシアムとの連携を積極的に推進していただいております。毎年の活動の様子は「信州 ESD 通信」として、県下のユネスコスクールの様々な活動の様子や全国など県外の様々な情報、そして毎年 2 月に開催されている「信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会」では、多数のユネスコスクールの優れた実践が多数紹介され、学校間の交流も活発に行われています。素晴らしいことです。ここまで推進していただいた関係の皆様に深く御礼申し上げます。

信州大学教育学部においても、全学で取り組む「環境マインドをもつ人材育成」の理念のもと、信州の素晴らしい自然に触れ合う授業を通して、子どもに自然環境の重要性を伝えられる人間性豊かな教員の育成に努めております。そして、ESD さらに SDGs は現在の教育の中での大きなテーマになっています。「信州 ESD コンソーシアム」の成果に私ども教育学部も学ばせていただきながら、持続可能な社会の構築に向けて共に取り組んでいきたいと思っております。

2021 年度の活動をまとめたこの成果報告書が、今後の長野県をはじめとする我が国の ESD, SDGs 推進の一助となれば幸いです。

令和 4 年 8 月

信州大学教育学部長
村 松 浩 幸



目次

ごあいさつ 信州大学教育学部長 村松 浩幸 1

I 信州 ESD コンソーシアムの概要

信州ESDコンソーシアムの概要	4
信州ESDコンソーシアム規約	6
構成団体名簿	8
役員名簿	9
信州ESDコンソーシアム事業実績	10

II 通常総会

式次第	12
参加者名簿	13
当日の様子	14
通常総会議事抄録	15

III 成果発表 & 交流会

チラシ	20
プログラム	21
当日の様子	22
<成果発表>	
1 群馬県みなかみ町立新治小学校	23
2 山ノ内町立西小学校	27
3 信州大学教育学部附属松本小学校	31
4 飯田市立遠山中学校	36
5 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生①)	40
6 山ノ内町立東小学校	43
7 飯田市立上村小学校	46
8 信州大学教育学部附属長野小学校	51
9 宮崎県綾町立綾中学校	54
10 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生②)	59
11 山ノ内町立南小学校(3年生)	62
12 山ノ内町立南小学校(6年生)	66
13 飯田市立和田小学校	70
14 高山村立高山中学校	77
15 信州大学教育学部附属松本中学校	80
16 岐阜県高山市立荘川中学校	84
17 福島県只見町立只見中学校	87
18 長野県佐久平総合技術高等学校	90
19 文化学園長野高等学校	93
20 長野県木曾青峰高等学校	98
21 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(5年生)	103

22 高山村立高山小学校	105
23 茅野市立永明小学校	108
24 文化学園長野中学校①	110
25 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生①)	115
26 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(3・4年生)	118
27 長野市立信里小学校	121
28 文化学園長野中学校②	126
29 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生②)	130
30 根羽村立義務教育学校根羽学園	133
31 信州大学教育学部附属幼稚園	135
32 信州大学教育学部附属特別支援学校	136

IV 長野県内のユネスコスクール年次報告

1 信州大学教育学部附属幼稚園	138
2 茅野市立永明小学校	138
3 高山村立高山小学校	139
4 山ノ内町立東小学校	141
5 山ノ内町立西小学校	142
6 山ノ内町立南小学校	143
7 信州大学教育学部附属長野小学校	145
8 信州大学教育学部附属松本小学校	147
9 高山村立高山中学校	148
10 山ノ内町立山ノ内中学校	149
11 信州大学教育学部附属長野中学校	149
12 信州大学教育学部附属松本中学校	150
13 長野県中野西高等学校	151
14 長野県長野西高等学校	152
15 文化学園長野中学・高等学校	154
16 信州大学教育学部附属特別支援学校	154

V ESD 通信

No.39	158
No.40	159
No.41	162
No.42	164
No.43	165

I

信州 ESD コンソーシアムの概要

信州 ESD コンソーシアムの概要

1 設立の背景

信州大学教育学部は、全国の教員養成系学部単独では初めて環境マネジメントシステムに関する国際規格 ISO14001 の認証取得を受け、エコキャンパスの構築に取り組んできた。また学部での環境教育の授業の必修化に取り組み、1年生全員が環境監査資格を取得する等、環境マインドを身につけ、環境教育を指導できる卒業生を長野県内の教育現場に送り出してきた。

また、長野県は志賀高原、南アルプス、甲武信という、日本で最も多い3つのユネスコエコパークを抱え、豊かな生物多様性を有する日本でも稀な恵まれた自然環境の中にある。こうした立地から、県内の環境保護に対する意識は高く、行政のみならず、企業やNPO法人等において様々な取組が恒常的に行われている。

一方で、長野県内の学校現場でのESDの認知度は低く、その推進拠点と位置づけられているユネスコスクールの加盟校も、コンソーシアム設立前の平成28(2016)年2月時点では4校に留まっていた。また、企業や各種団体、ユネスコ協会をはじめとするNPOなどが、それぞれ個別にESDの推進に関わる意思を持ち、また活動を行っている団体もあったものの、学校とのつながりが少なく、教育現場では十分に活躍できていなかった。こうした現状から、長野県内でESDの普及・実践を推進するため、学校現場と県内でESDに携わる様々なステークホルダーを橋渡しし、ESDについての情報交換や交流、連携を促進する仕組みの構築が求められていた。

そこで本学教育学部は文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」を活用し、平成28(2016)年4月からESD支援団体の設立準備に取り組んだ。平成29(2017)年2月に、本学教育学部を中心に、県内の各ユネスコスクール、教育委員会、NPO等各種団体などにより構成される『信州ESDコンソーシアム』を設立した。

2 コンソーシアムの機能と特徴

信州ESDコンソーシアムの目的は、長野県全域にESDを普及・定着することである。この達成に向け、多様なESD関係者と協働し、以下の取り組みを行っている。

1. ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
2. ESDに関わる人たちの交流の場を創出
3. 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信

5. ESD 関連情報を共有する場を提供

また近年は、SDGs未来都市となった長野県の取り組みと共鳴し、ESDとSDGsを結び付けて学校現場で実践するための普及・啓発にも取り組んでいる。第四次長野県環境基本計画(2018年-2022年)において信州ESDコンソーシアムは、長野県におけるESD普及・推進の主要な担い手と位置づけられている。

また信州ESDコンソーシアムでは、ユネスコが主導するESDと、長野県の特徴のひとつでもあるユネスコエコパークの活動を連動させ、その相乗効果を発揮する実践を目指している。このことは他のコンソーシアムにはない、特徴的な取り組みである。

3 コンソーシアムの活動

(1) ユネスコスクールに関する支援

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された理想を実践することを目的とした学校であり、また日本ではESD推進拠点として位置づけられている。信州ESDコンソーシアムは長野県内の各種学校のユネスコスクール加盟申請を支援している。ユネスコスクールへの加盟を検討している学校や、加盟前のチャレンジ期間に入っている学校を対象に、活動実践への指導や助言を行うほか、要望に応じてコーディネーターが学校に出向いて、教職員を対象としたESD/SDGsの出前研修会を行っている。

信州ESDコンソーシアムは、ユネスコスクールに加盟済みの学校に対しても、活動実践に対する各種支援を行っている。日常的に学校訪問を行いながら活動実践に対して指導・助言を行うとともに、課題や要望をうかがい、時宜にかなった支援を提案・実施している。支援内容はESD/SDGsの出前研修会の開催や校内研究会・授業公開への参加、活動をサポートする団体等のコーディネートなど、教職員を対象とした間接的支援が中心であるが、コーディネーターがゲストティーチャーとして直接、学習支援を行う場合もある。

(2) 多様な主体間の連携促進とESDの普及啓発

信州ESDコンソーシアムには各ユネスコスクールやその加盟希望校のほか、教育委員会、民間ユネスコ協会、NGO、企業・団体など多様な主体が参加しており、県内ユネスコスクールの活動を支援するプラットフォームとして機能している。

また市町村教育委員会やユネスコ協会関係者など、学校現場でのESD実践に携わる多様な主体を対象としたESD/SDGs研修会の講師を務め、その

普及に取り組んでいる。

(3) 交流機会の創出

信州ESDコンソーシアムでは発足以降毎年、ユネスコスクールで学ぶ子どもたちが日頃のESD実践の成果を互いに発表しあい、交流を通じて学びあう「成果発表&交流会」を、信州大学を会場に開催している。

また全国のユネスコスクール等との交流を促進するため、ユネスコスクール全国大会や他地域コンソーシアムが主催するESD研修会などへの、コンソーシアム加盟校等の参加支援を行っている。

(4) ユネスコエコパークを活用したESD/SDGsの普及・推進

ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は、ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画の一環として実施されている事業であり、豊かな生態系を有し、地域

の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進める地域が、自然と人の調和と共生を目指すモデルとして認定される。ユネスコエコパークにおいてESDは、地域の自然やそこに育まれた歴史文化についての地域住民の理解を深め、持続可能な地域づくりの担い手を育成する役割が期待されており、MAB戦略(2015-2025)でも主要な戦略目標のひとつと位置づけられている。またESD学習において、豊かな自然やそこに育まれた歴史文化といった学習資源を備えるユネスコエコパークは、好適なフィールドということができる。

信州ESDコンソーシアムは信州大学附属志賀自然教育研究施設が立地する志賀高原ユネスコエコパークを中心に、ユネスコエコパークにおけるESD/SDGs学習支援に取り組むとともに、全国のユネスコエコパークに対する成果の発信や、学校間交流の促進を通して、ユネスコエコパークを活用したESD/SDGsの普及・推進に取り組んでいる。



信州 ESD コンソーシアム規約

第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は、信州 ESD コンソーシアム（以下「本団体」という。）と称する。

(事務局)

第2条 本団体の事務局は、信州大学教育学部内に置くものとする。

(目的)

第3条 本団体は、様々なESD関係者が協力して長野県を中心としたESDを推進することを目的とする。

(活動)

第4条 本団体は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESDの推進と国内外のESD推進校との交流促進
- (2) 公民館、図書館をはじめとする社会教育施設、青少年教育施設を通じた社会教育におけるESDの推進
- (3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD関連情報の共有
- (4) ESDに関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- (5) 企業、NGOを含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- (6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

第2章 会員

(会員)

第5条 本団体の会員は、第3条の目的に賛同して入会する各種団体、教育関係機関及び任意団体（以下「団体等」という。）とする。

(入会及び退会)

第6条 入会を希望する団体等は、所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2 団体等の入会は、会長が許可する。

3 退会を希望する会員は、所定の退会申込書を事務局に提出し、任意に退会することができる。

(会費)

第7条 本団体の会費は、当面徴収しないものとする。

第3章 役員

(役員)

第8条 本団体に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名以上3名以内
- (3) 運営委員 会長が必要と認める定数

(役員の実務)

第9条 役員は、役員会を構成し、本団体の業務の執行を決定する。

2 会長は、本団体を統括し、本会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

4 運営委員は、運営委員会を構成し、本団体の業務を執行する。

(役員の実任)

第10条 会長は、信州大学教育学部の長とする。

2 副会長は、運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は、会長が指名し、総会において承認する。

(役員の実任)

第11条 役員の実任は2年とする。ただし、再任を妨げない。

第4章 会議

(会議の種類)

第12条 本団体の会議は、総会及び運営委員会とする。

(総会)

第13条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の権能)

第14条 総会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 規約の決定及び変更
- (2) 事業計画の承認
- (3) 事業報告の承認
- (4) 役員の実任
- (5) その他本団体の運営に関する重要事項

(総会の開催)

第15条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。

(総会の招集)

第16条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

(総会の議長)

第17条 総会の議長は、その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。

(総会の議決)

第18条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第19条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

(運営委員会の権能)

第20条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 事業計画の立案と変更
- (2) 事務局の組織及び運営に関する事項
- (3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(運営委員会の開催)

第21条 運営委員会は、会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章 ESDコーディネーター

(ESDコーディネーター)

第22条 本団体に、ESDコーディネーター若干名を置く。

2 ESDコーディネーターは、本団体の目的を達成するために、長野県を中心としたESDの推進を支援する。

3 ESDコーディネーターは、長野県を中心としたESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。

4 ESDコーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第6章 雑則

(雑則)

第23条 この規約に定めるもののほか、本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この規約は、平成29年2月18日から施行する。

令和3年度 信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

令和4年3月31日現在

No.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学 / 代表団体
2	高山村教育委員会	教育委員会
3	山ノ内町教育委員会	教育委員会
4	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
5	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
6	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
7	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
9	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
10	長野市立東条小学校	キャンディデート校
11	長野市立信里小学校	キャンディデート校
12	安曇野市立豊科南小学校	キャンディデート校
13	飯田市立和田小学校	キャンディデート校
14	飯田市立上村小学校	キャンディデート校
15	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
16	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
17	いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	準ユネスコスクール
18	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
19	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
20	茅野市立永明中学校	準ユネスコスクール
21	飯田市立遠山中学校	キャンディデート校
22	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
23	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
24	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
25	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
26	上田西高等学校	キャンディデート校
27	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
28	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
29	長野市長沼交流センター	地域団体
30	NPO 法人みどりの市民	地域団体
31	NPO 法人やまぼうし自然学校	地域団体
32	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
33	信更の学校を考える会	地域団体
34	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	地域団体
35	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
36	長野ユネスコ協会	地域団体
37	上田ユネスコ協会	地域団体
38	松本ユネスコ協会	地域団体
39	諏訪ユネスコ協会	地域団体
40	飯田ユネスコ協会	地域団体
41	木曾ユネスコ協会	地域団体
42	直富商事(株)	地域団体
43	(株)ミールケア	地域団体
44	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
45	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
46	環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	支援機関
47	信州大学全学教育機構環境マインド実践人材育成コース	大学
48	一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構	地域団体
49	長野県 PTA 連合会	地域団体

令和3年度 信州ESDコンソーシアム役員等名簿

役員

職名	氏名	所属	職名
会 長	宮崎 樹夫	信州大学教育学部	学部長
副 会 長	宮島 和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事
副 会 長	中野 清史	長野県ユネスコ連絡協議会	会長
副 会 長	山岸 深志	高山村教育委員会	教育長
運営委員長	西 一夫	信州大学教育学部	教授
運営副委員長	渡辺 隆一	信州大学教育学部	特任教授
運 営 委 員	安達 仁美	信州大学教育学部	准教授
運 営 委 員	水谷 瑞希	信州大学教育学部	助教
運 営 委 員	本間 喜子	信州大学学術研究・産学連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーションセンター	助教

ESDコーディネーター

氏名	所属	職名
西 一夫	信州大学教育学部	教授
渡辺 隆一	信州大学教育学部	特任教授
安達 仁美	信州大学教育学部	准教授
水谷 瑞希	信州大学教育学部	助教
矢崎 靖雄	諏訪ユネスコ協会	会長
伊坪 百代	飯田ユネスコ協会	会長

令和3年度 信州ESDコンソーシアム事業実績

No.	年月日	事業名	講師等	対象	参加者数	主催・共催・後援等	会場
1	2021/4/21	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第1回)【山ノ内南小学校】	水谷瑞希	教職員		信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立南小学校	山ノ内南小学校
2	2021/4/21	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第1回)【山ノ内西小学校】	水谷瑞希 渡辺隆一	教職員		信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立西小学校	山ノ内西小学校
3	2021/5/21	COI校外学習【山ノ内南小学校】	水谷瑞希 本間喜子 COI	山ノ内南小学校(児童)			
4	2021/5/27	総合的な探究の時間特別授業	水谷瑞希			長野県中野西高等学校	長野県中野西高等学校
5	2021/5/27	第1回「千曲市 キャリア教育推進委員会」にてESD/SDGsに関する講演	安達仁美	教職員		千曲市総合教育センター	
6	2021/6/8	ユネスコエコパークオンライン授業	水谷瑞希 朱宮丈晴 長坂朋美	小学校高学年～中学生	200	信州ESDコンソーシアム	ZOOM、YouTubeアーカイブ
7	2021/6/16	EPO中部・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議(第1回)	水谷瑞希				
8	2021/6/23	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第1回)【山ノ内東小学校】	水谷瑞希	教職員	14	信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立東小学校	山ノ内東小学校
9	2021/6/30	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第2回)【山ノ内南小学校】	中澤静男 水谷瑞希	教職員	13	信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立南小学校	山ノ内南小学校
10	2021/7/2	CS推進学社連携・協働意見交換会にてESD/SDGsに関する講演	安達仁美	地域連携担当職員等		南信教育事務所飯田事務所	
11	2021/7/2	志賀高原高原学習事前学習【附属長野小】	水谷瑞希	児童	80	信州大学附属長野小学校	信州大学附属長野小学校
12	2021/7/6	ASPUnivNet令和3年度評価検討会議・第一回連絡会議					
13	2021/7/14	志賀高原高原学習【附属松本中】	水谷瑞希	生徒	160	信州大学附属松本中学校	
14	2021/7/19	志賀高原高原学習【附属長野小】	水谷瑞希	児童	80	信州大学附属長野小学校	
15	2021/7/26	チャレンジ期間終了判定ヒアリング(遠山3校)	水谷瑞希	教職員	8	飯田市立遠山中学校、上村小学校、和田小学校	飯田市立和田小学校
16	2021/8/5	ESDティーチャープログラム研修(第3・4回)	中澤静男 水谷瑞希	教職員	5	近畿ESDコンソーシアム、信州ESDコンソーシアム	オンライン、1、2回はオンデマンド配信
17	2021/9/2	志賀高原校外学習【山ノ内南小学校】	水谷瑞希	児童	13		志賀高原
18	2021/10/2	ESDティーチャープログラム研修(第5回)	大西浩明 水谷瑞希	教職員	5	近畿ESDコンソーシアム、信州ESDコンソーシアム	山ノ内南小
19	2021/10/2	2021年度 コンソーシアム第2回学びあいセミナー「信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会の学校実践」	水谷瑞希	一般		ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム	
20	2021/10/12	地域と学校の連携推進研修「地域と学校で取り組むSDGs」	安達仁美	一般		長野県生涯学習推進センター	
21	2021/10/20	ESD校内研修【山ノ内東小】	水谷瑞希	教職員	13	山ノ内町立東小学校	
22	2021/10/21	信州大学出前講座「SDGsを達成するために、中学生にできることは」	水谷瑞希	生徒、教職員	510	信州大学出前講座枠	飯田市立高陵中学校
23	2021/11/4	信州大学出前講座「動物(サル)と人間が共存できる自然豊かな山ノ内町」	水谷瑞希	児童、教職員	34	信州大学出前講座枠	山ノ内東小学校
24	2021/11/13	自然資本を活かした人づくり・地域づくり立山黒部ジオパークESDダイアログ2021～基(もとい)の学びからどんな力を養うか「自然資本を活用したESD活動とは」	水谷瑞希	一般		中部地方ESD活動支援センター	大山研修センター(富山市)、オンライン併催
25	2021/11/18	長野市教育センター研修講座「キャリア教育の現状とESD」	安達仁美	教職員		長野市教育センター	
26	2021/11/19	PTA講演会「ESD/SDGsを学び、進めるために」	水谷瑞希	PTA		山ノ内南小学校PTA	信州大学出前講座枠
27	2021/12/9	ASPUnivNet令和3年度評価検討会議・第二回連絡会議					
28	2021/12/17	全国ユース環境活動発表大会審査会(中部地区大会)	水谷瑞希				
29	2021/12/21	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第3回)【山ノ内南小学校】	中澤静男 水谷瑞希	教職員	13	信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立南小学校	山ノ内南小学校
30	2021/12/22	ユネスコエコパークを活用したESD/SDGs研修会(令和3年度 第2回)【山ノ内西小学校】	中澤静男 水谷瑞希	教職員	13	信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立南小学校	山ノ内西小学校
31	2021/12/23	ESD/SDGs学校研修会「ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方」	水谷瑞希	教職員	19	根羽村立義務教育学校根羽学園	根羽村立義務教育学校根羽学園
32	2022/2/5	2021年度信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会	池端弘久 阿部 治 市瀬智紀 中澤静男 及川幸彦 安田昌則	コンソーシアム構成団体、長野県内学校関係者(教員・児童・生徒・保護者)等	Zoom参加259 YouTube Live参加658	主催:信州ESDコンソーシアム 共催:公益財団法人イオン環境財団 後援:信州大学教育学部、長野県教育委員会、ESD活動支援センター、長野県ユネスコ連絡協議会、長野県環境保全協会	
33	2022/2/9	ESD校内研修【山ノ内東小】	水谷瑞希	教職員	13	信州ESDコンソーシアム、山ノ内町立東小学校	山ノ内東小学校
34	2022/2/28	EPO中部・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議(第2回)	水谷瑞希				



通常総会

令和3年度 信州ESDコンソーシアム通常総会

日 時 令和3年8月28日(土) 13時00分～

開催方法 オンライン (zoom)

次 第

1. 開会挨拶

信州ESDコンソーシアム 運営委員長

信州大学教育学部 教授 西 一夫

2. 総会

(1) 議長選出

(2) 協議

・役員を選出について

・事業報告について

・事業計画について

・その他

(3) 報告

・加盟団体活動紹介

・その他

3. 意見交換

4. 閉会挨拶

信州ESDコンソーシアム通常総会 出席者名簿

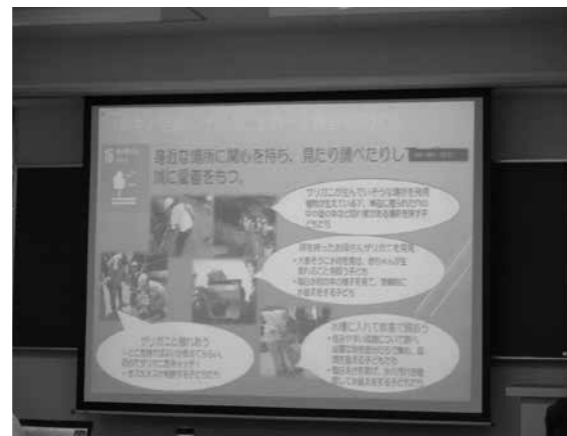
令和3年8月28日(土) 13:00～ オンライン開催

敬称略、順不同

学校名・組織名	お名前	備考
ユネスコ・アジア文化センター	大安 喜一	
環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター	原 理史	
一般社団法人長野県環境保全協会	宮島 和雄	
諏訪ユネスコ協会会長	矢崎 靖雄	
直富商事株式会社	小川 和美	
信州大学教育学部附属幼稚園	小田切 和子	
高山村立高山小学校	中澤 光	
山ノ内町立南小学校	菅原 勇介	
山ノ内町立西小学校	栗林 えり子	
長野市立東条小学校	長谷部 謙一	
長野市立信里小学校	立野 正之	
茅野市立永明小学校	平林 正也	
山ノ内町立東小学校	大木 健晴	
信州大学教育学部附属長野中学校	中村 和孝	
信州大学教育学部附属特別支援学校	山崎 福太郎	
山ノ内中学校	小野沢 賢一	
山ノ内中学校	本山 育人	
文化学園長野中学・高等学校	長田 里恵	
中野西高等学校	須野原 美香	
長野市教育委員会事務局 学校教育課	中田 雄大	オブザーバー
須坂市教育委員会	月岡 英明	オブザーバー

コーディネーター	西 一夫
コーディネーター	渡辺 隆一
コーディネーター	安達 仁美
コーディネーター	水谷 瑞希
URA	本間 喜子
ESD事務局長	渡邊 拓矢
ESD事務局員	清水 英俊
ESD事務局員	松橋 恵美子

会議報告書



会議の名称	令和3年度 信州 ESD コンソーシアム通常総会		
開催日時	令和3年8月28日(土) 13:00 ~ 14:00	開催場所	中校舎 3F M301 及び zoom
		報告者	本間 喜子
議題・報告・連絡事項等	審議・報告・連絡等の概要		
【議題】			
(1) 議長選出	宮崎会長不在のため、規約9条3号に基づき、宮島副会長より西委員が指名され、承認された。		
(2) 協議	以下、西議長の進行により協議された。		
・ 役員の選出について	西議長より、運営委員長として資料P6に基づいて説明があった。 ▶特に異議なし。原案通り承認された。		
・ 事業報告について	水谷委員より、資料及び成果報告書2020に基づき令和元年度・令和2年度について説明があった。 諏訪ユネスコ協会会長矢崎氏より下記質問があった。 ・ 令和2年事業報告ユネスコスクールに対する支援について質問。永明中が加盟申請中だが、現在どうなっているか教えて欲しい。 安達委員より下記の通り回答があった。 ・ UnivNet加盟大学が支援する手はずとなっている。要請があった際に学校に何う手順となっている。永明中より要望あり次第何う。 ▶特に異議なし。承認された。		
・ 事業計画について	水谷委員より資料に基づき説明があった。 信里小学校教頭立野先生より以下質問があった。 ・ 令和2年度職員研修で支援について感謝申し上げる。本年度ESDカレンダーで指導を賜りたい。児童への支援についてどういったものがあるか知りたい。 水谷委員、西議長より下記回答があった。 ・ 支援内容については個別に相談となる。出前講座や環境保全協会等の既存制度と並行して可能なことを探索していく。(水谷委員) ・ 事務局に連絡いただければ対応する。(西議長) ▶特に異議なし。承認された。		
・ その他	特になし		
(3) 報告			
・ 加盟団体活動紹介	渡辺委員の進行により下記団体から紹介があった。 ●ユネスコ・アジア文化センター ・ ユネスコスクール事務局を担当。日本のユネスコ加盟70周年。関連事業を進めていく。 ・ ACCUでESD実践の評価に関するプロジェクト等実施。11月後半に全国大会をオンラインに予定。UnivNetの支援で共同研究を信大との実施を支援。		

<p>●中部地方 ESD 活動支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いプロジェクト及びジオパーク ESD ダイアログ 2021（11月13・14日）の紹介。 ・児童に対する支援で、川と山についてのパンフレットを作成したので希望があればお送りする。URL お知らせする。 <p>※「野外体験ガイドシート」というツールを2場面4種類作成。PDFの下の部分変更可能。 https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/2020guidesheet</p> <p>※ ESDfor2030 学び合いプロジェクト https://www.epo-chubu.jp/epo-news/12739.html</p> <p>※ジオパーク ESD ダイアログは近日募集開始予定</p> <p>●長野県環境保全協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州環境カレッジの運営。学校講座が活発であり、登録業者83。講座は53、実施実績は129。参考にさせていただければ。オンライン実施も可能である。 <p>●諏訪ユネスコ協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10周年記念事業のため記念書を発行した。6市町村でユネスコ担当者をつけ、説明を年度当初に行った。SDGsポスターを作成し、諏訪の全小中学校に配布。 <p>●直富商事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年1月にSDGs推進企業に認定され、社内で研修等実施。 ・リモートで小学生対象にリサイクルについて紹介する事業を開始。 <p>●信州大学教育学部附属幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の取り組みを紹介。子どもたちの創作活動、あそびの中での学びに繋げている。リサイクル・リユースも意識した活動を行っている。 <p>●高山村立高山小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの柱を目標に活動実施。ESDカレンダーの作成と目標の見直し。地域活動としてボランティア活動も実施。コロナ禍で人の接触がある活動については内容を修正しながら、学びを止めないために様々工夫をしている。 <p>●山ノ内町立山ノ内南小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度学内外で活動を実施。氷見や信大、サントリー等に学びの支援をいただいている。保護者へのESDの理解促進も進めている。 <p>●山ノ内町立山ノ内西小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続して実施中。稲作を発展させ、無農薬の大豆づくりなどにも取り組んでいる。ESDカレンダー等の研修も実施。 <p>●長野市立東条小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛍水路の活動継続中。紫陽花を植えるなど総合的に活動し、5年振りに蛍が見られた。春にも放流予定。 <p>●長野市立信里小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面共有にて資料提示し説明があった。環境、人権、安全などをテーマに各学年で実施した活動内容を報告。 <p>●茅野市立永明小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合生活で取り組みESDを進めている。1学年の取り組みが全校に広がったり、継続した活動ができている。研究部会もあり、ESDの推進を行っている。 <p>●山ノ内町立東小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動がSDGsにどうかかわるのかという事を教職員の中での理解を促進するための取り組みを実施。ESDボードの設置等を行っている。

<p>・その他</p> <p>3. 意見交換</p>	<p>●信州大学教育学部附属長野中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会問題を取り上げて、環境や人権等をテーマに生徒が自主的に学習を進めている。17の目標を意識して、問題を取り上げている。防災の観点から街づくり等についても検討している。 <p>●信州大学教育学部附属特別支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活や授業の中でSDGsの目標と何が関連づいているかを教員側で意識しながら活動を進めている。 <p>●山ノ内中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原を中心とした学習が小学校から積み重ねられているため、中学校ではその体験をどのように自分たちの地域のために展開していくか考え、活動を実施。コロナ禍で予定通りに活動が進まないが、全校で「わたしのESD宣言」を実施し、自分の目標とSDGsを関連付け活動を実施している。 <p>●文化学園中学・高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を提示し、報告した。BGN NEWSを作成し、情報発信を行っている。ユネスコスクールについての解説・紹介等も行い、教職員への理解を深める取り組みをしている。ヘッドネーションの取り組みなどを文化祭のステージでショートして紹介等を実施。紙エコバックづくりを盲学校の生徒たちと共同制作を進めている。 <p>●中野西高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も継続して活動を実施している。コロナ禍で予定通りには進まないが、工夫をして活動実施。（※先方のネットワークが不安定なため活動紹介は途中までしか聞き取れなかった。） <p>・特になし</p> <p>渡辺委員：ザリガニが外来危険生物に指定される可能性があり、扱えなくなるかもしれない。</p> <p>水谷委員：アメリカザリガニについて、環境省が指定する特定外来生物種に指定される見込みが強い。指定された場合、様々な扱いが変更となる。細かい内容については個別で相談をしていただきたい。</p> <p>渡辺委員：身近にはいるが、そういった視点でも見なければいけなくなる。</p> <p>信里小学校教頭：飼育後、ザリガニ池に返している。ウシガエルもいる。他にも生物がおり、今後も指導をお願いしたい。</p> <p>安達委員より、本年度の成果発表会&交流会は2月5日に実施予定である旨告知があった。</p> <p>総会終了</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------------------------	---



成果発表 & 交流会

信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会

ESD (Education of Sustainable Development) は、これから目指すべき持続可能な社会の創り手を育む教育です。新しい学習指導要領全体の基盤となる理念として、またSDGs (持続可能な開発目標) 達成の鍵として、注目が集まるESD。この成果発表&交流会では、各校でESDの学びを実践している子どもたちが、学びの成果を発表し、また交流を通してその学びを深めます。長野県内だけでなく、各地のユネスコエコパークでESDを実践している学校もオンラインでつながることで、様々な分野での発表や学びの広がりが期待されます。

日時：2022年 **2月5日** ±
10:00~15:00
会場：オンライン開催

参加費無料 発表・交流をご希望の方は事前申し込み必要
1月14日(金)締め切り

Web (YouTube) 視聴のみをご希望の方は、事前申し込み不要です。特設HP内でYouTube Liveのリンク先をご案内しておりますので、成果発表&交流会当日、QRコードまたはURLよりご覧ください。

【午前の部】	【午後の部】
10:00~10:10 開会行事	13:00~14:15 分科会(4~6)
10:15~11:30 分科会(1~3)	14:15~14:25 講評
11:30~11:40 講評	14:30~14:45 午後の部の共有
11:45~12:00 午前の部の共有	14:45~15:00 閉会行事

午前・午後で3分科会ずつ 最大6分科会を予定
(1分科会 4~5校で発表・交流)

同時
YouTube
ライブ配信

お申し込み・YouTube
の視聴はこちらから!



<https://esd-nagano.org/conference2022/>

主催：信州ESDコンソーシアム 共催：公益財団法人イオン環境財団

後援：信州大学教育学部、長野県教育委員会、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県ユネスコ連絡協議会、長野ユネスコ協会、ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)

お問い合わせ 信州大学教育学部 信州ESDコンソーシアム事務局(担当:松橋・清水)
〒380-8544 長野市西長野6-0 TEL:026-238-4034 E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp HP:http://esd-nagano.org/

信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会

日付：令和4年2月5日(土)
時間：10:00~15:00
開催方法：Zoom, YouTube Live
プログラム

午前の部

時間	会場①	内容
10:00	【全体】開会挨拶	
10:15	①みなかみ町立新治小学校	
10:25	②山ノ内町立西小学校	
10:35	③信州大学教育学部附属松本小学校	
10:45	質疑・交流	
11:00	④飯田市立通山中学校	
11:10	⑤山ノ内町立山ノ内中学校(2年生①)	
11:20	質疑・交流	
	講評	
11:30	奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授 中澤 静男先生	
11:45	【全体】共有の時間	各会場の発表概要

午後の部

時間	会場④	内容
13:00	①高山市立荏荏川中学校	
13:10	②只見町立只見中学校	
13:20	質疑・交流	
13:30	③長野県佐久平総合技術高等学校	
13:45	④文化学園長野高等学校	
13:55	⑤長野県木曾青峰高等学校	
14:05	質疑・交流	
	講評	
14:15	立教大学名誉教授・同ESD研究所員 阿部 治先生	
14:30	【全体】共有の時間	各会場の発表概要
14:45	【全体】開会挨拶	

会場⑤

時間	内容
13:00	①屋久島町立八幡小学校(5年生)
13:10	②高山村立高山小学校
13:20	③茅野市立永明小学校
13:30	質疑・交流
13:45	④文化学園長野中学校①
13:55	⑤山ノ内中学校(1年生①)
14:05	質疑・交流
	講評
14:15	東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員 及川 幸彦先生
14:30	【全体】共有の時間
14:45	【全体】開会挨拶

※【全体】の時間帯は会場④をYouTube Liveで視聴

会場②

時間	内容
10:00	【全体】開会挨拶
10:15	①山ノ内町立東小学校
10:25	②飯田市立上村小学校
10:35	③信州大学教育学部附属長野小学校
10:45	質疑・交流
11:00	④埴町立穂中学校
11:10	⑤山ノ内町立山ノ内中学校(2年生②)
11:20	質疑・交流
	講評
11:30	北陸ESDコンソーシアム コーディネーター 池端 弘久先生
11:45	【全体】共有の時間
	各会場の発表概要

※【全体】の時間帯は会場②をYouTube Liveで視聴

会場③

時間	内容
10:00	【全体】開会挨拶
10:15	①山ノ内町立南小学校(3年生)
10:25	②山ノ内町立南小学校(6年生)
10:35	③飯田市立和田小学校
10:45	質疑・交流
11:00	④高山村立高山中学校
11:10	⑤信州大学教育学部附属松本中学校
11:20	質疑・交流
	講評
11:30	宮城教育大学教育学部 教授 市瀬 智則先生
11:45	【全体】共有の時間
	各会場の発表概要

※【全体】の時間帯は会場③をYouTube Liveで視聴

会場⑥

時間	内容
13:00	①屋久島町立八幡小学校(3・4年生)
13:10	②長野市立信里小学校
13:20	質疑・交流
13:30	③文化学園長野中学校②
13:40	④山ノ内中学校(1年生②)
13:55	質疑・交流
	講評
14:05	前福岡県大牟田市教育委員会 教育長 安田 昌則先生
14:15	調整
14:30	【全体】共有の時間
14:45	【全体】開会挨拶

※【全体】の時間帯は会場⑥をYouTube Liveで視聴

講師 (50名)

立教大学名誉教授・同ESD研究所員 阿部 治先生
北陸ESDコンソーシアム コーディネーター 池端 弘久先生
宮城教育大学教育学部 教授 市瀬 智則先生
東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員 及川 幸彦先生
奈良教育大学次世代教員養成センター 准教授 中澤 静男先生
前福岡県大牟田市教育委員会 教育長 安田 昌則先生

会場①-1 群馬県みなかみ町立新治小学校

活動テーマ 調べよう 新治の自然

発表概要 日本を代表する豊かな生態系が息づく「赤谷の森」の実態を知り、郷土の自然の素晴らしさを感じ取るとともに、新治の自然を体験した。その体験をもとに、どのように自然と関わっていくか、自然を維持発展させるためにはどうすべきかなど、個々の課題について調べまとめた。まとめたことを互いに交流しあいながら、自分たちの考えを広げていった。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名： 群馬県みなかみ町立新治小学校
2. 対象： (学年・人数) 5年生 児童28名
3. 活動内容
 - (1) 活動名 調べよう 新治の自然
 - (2) 活動の目標
 - 日本を代表する豊かな生態系が息づく「赤谷の森」の実態を知り、郷土の自然の素晴らしさを感じるとともに、自分たちにできることを実践しようとする。
 - (3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること)	<input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)	<input type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること)
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)	<input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)
<input type="checkbox"/> その他 ()	
②育成する資質・能力	
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連するSDGs
 - 12. つくる責任 つかう責任
 - 15. 陸の豊かさを守ろう
 - (5) 活動の内容
 - ①赤谷の森について理解しよう
 - ・みなかみ町総合戦略課地方創生室・赤谷プロジェクトの方々から赤谷の森の概要を聞こう。
 - ・生物多様性や生物の生態系について知り、疑問に思うことや考えたことを話し合う。
 - ②自分で調べてみたいテーマを設定しよう (課題探求)
 - ・生物の生態系やユネスコエコパークの自然等について、それぞれが調べたい事を考えよう。
 - ・個人課題の設定について、日本自然保護協会の方に相談してみよう。
 - ③三国山の自然観察に出かけよう
 - ・小出俣を散策し、人工林から自然林に戻す過程を観察しよう。
 - ・小出俣の生態系を調べるための箱罫捕獲試験場の見学
 - ④新治を体験し、自然の素晴らしさを感じよう
 - ・アウトドア体験 (チームビルディング、赤谷湖上でのカヤック体験)
 - ・樹木の伐採体験をしよう
 - ・赤谷の森のめぐみをかおりにしよう (アロマ抽出体験)
 - ⑤新治の木を生かした、工作にチャレンジ
 - ・力を合わせて表現しよう



会場①のみなさん



会場②のみなさん



会場③のみなさん



会場④のみなさん



会場⑤のみなさん



会場⑥のみなさん

⑥新治自然について発信しよう

- ・個人課題をまとめ、驚きや発見、これからどのように自然と共存していくかを伝え合おう



4. 活動の成果

本校は、みなかみユネスコエコパークの中に位置している。しかし、貴重な自然が生活の一部になっているにも関わらずあまり知られておらず、その良さについて知ったり、考えたりする機会が少ない。そこで、5年生では、ユネスコエコパークがどういう場所なのかを知ることから始めた。児童は、利根川の最初の一滴がユネスコエコパークの核心部から始まることや貴重なイヌワシの生息地であることなど、多くのことを知り、自分たちが住んでいる町について深く興味を持つようになった。

次に、小出侯の国有林に出掛け、昭和の始めには森の木を活用し炭焼きをしたこと、その後人工林に変えたこと。今は、その人工林をもとの自然林に戻す取組をしていることなどを学んだ。生活の中に木が深く関わっていることを知り、新治の樹木に対する興味がわいてきた。

そこで、みなかみ町が本年度より立ち上げた事業を通して、新治の魅力を体験した。知っているようで知らないことがたくさんあり、新治の新たな魅力に触れることができた。

体験活動を通して児童が気付いたことを、友だちや授業に関わった人々と交流しながら考えを築き上げることができた。

5. 指導方法・体制の工夫

- | | |
|--------------------|--|
| ①日本自然保護協会 | 赤谷の森についての学習 |
| ②赤やふれあい森林センター（林野庁） | 〃 |
| ③みなかみ町総合戦略課 | みなかみエコパークについて学ぼう |
| ④みなかみ町体験旅行 | 町内体験：赤谷湖でのカヤック（湖上から見た新治）
チームビルディング（みんなで協力）
伐採体験
かおり体験（伐採した樹木から香りを抽出）
伐採した木を使って工作 |
| ⑤学習支援ボランティア（地域の人） | 教科横断的な学習（総合と図工）支援 |

感想

会場①-1 みなかみ町立新治小学校 発表を見た方からの感想

- 「ヌタ場」について、動物の水浴び場であると初めて知りました。また、この森のほとんどが自然林であることにも驚きました。また発表スライドがとても見やすく、発表の内容も簡潔に分かりやすかったです。みなかみ町の今後の課題の解決方法について、まずはSDGsのことをみんなが理解するところから始めるとのこと、私も同意です。これからも頑張ってください!!
- 自然を守る取り組みについて、人の生活と結び付けていたことがいいと思いました。また、実際に活動している人から話を聞いて、今まで知らなかったことを知り、私自身も環境保全のために行動しなければいけないということを学びました。班ごと違ったことを調べていたので、森林についてたくさんを知ることができ、とても勉強になりました。
- 5年生のみなさん、発表ありがとうございました。「環境を守る取り組み」「資源を無駄にしない工夫」が印象的でした。班ごとの発表に関連性があり、分かりやすかったです。最後に町の課題を具体的に考えていることが素晴らしいと思いました。皆さんが今回の学びから具体的にどのような意識をもって、環境への取り組みをしていくかが楽しみです。ぜひ、実生活に生かしてください。
- 生物多様性の復元と持続可能な地域づくりを目的としたAKAYAづくりの取り組みを知りました。実際に間伐を行ってみることも、アロマオイルのつくりにかたを学んでみるなど、自分が小学生の時よりもはるかに実践的な取り組みをしていて驚かされました。それらの活動からみなかみの課題を導き出していることも素晴らしいと思います。これからもみなかみの魅力を伝えていってください。
- 発表お疲れさまでした。体験をしてきてそれを発表に生かすという流れが実体験に基づいたリアルな発表につながり良かったです。その中でも特に間伐した木を使ってアロマオイルの手作り体験というのがとても興味深いなと思いました。私もぜひ作りに行きたいです。
- どれもとても興味深いものでした。特に、アロマのお話が印象に残っています。アロマが切った木材や廃棄する木から作れるということ、ラベンダーが傷口にとって良い効果があるということを知り驚きました。私も作ってみたいと感じました。体験的な経験を積むことはとても貴重であり、あなた自身を形作る要素となる出会いがあるかもしれません。これからは1つ1つの活動に一生懸命、楽しんで取り組んでいってください。素敵な発表を聞くことができうれしいです。ありがとうございました。
- 本日はステキな発表をありがとうございました。みなさんのAKAYAプロジェクトの発表の中で、地域を大切にしている気持ちがよくわかりました。いろいろな経験をして、たくさん考えて、まとめている姿がかっこいいと思いました。たくさん質問をしていることも、学ぼうとする姿がすばらしいと思いました。これからはみなかみ町のことをたくさん知って、さらに学びを深めてほしいなと思いました。
- イヌワシのいる環境をこれからも保持するために、貴重な自然を守っていく必要がありますね。伐採した人工林をアロマの材料にするなど、有効活用することでマイナスな部分生まれなため、良いと思いました。自分たちのできる小さなことから積極的に取り組むことが大切です。私は群馬県出身でみなかみ町をよく訪れていたため、皆さんの活動でみなかみ町の魅力が多くの人に広まると嬉しいです。
- かわいいアロマオイルが手作りできることに加え、森の保護や上手な利用ができているという、一石二鳥なことをしていらっしゃいました。スライドが整理されていて見やすかったです。声のイントネーションに工夫をしてもっと聞きたくなった子がいました、上手でした。
- それぞれの班で調べ、実際に現地に行ったり話を聞いたりして、そこからみなかみ町の課題をとてよく考えられていました。課題をどう解決するか、これからも考えていってほしいし、みんなで考えていかなければいけないと思います。発表の資料も分かりやすくて良かったです。
- 小学校5年生で生物多様性の復元、持続的な地域づくりという一見高くも感じられる目標に対して、一丸となって活動に取り組んでいる様子が素晴らしいと感じました。特に今後についての「町民にSDGsを理解してもらうこと」という部分が、SDGsや森林の保全について取り上げた大学の授業で私が考えたことと同じでした。SDGsについて知ってもらうことが活動の始まりだと思います。私一人では、SDGsについて広められる範囲は限られています。しかし、新治小学校の皆さんがSDGsについて知ってもらう活動をしたら、小学校内から家族、地域へとどんどん広がっていくと思います。これが実現できたらすてきなと感じます。
- 自然を守るために自分たちからごみのポイ捨てをやめたり動植物を採らないという活動をするだけでなく、自然の良さを伝えるということを通して周囲にも自然を守ってもらえるよう働きかけるのがとても素敵だと感じました。

●人間と生物と自然環境の共存のために、やっている取り組みをたくさん知ることができました。自然環境やそこにいる生物から実際の体験を通して、共存していくために平等な関係を築いていくことが大切だと改めて感じさせられました。

●みなかみ町の今後の課題がこれまでの学習内容から顕在化されていて、素晴らしいと感じました。郷土愛の感じられる発表でした。都市部への若い世代の人口流出が問題になっていますが、アロマキャンドルはふるさと納税の返礼品などで使うことのできる魅力的な特産物なのだと感じました。

●森と自分たちの関わり、生き物の関わりを考えることでこれから先の自然について、これから私たちはどうすればいいのかを考えることができたと思います。森林についても深く考えることができたのではないかと思います。難しい内容かなと思いましたが自分たちが実際に体験することで資源とは何か、木をどう扱うのか考えられており、素晴らしいと思いました。

●間伐を通してアロマ作り体験ができるのはとても良い経験になったと思います。子供からも資源を大切に使うという言葉が聞かれたので活動の効果があったのではないかと思います。町の課題まで考えられていて、地域の愛も深まると感じました。

●本来捨ててしまうような枝や葉を活用したアロマオイルを作っているという話をお聞きし、無駄を出さず活用できるものは活用しようという意識の高さに驚きました。また、今後の課題としてSDGsのことについて地域みんなが知る必要があると話してくださり、まさにその通りだと感じました。今後の活躍を楽しみにしています。ありがとうございました。

●間伐などについて考えることが出来ていました。また伐採後の木の活用方法について学ぶことが出来ていて、SDGs的な視点の育成が出来ていて、素晴らしいと感じました。具体的な活動を通して学ぶことが大切だなども感じました。

●郷土教育にて、地域問題が可視化され、それに伴った活動を行っていることがよく分かりました。また、調査を行っていく過程で、今後の展望が明確化されていく様子も印象的でした。アロマキャンドルが返礼品になるほど魅力的なものだということも十分伝わってきました。

●発表ありがとうございました。間伐やイヌワシなど自然環境に関わることにに関して実体験をもとに丁寧な発表がなされていて、納得しながら聞くことが出来ました。アロマオイルについての発表ではSDGsとの関わりも分かり私自身SDGsとその具体的な方策についてはよく知らない所だったので、皆さんの発表から詳しく知ることが出来て良い経験になりました。

●小出侯に行ってみたいと思いました。復元していった森林とは思えないほどのきれいな森林だと感じました。この森林を守るためには自分にもできることが必ずあるので調べてやっていきたいと思いました。このような自然がこれからもずっと続いていくようにしたいです。

●生物多様性の復元と持続的な地域づくりのために、イヌワシや間伐等様々な活動を中心に赤谷の自然について活動を進めていた様子がよくわかりました。生態系について考えたり、普段見られないぬた場や動植物を見たりと理科の学習が生きる場面が多くありそうな活動だなと感じました。また本来捨てられてしまう葉や枝という部分の活用方法としてアロマオイルを作る活動が挙げられていました。環境にもやさしくてとてもステキな活動だなと感じました。社会と経済の発展を課題としてあげていましたが、その解決策の一つとしてもアロマオイルをみなかみの魅力としてPR活動を進めていくといった活動にも広げられそうですね。発表ありがとうございました。

●イヌワシや小出侯の自然やアロマなど新治の周りがある様々な魅力が伝わってきました。班ごと目標や課題や調査について、活動を頑張っていたんですね。

●イヌワシやアロマなどを通して活動し、発表している姿からみなかみ町がとても好きなんだなということが伝わってきました。ありがとうございました。

●アロマオイル実践がとても魅力的でした。当たり前これまで見てきたものや廃棄されていくようなものをカタチを変えて生かしていく視点がとても大切であると思いました。私の勤務する学校でも、今年度から豊かな緑と花を活用した創作活動が始まりました。その地域やその学校のスギ・マツだからということで付加価値が生まれるのではないかと感じました。科学的に特徴や違いがあればそれ以上のことはありませんが、なかったとしてもそのような付加価値をつけて活動していくことは、町民が興味関心を寄せたり、一緒に取り組んでみたくなるきっかけとなるのではないかと感じました。ありがとうございました。

会場①-2 山ノ内町立西小学校

活動テーマ 炭焼きをしよう

発表概要 今年度、2年生は、SDGsの目標である「陸の豊かさを守ろう」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関連した森林資源の持続可能な開発を目指して活動を行った。子ども達は、かつて地域で盛んであった炭焼きを学び、森林の維持、利活用のために、校区内の森林の間伐材を使って炭焼きを行い、みんなで協力して炭を作ったり、使ったりする活動を通して、間伐材を利用して作る炭焼きの良さを実感した。

実践記録

信州ESDコンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立西小学校

2. 対象：2年生 児童24名

3. 活動内容

(1) 活動名 「炭焼きをしよう」

(2) 活動目標

- ・山ノ内町の自然を大切にする気持ちを深める。
- ・みんなの力を合わせることの大切さを実感する。
- ・わたしたちのクラスと云えば「炭焼きだ」という誇りや自信を持つ。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性（多種多様な現象が起きていること） 公平性（一人ひとりを大切に）

相互性（関わりあっている） 連携性（互いに連携・協力すること）

有限性（限りがある） 責任性（責任を持って）

その他

②育成する資質・能力

批判的に考える

他者と協力する

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連するSDGs

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



15 陸の豊かさを守ろう

(5) 活動の内容

①昔、この地域で盛んに作られていた物を知ろう

- ・昔、この地域で盛んに作られていたものを予想する。
- ・資料から、今から約290年前に木炭作りが始まったことを知る。
- ・なぜこの辺りは炭作りが盛んだったのか考える。 ・炭についておうちの人から聞いて調べる。

②炭焼きで使う木をとりに行こう

- ・町の間伐材置き場で細い木を拾う。 ・拾った木を長さ73cmに切りそろえる。
- ・切り残った木や枝を、短い木を燃料用として拾う。

③「木とり」の様子を絵で表そう

・「木とり」の写真を見ながら、自分が木をとったり切ったりする様子を絵に描く。

④歌を通して「間伐材」についてもっと知り、それをみんなに伝えよう

- ・「間伐材」とは何か知る。 ・「間伐材」の生き方から自分の生活について振り返る。
- ・合奏唱「KANBATUZAIのぼく」の合奏と合唱の練習をする。 ・音楽会で発表する。

⑤炭焼き用の穴掘りと粘土質の土を運ぼう

- ・炭焼き用のドラム缶窯を埋める穴を掘る。
- ・炭焼きで使う大量の粘土質の土をほぐし、炭焼き場の近くまで一輪車で運ぶ。

⑥炭焼き用の道具や材料・燃料を運ぼう

- ・炭焼きで使うドラム缶窯、煙突、鉄の棒、レンガを炭焼き場まで運ぶ。
- ・自分たちでとってきた間伐材を炭焼き場まで運ぶ。

⑦窯詰めをしよう

- ・ドラム缶窯に煙突を取り付けて、ドラム缶窯を半分ほど土に埋める。
- ・73cmに切ってきた木を、①太めの木、②中ぐらいの太さの木、③細い木、の3種類に分ける。
- ・窯の下の方は細い木、上の方は太い木になるように詰める。

⑧窯口をつくろう

- ・粘土質の土を一輪車の中に入れ、水を混ぜながら「耳たぶ」ぐらいの軟らかさにする。
- ・野球ボールぐらいとカボチャぐらいの2種類の大きさの泥団子を作る。
- ・レンガに泥を塗って積み、ドラム缶窯の前にトンネルのような「窯口」をつくる。
- ・泥団子を投げたり押しつけたりして、隙間を埋める。

⑨焼きじゃがいもの準備をしよう

- ・82個のじゃがいもをきれいに洗う。
- ・洗ったじゃがいもをアルミホイルでくるむ。

⑩炭焼きをしよう

- ・新聞紙や杉葉、細い枝を使って薪に火を着ける。
- ・うちわで火を扇ぎ、窯口の中に熱風を送り込む。
- ・煙突を外して煙の温度を測る。
- ・一輪車に粘土質の土を入れ、水を混ぜて泥団子をつくる。
- ・じゃがいもを焼く。
- ・焼きじゃがいもを食べる。
- ※夜の作業は先生にやってもらおう。

⑪窯出しをしよう

- ・窯も周りの土やレンガを取り除き、窯を穴から引き出す。
- ・窯からできた炭を取り出す。

⑫炭焼きの片づけをしよう

- ・炭焼き場に掛けておいた銀色のシートを洗って干す。
- ・炭焼き場に使った場所をきれいに埋め戻す。
- ・たくさんのレンガを洗って干す。
- ・ドラム缶、煙突、ドラム缶のふたを洗って干す。
- ・使った一輪車、草削り、シャベルを洗ってもとの場所に返す。

⑬炭を使う

- ・炭に火を着ける方法をタブレット（インターネット）で調べる。
- ・七輪に炭を入れ、火を着ける。
- ・炭が燃える七輪で暖をとる。
- ・炭火でお餅を焼き、磯辺焼きを作る。
- ・焼いたお餅をいただく。
- ・灰を片付け、お借りした七輪をきれいにする。



4. 活動の成果

細い枝等の長期間置かれていた間伐材を炭として大事に活用し、炭の有用性を、体験を通して学ぶことができた。また、土や木に直接触れて、自然のものの良さを実感するとともに、土建屋さん、左官屋さん、炭焼き職人、炭火料理人といった職業体験をすることができた。さらに、「大変だけど楽しい」という働くことの意義や良さも感じるようになったように思う。そして、何よりもクラスとして、みんなで力を合わせれば炭焼きもできるんだという、協力することの大切さにも少しずつ理解できたように思う。

【感想】

今日は、窯出しをしました。まず、ドラム缶の上に乗っている土を草けずりで下ろしました。レンガと鉄の棒も取りました。次に、ドラム缶を50cmぐらい前に出しました。その次に、ドラム缶のふたを取りました。中をのぞいてみると、白色で少し黒いところが見えました。炭を取り出してみると、黒色で光に当てると、少し光っていました。1つも残さず取り出しました。窯出しはとってもうまくいって、炭焼きで頑張ってたよかったです。

5. 指導方法・体制の工夫

- ①活動内容をプリントにし、活動の見通しをもてるようにし、自分たちから動けるようにした。

感想

会場①-2 山ノ内町立西小学校 発表を見た方からの感想

- 間ばつされた木やえだでさえも無駄にすることなくたいせつにしていこうとする姿勢が活動報告からよく伝わってきました。また、間ばつ材について知ったことや学んだことを伝えるために、歌を練習し、歌詞から学ぶというのが素敵でした。
- 炭をつくるために、木を探して切るところから行ってたり、絵を描いたり歌を歌ったりさまざまな活動から炭づくりを体験すると楽しそうな活動だと感じました。間伐された木や枝を無駄にしないと言う気持ちが伝わってきたので、とてもいい発表でした。
- 炭材を作るためにノコギリを使ったという発表が印象的でした。図工の授業では3年生(4年生?)からノコギリを使うことができると聞いたことがあります。2年生には難しいのかと思っていましたが、適切な指導を行うことで安全に使うことができると知りました。炭づくりの工程が本格的で魅力を感じました。
- 森林資源の持続可能な活用は今生きている私たちは考えなくてはならないことだと思いました。実際に炭づくりを体験することで昔の人と森林の関わりが深かったことが実感できたと思います。これから森林は注目を浴びると考えられるのもっとより深く学んでみてください。
- 歌を通して間伐材について子供たちが表現する場を設けていたのがとてもよかったですと思います。炭焼きなど様々な体験を通して木材が有効活用されていることを実感し、自分たちにも資源を有効に使うという気持ちが生まれたのではないかと思います。
- 間伐材を活用して炭づくりを行った話をお聞きし、準備など大変な分、楽しさも大きかったのではないかと感じました。炭を作るだけでなく、それを利用してお餅を焼いたりする活動を通して、炭の色々な発見があったのだと感じました。さらに間伐材がどんなことに使えるのかを考えた際にはまたお話を聞けたらいいなと思います。ありがとうございました。
- 炭作りを1年通して考えていて、感動しました。またどのような気を使うか、どのように焼くか、かまどを工夫はどうか、どうやって使うかなど1から10までの体験があり、一生の思い出になるなと感じました。
- 木炭づくりを、土を掘って、かまをつくることから始めていて、とても大掛かりですごいことをしているなと思いました。その大掛かりな炭焼きを通して、使わなくなった木の利用や、できた木炭の質感などに気づき、それを言葉や歌や絵に表現していて、素晴らしいと思いました。炭焼きでできた「木炭」の使い道について、火をつけて物を焼いたり暖をとる以外にも、考えて見てほしいと思います。
- 自分は技術科に所属しているため、ノコギリを二年生が使うという部分に少々驚きを感じました。教育実習にて中学一年生のノコギリ指導をしたことがあるのですが、中には危ない使い方をしている子もいたためです。ですが、炭づくりをするという目的のもと、安全管理が成されていれば良いものができ、安全に目標が実現されるものだと感動しました。
- 発表ありがとうございました。地域の伝統の炭焼きについて一年間を通して絵や音楽、図工、など色々な教科に波及していく形で授業が展開されていて素直にすごいなと思いました。ありとあらゆることを自分たち自身の手で準備したうえで、実践されていて面白そうな実践活動だと思い、私自身も体験してみたいなと感じました。
- 地元の昔していた炭焼きを体験して、昔の状況やどのような事をしていたのかとても分かりやすかったです。自分も炭焼きをしてみたいなと感じました。また、協力することの大事さ、地元の資源を無駄なく使う昔の人の知恵などを学んだり体験でき、とても素敵だなと感じました。
- 木を切って、その絵をかいて、間伐材についての歌を歌って…といろいろな味わい方でこの活動を進めてきたのだなと感じました。本格的な炭づくりが始まると、実際にやってみたらこそわかる気付き、どうやったらうまくいくのかなというみんなの工夫もよくわかりました。焼きじゃがいものじゃがいももみんなの手で育てていてすごいなと思いました。準備から片付け、炭の活用までクラスみんなで協力している様子がよく伝わってきました。発表ありがとうございました。
- 過去に目を当てる視点が素晴らしいと感じました。過去に目を向けることはESDに必要な不可欠であると思います。実際に気をのこぎりで切る活動を行なってさらに気づきや改善点までも考えていることに感動しました。活動のなかでたくさんの気づきがあることでESDを常に考えながら生きていくことができると思いますし、続けて行こうと思えると思いました。頑張ってください。
- のこぎりで切るところから、炭を利用(りよう)してじゃがいもやおもちを焼くところまで一生懸命(いっしょうけんめい)とりくんできたことがつたわかりました。きっと、貴重(きちょう)な体験(たいけん)や学びになりましたね。

●地いきでさかんだった「炭」づくりについてきょうみをもち、それを自分たちでやってみたことがすばらしいと思いました。みなさんが活どうしたときの工ふうや、やってみてかんじたことを知ることができ、みなさんのなかのよさがつたわってきました。間ばつについて知り、ほかの人にも知ってもらうという活どうは、とてもいい活どうだと思ったので、ぜひこれからも楽しんで活どうをつづけていってください。

●みんながそれぞれ授業で自分が感じたこと、学んだことを一人一人が言葉にして表せているのがすごいと感じました。炭を作るという活動を通して、みんなでやりとげるという気持ちを持つことや力を合わせることを学ぶことができるのはとても良いクラスだなと思いました。これからもみんなの気づきを大切にしていってほしいです。

●炭づくりをするまでのさまざまな過程の中でたくさんの気づきを得ることができていて、聞いている私も勉強になりました。普段の生活の中で炭を使うことはないけど、古くから自然の活用方法として使われてきた炭づくりについて私も学んでみたいと思いました。間伐された木を活用する方法がたくさんあるのだということを知ることができました。発表で、たくさんの人の考えや学んだことを聞くことができてよかったです。

●発表から、みんなで工夫して炭焼きの準備をする様子が伝わってきました。また、図画工作で炭焼きの絵を描いたり、音楽会で歌を歌って間伐材について伝えていて、炭焼きについてあまり知らない人にも炭焼きや間伐材がどのようなものか伝わりやすくなりそうだと思います。炭焼きを行うまでの準備は大変なことがたくさんあったと思いますが、みんなで協力している様子はすごく素敵でした。

●自分たちの地域で盛んにつくられていたものである木を生かして、絵をかいたり合唱や合奏をして炭焼きを自分たちなりに身近に感じるような工夫をすることができていて、とてもいい活動だと思います。友達と協力したり、楽しむことができる活動をこれからも続けていってください。

●やったことと頑張ったことをしっかりと伝えていて良かったと思います。活動を通して多くのことに気づいていて、それを言葉にできていて感心しました。炭を作るだけではなく、皆と協力したり、歌を歌って皆に知らせたりしていて良いと思いました。全員が一生懸命活動をしたことが伝わってきました。炭で焼いたじゃがいもを食べてみたいと思いました。素敵な発表をありがとうございました。

●みんなそれぞれの気づきを大切に活動してきたことがとてもよく伝わりました。じゃがいもを洗う時の効率のいい洗い方など、自分で気付いて工夫していけることはとてもすごいと思います。木とりの様子を絵にかくなど様々な教科と結びつけていた点もとてもいいと思いました。

●炭づくりを行っているとのことであり、炭をつくる経緯や手順などをお話いただきました。そのなかで印象的だったのは、炭づくりの活動のなかで木をとったときのことを絵に描いたり、間伐材についての歌を音楽会でうたったことです。総合的な学習の時間の炭づくりの活動を他教科にも発展させている点が良いなと感じました。また、発表全体を通して、それぞれの工程における工夫点や感想などが入っていて分かりやすくて良かったです。

●木炭づくりをとおして、むかしの人たちのくらしをたいけんすることは大人でもあまりできることではないので、とってもすてきな学びができたと思います。歌の歌詞から間ばつを知ろうとすることはとてもおもしろい考え方だとおどろかされました。みなさんがそれぞれかんじたことや気づいたことを大切に、これからも楽しみながらいっぱい学んでください。ありがとうございました。

●山ノ内町で昔からつくられていた炭について調べており、地元の新たな一面を学ぼうとしていたことが良かったです。「木とり」の様子を絵で書くことや、歌を通して間伐材についてより深く知るなど真新しい活動も印象に残りました。またそれぞれの活動をしたままにするのではなく、その後反省点や気づきを述べているところに、次の活動につなげていこうといった姿勢がみられてとてもよかったです。

会場①-3 信州大学教育学部附属松本小学校

活動テーマ

より快適に避難所生活を過ごすための防災グッズを作ろう

発表概要

信州大学教育学部附属松本小学校4年西組では、「校内にある防災倉庫の中には一人一食分の食料しかない」という事実と出会い、足りない分を自分たちで用意することにしました。その際、必要な物を買って済ませるのではなく、自分たちで作って確かめて、改良していく歩みを繰り返し行ってきました。より快適な避難所生活を願いながら挑み続けたプロセスとともに、こだわりの防災グッズを紹介します。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：信州大学教育学部附属松本小学校

2. 対 象：4年生 児童35名

3. 活動内容

(1) 活 動 名 「より快適に避難所生活を過ごすための防災グッズを作ろう」

(2) 活動の目標

- ・防災グッズを繰り返し作る中で、新たな課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらい計画を立てる。
- ・自分と異なる意見や考えを生かしなが、協働的に探究活動に取り組む。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを



(5) 活動の内容

信州大学教育学部附属松本小学校4年西組では、「校内にある防災倉庫の中には一人一食分の食料しかない」という事実と出会い、足りない分を自分たちで用意することにした。その際、必要な物を買って済ませるのではなく、自分たちで作って確かめて、改良していく歩みを繰り返し行ってきた。

避難所生活を実際にした上で、各自が必要だと考えた防災グッズ作りに励んだ。

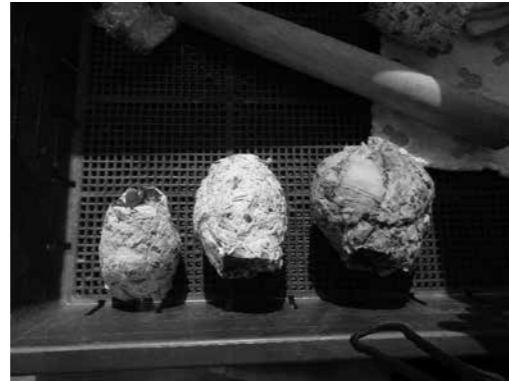
- ①防災ザブトン…内側に割り箸を入れて強度アップ
- ②防災ぐつ…バックル、インナーソール付き
- ③新聞紙蓆…新聞紙を細かくして作製、使った枚数によって大きさが異なる
- ④ヘルメット…内側にカバーとしてビニールを付けて装着感をアップ
- ⑤ラジオの手回し充電は人によって持つ時間は変わるか…10人以上の被験者で実験
- ⑥元原地区の避難者収容数調べ…元原地区町会長さんからのインタビューから作成
- ⑦寝袋・五目ご飯栄養素調べ…フリースを使った寝袋実験と防災食の調査
- ⑧リュックサック…新聞紙のみで作製
- ⑨ポリ袋洋服…上下セット、スタッフバック付き
- ⑩クッションマント…首からかけられるような仕掛け付き
- ⑪ひなん箱…寒い時に中に入る。内側にエマージェンシーブランケット付き
- ⑫あったかシート…内側にアルミホイルを入れて保温性アップ
- ⑬クッションマント…足も入れることができる。持ち運び用ビニールひも付き
- ⑭防水かんたんコタツ…四隅に割り箸を入れて強度アップ

- ⑮クッション…枕型
- ⑯防災長ぐつ…裏側に滑り止め、浸水性実験済み
- ⑰クッション&スコップ&袋…スコップ3つ、クッション1つ
- ⑱イス…背もたれ付き
- ⑲新聞紙ねぶくろ…枕と足のせ付き

写真【②防災ぐつ（バックル付き）】



写真【③新聞紙薪】



4. 活動の成果

一つの目標に向かって、全員で同じ活動を行うのではなく、各自が必要だと考えた防災グッズ作りを行ったことで、積極的かつ発展的に、よりよい解決策を考え続けることができた。作った後に確かめて、新たな課題を見つけ、改良していく歩みを繰り返して行く中で、思い付きに頼るのではなく、見通しや目的意識を明確にもって計画を立て実行する姿が増えたと感じる。

また、個の歩みを保障される環境があったことから、夢中になって活動に入り込む時間が増えた。より深く追究する中で、他者からの評価を必然的に求める姿も増えた。それによって、必要感のある関わりが生まれ、時に協働的に活動が展開されていくこともあり、他者と関わる心地良さを味わう姿もあった。

5. 指導方法・体制の工夫

- ①元原町会長のNさん

感想

会場①-3 信州大学教育学部附属松本小学校 発表を見た方からの感想

- 4西のみなさん、こんにちは。堀内です。たくさん調べて、体験して、アイデアを出し合ってやってきた防災についての学び。一人一人が思いをもち、地域の皆さんが安心して避難所生活ができるよう考えていたことが伝わってきました。もし震災があった時、みなさんのアイデアが生きるといいなと思いました。心も体も成長した皆さんの姿が見られてうれしかったです。これからも、頑張ってください！
- 4年西組の皆さん、発表お疲れさまでした。1年間ず～っとろうかでテントをたてたりシュラフに入ったりしながら、友達と話している姿を見てきましたが、「自分たちが快適な避難所生活を送るには」から、「避難所生活を送る全ての人に少しでも快適な生活を」という願いへと進化していったのが、今日の発表からとってもよく伝わってきました。若林先生、ご準備お疲れさまでした。防災倉庫調べから始まり、年間を通して「防災」ととことん向き合い続けた4西の子どもたち。でもそこには、先生が実際に自分でやってみて、という事前の教材研究やそこから生まれた疑問、課題があったからこそ、子どもたちに投げかけるものにも熱がこもり、その熱が子どもたちにも伝わったのだと思います。今日のライブ配信、ぜひ学校でも取り上げて配信していきましょう！
- 皆さんが防災について疑問に感じたことについて深く調べたり、有ると良いものについて実際に作ってより良くなるように工夫を続けていて素晴らしい活動だともおもいました。災害は、起きてほしくは無いですが、もし起きてしまった時に、皆さんが考えた物(座布団、テント等)が実際に有れば避難生活が良くなるのではないかと感じました。大人では気づかない、皆さん達なりの、視点や発想があり、私も大変刺激をうけました。発表お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 災害について自分たちで工夫した活動をしていてすごいと思いました。私も大学のゼミ活動で身近なもので作る防災グッズを作ったことがあります。大学生以上の探求力で私も見習わないとなと思いました！一つの活動で終わらずに、そこから問題点を探し、改善していく姿勢に感心しました。ものづくり・計算・調査など様々な観点から災害について取り組んでいて、質の高い発表でした。災害に備えること、それを皆さんみたいに広めていくことは、絶対に必要なことです。これからもぜひ続けていってほしいと思います。素晴らしい発表をありがとうございました。これからも頑張ってください。
- なぜその体験をするのか、理由やきっかけがはっきりしていてとても良いと思いました。私は阪神淡路大震災の被害を受けた地域の出身なので、長野県でもこの地震のことを取り上げてもらって少しうれしかったです。防災のことを日ごろから考えなければいけないという気持ちになりました。
- 実際に避難生活体験をしたことから、準備がとても大事であることを強調していてわかりやすかったです。特に、身の回りで作れる防災グッズはユニークなアイデアが多く面白く感じました。また、発表をした全員がこれからも探求を続けたいと言っており、探求心の高さに驚きました。これからも探求活動を頑張ってください。
- 発表の説明が、聞き手に「伝えたい」という気持ちがとても伝わる話し方だったと思います。誰にでもわかりやすい説明で、声の大きさや速さなども聞きやすかったです。実際に避難所生活も体験したとのことでしたが、聞くだけの学習では本当に非難しなければならない状況になった時、行動に移すことは難しいことだと思いますが、体験したことで本当に必要な時、有効に活用することが出来るのではないかと思います。自分や家族を守るためにも、これからも学習を続けてほしいなと思います。
- 皆さん、発表ありがとうございました。聴いている人への問いかけや、カメラを真っ直ぐ見て適切な声量・速度で発表していることがとても良いと思いました。スライドは見やすく、発表者の交代もスムーズで時間をかけて発表準備をし、仕上げたのだと思います。素晴らしかったです。皆さんの疑問から学習が始まり、体験や学校で学んだことを生かして工夫し座布団やテント、靴などを作成したということが印象的でした。防災について私も改めて考え直したいと思います。
- 避難所生活を自分たちが実際に行ってみることで、どのような気持ちで避難所の人々が暮らしているのか学ぶ姿勢が素晴らしかったです。実際に被災者の視点から学ぶことでたくさんの気づきがありますよね。またポリ袋の服をつくることなどから改善点をあげていたところもよかったです。さらに自分たちの地域の避難所について考察していたところもいいですね。
- 東日本大震災など大きな震災を知らない子どもたちがこんなにも災害について真剣に考えているということが、私たちのように東日本大震災を知っている世代にとっても大きな衝撃を与えられました。避難所生活を体験するという発想は思い浮かばなかったのが驚きました。しかし、その体験から防災グッズのたくさんの案が生まれ、大きな学びになったのかなと感じました。この学びをもっと深めてほしいなと思います。
- 防災についての発表で、実際に体験し、考え、工夫してみるという一連の活動がとてもいい活動だなと思いました。

私は、普段生活をしていて、災害に備えるということに意識を向けることはほとんどありませんが、今回の発表で防災に対しての意識が高まりました。この活動を地域にも共有して行ってほしいと思いました

- 発表は一人ひとりがはっきり自分の意見を言えていてすごいと思いました。避難所生活の大変さを実感したいと考え、行動に移すことで、実際の避難者の気持ちが少しでも分かって良いと思いました。避難生活を自分で経験してみて、何が必要か、何があれば快適に過ごせるかを考えることは、実際に災害が起きたときに自分の力になると思うので、すごい身になる取り組みだと思います。また、仲間と問題点を見つけて、解決方法を探しているのも感心しました。私も、防災グッズを持って災害に備えたいと思います。信大の図書館に飾ってある防災グッズとても考えられて作ってあって良かったです。これからも頑張ってください！
- 災害は起こらないことを祈るばかりですが、万が一起こった時のことを考えて探究するのは災害が多くなっている所以需要なことかと思いました。実際に自分たちで避難所生活をする中で、いざという時に何が必要になるかわかると感じます。私はそのような体験をしたことがないので何が必要で何に困るのかよくわかっていませんでしたが、みんなで作った防災グッズを見て、どのようなことに困り何が必要になるのか、また身近なもので簡単に作る事ができるということを学びました。自分たちの小学校の体育館が避難所になることを知り、地区全員や自分たちが避難することができるのかという疑問を抱き、地区長さんに連絡を取って調査をするという探究心がとてもよいと思いました。ぜひ今回の学習を生かして自分の地区の防災等にも役立ててほしいです。
- 避難所生活を実際に体験してみることで生まれた課題を個人や各グループごと設定し、それについての具体的な対応策や制作物を作っていてとても良かったです。また、例えば新聞紙で服を作ってみたが課題が多かったことに対して、じゃあポリ袋でやってみようなど考えながら活動をしているのも良かったです。
- 防災グッズをつくるために、まずは災害時の人たちがどんな思いで過ごしていたのかを考えて、たくさんの方ができているのが素晴らしいと感じました。四年生なので発音がハキハキしていて、とても聞き取りやすい発表で良かったです。
- 避難所生活を実際に行うことで防災のためには何が必要がよくわかるのですね。松本小学校ということは牛伏寺断層の地震についても想定しているのでしょうか。日本において地震を避けることができる地域はないので、どの地域に居住していても必要な取り組みと感じました。非常に多くの防災グッズが考えられており、アイデアに脱帽しました。
- より快適に避難所生活を行うための防災グッズを考えることはこれから先必要になってくると感じました。日本は災害大国でもあり、災害はいつ起こってもおかしくないのが災害とどのように付き合っていくかを考えることは大切だと感じました。
- 子供たちが避難所体験で感じたこと、疑問に思ったことをもとにそれぞれが調べていて、子供の思いを大切にしているのがよかったです。避難所の方がどのような困難に出会うのか、子供なりに考えて調べていたのがとても印象的でした。
- 災害について取り上げてくださり、確かに災害は自分に現実的に起こったことが数少ないため、ないがしろにされがちであると感じました。実際に避難所生活を体験してみて感じたことから防災グッズを作るという活動は簡単ではないがやりがいのある活動だったのではないかと感じました。自分自身さらに考えを深めさせられました。ありがとうございました。
- 実際の避難所生活からどのような防災グッズが役立つそうかを考えることができていました。また実際にある防災グッズからヒントを得ていて、よいなとも感じました。応用して色々なグッズになるアイデアは感動しました。
- 災害に目を向けて、さらにその中で「避難所生活を体験する」というのは、いつ起きるか分からない災害に向けて、とても良い体験になったと思います。その体験を通して、「備え」という部分が大切になると気づくことができたことも、素晴らしいと思います。災害時は、普段の生活と全く違うので、防災グッズがどのように有効なのか、この部分はあまりよくないのではないかと、ということを実際の避難所生活での体験を通して考え、そこから自分たちで改良を加えたグッズを考案して、自分も作ってみたいと思いました。ぜひ、その意見を防災グッズを製作・販売している会社に持ち寄って、広めてほしいなと思います。
- 今後の日本に非常に役に立つ活動だと思いました。被害が多すぎる日本では感覚がマヒしている大人も多いと思います。そのような中、画期的な防災グッズのアイデアを実体験から得ていて、国民一人ひとりがもっと盛り立てるべき必要な分野だと考えさせられました。
- 発表ありがとうございました。防災に関して実際に避難所生活をして実体験から自分自身が感じて、自分でやりたいと思ったことを実践されていて子ども達の行動力や探求心に感服しました。発表の中ではExcelで作ったと思われるグラフデータや避難所で使える座布団やテントの作成など探求の工夫が見られていて、素晴らしいなと感じました。

●人の話を聞くだけや、どれくらい危険なのか本などで聞くだけでは想像ができないところを、実際に体験してみて、体験したことから分かることを聞いて良かったです。実際に地震や津波を体験は無理だが、避難の体験はいくらでもできるのだなと感じました。

●東日本大震災をはじめ、日本は災害が多い国なので皆さんの活動内容はとても興味深かったです。準備や備えは大事だとわかっていてもそれを行動に移すということはなかなかできないです。みなさんが提案してくれた防災グッズはどれもよく考えられているなと思いました。実際に作ってみて使ったからこそわかるグッズの課題を、次はどうしようと改良していく過程がよくわかり、すごいなと思いました。また、改善するためのアイデアがまだまだ出てきそうに実際に商品になるのではないかと感じるほど魅力的なグッズがたくさんありました。災害から命を真折るために自分がどうすべきか改めて考えるいいきっかけとなりました。発表ありがとうございました。

●災害に対して真摯に向き合っていることが考えたことや発言から読み取ることができました。また、対策にたいしてもオリジナリティがあり真剣に災害に備える、そして怒ってしまった時に自分たちで何ができるのか考えられているなと思いました。災害が起こらないことが一番ですが、起きてしまった場合も、今回の活動を生かして災害に対応できるように頑張ってください。

●実際に避難所での生活をしなければならないときを想定して探究をしていましたね。私も防災のために備えていくべきだと気づくことができました。今回学んだことは有事のときにきっと役に立つと思います。

会場①-4 **飯田市立遠山中学校**

活動テーマ 遠山郷を守ろうプロジェクト

発表概要

“遠山郷を守ろうプロジェクト”は生徒が「出来ることをして地域に貢献しよう」という思いから始まり、生徒会が中心に企画する今年で7年目の活動である。主に学校周辺のゴミ拾いや公共施設の清掃を行っている。これに関連する活動として“遠山三校絆プロジェクト”や“郷土の舞”の活動がある。地域に住む小中学生が一堂に会しSDGsについて学んだり、重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞を学び地域の方に披露している。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表 & 交流会

～実践記録～

1. 学校名： 飯田市立遠山中学校

2. 対象： 全校33名
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 遠山郷を守ろうプロジェクト

【関連活動】遠山三校絆プロジェクト、郷土の舞など

(2) 活動の目標

- ・郷土「遠山郷」の特徴やその良さや課題を知る。
- ・地域の人と交流することを通して郷土愛を深めるとともに、地域貢献のためにできることは何かを考え・実行していく生徒の育成。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

15 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

- ① 遠山郷を守ろうプロジェクト
 - ・学校周辺や公共施設の清掃活動
- ② 地域の方に学ぶ会
 - ・農業や趣味など、特定分野で活躍している地域の方を講師に学習をする。
- ③ 郷土の舞
 - ・重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞について学習し、地域に向けて発表する。また、実際に霜月祭に参加する。
- ④ 遠山三校交流会「遠山三校絆プロジェクト」
 - ・過疎化が進む遠山郷に暮らす小中学生が集い、SDGsに関わる学習を通して、未来の郷土のあり方について考える。
- ⑤ 学有林学習
 - ・学校林を活用し、植林などの作業をしながら林業や森林保全について学ぶ。
- ⑥ 花を贈る活動
 - ・生徒会活動で育てた花の寄せ植えを公共施設などに贈る。



4. 活動の成果

①本校は過疎化が進む遠山郷にある。60歳以上の割合が80%を占める限界集落から通学する貴重な生徒もいる。地域全体の人口動態から推察するとさらに減少が見込まれる。そんな地域で学ぶ本校生徒は郷土愛が強い。生徒会活動としてスタートした「遠山郷を守ろうプロジェクト」は今年で7年目を迎えた。「自分たちが出来ることから始めよう。」を合い言葉にスタートした地域の清掃活動は今も続いている。本年度も道路や公共施設、観光施設の清掃活動を行った。

②地域を盛り上げるためにはまず地域に暮らす人々を知り、関わりを持つことが大切だ。「地域の方に学ぶ会」は、地域の方との交流、コミュニティとの関わりを持つ機会となっている。また、職場体験学習では地元の起業家や働く人たち4～5名を講師に招き、遠山郷で働く意味について学んだ。

③遠山郷に伝わる「遠山の霜月祭」は地域の誇りである。過疎化にともない伝統の継承が地域の課題となっている。学校で行う「郷土の舞」の学習は、伝統の担い手を育む場となっている。保存会の方々が講師として熱心な指導をしてくださり、11月に舞を保護者・地域住民に披露した。

④未来の担い手の育成を目的に始めたのが「遠山三校絆プロジェクト」である。小中学生がSDGsの視点から遠山郷の未来を見据え、自分たちが出来ることを考えていく活動をした。初年度となる今回は、「SDGsと何だろう？」という基礎的なところからのスタートだった。小学生にSDGsとは何かを伝えるために中学生が調べ・準備をし、会の進行を務めた。小学生に伝えることを通して、中学生は自らSDGsについて学んだ。また、ここに暮らす小中学生が一堂に会したことは、次世代を担うコミュニティづくりの第一歩となった。

⑤本校は約17haの広大な学校林を保有している。かつて林業で栄えた地域であり、先人が後世に森林の大切さを伝えるために学校林を残したと記されている。森を守ることが自然環境や地域の安全な暮らしを支えていることを「学有林学習」から学ぶことができた。

⑥生徒会活動の一つとして継続している取り組みに「花を贈る活動」がある。花を育てることで植物育成の良さを学び、自分たちで育てた花を地域へ届けることで、笑顔や感謝の言葉をいただき、地域への貢献を肌で感じ取る活動となった。

5. 指導方法・体制の工夫

- (1) 講師などの人材確保(コミュニティスクール)
 - ・学校運営協議会、自治振興センター、公民館、森林組合、社会福祉協議会、霜月祭保存会
- (2) 移動手段の支援
 - ・自治振興センター、公民館
- (3) 費用
 - ・自治振興センター、公民館、森林組合

感想

会場①-4 飯田市立遠山中学校 発表を見た方からの感想

- 自分たちが住む地域の人口減少などの課題を考えながら、よりよい町にしていくこと、地域の伝統を継承していくことを大切に活動していてよいと思いました。引き続き頑張ってください。
- 全ての活動において、SDGsの17のゴールに関連させて活動を設定しているのが良いと思いました。また他校とのつながりというのは他にはない取り組みなので新鮮で興味深かったです。郷土の舞発表などについては、私たちのような若い世代が担っていけないと徐々になくなってしまう文化であるため、素敵な活動だと思いました。
- 遠山郷を守ろうプロジェクトを通して、美しい遠山をまもり、地域の思いを守りたいという気持ちが伝わってきました。生徒会が中心となってまわりの友達や小学生まで巻き込み一緒にSDGsについて学べる環境はとても素晴らしいと感じました。
- 遠山の清掃活動がSDGsに関連づけられていて何を目標に活動しているのか分かりやすかったです。廃校になった学校を残そうという取り組みは郷土愛が感じられる取り組みと感じました。閉校になった学校の活用事例をよくニュースやテレビで見ることがありますが、人口減少が進む地域の活動事例を知ることができました。
- 遠山郷を守るために中学生にできることは何か考えることは素晴らしいことだと思いました。また遠山郷の学校の継続していくためにはどうすればいいのかを協力する行動力が素晴らしいと思います。これからも頑張ってください。
- 遠山郷という地元に根差した活動を多く取り組んでいるのが印象的でした。廃校になってしまった学校の意思や遠山の学校同士で協力して地域を活性化したいという思いが感じられました。
- 発表から非常に地域愛を感じました。地域の伝統を守ろう、地域をよりよくしようと取り組む姿勢は伝染して、いつか地域全体で地域を支えられるのではないかと感じました。今後の活躍に期待しています。ありがとうございました。
- コロナ禍で大変な中、遠山の学校の絆を深めようとする活動が印象的でした。これからも学校存続のために頑張ってください。また文化を残していこうとする、姿勢にも感動しました。
- SDGsに生徒会全体で目を向けて、いくつかの委員会で様々な取り組みに挑戦していて、積極的で良いと思いました。その取り組みの中でも、「旧木沢小学校の清掃」は、遠山中学校の生徒会の皆さんの努力によって、伝統ある校舎が今観光名所として残っているので、誇りに思っていると思います。自分はまだ行ったことがないので、ぜひ行ってみたいです。地域と共に活動する生徒会とありましたが、遠山には素晴らしい自然があるので、この先は地域のみならず、今回のコンソーシアムのように、その試みを全国、さらには世界に発信してほしいと思います。
- 日常に組み込まれている清掃活動がSDGsに結び付けられており、毎日意識することができるなど感心いたしました。人口減少が問題になりつつある地で、閉校してしまう場所も多い中、その施設を活用した活動からは郷土愛が伝わってきました。
- 発表ありがとうございました。まず、生徒会の方達の発表がとても聴きとりやすく良く練習されたのが分かり、素晴らしいと感じました。遠山3校絆プロジェクトでは中学生である生徒会の皆さんが小学生の見本となるように責任をもって活動を行っている様子が見られました。遠山郷を中心として自分たちの故郷を盛り上げていこうとする様子が見られ、自分自身の身が引き締まる思いになりました。
- 人口減少に伴い、閉校する学校が多い中、住みよい街を守るために自分たちで考え、何ができるのか行動できているのが素晴らしいと思いました。また地元根付いた学習をしていて地域に貢献をしていますすごいと感じました。
- 地域や小学生、他の学校と活動を共にすることで皆さんの考え方や活動が様々な人たちと共有できている点がいいと感じました。また地域の伝統である舞を地域の方から学ぶという機会があるのがとてもいいと感じました。中学生の皆さんにとっては自分が住んでいる地域の祭りや伝統について知り、受け継ぐ機会として、地域の人たちにとっては自分たちが守ってきた祭りや舞を教えられるといった持続可能な社会・地域という視点でお互いにとっても素敵な時間になっているのだろうと感じました。また学校のコミュニティーの中の持続可能性も考えられていいと感じました。皆さんの大切にしてきた活動が長く続くといいですね。発表ありがとうございました。
- 自分たちの活動がSDGsのどのカテゴリーに含まれているのか考えながら活動を行っている点が素晴らしいと感じました。今ある活動も大事にしつつ、さらに大きなカテゴリーを含む大きな活動にしていけるような活動内容だと思いました。これからも活動が続けられるよう引き続き頑張ってください。

- SDGsとの関連づけて活動をしていることが印象的でした。また、遠山中学校の皆さんが自分たちの故郷を大切にしていることが伝わってきました。これから10年20年とこの活動が続いていくといいですね。
- 自分たちだけでなく、上村小学校と連携した掃除活動がとてもいいと思いました。小学生たちに、地域をよくしようという意識が芽生えるきっかけになると感じました。さらに、これからの活動を話し合ったり、先輩方の活動を引き継いだり、新たな取り組みをしたりなどの積極的な姿勢に関心しました。小さな学校だからこそ、地域に根差した活動や連携・交流がしやすいと思います。皆さんの真剣な思いが良く伝わりました。これからもその思いを大切に積極的に活動し、素晴らしい伝統を守っていきましょう！！
- 生徒数からも地域人口が少ないのかなと思います、地域の持続を課題としている点に、地域に根ざした活動であると感じました。SDGsのどの目標に沿っているのかということをはっきりさせており、活動時の意識の高さを感じました。「自然を楽しむ」という言葉が特に印象的でした。楽しみながら学ぶことのできる活動、そして地域に根ざした活動の意義を感じられた気がします。
- 私は神楽について興味があるのでみなさんが湯立て神楽を行ったとお話が印象に残りました。自分で体験することによって伝承していく必要性や問題点なども感じているように思いました。地域に伝わる踊りは是非是非伝承し続けて行って欲しいです。
- 今まで行ってきた様々な活動から、地域に貢献したいという強い思いが伝わりました。一つひとつの活動をSDGsと関連付けて、どのように社会に貢献しているかを理解している点がとてもいいと感じました。人口が少なくなって活動が難しくなるかもしれないが、そんな時こそ地域の連携が大事になると学びました。
- 「私たちにできることは何だろう」と遠山郷を守ろうプロジェクトを行ったとのことでしたが、自分たちにできることをするという心持はとても素晴らしいと感じました。あれをやろう！これをしたらいんじゃないか。などと考える事は出来ても、実際に行動に移すことは難しい場合があります。そんな中、自分たちの住む場を美しくしようとボランティアやあいさつなど、地域の方々とも関わりながらの活動はSDGsのためにもとても効果的だと思いました。これからも後輩に引き継ぎ、活動を続けてほしいなと思いました。
- 生徒の皆さんが主体的に継続して活動していることが素敵だと思いました。地域とのつながりを大切にし、貢献している姿が印象的で、SDGsに関連した生徒会を通し、全校で意識を高めていることが興味深かったです。私も中学校で生徒会役員を務めていたため、皆さんが様々な工夫をして真っ直ぐ頑張っている姿に深く共感し感心しました。私が中学生に戻れたら、ぜひ参加してみたいです。今後も、様々なことを体験し楽しく学んでください。生徒会の皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。
- SDGsとの関連性の中から地域について考え活動し、今後の課題についても明確に示されていた点がとても印象に残りました。私の母校の中学校は、全校生徒が約20人でした。人数が少なくなればなるほどできることは少なくなっていく、自分たちが思うような活動ができない場面も増えてくると思います。ですが、生徒会中心に、自分たちが今できる最善のことを、全校生徒、ひいては地域の方々にも共有し、活動の輪を広げてほしいと思いました。コロナ禍で大変なこともあると思いますが頑張ってください。応援しています。
- 地域の清掃活動を通して、私たちが育った地域を美しい状態で守ろうという取り組みがとても素晴らしいと感じました。私も地域の清掃活動に何度か参加したことがありますが、目的をはっきりと持って取り組んだことが無かったので、これからは地域を美しい状態で守りたいという気持ちを持って取り組みたいと思います。
- 自然や伝統的な行事など、これまで受け継がれてきたことを今後引き継いでいけるような取り組みがとても良かったです。
- 地域や町の清掃をすることは、遠山中学校がその周りに住む人たちとの繋がりを持つことにもつながると思うので、とても素晴らしい活動だなと思います。SDGsと関連して、様々な活動を学校で行っているのも印象に残っています。遠山の霜月まつりを郷土の舞発表として文化祭などで発表するのも、地域のお祭りを継承させていく上でとても大切な事だと思います。人々から大切にされてきたお祭りを遠山中学校の皆さんも伝統として、大切に引き継いでほしいと思いました。地域を大切にしていることが分かる発表でした。ありがとうございました。これからも頑張ってください！
- 生徒会を中心として自らの手で遠山郷を守っていく取り組みは、皆さんは勿論のこと、地域全体としても非常に価値のある取り組みだと思いました。また、地域の歴史ある建物の保全や学校行事を通した各学校の繋がりや伝統の継承など郷土愛溢れる実践をされていて僕自身も参考になる部分が多くありました。少人数化により今後の活動継続が難しい点もあるかと思いますが、SDGsの文言や各々のターゲットへの理解を深めていくと、できることが増えてくるかと思っています。これからも楽しみながら学びを深めていきましょう。ありがとうございました。

会場①-5 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生①)

活動テーマ ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる

発表概要 2学年 草津研修旅行を通して、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめる。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立山ノ内中学校

2. 対象：

(学年・人数)

1学年・77名	(8名)
2学年・85名	(13名)
3学年・73名	

※網掛け・ゴシック体が発表&交流会参加生徒

3. 活動内容

(1) 活動名

地域活性化のために自分たちができることをやろう

(2) 活動の目標

本校では、ESDを「自分たちの山ノ内町を持続的に発展させていくためには何をすべきか」ととらえ、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題に対し、中学生として、また卒業してからも、何ができるのかを考え、地域や町当局に発信し、自らもできることをやろうとする中学生を育成することが目標である。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任



(5) 活動の内容

- 1学年：志賀高原研修旅行 (ユネスコエコパークでの探究的な学び) > 魅力の発見
- 2学年：草津研修旅行 (課題解決に向けた探究的な学び) > 魅力の比較
- 3学年：修学旅行・中学生が夢みる町づくり討論会 (学んだことを提案・実行力) > 魅力の発信

4. 活動の成果

各学年での取り組みによって、生徒自身が問いをもち、その解決に向けて調べ、探究していくといった学習活動のサイクルが構築されてきている。その結果、自然と「地域活性化のために何かやろう！」といった意識へと繋がり、主体的な活動として深まってきている。

今後は、昨年度より本校でも大切にしているが『ESDカレンダー』をもとにした、各教科における学びも位置づけ、より日常の中で生徒が考えたり、グループで深めあったりしていけるよう、検討していく。

5. 指導方法・体制の工夫

校内研究グループと連携しながら、教科とESDの繋がりの可能性を今後も探っていきたい。(負担感のないようにESDに関わる授業実践を公開し、研修していく。※今年度は1学期と2学期の2回、金沢大学の加藤隆弘先生を招いて研修を行った。)

感想

会場①-5 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生①) 発表を見た方からの感想

●自分の町と他の町を比較した深い内容で素晴らしかったです。自分の町に視点をとどまらせず、視野を広げることで見えてくるものがあると思いました。その中で自分の町を知り、深める山之内中学校の取り組みにとっても関心しました。これからも自分の町を知り、守ってってください。また、来年度の活動にもつなげていき、さらなる学習につなげてほしいです。応援しています!!頑張ってください。

●3年間を通した学びで、各学年で異なる視点から地域を見ることのできるカリキュラムだと思いました。自分たちの地域を他の地域と比較、検討してもっと魅力を高めるにはどのようにするべきなのかということを考えてある点に地域の持続に働きかける姿を感じました。

●草津と比較をし、町の山之内町の広さがあることから交通手段が必要だということに考えを巡らせたり、温泉を活用できている良さだけでなく草津との違いから考えを深めたりと、柔軟な考えで活用方法を考察しているところに感銘を受けました。

●研修で行った草津と山之内町を比較し、多くのことに気がつき、その上で研究していたところがいいと思いました。その中で、駐車場が少ないことや町全体で動いていないという視点がユニークでいいと感じました。また、中学校三年間でESDの学習を一貫して行っていることに驚きました。

●山之内町はとても自然豊かで素敵な場所だと思いました。この素敵な場所を守り続けることができるのは皆さんです。まずは地元をよく知るという意識もとても素晴らしい事だと思いました。また、群馬県に行くなど、山之内との比較や参考にすべき点などを学習し、山之内の素晴らしいところを活かし、またより良くするにはどうしたらいいか、しっかり考察されていてとても良いと思いました。

●学年ごとの学びやSDGsに関連した生徒会活動が興味深かったです。実際に現地へ行って調べたことをもとに比較し、課題点を見つけ出していること、幅広い学び・具体的な根拠をもとにした皆さんの提案が素晴らしかったです。ぜひ、今後皆さんの想いや提案を発信してってください。皆さんの提案が実現することを願っています。

●草津との比較から山ノ内町についてまずは自分たちが知ろうとした活動はとても良い活動だと思いました。類似点から温泉というキーワードを導き出し、それを地域の活性化につなげる取り組みは、山ノ内町という場所の特性を生かしたいいい案だと思いました。今回はあまり言及されていなかったのですが、草津との違いについて、食の面が触れられていたと思います。そこに着目して考えるのも面白いと思います。中学生が地域のことについて真剣に考える姿勢は、地域住民の方たちにとってうれしいものだと思います。中澤先生もおっしゃっていましたが、ぜひ、地域の大人たちを動かして、活動に取り組んでほしいと思います。

●地域にある観光産業をさらに多くの人に広めていけるような取り組みがされていてとてもすばらしいと思いました。また、そこで暮らす人や私たちが地域の魅力に気づき、それまで気づかなかった新たな魅力を発掘することもとても大切なのだと学ぶことができました。他の地域の観光地と比較して、自分たちの観光地に必要なことを考える取り組みがとても良いと思いました。

●山ノ内の観光産業や温泉活用の在り方を調べていた皆さんは、実際に地域を歩き回って情報を集めていることが印象に残りました。山ノ内は車を止める場所が少ないから、山ノ内の人達は観光することが少ないという理由に結びつけられるのは、実際に自分達の足で歩いたからこそだと思います。また、山ノ内町と草津町を比べて温泉の利活用がどのように行われているのか、比較をすることは大切だと学びました。山ノ内中学校のESDカレンダーもすごくよいと思いました。自分達で出来ることを探して、自分の地域をよりよくしていきたいですね!発表ありがとうございました。これからも頑張ってください!

●故郷である山ノ内町の温泉など特色を理解しつつ、草津研修旅行での学びも活かされた学びをされていて面白いと思いました。自分たちの地域を知る取り組みは数多くありますが、山ノ内中学校さんのように、自分たちの地域と似ている地域の取り組みまで調べて取り入れていれているのは流石だと感じましたし、地域同士を比較することで学習自体に非常に深みが出たように思います。また、提案も具体性があり実際にチャレンジしても面白いのではないかと思います。SDGsと結びつけて考える際には、SDGsの文言の意味を考えて地域に当てはめていくと新しい発見があるかもしれません。これからも楽しみながら学びを深めていって下さい。ありがとうございました。

●草津町と比較することで自分たちの住む街を客観的に見る事が出来ていてすごいと思いました。また、そこから、駐車場が少ないために来る人が少ないのではないかと考察をし、その改善策として、旅館の駐車場に一時的に停めることができないかや、空き地が多いことからそれを有効利用できないかなど様々な案を練っていて良かったです。

●草津研修旅行を通して、自分たちの住んでいる山ノ内町と比べることで、地域のよいところや課題などを考えていて、駐車場が少ないという意見は自分が渋温泉に行った時にはあまり意識していませんでしたが改めて考えてみると少ないと感じたので、中学生の観察眼はとても鋭いと感じました。

●山ノ内の温泉には何度か足を運んだことがありました。地元の方々が感じる課題を解消するため、温泉地として栄えている草津町について研修を行うことで山ノ内の地域創生に関する課題を発見してきたことが実践的な取り組みと感じました。解決策を実践した場合の効果についても知りたいと感じました。温泉の権利や費用について多角的に検討していることがわかりました。

●実際の観光地と比べることで自分たちの町の特徴を考えることで今まで見えてこなかったことが見えており、改善点の指摘が適切だと感じました。より良い街づくりのための改善を考えることで持続可能な街になるのではないかと思います。

●草津と自分ちの地域を比較することで、その違いから課題が見つかったのだととても良い活動だと思いました。そこからあ駐車場の問題に繋げており、山ノ内を好きになってほしいという思いがすごく伝わってきました。

●草津研修で学んだことと自分たちの地域を比較しながらよりよくしようと活動をしている様子を見て、とても積極的な取り組みだと感じました。いろいろな願望があっても、実際にはいくつかの問題点があるという現実を受け止めることもできていて、現実問題と願望をうまく擦り合わせながら進めていけば今後変化が訪れるのではないかと感じました。ありがとうございました。

●中学校3年間で様々なSDGs関連の活動をするのがわかりました。3年間を通して、大切なことを学ぶことができるのだろうと感じました。山ノ内町の自然を大切にしたいという思いが伝わりました。

●山ノ内町にある、渋温泉について、私も一度友達と行ったことがあって、温泉街に11の温泉があるのはすごいなと思いました。そのうちの一つしか入れてないので、また行きたいと思っています。その渋温泉と、群馬県の草津温泉を比較し、温泉の熱を利用した取り組みや、観光面で駐車場の規模について、自然と社会・経済それぞれの面から多角的に考えていたので、とても良い考察になったと思います。渋温泉は草津温泉に比べると温泉地としての知名度は少し低いかもしれませんが、しかし、私は山ノ内町の地域の方の温かさややさしさは、草津温泉よりも素晴らしいと思っています。そのように、山ノ内町にしかない良さは、十分生かして、これから発展していくよう試行錯誤してほしいと思います。

●温泉の権利や費用など、様々な視点から考えられている活動が尊いと感じられました。地域の方々が抱える課題に目を向け、共に考えていく姿勢こそ、地域とのつながりを深くし、山ノ内を盛り立てていくきっかけになるのだろうと思いました。

●発表ありがとうございました。自分たちの町と類似した草津町との比較を通して山ノ内町の魅力を再発見することの重要性や、自分たちの町をより良くするにはどうすれば良いのかなど分かりやすく聞くことが出来ました。実際の草津への体験学習から自分達の学習に繋がっていて素晴らしいと思いました。

●地元をよりよくするために自分たちに何ができるのか、ほかの観光地を比較するなどして、よりよい観光地にするために考えていて素晴らしいと感じました。町役場の人に話を聞くなどして実際に地元をより良くしようとしている人の話を聞いて自分たち自身で考えをしっかりと持っていて素晴らしいと感じた。

●草津との比較から、四季や観光資源が豊かな山ノ内でも皆さんが指摘するような課題があることがわかりました。温泉の活用方法を考えることで持続可能な社会につなげると自分たちの住んでいる場所の良さを踏まえて考えていくのがとてもいいなと思いました。草津以外にも温泉地がある中でなぜ草津と比較したのかなと疑問に思いました。また、皆さんの活動で考えたことを町に進言したり学校だけでなく地域に広がると面白そうだなと思いました。発表ありがとうございました。

●温泉施設をSDGsに有効活用したいという着眼点が非常に面白いと思いました。提案も非常に凝っており、実際にできればSDGsに有効であると思いました。提案もいくつかあり、面白かったです。ありがとうございました。

●草津温泉との比較から地域を良くしていこうという気持ちが伝わりました。九つの浴場やスキー場など草津にも引けを取らないものが沢山あるんですね。山ノ内町に行ってみたいと思えるような発表でした。

会場②-1 山ノ内町立東小学校

活動テーマ ぼくたちわたしたちの 山ノ内の宝 コカリナ

発表概要 志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習してきた。「いろんな曲を吹けるようになりたい」と願いを持った子どもたちは、コカリナのために作られた曲である「森の朝」や音楽会で歌う「ふるさと」などの曲を練習した。9月、実際の工房を見学したことで、「コカリナがある山ノ内町ってすごい」という気づきがあり、町役場の国際交流員のレーガンさんとの交流を重ね、山ノ内町の魅力も伝えられるよう、活動にとり組んできた。

感想

会場②-1 山ノ内町立東小学校 発表を見た方からの感想

●東小学校の取り組みとても勉強になりました。コカリナが上手で感動しました。

●とても素敵な発表をありがとうございました。オカリナの魅力が伝わってきました。自分もオカリナが家にありますが、みなさんのように上手に演奏することはできません。オカリナを伐採された木から作っていることも環境への配慮という面でとても良いと思いました。

●素敵な発表ありがとうございました。オカリナの演奏とても素晴らしかったです。森林を伐採して出た木材を使ってオカリナを作っていた点で、環境への配慮として無駄な木材を出さない木材の有効活用が良いと感じました。

●コカリナについて自分は初めて知りましたが、とても音色のよい楽器であると思いました。最初は興味のない生徒でも段々コカリナに慣れてきて、コカリナで吹ける曲も増えていき、難しい曲も吹けると楽しいという生徒達の気持ちを聞くことが出来て良かったです。また、思いを形にしている、素晴らしいと思いました。

●コカリナ奏者の方や専門の方以外にも、山ノ内を知りたいという、レーガンさんなど様々な方と交流されている様子が印象的でした。生活科で外国との関わりを持つのは難しいように感じていましたが、山ノ内の文化を世界に伝えるという目的意識で、そのように関わりが持てるのかと思いました。

●オカリナの発表はすごく良いものだった。クラスの全員が、オカリナがうまくなりたいたいという気持ちが前に出ていて、みんな楽しそうに吹いていた。気になったのが、クラスの中には、あまり興味のない人も出てくると思う。その中で、どのようにしてその子たちをやる気にさせたのだろうか。

●コカリナの演奏を途中で聴かせていただきましたが、YouTubeの配信越しでもわかるくらいに透き通った音で聞いていてうっとりしました。コロナ禍で全体で集まって練習することが困難な中ここまで揃った音が出せるのが驚きました。

●コカリナの演奏がとても綺麗な音色で癒されました。特にオリジナル曲の流星群は何度でも聴きたくります。活動の中に多くの人と交流があるのがいいなと思いました。今後もぜひ山ノ内町のよさや魅力を多く発信してってください。

●コカリナに関わる方々や山ノ内町の魅力を発信しようとしている方々とのかわりを通して、山ノ内町の良さを発信していこうという気持ちが芽生えていった様子や自ら山ノ内町の良さに没頭していく様子を感じられました。コカリナのリコーダーとも違う小気味よくも哀愁もある音色で奏でられる演奏に、私もコカリナへの興味がそそられました。これからの活動も、コカリナを通して感じた山ノ内町の良さや多くの方々との出会いで学んだことや郷土を愛する心を胸に抱えながら頑張ってください。素晴らしい発表ありがとうございました。

●素晴らしい発表をありがとうございました。私が山ノ内町立東小学校さんの発表を聞いて感じたことは、「山ノ内町を多くの人に知ってもらいたい!」という思いから、自分たちで「町のどんなことを知ってほしいのか?」「どうやって知ってもらうことができそうか?」を子ども達の皆さんが主体的に考えている姿に感心しました。町の伝統楽器である「オカリナ」に着目し、オカリナを演奏するだけではなく、伝統的な町のオカリナを知ること、作ること、オリジナルの曲を演奏することで、多くの人へオカリナを中心に山ノ内町を紹介していて、多くの人に思いが伝わっていたと思います。今後も、地域の人だけではなく、他の区域の人への発表、そして、SNS通じた発表などで、オカリナをきっかけに山ノ内町を多くの人に知ってもらえることを願っています。私も山ノ内町を訪れて、オカリナの演奏を生で聴いてみたいと思いました。

●オカリナを演奏する姿がとても真剣で、たくさん練習してきたのだと思いました。また、オカリナの魅力を自分たちで味わうだけではなく、広めていこうとしているところが素敵だと思いました。私はオカリナを吹いたことにはないですが、簡単な曲ならすぐということなのでぜひやってみたいと思いました。

●コカリナを学ぶうちにコカリナのよさや山ノ内町のよさを学んだことがとても伝わってきました。私もコカリ

- ナをふいたことがあります。とてもむずかしい楽器だったことを覚えています。みなさんのえんそうがとてもきれいで、私も久しぶりにふいてみようと思います。
- コカリナとともにどのような一年を歩んできたのがとても良く伝わってきました。コカリナについて私も知らないことが多く、みなさんの発表を通してコカリナの起源を知ることができました。また、子ども達の流星群の演奏はとてもきれいな音色でした。
 - コカリナへの出会いから体験をするまでがとても分かりやすかったです。コカリナの魅力など多くの新しい発見がありました。最後の演奏もきれいな音色でみんなで作り上げたのだと感じ素晴らしいと思いました。聞いていて気持ちよかったです。
 - 志賀高原生まれの「コカリナ」を使った「森の朝」や「ふるさと」の演奏が素晴らしかったです。コカリナを通して自分の町の魅力を気づくとともに、さらなる山ノ内町の魅力を発見し伝える活動へと発展できる余地があり、非常に素晴らしい教材を用いていると感じました。
 - 今回は、「オカリナ」が山ノ内町の伝統的な楽器であることを初めて知りました。発表の内容を聞いていると、この楽器なら世界進出も可能だと思ったし、何より、児童皆のオカリナに対する熱い気持ちが伝わってきました。自分達の伝統は、守っていききたいですね。また、実際に音色を聞くことができ、とてもきれいな音色でした。加えて、発表時、台詞があるとは思いますが、できる限り見ないで発表することができると、より伝えたいことが伝わる発表になると思います。皆さんの今後のご活躍を祈っています。今回はありがとうございました。
 - オカリナの演奏、とてもきれいな音で素晴らしかったです！授業で作ったフレーズから作った曲も、感動的なメロディーでした！地域の方や職人の方とたくさん交流をし、学べたことが多くあったとのことで、地域を誇りに思い大切にしている姿勢が素敵だなと感じました。
 - 地元ならではの楽器のコカリナを広めようと、まずは自分達がコカリナのことを深く知ろうと自ら率先的に取り組んでいるみなさんの様子を知ることができました。また、コカリナをみんなにもっと知ってほしいという熱意も伝わってきました。演奏も綺麗な音色で澄んだ音が印象的です。私自身もコカリナに少し興味が出て来ました。これからも魅力を伝え続けていってください。
 - 自分たちの町で最も有名な楽器を取り扱って、地域の活性化を図ろうとしているところがよかったです。材料や作られ方などをしっかり調べて、またオカリナを弾けるようになってからはシニア大学などの場で交流を行うことで、地域を盛り上げようとしているところに感銘を受けました。
 - 「コカリナ」という楽器のことを今回初めて知りました。音色を初めて聞いて、素敵な楽器だなと思いました。自分たちでコカリナを作ったり、曲を作ったりするなど、コカリナのことや山ノ内町を知り、より多くの人に知ってもらうために主体的に活動されているのが、すごいなと思いました。お話をお聞きした方の言葉を大切にしていることが伝わって、それがとても印象的でした。機会があれば、山ノ内町に足を運んで、実際にコカリナの演奏を聞いてみたいです。
 - 東小学校のみなさんの発表を聞いて、コカリナという楽器の存在やその音色を初めて知りました。「黒田さんに会う」という目標や「コカリナをの魅力を広める」という目標に向けてとことん取り組む姿勢や、外国人の方との言語の壁を超えた交流は素晴らしいと思いました。また、コカリナを地域に広めるために、実際に地元の人に向けて演奏をした行動力を皆さんの強みとして、総合の時間に限らず、これからの学びにも生かして行ってほしいです。
 - コカリナという楽器は知らなかったので、発表とても面白かったです。私は音楽が大好きなので、皆さんが演奏しているのを聞いて自分も演奏してみたくなりました。手軽に始められるという点はものすごく売りになると思うので、もっと多くの人にコカリナが知ってもらえるようにこれからも頑張ってください。
 - コカリナの楽器を通じて、山ノ内町の地域を学ぶことができている活動であったと思いました。自分たちがコカリナを作ったり、演奏することで、コカリナと山ノ内町の良さを広めるきっかけにしているということが印象的で、それらを日本中に広めたいという夢をもって取り組んでいる姿がとても素敵でした。
 - 私はコカリナという楽器を知っていましたが、志賀発祥だとは知りませんでした。大切な文化だと思います。それを守っていこうという取り組みは素晴らしいですね。もともとある曲を演奏するだけでなく、自分たちでも曲を作っていると聞き、驚きました。いつか生演奏を聴いてみたいです。
 - 自分の地域のことをもっと知りたい、それを多くの人に伝えたいという思いはとても大切だと思います。また、コカリナという一つの楽器を通して様々な人達と関わる中で、皆さんは大きなものを得たのではないのでしょうか。音色も綺麗な楽器で、演奏に聞き入ってしまいました。
 - 発表ありがとうございました。こどもたちがレーガンさんやクラサカさんとの出会いなどを通して、コカリナへの思いを広げていく様子がとても印象的でした。またシニア大学への参加とコカリナの演奏は、自分たちの探

究を自分たちだけに留めず、社会へ生かしていることが素晴らしいと思いました。シニア大学での演奏は、コカリナの魅力が社会へ伝わっただけでなく、聞いていた大人たちも良い時間だったと想像します。また、発信したことで、次につながる何か生まれるかもしれません。改めて自分たちの学びを自分たちだけに留めず、それを社会へつなげる、社会へと発信・共有していくことの大切さを感じました。ありがとうございました。

- コカリナという「形ある物」から見えてくる世界が広がっていくのがよくわかりました。コカリナの演奏を通して知り合う人との交流がまた新たな出会いにつながっていく、そんな活動の大きな波を感じることができました。どうしてコカリナと子どもたちが出会っていったのか、コカリナを通して子どもたちが地域をどう感じるようになったのか、そんな所も聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
- 子どもたちが楽器の「コカリナ」に実際に触れ、山之内のすごさを体で体験している姿がとても素敵だなと思いました。レーガンさんに伝えようという取り組みを通して、自分の地域のすごさなどを知ることが出来るので、子どもたちが一層自分の故郷に魅力を感じられる機会になる気がしました。

会場②-2 飯田市立上村小学校

活動テーマ 上村のためにできることを考え、行動しよう

発表概要 昨年度、様々な自然体験活動を通して改めて上村の良さに触れました。そんな子どもたちが上村の人口減少等に課題をもち、自分たちにどんなことができるか話し合い、計画を立てました。小学校で育てた椎茸や下栗芋の販売、観光客の方への歌の発表、上村地区のごみ拾い、上村の良い所を市街地で宣伝するなど…、持続可能な上村のためにどんなことができるか話し合い、活動してきました。また、これらの活動から上村を大切にしようとする心情がさらに育まれたように思います。





実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：飯田市立上村小学校
2. 対象：3年生5名 4年生3名 5年生2名 6年生1名 児童11名
(学年・人数)
3. 活動内容
 - (1) 活動名 「上村のためにできることを考え、行動しよう」
 - (2) 活動の目標
昨年度、様々な自然体験活動を通して上村の良さに触れた子どもたちが、上村の人口減少等について課題をもち、上村のために自分たちができることを主体的に考え、活動することを通して、持続可能な地域づくりへ参画しようとする態度や、地域を大切にしようとする心情を育てる。
 - (3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念	
<input type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること)	<input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)	<input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること)
<input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)	<input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)
<input type="checkbox"/> その他 ()	
②育成する資質・能力	
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連するSDGs

11 住み続けられるまちづくりを		14 海の豊かさを守ろう		15 陸の豊かさを守ろう		17 パートナリーシップで目標を達成しよう	
------------------	---	--------------	---	--------------	--	-----------------------	---
 - (5) 活動の内容
 - ①上村の人口減少等の課題について知り、どんな上村になってほしいのか願いをもつ。
 - ②上村のために自分たちにはどんなことができるのか考え、計画を立てる。



③計画を立てたことを実際に行う。(KGC自然塾キャンプにて学校で栽培した椎茸と下栗芋の販売、ごみ拾い活動、地域の人や観光客に歌を聞かせる、花の栽培等)



④活動を振り返り新たな願いをもつ。(もっとたくさんの人に上村の良さを知ってほしい。)
 ⑤上村 PR 大作戦の計画を立てる。(どんなことを宣伝するのか、どこで宣伝するのか等)
 ⑥市街地の公園で上村の宣伝活動を行う。(コロナのため延期)
 ⑦活動の振り返り (次年度に向けて)

4. 活動の成果

上村のために自分たちができることを考える場面では、一人一人がしっかりと願いをもち、意欲的に語ることができていた。これらの語りの背景には、日頃から関わってくださっている地域の方々との触れ合いや、川遊びや山散策など、様々な自然体験活動を通して上村の良さや魅力を十分に感じ取っていた経験があるからだと思った。

また、夏休みに行ったキャンプでは学校で栽培した下栗芋と椎茸の販売、観光客の方に歌の発表をした。県外の観光客の方と会話することで、改めて上村の良さを再確認している子がいた。これらの経験から、当初は上村をウェブサイトやユーチューブで宣伝したいと思っていた子どもたちが、飯田の街に行って直接自分たちの声で上村を宣伝したいと考えが変わるきっかけになっていた。

上村の良さを味わいながら、実際に上村のためにできることを考え行動することで、さらに上村への愛着が深まったように感じる。さらに、「これからも自分たちの手で上村のためにできることを考えて行動していきたい」と持続可能な上村のために意欲を高めた。
5. 指導方法・体制の工夫
 - ・地元の野菜 (下栗芋、椎茸) の栽培
 - ・上村自治振興センターの方々、かみむらっ子応援団の方々、野菜の栽培を教えてください地域の協力

感想

会場②-2 飯田市立上村小学校 発表を見た方からの感想

- 素敵な発表をありがとうございました。SDGsの視点を取り入れながら上村のために様々な取り組みをがんばったことがわかりました。観光客の方に話しかけてやり取りをするということは中々難しかったと思います。勇気を出して話しかけたことで改めて上村の魅力に気づけてよかったですね。
- 素敵な発表ありがとうございました。自分達で上村の人口が減ってきているという上村の課題を見つけ出し、解決のために勇気を出してインタビューしているところが良いなと思いました。又、上村をもっと知ってもらおうと、インターネットを使って情報拡散しているところが素晴らしいです。
- 自分の地域の良さや、多くの地域の方とのキャンプや読み聞かせ伝統行事、人口についてSDGsの視点から考えていました。そこから今の上村の問題を捉えて、自分達に何が出来るのか考えていて素晴らしいと思いました。県外の方から上村に移住する方も増えると思います。
- ひとつの学年だけではなく、3～6年の他学年が混ざって活動している様子が印象的でした。販売を通して、上村へ訪れた観光客の方など普段あまり関わることの無い人達と関わり、自分たちから色んなことを聞いた事で、新たなことに気が付き、そこからの学びを活かして活動が出来ている様子がうかがえました。
- 上村の良さが、この発表を聞いているだけで伝わってきた。生徒が順番に話していくスタイルはとても良いと思った。コロナで、PR大作戦が中止になった時生徒たちにどのような声掛けをしたのか気になった。
- 上村市の人口を増やすためにさまざまな取り組みを考えて実行できていたのかなと思います。人が少なくなっている地域はたくさんあると思うので、こうした地域の特産物の販売を推進したりアンケートを募集したりする活動を他の市町村でも活かしていける先駆的な活動になっていたと思います。
- 上村の課題点と魅力を見つけた上で、自分たちにできることを多く考えていて素晴らしいと思いました。活動の中でさらなる魅力を発見していることも上村に対する愛情が伝わってきました。スライドに該当するSDGsの項目が示されていて分かりやすかったです。
- 上村をPRする活動を通して地域の良さをどうしたら発信できるのかということについて模索したり、どうすればもっと良い上村になるのかということを考えたりして目の前の問題を解決しようと力を尽くしている様子が感じ取れました。この活動で得られた問題解決に向かって考えを巡らせる姿勢をこれからの学校生活やもっと先の未来にも生かしながら頑張ってください。素晴らしい発表ありがとうございました。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。私が上村小学校さんの発表を聞いて感じたことは、自分たちの地域の素晴らしさを伝えるために何が出来るのかを考え、そして、SDGsと繋げて考えているその姿に感心しました。上村小学校では3年生から6年生という縦断的に学校全体で活動に取り組んでおり、上村の良さや魅力を“自然”や“人”に触れ、改めて上村の良さを知って、良さを他の人に伝えることを考えていました。その一方で、上村の人口がどんどん減っていることにも着目をして、どんな改善策が考えられるのかに焦点を当てて取り組んでいました。私の地元である地区も上村に似た地域であり、現在人口減少が一つ問題に挙がっています。上村のような地区は他にもあると思います。そこから、上村小学校のみなさんが積極的に社会問題・環境問題に取り組んでいることは、他の地区にも影響を与えたいと思います。上村の良さを伝えるとともに、上村と似た地区へ情報を共有し、改善策を一緒に考えたりすると良いのかもしれないなと思いました。
- 観光客などにインタビューすることで、あらためて自分たちの街の魅力をたくさん見つけたということで、外の人に意見を聞くのも大切ですね。そこにいる自分たちだと気がつかないことってありますよね。ふるさとを思う気持ちをこれからも大切にしてほしいと思いました。下栗芋というのを初めて聞いたので上村に行ったときには私も食べてみたいと思います。
- 上村の良さをいろいろな場所に伝えたい、きれいな上村を守っていききたい、という二つの強い思いが伝わってくる発表でした。私は今まで上村に行ったことがなかったのですが、発表を聞いて上村に行ってみたくてと思いました。
- 動植物が豊かところや地域の方が優しいことなど上村の魅力が伝わってきました。また、ゴミ拾いをしたり、野菜を育てて販売したりなど子ども達が上村のことを知ってもらうために一生懸命考えて行動したことが伝わってきました。
- この発表の根底にあるのは上村小学校がとても好きなのだと感じました。魅力もどんどん出てくるし、自分も住んでみたいと感じました。またより良い街にするために自分には何が出来るのか考え、まとめ素晴らしいと思いました。
- 昨年度の自然体験活動による上村の良さを知った背景をもとに、具体的な課題を考える活動に取り組むことは

筋が通っていて、活動の流れとして勉強になりました。また人口減少問題などに対して自分ができることを模索する子どもたちがすごく魅力的でした。

- 野菜の販売だけでなく、観光客の方との交流など、上村の魅力を伝えていこうという気持ちが行動に表れていて、とても素晴らしい活動だと感じました。何よりも「上村」という、自分の地域を好きであるという気持ちが伝わってきたところがとてもよかったです。また、上村の良さをもっとたくさんの人に知ってほしいという気持ちから立ち上げられた「上村PR大作戦」の今後の活動も楽しみにしています。これからも、活動を楽しみながら頑張ってください。
- 子どもたちの上村を思う気持ちが伝わってくる発表でした。身振り手振りや声のトーンなどを工夫して発表している児童もいて素敵でした。
- 皆さんの、「上村が好きだ」という気持ちがとてもよく伝わってきました！発表も生き生きとしていて、楽しく学びながらこの活動をやっていたのだと感じました。「上村のために自分たちが行動する」という強い気持ちが本当に素敵だと感じました。
- 地元の魅力について知ってもらおうと、イベントに参加して魅力を発信すること、また、逆に県外の方から見てもアンケートに答えてもらって案を募ることによって上村の活性化を図っているところに、行動力があると感じました。そして、上村を守り続けたいという強い意思と、上村が大好きであることがひしひしと伝わってきました。
- 自分たちの町について知ることや、町のために何かをする事はとても大事な事だと思います！この発表を通して、私も上村に行ってみたくてと思いました！未来の上村を作っていくのは皆さんの力で、今回学んだ事を忘れずに育てて行って欲しいと思います！
- 上村に自分も行きたくてなりましたが、上村の人口が減少傾向にあり、地域の元気がなくなってきていることが悲しかったです。しかし、なんとしてでも地域を再活性化させるためにいろいろなことに挑戦している姿がたくましかったです。ゴミ拾い、地域の特産物を販売、アンケート調査など、しっかりと明確なアイデアを考えだして活動しているところに、総合的な学習の時間の良さが出ていました。
- 発表の最後、「持続可能な上村を自分たちの手でつくっていく」という言葉から、上村小学校の皆さんが本当にふるさと・上村のことが大好きで、もっと盛り上げたい、たくさんの人に知ってほしい、という強い気持ちがあることが伝わりました。勇気を出して観光客の方に声をかけたら、新しい発見があったということで、改めて自分から動くことで何か得ることがあるなと感じました。生の声での宣伝が、これからたくさん行われたらいいなと思います。
- 私は山形県三川町という小さな町で育ちました。皆さんが上村町の魅力を伝えているのを聞いて、自分も地元の魅力を伝えていくことが必要なんじゃないかと改めて考えることができました。お互い、自分の住むところの良さをもっと知って、他の人にもっと知ってもらえるように頑張りましょう。
- それぞれの活動がSDGsのどの目標に当てはまるのか、考えながら取り組んでいる姿に感心しました。観光客の方々と交流で上村のよさを見つけることや、ゴミ拾いをしたことで地域の人が町をきれいに保っていることに気づいていた様子がとても伝わってきて、活動の中で自分たちが感じたことを大切に学ばれている姿が素敵でした。
- 野菜の販売だけでなく、観光客の方との交流など、上村の魅力を伝えていこうという気持ちが行動に表れていて、とても素晴らしい活動だと感じました。何よりも「上村」という、自分の地域を好きであるという気持ちが伝わってきたところがとてもよかったです。また、上村の良さをもっとたくさんの人に知ってほしいという気持ちから立ち上げられた「上村PR大作戦」の今後の活動も楽しみにしています。これからも、活動を楽しみながら頑張ってください。
- 上村を知ってもらうためにはどうしたらよいか、とても真摯に向き合い、活動に取り組んだことが伝わりました。さらに郷土愛を深められたのではないのでしょうか。他者と連携・協働する経験を大切に、この活動を通して上村という町を大切にしてほしいと思います。
- ゴミ拾いはなかなかやろうとする人がいないと思うので、自分たちで上村を守るためにゴミ拾いができるのは、とても良い意識だと思います。そして、上村の住民の方に調査をするのではなく、観光客の方に調査をすることで、外からの印象を知ることができ、意見を取り入れやすくなって良いと思います。そして時代に合わせて、SNSで宣伝をするのは、どんどんやった方が良いと思います。
- 発表ありがとうございました。上村小学校の児童の言葉からは、自分たちが地域の人に支えられていることを実感している様子わかりました。また、児童の言葉・表情がとても印象的でした。活動ひとつ一つがやらされ事ではなく、ちゃんと一人ひとりの物語になっていると感じました。改めてありがとうございました。
- 自分たちの地域のために何が出来るのか。自分たちが上村という地域のことが大好きだからこそ真剣に、そして一生懸命考えることができるのではないかと思います。自然や祭り、人のやさしさなど、子どもたち自身が「幸せ！」

と感じるのは、観光客の方のインタビューを通じて、上村の外側から上村を見るという視点の変化があったからのように感じました。だからこそ、身近すぎて感じられなかった「当たり前」を感じる事ができたのではないのでしょうか。将来自分たちが上村という地域にどう関われるのか、今回発見した良さを生かした考えが出てくると面白いと思いました。ありがとうございました。

- 上村の土地を活用した自然体験活動を通して、持続可能な社会のために学ぶことは、学びが一層子どもたちの中に定着していくものとなると思います、とてもいいなと思いました。

会場②-3 信州大学教育学部附属長野小学校

活動テーマ 未来につながる森林プロジェクト

発表概要 私たちは昨年度から森林について学んできました。学習を始めた頃は、木を伐採することが自然破壊につながる行為だと思っていました。しかし、林業に携わる様々な方との出会いの中で、木を適切に伐っていくことが環境を守っていくことにつながっていくことを学びました。そして、今年度は、森林税を活用し、県産材を使ったベンチ作りに取り組み、地域の方に使っていただくことで私たちの想いを届けようと活動してきました。

感想

会場②-3 信州大学教育学部附属長野小学校 発表を見た方からの感想

- 素敵な発表をありがとうございました。森林は人が手入れをして、整備されていることが大切だということがわかりました。また、ウッドショックという言葉を初めて耳にしました。コロナウイルスによって輸入材が減少しているからこそ、改めて日本の林業に目を向けなければならないと思います。国産材を使うことの意味を自分でも考え直してみます。
- 素敵な発表ありがとうございました。森林の現状を調べ、ウッドショックなどの現状を知り、課題意識を持っているところが大人になっても大事になることだなと感じました。森林税のことを全く知りませんでした。勉強になりました。
- 木に興味を持った生徒たちに、より楽しませるように先生がカブラという面白い木を紹介していて、生徒の興味関心を持たせる素晴らしい対応だと思いました。ウッドショックについて外国と日本の違いを理解して、日常生活が当たり前ではないと考える姿勢が良かったです。
- 生徒たちが実際に木を使った様々なものと触れ合うことで、気のぬくもりなど、木材の良さを感じることで、自然と生徒たちの中に森林を守りたいという思いが現れているように感じました。また、色んな人にお話を聞くことで、様々な思いに触れ、より大切にしたいという思いが高まっているのではないかと思いました。
- カブラに興味を持った生徒たちが、カブラで遊ぶだけでなく、そこから森林についてつなげていくことは、とても興味深かった。これは、生徒たちが自分たちで進めていったことなのか、教師がある程度、道筋を建てたのか気になった。
- 個人的に発表の際に使用をくださったスライドがとても見やすく、思考の経過や活動の内容などがスッと入ってきていました。国産の木材について調べ上げその良さを実感するためにベンチを作ってみる活動をしていましたが、実際に触ってみたり座ってみることで木材の良さが伝わりやすいのでは無いかと思いました。
- スライドと説明がとても分かりやすかったです。ベンチづくりの活動の流れを聞くと、作ったベンチにはみなさんのこだわりが詰まっているだけでなく、林業の人たちや座る人たちにも優しい特別なベンチなのだと思います。今後もぜひ多くの人の立場に立って考えながら活動を行って行ってください。
- 林業と木材について考える活動を通してベンチを作りたいと思ったことから、木材の魅力に取りつかれていった様子や、そのような心の動きを誘発するような魅力を木材が秘めていると感じ取りました。今回木材の魅力に気が付いたように、これからも日常にある様々な魅力について気が付き、それを日常に取り込もうとする気持ちを持ち続けていただきたいと思いました。素晴らしい発表ありがとうございました。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。私が信州大学附属長野小学校6年2組の皆さんの発表を聞いて、子ども達の一人一人が問題を見つめ、解決するために向き合っていたように感じました。というのも、森林に伐採が行われる問題に対して、問題と向き合うだけではなくカブラという木を題材に木と触れ合ったり、林業に携わる各々の職業の人と関わったりする姿から6年2組の皆さんがこの問題を自分たちなりに噛み砕いて、取り組んでいる様子が思い浮かびました。今後も、身近な問題に目を向け、自分たちの問題として受け止められるみなさんの姿を大切にしていってください。ちなみに杉で作ったベンチはどこに設置してありますか？是非見てみたいです！
- 資料で調べるだけでなく、様々な人の声を直接聞いて調べているということは私も見習わなければならないと思いました。自分たちで探求する姿がとても素晴らしいと思いました。また、非常にわかりやすい発表でした。作られたベンチはどこにあるのでしょうか。ぜひその据わり心地を確かめてみたいです。
- 発表から日本の木のよさや林業の重要性、森林の環境を守ることの大切さがとても伝わってきました。これまで学んできた日本の木を使うことの大切さや日本の林業、地球環境について、これからもさらに深めていってください。

- 国産材を使う意義を考慮してもらえるような素晴らしい活動でした。輸入材の割合が高く、国産の割合が低いことも日本や外国の地形に着目して考えられていてとてもわかりやすかったです。この活動が広がり国産材を使用する人が増えることを祈っています。
- 気を切るとは悪いことではないということにとても心を打たれました。木は今の生活には必要不可欠です。そのため、なくなってはならないのに木を切り続け、木を使い続けいることにとても悲しくなりました。木を植えていかななくてはならないと思いました。
- 子どもたちの木の伐採に対してイメージが自然破壊から環境を守ることに逆転していて面白いと感じました。そのように間違った偏見を改善することは大切だと思います。また働き手が少なくなっている林業にスポットを当てて環境問題をとらえていて、教材として非常に勉強になりました。
- 身近なものだからこそ、あることが当たり前だと感じてしまいがちな森林について、木への興味から課題を見つけ、多くのことを学んでいった姿勢から、森林を大切にしたいという気持ちがとても伝わってきました。課題と向き合い、自分たちで活発に調べたり考えたり活動をしたりして、これから中学生や高校生になってからの探究活動もきっと良いものになっていくのだろうなと感じました！
- 木を切ることが悪いという固定概念を持っていましたが、それを打ち壊し、木の伐採の大切さを学ぶことが出来ました。多くの人々の支援を受け、その期待に応えるかのような主体的で実践的な活動、未来へつながる森林プロジェクトを推し進めていて素晴らしいと思いました。
- キノハナがとても綺麗でした。コラボ作品が特に私は好きでした。普段当たり前のように使ってる木材ですが、その裏にたくさんの人の努力があるということが分かりました。ベンチ一つとっても、皆さんが経験したようにたくさんの工夫と努力が詰まっていると思います。木材の見方を見直そうと思いました。これからも木材について、国産材について、たくさん学んでいってください。
- コロナ禍で木の需要が高まってきていることに対する附属長野小の皆さんの学習はとてもタイムリーな内容で興味深いものでした。長野県もしくは日本の国土そのものが森林に囲まれた地であるので、それをいかに上手に使っていくか、そしてどのように守っていくかを考えているところが、持続可能な開発につながっていると感じました。
- 国内の森林・林業の現状を調べることや、関係者の方々のお話を聞くことなどから生まれた自分たちの思いや願いを、県の杉を使ったベンチという形に残すことで叶えていることが、素晴らしいなと思いました。実物を見ることで、活動を知ってもらうことはもちろん、使ってもらうことで、木のぬくもりや大切さを多くの人に感じてもらうことができ、とても有効だと思います。活動を支えてくださった関係者の方々への感謝の気持ちを常に忘れず、思いをくみ取ろうとしている姿勢がとても印象的でした。
- 森林の話、ベンチづくりの話とても興味深く聞かせてもらいました。私も中学生の時に木を使ってモノを作るという体験をしました。私が印象に残っているのは木をかんなどで削る作業です。すべすべになる感覚がとても気持ちよかったのを覚えています。木の有効活用の仕方、私も考えてみたいと思います。
- 「国産材を使うことの意味をもう一度考えたい」という職人さんのお話を、自分たちなりに解釈して、その意味を考えながら活動に取り組みされている姿がとても印象的でした。多くの方からのお話や体験から、その魅力に触れたり、考えを深めている様子が良く伝わってきたので、これからもたくさんの人との出会いや交流を大切にしたいって欲しいなと思いました。
- みなさんの発表を聞き、全員がはきはきと話していて、とてもいいなと感じました。話したい内容がよく伝わってきました。内容についてですが、「木の伐採」というのはそこだけを見ると、「環境に悪いのでは？」「自然を破壊している」とイメージしてしまいがちですが、「良い森林のサイクル」というものがあるので、環境がよくなるという面もあるということを私たちは知る必要があるなと感じました。ベンチは私も機会があれば行ってみたいと思います。
- 森林が自分たちの町とどのようにつながり、関わっているのか、とても一生懸命に考えたのだと思います。ベンチづくりでは試行錯誤し、どのようにしたらよりよいものとなるのか、よく考え作っていることが伝わってきました。森を大切にしたいという思いも地域の方に届いているのではないのでしょうか。森林について熱心に学んだことが伝わる発表でした。
- 木を切ることのメリットやデメリットを通して、日本の貴重な資源を有効に使うことや持続的に使うことで未来にも資源を残していけるということが分かった。また、森林税についても詳しく調べて説明しており、今後の林業について考えさせられた。ベンチづくりでは自分たちで木を選び、施設への電話まで皆さんで行っており、林業への思いが伝わった。これからも、日本の林業について地域の方々に広めていってください！
- 発表ありがとうございました。こどもたちの森林に対する理解が、表面的なものではなく、森林の特徴やそれに

伴う課題、そして人との関係性など、多面的・重層的な理解となっているのが印象でした。そしてその森林に対する理解の上で生まれた「未来につながる森林プロジェクト」は子どもたちの思いが乗っていると感じました。また、なかなか補助金を利用しての総合は聞いたことがなく、本気になればそこまでできるんだ、と私の枠も広がりました。ありがとうございました。

- 木を介して多くの方と出会うことで、木の大切さや今日の日本における木材の位置など幅広い視点から「木」について考えている姿が素敵だと思いました。自分たちの願いで専門の方と繋がり、ベンチの製作になっていくプロセスや、子どもたちが県産材の良さを多くの人に知ってもらいたいという思いも強く感じる事ができました。一つの材が多様な可能性をもつということを教えていただきました。ありがとうございました。
- 調べ学習をととても念入りにしてあり、他者に伝えようとする姿にととても感動しました。子どもたちの中でよく話し合いながら森林をどのように利用していけばいいのか、また人間の利己的な思いにではなく「持続可能な社会のため」という目標をしっかりと持っていて、私自身の学びにもなりました。ありがとうございました。

会場②-4 宮崎県綾町立綾中学校

活動テーマ SDGs達成に向けての生徒会活動報告

発表概要

- 1年生
本来は自然への探究をテーマにフィールドワークを中心とした調べ学習を行うが、前期はコロナ感染症拡大のために、今年度はエコパークセンターの協力を元に、調べ学習を中心とした。
・リモートセンシングを利用して、綾ユネスコエコパークイオン森における炭素蓄積量を算定した。
・新聞紙でエコバッグを作成し、地元の有機農産物販売所に寄贈した。
- 2年生
・人(街)への探究を大きなテーマに、自分たちで班ごとのテーマを決め、綾町の産業や事業所をインタビューをするなどして、よりよい町づくりの提案を考えている。
・本来は、修学旅行先の街との比較を行うことで町作りを考えてきたが、今年度は自分の町のフィールドワークのみを行った。
- 3年生
・本来は自分への探究をテーマに、職場体験をするが、コロナ感染症拡大のため中止になった。そこで、代替活動としてユニクロの服のチカラプロジェクトを中心に取り組んだ。
・綾町子ども議会へ出席し、2年生から取り組んでいた研究を元に、よりよい町づくりのための提案を綾町職員に向けて発表した。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1. 学校名：宮崎県 綾町立綾中学校
2. 対象：全校（195名：1年生70名 2年生62名 3年生63名）
(学年・人数)
3. 活動内容
 - (1) 活動名
SDGs達成に向けた活動の実施報告
 - (2) 活動の目標
生徒会スローガン「lead～綾中が導く持続可能な世界～」の達成に向けて
 - (3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念	□公平性（一人ひとり大切に）
□多様性（多種多様な現象が起きていること）	☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑相互性（関わりあっている）	☑責任制（責任を持って）
☑有限性（限りがある）	□その他（ ）
□その他（ ）	
 - ②育成する資質・能力

□批判的に考える力	☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力	☑つながりを尊重する態度
□多面的・総合的に考える力	☑進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連するSDGsと(5)活動の内容
- ①総合的な学習の時間の実施報告
 - 1年生
・本来は自然への探究をテーマにフィールドワークを中心とした調べ学習を行うが、前期はコロナ感染症拡大のために、今年度はエコパークセンターの協力をもとに、調べ学習を中心とした。(SDGs13, 14, 15)
・新聞紙でエコバッグを作成し、地元の有機農産物販売所に寄贈した。(SDGs12)
・リモートセンシングを利用して、綾ユネスコエコパークイオン森における炭素蓄積量を算定した。(SDGs13, 15) 【写真1】
 - 2年生
・人(街)への探究を大きなテーマに、自分たちで班ごとのテーマを決め、綾町の産業や事業所をインタビューをするなどして、よりよい町づくりの提案を考えている。【写真2】
・本来は、修学旅行先の街との比較を行うことで町作りを考えてきたが、今年度は自分の町のフィールドワークのみを行った。(SDGs8, 11)
 - 3年生
・本来は自分への探究をテーマに、職場体験をするが、コロナ感染症拡大のため中止になった。そこで、代替活動としてユニクロの服のチカラプロジェクトを中心に取り組んだ。(SDGs12, 17) 【写真3】
・綾町子ども議会へ出席し、2年生から取り組んでいた研究を元に、よりよい町づくりのための提案を綾町職員に向けて発表した。(SDGs8, 11)

②生徒会活動について
生徒会スローガン「lead～綾中が導く持続可能な世界～」の達成に向けて、実施している活動の報告

- ・生徒総会のSDGs達成を議題とした話し合い(SDGs17)
- ・各委員会とSDGsとのつながりを持たせた活動
- ・ペットボトルキャップ回収(SDGs3, 12)
- ・コンタクトレンズ空ケース回収(SDGs12)
- ・使い捨てカイロ回収等(SDGs12, 13, 14)
- ・高校と合同でのリーダー研修の実施【写真4】



【写真1】



【写真2】



【写真3】



【写真4】

4. 活動の成果
 - 総合的な学習の時間
3年間を見通したESDの根幹を担う体系的な学習計画となっているが、コロナ感染症の影響で実施できない活動が多くあった。その中で、世界貢献、SDGs達成という共通の目的を一貫して持ち、リサイクル活動やボランティア活動等を中心とした代替学習(活動)を行った。目的を明確にすることで、相互性や連携性を意識させながら、持続可能な社会の担い手として必要な資質や能力の育成に努めるとともに、生徒の意識も高まった。
 - 生徒会活動
昨年度の生徒会スローガン「Move～綾中からつなぐ持続可能な世界へ～」の流れを引き継ぎ、今年度も「lead～綾中が導く持続可能な世界へ～」と、「持続可能な社会」をテーマとしたスローガンが生徒達によって決定された。それを元に、生徒総会の中で出た取組案(エコバッグ作成、使い捨てカイロ回収等)を、生徒会を中心に実現していくことで、他者と協力する力や進んで参加する力が高まったといえる。
5. 指導方法・体制の工夫
 - ①綾町エコパークセンター
 - ②綾町の各事業所

感想

会場②-4 宮崎県綾町立綾中学校 発表を見た方からの感想

- 素敵な発表をありがとうございました。校舎に綾町の木材が利用されているという点にとっても驚きました。SDGsの月ごとの目標を決めている点もすごいと思いました。特に整備委員会「ついday」という活動はとても面白いと思いました。自分も日々の生活の中で、帰るついでにゴミ拾いに取り組んでみます。
- 素敵な発表ありがとうございました。鉄骨コンクリートの校舎ではなく、綾町の木を使った校舎が良いなと思いました。木造の校舎、自分も綾中学校のような校舎が良かったなと思いました。私もエコキャップ運動してました。
- 委員会ごとに環境に対する目標や実際に行っている様子を見ることが出来てとても分かりやすかったです。またその活動を行う事によって、SDGs喉の項目を果たせることが出来るのか明確になっていたことも分かりやすかったです。
- 学校全体でSDGsを普段から意識して生活している様子が伝わってきました。普段の生活からSDGsを意識しているからこそ、生徒会でそれぞれが主体的に委員会の活動を行うことが出来ているのではないかと思います。また、小学校から、SDGsを学んでいたことで、ここまで普段から深くSDGsについて考えられるようになったのではないかと思います。
- 学校生活のさまざまなところでSDGsを取り入れ、生徒全員が意識することができていて、素晴らしいと思う。使い捨てカイロを活用していく方法があることを知らなかった。SDGsを日々意識しているからこそ、実践できることであると感じた。
- 発表の中に委員会の活動の月ごとの目標とSDGsの目標が関連しているものになっていて、実際にペットボトルキャップを集めてワクチンに変えることでSDGsとの関連が図られているところが興味深い部分だと感じました。普段からSDGsを意識した取り組みを行うことでもっと多くの人がSDGsについて知ることができるのではないかと考えます。
- 委員会など普段の活動の中でSDGsを意識できるようにマークを示しておくことは活動の目的が明確になるためとてもいい取り組みだと思いました。特にカイロを回収することは身近なことの中でも効果は大きく、小さなことの積み重ねが大切であることを再確認することができました。
- SDGsの項目に照らし合わせて町の実態について考え問題意識を芽生えさせていく過程を知り、持続可能な綾町の未来を担っていく方々なのだろうなという感嘆の思いを抱きました。またその視点を綾町だけではなくもっと幅広い地域に目を向けて活動を行っていく様子も知り、なおさらみなさんが将来活躍する姿が楽しみになりました。素晴らしい発表ありがとうございました。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。私が綾町立綾中学校の発表を聞いて、みなさんの考え方の発想力に驚きました。綾中学校では各委員会でSDGsと絡めた取り組みを行っており、どんな活動なのか？何の目的なのか？を自分たちで考え日々、活動している姿が素晴らしいなと思いました。確かに私が中学生だった頃にも資源回収は行われていましたが、何のために？どんな目的なのか？は明確にされていませんでした。綾中学校のように何のために？どんな意味があるのか？を明確にすることで生徒一人一人が意志をもって活動に参加できるのではないかと思います。また、学年が進級すると共にキャリア教育を充実させている点も生徒の将来を支援している活動であり、素晴らしいなと思いました。
- まずは自分たちでできること、身近なところでできることに目を向けて、生徒会中心に学校で様々な取り組みをしているところが素晴らしいと思いました。そして、それだけでなく高校生や地域と共に行う活動に広がっていましたね。また、活動の意味をしっかりと確認して活動されていてよいと思いました。
- 生徒会活動や日々の生活をSDGsに結びつけて考えていることが伝わってきました。できないことをできないと考えるのではなく、できないなりに何かできないかと考えることを見習いたいと思います。これまで学んだこと、考えたことをこれからもさらに深めていってください。
- 地元の綾町と密接に結びついて活動や持続可能な社会に向けての活動の数々に驚きました。特にペットボトルキャップの回収だけでなく、カイロの回収を行っている学校は初めて知りました。立派な学校目標と併にこれからも頑張ってください。
- リサイクルは自分たちが一番身近にできる自然や環境へ貢献できることではないかと思います。自分も日ごろからペットボトルはリサイクルをするなど、コンタクトケースもリサイクルできるなんて初めて知りびっくりしました。
- これからの脱炭素社会で重要となるSDGsを中学生のうちから学ぶことは非常に有意義だと感じます。また子ど

もたちができる環境活動に取り組むことで、SDGsに対する印象が遠いものから身近な存在になり、普段の生活から意識するようになるため、良いと思いました。

- 委員会ごと、明確にSDGsと関連性を持たせながら活動を行っていることを知り、素晴らしいなと思いました。地域にとっても、そこに住む人々にとっても、そして世界の人々にとっても良い活動がたくさんで、「綾から世界を変える取り組み」が確実に実践されていることが伝わりました。これから先も、世界の様々な問題の解決をリードしていく綾中学校を応援したいですし、改めて自分も生活を見直そうと思います。
- 綾中学校のみなさんの発表を聞いて、SDGsを意識した生徒会活動に全校で協力している点に、とても魅力を感じました。自分たちの住む街を自分たちで守ることを目的とした、生徒主体の活動実践は、私も教師になったときには見習いたいと感じました。コロナ禍で活動が例年通りに進まない部分も多くあると思いますが、できることを見つけて取り組んでいる姿勢を忘れずに、これからも頑張ってください。
- 長野県の学校ではなかったことで新たな観点から学ぶことができました。SDGsに関して一人一人が宣言を書いていることに感心しました。委員会活動の際もSDGsに触れている点は自身が中学生のころにはなかったため驚きました。コンタクトレンズケースの回収が学校で行われているのはとてもいいと思います。私の通っている大学でもやってほしいくらいです。リサイクルに関してとても意識が高いように感じました。
- ふるさとを大切にしながら世界を変えるという思考はとても重要だと感じました。また、委員会活動までSDGzとつなげて活動しているというのは驚きました。そのような活動を続けていくと自然と生活の中でもSDGzに基づいた活動が行えるようになると思うので、誇りをもって続けていってもらえたらと思います。また、植林やユニクロの大規模な活動に参加している点も見習いたいと感じました。発表ありがとうございました。
- 皆さんの、国際的な大きな問題も身近な問題として捉え、自分たちから解決に導いていこうとする姿勢に、私も見習わなければ、と感じました。また、新型コロナウイルスの影響でできないことがあっても活動を止めずに新たなこと、さらに発展させたことを行っていて、課題への問題意識の高さ、課題を解決したいという気持ちの強さが素晴らしいと感じました！
- SDGsという具体的な問題へ着眼し、自分たちがユネスコスクールに認められるといった名誉あるものに認定されているという立場に基づき活動している姿がとても素晴らしく、また誇らしく思いました。自分たちの学校も、ペットボトルキャップ集めを行っていました。この活動が、SDGsの活動に関連していたのだと知り、自分たちがやってきた活動に誇りを持つことができました。綾中学校の生徒会が中心となり、生徒全体が活動に取り組んでいるという事は素晴らしいことだと思うので、将来の自分達の活動に活かしてほしいと思いました。今回はありがとうございました。
- 新しく作られた校舎は、木のぬくもりが感じられる素敵な校舎ですね！個人や各委員会で日常的にSDGsについての意識を持ち、行動できることはすごいと思います。一つ一つの行動がSDGsのどの項目に関連しているかを考えながら行うことはとても効果的だと思います。私も普段の行動から見直していきたいと思います。
- ニュースのリポーターのような発表で面白かったです。「ついday」という取り組みは、私が小学生、中学生のころには体験したことが無い学校の取り組みなので、「そのような取り組みもあるのか」と感心を受けました。住んでいる町もきれいに、また、SDGSにも貢献できるので、とても良い活動だと感じました。この活動はこれからも続けていってほしいと感じました。
- 各委員会でSDGsに関する目標を立てて実行していることで、意図のある活動ができていると感じた。ただペットボトルのキャップを集めるのではなく、何のために集めているのかを目に見える形にしていることで、SDGsについての理解が深められていい活動だと思った。また、地域を巻き込んで活動をすることで多くの人に活動を広めることができおり、他の学校も参考にできると感じた。これkからも多くの活動を広めてください！
- 身近なところから自分たちでできることを考え、実際に取り組む姿に感動しました。ここまで自身の問題としてとらえ、SDGsに即した活動を行っている学校はなかなかないと思います。地域と連携し、学校全体で持続可能な社会にするために様々な角度から取り組んでいることが伝わりました。
- ベッドボトルキャップやコンタクトレンズのケースの回収、それぞれの活動の意味を生徒がわかって行っていることが素晴らしいと思いました。その活動が何につながるのかを知りながら活動することで、環境や他の地域、社会のことを考える機会になっていると思います。また、自分たちの活動が社会の役に立っているという活動は、土台の部分で生徒の自己肯定感を高めると感じました。発表ありがとうございました。
- 学校全体でSDGsの取り組みを進めていることが分かりました。特に生徒会の取り組みがSDGsのどの目標達成に向けたものなのかなど、自分たちが普段当たり前のように行う活動も項目にあてはめればSDGsの活動に準じるものとなるという考え方は、自分たちの活動が学校内だけでなく地域や自然にも還元されるものという生徒自身の意識の変化につながるのではないのでしょうか。小学校からの学びのつながりがあることが綾中学校の学

びに大きく影響しており、より深く自分たちの地域を見つめる活動になっているようにも感じました。発表ありがとうございました。

- 綾中学校の発表方法がとても分かりやすくそして見ていて面白かったです。身近なことで私が持続可能な社会のためにできる事、それを学校全体で共通認識を持ち、生徒一人一人の認識に繋げているのかなと思いました。生徒一人一人が持続可能な社会のために考えるようになったら、そこから派生して生徒さんの家族にも知識が伝達していく気がしました。学校全体で何かを考える、という事はとても大切なことだと再認識しました。ありがとうございました。

会場②-5 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生②)

活動テーマ ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる

発表概要 2学年
草津研修旅行を通して、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめる。


実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立山ノ内中学校
2. 対象：
(学年・人数) ※網掛け・ゴシック体が発表&交流会参加生徒

1 学年・7 7 名	(8 名)
2 学年・8 5 名	(1 3 名)
3 学年・7 3 名	
3. 活動内容
 - (1) 活動名
地域活性化のために自分たちができることをやろう
 - (2) 活動の目標
本校では、ESD を「自分たちの山ノ内町を持続的に発展させていくためには何をすべきか」ととらえ、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題に対し、中学生として、また卒業してからも、何ができるのかを考え、地域や町当局に発信し、自らもできることをやろうとする中学生を育成することが目標である。
 - (3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること)	<input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)	<input type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること)
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)	<input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)
<input type="checkbox"/> その他 ()	
②育成する資質・能力	
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連する SDGs

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
---	---
 - (5) 活動の内容
1 学年：志賀高原研修旅行 (ユネスコエコパークでの探究的な学び) ➤ 魅力の発見
2 学年：草津研修旅行 (課題解決に向けた探究的な学び) ➤ 魅力の比較
3 学年：修学旅行・中学生が夢みる町づくり討論会 (学んだことをを提案・実行力) ➤ 魅力の発信
4. 活動の成果
各学年での取り組みによって、生徒自身が問いをもち、その解決に向けて調べ、探究していくといった学習活動のサイクルが構築されてきている。その結果、自然と「地域活性化のために何かやろう！」といった意識へと繋がり、主体的な活動として深まってきている。
今後は、昨年度より本校でも大切にしているが『ESD カレンダー』をもとにした、各教科における学びも位置づけ、より日常の中で生徒が考えたり、グループで深めあったりしていけるよう、検討していく。
5. 指導方法・体制の工夫
校内研究グループと連携しながら、教科と ESD の繋がり可能性を今後も探していきたい。(負担感のないように ESD に関わる授業実践を公開し、研修していく。※今年度は1 学期と2 学期の2 回、金沢大学の加藤隆弘先生を招いて研修を行った。)

感想

会場②-5 山ノ内町立山ノ内中学校(2年生②) 発表を見た方からの感想

- 素敵な発表をありがとうございました。山ノ内町の温泉は一度訪れたことがありとても素敵な場所でした。年間の温泉の維持費が年間1億～2億かかっているという事実には驚きました。りんごを利用した温泉は行ってみたいです。
- 素敵な発表ありがとうございました。よく温泉や山ノ内町について調べられていたと思いました。勉強になりました。今後追求したことがしっかり考えられているということは、温泉についてうわべだけではなくしっかり調べられていた証拠だと感じました。
- 山ノ内町は88%が志賀高原化の山林原野、渋温泉といったとても目組まれている環境で春夏秋冬で楽しめる素晴らしい町であると思いました。自分の町を追求するために、他の町を訪れていて、どんな工夫があるか見つけて自分の町で生かしたい発想が素晴らしいと思いました。
- 山ノ内の魅力が伝わってくるような発表でした。また、生徒それぞれが様々な魅力の中から自分の学びたいことを調査し、調査した内容を伝えるためにはどうしたらよいか、主体的に考えて活動している様子が伝わってきました。また、生徒それぞれが今後の活動についても見通しがたっていて良いと思いました。
- SDGsを実践していく際に、カレンダーに行っていくことを記していくことはとても分かりやすく、生徒にとっても教師にとってもよいものであると感じた。調査して分かったことから、今後行っていくことにつなげていけるのは素晴らしいことだと思う。
- 草津見学を通して自分の地域にある温泉の周囲と何が違うのかを比較しながら自分達の暮らす場所を興す取り組みにつなげようという発想が素晴らしいと思いました。草津にも山ノ内にもそれぞれに良いポイントがあると思うのでそれらをより前面に出せていけるといいなと思いました。
- 山ノ内町をより魅力的にすることだけではなく、維持することや実際にニーズの立場になって考えられていて素晴らしいと思いました。現実度の高い案がとても多く、ぜひ提案したものを実現してもらいたいと思いました。
- 温泉に焦点を当て、自分たちの中だけにある考えを基にするのではなく有名な温泉の施策も参考にして程度の高いオリジナリティーを生み出そうとする姿勢が感じ取れました。これからの草津温泉の分析などの活動を通し、良さを融合するという難しい活動を行なうことになると思います。しかし発表を聞いて皆さんならやり遂げることができると思いました。素晴らしい発表ありがとうございました。
- 山ノ内中学校では、ESD活動を1年生に魅力の“発見”、2年生に魅力の“比較”、3年生に魅力の“発信”をモットーに行っていることを知りました。そこで山ノ内中学校の2年生の皆さんは山ノ内町の渋温泉をさらに多くの人に知ってもらいたいと考え、群馬県の草津温泉を調べ、そこから渋温泉ではどんなことをPRしていくことが必要かを考えていく活動をしてしました。最後の講評でも挙がりましたが、山ノ内中学校の第2学年のみなさんは草津温泉の活動を真似するのではなく、草津温泉を参考に渋温泉ではどのような活動ができるかを改めて考えている姿は素晴らしいと思いました。私自身、渋温泉を始め、山ノ内町の白根神社や西の河原公園を実際に訪れてみたいと思いました！
- 調べて終わり、ではなく、調べたことを踏まえて自分たちの街にどのように生かしていけるのか、自分たちで「提案」しているところがとても素晴らしいと思いました。調べて批判することは誰にでも簡単にできますが、提案するのは誰にでもできるものではないと思います。これからも自分たちでつくりあげていくという思いを大切にしていきたいと思います。
- 発表から山ノ内町のよさをさらに伸ばし、伝えたいという気持ちが伝わってきました。また、隣の温泉街と比較してよい部分を取り入れてさらによくしていこうとしていることがわかりました。今回の発表を聞いて、また山ノ内町に行きたいと思いました。
- 自然や温泉など四季の魅力がある地元の山ノ内町をテーマにして素晴らしい授業に感じました。特に印象に残った点は、草津での研修を経て子ども達が自然や歴史と草津温泉の関係など着目する観点がとても面白く感じました。
- 自身の観光地を守るため、また、地元とほかの観光地を比較することでより自分の地元を好きになれるし、ほかの観光地から、学べることがあるのではないかなと感じました。とても地元で根付いた観光で発表だなと感じました。
- 研修旅行をきっかけに自分の町と他の町を比べることで、自分たちの山ノ内町を客観的に見ることができると、良いと思いました。またユネスコスクールとしての自覚が中学生ながらにあり、責任感をもって学び考えており素晴らしいと感じました。

- 調べてわかったことや感じたことを、山ノ内に合うように、そして自分たちの思いが伝わるような形になるように考えて、提案されていて、素晴らしいなと思いました。観光客のことはもちろん、地元の人など、たくさんの人に楽しんでもらえるように、それだけでなく、衛生面も配慮しようという姿勢も伝わりました。山ノ内が、これからもっと盛り上がり、提案が実現されて多くの人に喜ばれるたらと思います。私もいつか山ノ内の温泉に足を運びたいと思います。
- 山ノ内中学校のみなさんの発表を聞いて、山ノ内町の魅力を生かした地域活性化のための実践例は、どれもとても面白いアイデアだなと感じました。また、研修旅行で訪れた草津温泉と山ノ内町の温泉とを比較することで、山ノ内町ならではの良さをたくさん見出すことができていた点も素晴らしいかったです。これからもぜひ、山ノ内町の魅力を生かした地域活性化の実践例を考え、実践して行ってほしいです。
- 観光地を取り上げてSDGsに結び付けるという考え方が興味深いと思いました。教科や生徒会活動にSDGsを結び付けることで日常からSDGsに対して関心を持つのかと思いました。ほかの観光地と比較することで自分たちの町の可能性を見つけようとしている姿勢が素晴らしいと思います。ほかの観光地から学んだことをもとに自分たちの街を活性化する方法を考えている点が素晴らしいと思いました。
- 自分の地域とつながりの深い温泉という視点からESD活動を行っているのは山ノ内町ならではの活動だと思います。今まで行ってきた活動を今の社会情勢と絡めて考えるという点は新鮮に感じましたが重要なことだと思うのもっと広まれば良いと感じました。調査をしてわかった事、今後比較・追求したい事もしっかりまとめられていてわかりやすかったです。
- 温泉の維持には困難があることを初めて知りました。また、歴史的な建造物を生かして経済活動をしていったり、自然活動を通して観光業を営んだりしていることがよく伝わってしましました。他の地域と比較して地元の温泉や活動を広めるためにどのようにしたらいいのかということも考えていて、とても発展的な学習をしていると感じました。引き続き学習を頑張って、魅力を伝えて行ってほしいです。
- 群馬県に実際に行って、自分たちで状況を目の当たりにできたことはとても良いと思いました。確かに山ノ内は地獄谷で有名であるので、この最大とも言っている良い産物をいかに利用するのが重要だなと思いました。また、温泉にちなんだイベントなどを考えることも有効だと思います。以上のように、地域の有名どころに目を付け、活動につなげようとする姿勢はとても素晴らしいと思いました。今回はありがとうございました。
- 三年間を通して、魅力を発見・比較・発信していくというつながりがいい学習につながっていると感じました。草津温泉との比較しながら、山ノ内町の良さを伸ばそうとしていることが素晴らしいと思います。温泉から学べるのがこんなにたくさんあることに驚きました。私も山ノ内町の温泉に入りに行きたいです！
- 山ノ内町についての知識が私は浅かったので、今回山ノ内町の魅力をたくさん知ることができてよかったです。特に、渋温泉は、最近大学生の私たちの間でも流行しているものなので、気になりました。「山ノ内町の温泉」というブランドの魅力をどんどん伝えていけるようにこれからも頑張っていってください。
- ESDカレンダーをもとに各教科で何ができるかを考え、授業の中に活動を取り入れており、授業と地域活性化のために効率よく活動できていると感じた。また、地域の問題を解決するには何をすればいいのか考えたり、観光客目線で考えたりしていて、大人にはない柔軟な発想を実現させようとしていて素晴らしいと思った。これからも、地域活性化に向けて自分たちの考えを実現させていってください！
- 山ノ内町をよりよくするために他所から学ぼうとする姿勢は面白いなと思いました。そして、他所の取り組みをまねするのではなく、新たな発想につなげるきっかけとして位置付けていることに感心しました。山之内町が大好きだという思いを忘れずにいてほしいなと思います。
- 一年生、二年生、三年生と、段階的にプログラムが組まれていることで、生徒は見通しを持って活動を進めることができると感じました。発表でも、地域のことを調べ、様々なものに触れたからこそ、スタンプラリーや手打ちそば体験などといったいろいろなアイデアが出てきたと思います。スタンプラリーなど実際に行ったのでしょうか。その感想も聞きたくなりました。発表ありがとうございました。
- ESD学習として、1・2年時の旅行や3年時の修学旅行などが地域の魅力発見、他地域との比較、山ノ内町の魅力を県内外に発信するといった視点の変換が学年を追うごとに変化させられるのは、学校全体でESDに取り組んでいるメリットだと思います。温泉が有名な山ノ内町だからこそその視点が学習に組み込まれているのもとても興味深かったです。ありがとうございました。
- 自分の隣の町のことを調べそこで行われている取り入れたい点や真似したい点、それを自分の街に生かしていく、とても分かりやすい発表でした。自分の街を今後どうしていけばいいのか、まずは他町を見て客観的に捉える時間も必要だと感じました。今後山ノ内町も進化していくことを願っています^^ありがとうございました。

会場③-1 山ノ内町立南小学校(3年生)

活動テーマ 自分たちのできることをしよう ～ゴミから深まる学び～

発表概要

昨年、新聞紙エコバックを作り、子どもたちは「ゴミ」に目を向けた。5月に児童会活動でクリーン作戦(ゴミ拾い登校)を行うと、通学路には大量にゴミがあった。それを何とかしたいという思いから、月曜日をゴミ拾い登校日と決め活動をしてきた。しかし拾っても拾ってもゴミがなくなる。そこで地域にポスターを掲示した。他にも給食の牛乳瓶の蓋を用いて紙づくりを行った。また、ペットボトルキャップでブローチ作りなども計画し、ゴミのアート化にチャレンジした。

実践記録

2021年度 ESD/SDGs 実践記録

1 実施校、対象(学年、人数) 山ノ内町立 南小学校 3学年 15名

2 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) テーマ 「みんなのチャレンジ」・・・自分たちで出来そうなことを・・・

(2) 目標 身近な問題を自分なりに解決する

(3) ねらい 昨年の活動を振り返って、自分たちできそうな環境問題について取り組もう。

①ゴミになる物をつかって何か作りたい。②自然に優しいことをしたい。(マイクロプラスチックを出さない。)③リサイクルについて知りたい。など

(4) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念・・・**有限性** 紙の原料のは木材だった。プラスチックの原料は石油だ。どちらも使えば終わってしまう。リサイクルが必要だ。②資質・能力・・・**他者と協力する態度**

みんなで協力して、ゴミを集めたり、フタを集めたり、ハガキを作ったりしよう。

(5) 関連するSDGs 12 作る責任・使う責任 11 住み続けられる街づくりを
15 陸の豊かさを守ろう 14 海の豊かさを守ろう

(6) 探求課題・活動実践の概要

①昨年6年生と行った新聞エコバッグのことを思い出す。
NHKの「みんなのチャレンジ。」を視聴し自分たちで出来そうなことを考えてみる。

②全校ゴミ拾いのゴミを分別し、考えてみよう。

③紙のリサイクルのついて考えよう。牛乳のフタからハガキ作り。

④プラスチックについて考えよう。山ノ内町のプラスチック工場を見学しよう。

⑤ペットボトルのフタからブローチを作ろう。

3 流れ(指導計画の概略)

4月・・・活動の見通しを立てる。NHKの番組視聴。

5月・・・全校クリーン作戦のゴミを分別して、考えよう。

6月・・・ゴミを減らすポスターを描こう。

3年生だけでクリーン作戦をしよう。

7月・8月・・・ポスターを貼り出そう。どこがいいかな？

9月・・・紙のリサイクルについて知ろう。

牛乳のフタからハガキを作ってみよう。全校のみなさんに協力してもらってフタを集めよう。

10月・11月・・・プラスチックについて考えよう。熱を加えるとどうなるのかな？

・プラバン作り・ペットボトルのブローチ作り・プラスチック工場見学

12月～1月・・・今までクリーン作戦で集めたゴミを分析してみると何が分かるかな。

さらに何が出来るかな？

2月・・・学習発表会で報告しよう。(お家に人に？全校の人に？)

4 効果、反応、所感

・子どもの日記には「今日はわたしは、午後Mさんとおふろのちゅう車場を二人でゴミ拾いをしました。落ちていたゴミは、ひげそり、CD、かご(中略)こんなにたいりょうのゴミが落ちているなんて、思わなかったのでびっくりしました。これからもゴミを落とさないで、きれいな町になれば良いと思います。」

・ESD体験学習の作文には「今日、ESD 体けん学習で志賀高原に行きました。～～(中略)～～ ～～志賀高原に行って、花の名前やさわってはいけないけど、どくキノコの事とかいっぱい知れたし、千年ご、一万年ごの人が同じけしきを見られたらいいなと思いました。」

子どもの中に少しずつ環境などへの関心が高まってきているように感じている。

5 指導方法、体制の工夫(協力者や資源)

①エコジャパンシステム・・・プラスチックを資源として再利用するためのチップを作っている会社。山ノ内町の工場見学が可能。ぜひ一度は見学したい。

感想

会場③-1 山ノ内町立南小学校(3年生) 発表を見た方からの感想

●ゴミを拾ったから終わり、処分前に持ち帰って分別し、その内容から問題を考えるというのは大切な視点だなと思いました。また、毎週ゴミ拾いを行いながら登校するという点で継続する大切さにも気付けたのではないかと思います。素晴らしい発表ありがとうございました。

●新聞紙でエコバックを作ったことから、プラスチックゴミによる環境への被害を知り、何かできることはないかと実際に自分たちで考えて、動くことはなかなかできることではないので素晴らしいと感じました。微力だけど無力ではない、「捨てればゴミ。」分別すれば「資源」心に響きました。

●「微力だけど無力ではない」という言葉が印象に残りました。小学3年生から無力でないんだということを実感することができる取り組みは、子ども達にとって、とても貴重な機会だと思います。今後、成長していく過程で、「微力だけど無力ではない」という体験・実感は子ども達の力になると感じました。是非これからも続けていってください。

●発表ありがとうございました。地域のごみ拾いからごみに対して興味をもった子ども達が、ポスターなどで呼びかけや、ごみのプラスチックなどから何か作れないのか考える姿は探究的な学びの姿に見えました。活動がSDGsと掛け合っているのもその点も持続可能な社会の育成に繋がる重要な活動だと思いました。

●一般的にごみの回収を学校で行う場合はそれ自体で活動が完結してしまうというようなことが多いように思いますが、それをすぐに処分するのではなくまず分別やその考察を活動に含めることにより環境問題への意識が高まるのではないかと思います。

●とても身近にあるが意識しなければ見向きもしないゴミに着目するという着眼点が良いと思いました。そこでの学びから、学校給食で出る牛乳の蓋を紙にしてゴミを減らそうとする活動が、小学校の特色を生かしている面白かったです。

●3年生の皆さんがごみ拾いの活動から様々なことに気が付いた様子が伝わってきました。実際にごみ拾いを続けているからこそわかること、考えたことがたくさんあったのだなと感じました。私も街を歩いていると、やはりタバコが多いなという実感を持ちます。だけどなかなか一人ではごみ拾いの活動等の行動には移せません。ですが皆さんは、社会見学の時、町探検の時のいろんな場所でごみ拾いの活動を続けているとのことですのでいいなと感心しました。また、ポスターをつくったり新聞社に投稿したりとごみ拾いだけでなくごみを減らすための呼びかけの活動も積極的に行っていて、このような活動の積み重ねをすることで多くの人に伝えることができるのだなと思いました。また、牛乳のふたを使って紙漉きの活動をしていると聞き、今までただのごみだと思っていたものがはがきという新たなものに生まれ変わるんだ！とハッとさせられました。はがきも味があってとてもステキでした！自分の身近にあるごみだと思っていたものに対しての見方が南小学校さんの発表を聞いて変わったように思います。皆さんが拾っていたごみの中にアルミ缶もあったかと思いますが、アルミ缶もリサイクルできる資源の一つだと思うので、アルミ缶ならどうするのかなと皆さんの活用の方法が気になりました。微力だけど無力じゃない、とても勉強になりました。発表ありがとうございました。

●普段あまり注目されない「ゴミ」に焦点を当てた活動であり、非常に面白く感じた。活動の中で、エコバックの活用やプラスチック工場の見学など、積極的な取り組みが多く、子供たちにとっても印象深い活動になったのではないのでしょうか。また、発表のなかでの「捨てられればゴミ、分別されれば資源」という言葉が非常に良いフレーズだなと思いました。

●私も小学校の夏休みの課題として、環境ポスターを何回か描いたことがあります。しかし、ただ課題として出されただけで、特に目的意識を持たずにただ描くだけで終わってしまった覚えがあります。しかし、南小学校のみなさんはきちんと『環境のためにポイ捨てをなくしたい』という信念を持ってポスター制作をしていることに驚きました。その他にも、自分たちで何かできないか、と主体的に考えて実際に行動に移すことは簡単には出来ないことだと思います。私もみなさんのように、自らで考えて実践していく姿勢を大切にしていきたいです。本当に素晴らしい活動だと思います。これからも頑張ってください。

●地域のごみを分別する活動から、ポイ捨ての多さを知り、周知しようとする姿が素晴らしいと思いました。また、校内での発表で、上級生からのポスターだけではだめではないかという指摘に対して作文を行うなど、活動に真摯に向き合う様子が印象に残っています。

●拾い集めたゴミを種類ごとに分けて、そんな種類のごみがあるのか知る活動はとても面白そうだと感じた。種類ごとに分けたからこそ、新たな発見もあり、そこから考えが深まっていたような印象を受けた。また、ゴミを集めたその先へと視野を広げた活動も行われており、子どもたちのゴミ問題への関心がさらに強まるのではないかと

- と感じた。
- 児童がゴミ拾いの経験から得た気づきを元にして、ごみについての学びを深めようという課題を立てることができる児童の探求の姿勢が素晴らしいと思いました。児童はゴミ拾いの経験のどのような部分から学びを深めようという姿勢を持ったのかが詳しく知りたいと感じました。
 - ごみに関して、ごみを捨てない、ごみにしないなどの様々な視点で考えられている点がとても良いと感じました。もし私が子供だった場合、毎朝ごみを拾ってきましょう！と言われたとしても、面倒くさいな、汚いからいやだなと感じてあまり積極的にできないと思うのですが、子ども達が積極的に取り組めるような活動の工夫があれば教えていただきたいです。
 - ペットボトルの蓋からはがきが出るのはびっくりしますよね。紙漉きという体験は私はしたことがないです。なんならしたことがない人の方が多いと思います。そして私はしてみたいと思います。一人ひとりは無力ではありません。これからも頑張っておきましょう。
 - 特に考えさせられたのが、3年生の皆さんがゴミ拾いをおこなった半年分のゴミを分別したら、タバコの吸い殻がとても多かったという結果です。私も発表を聞きながら皆さんと同じようにびっくりしました。皆さんと同じように大人もゴミについて、環境について学び、行動していなければと感じましたし、子どもだからといって大人が子どもから何も学べないなんてことは無いと思いました。心動かされる実践発表ありがとうございました。
 - 毎週の登校中や授業などのごみ拾いで集めた半年分のごみの量に驚きました。日々少しずつごみを拾うことはその日だけの短期の目で見ると微力に感じるが、長期の目で見ればちゃんと貢献できているのだと感じました。地域で拾ったごみを活用できるよう、これからもごみで何かを作る活動を頑張ってください。
 - リンゴの販売から、エコバッグの利用について考え、そこから自分たちにできる環境を守るための行動という視点を持つのは素晴らしいと思います。私も地元でクリーン作戦をした際、たばこの多さに驚きました。ポスター等を用いて今の大人たちへ呼びかけるのは大切です。でもそれ以上に、たばこの多さに驚いた気持ちを、「大人になっても持ち続ける」ことが非常に大切であると思います。
 - 私もゴミ拾いをしたことがあります。皆さんほど若い時ではなく、高校生の時でした。まだ若いのに環境問題解決に取り組むのは素晴らしいと思いました。たばこの吸い殻のごみは多いですよ。私もどうすればごみが減るのか考えるので皆さんと一緒に考えましょう！
 - ゴミの問題という地球の環境を守っていくためには見て見ぬ振りができないテーマで活動をしていく中で、そこからゴミを減らすためにどうしたらよいかと考え自分たちなりの答えを出していく様子がとても印象的でした。子供たちがゴミを減らすために頑張っているのに私たち大人がゴミを捨ててしまっているというのはとても申し訳ない気持ちです。
 - ゴミを拾って分別し、そこからタバコが多いことに着目し、新聞社に作文を投稿し多くの人に見てもらおう、という考えはとてもいいことだと思いました。学校でやっていることでも学校外の人に協力してもらうことでより大きな力を持ち、多くの人に影響を与えることができるということを知ることが出来るいい取り組みだと思いました。
 - 自分たちにできそうなことは何かを考え、これまでの活動から着想を得て、ごみに関することに興味関心を持ったという着眼点が素晴らしいと感じました。また、そのごみをなくすために、自分たちなりに考えて、ポスターを貼ることや、ごみ拾い活動をして地域の自然や環境を守っていこうという姿勢が素晴らしいと感じました。これからも、地域の自然や環境を守る活動を継続していくことを応援しています！
 - ごみ拾いから、様々なことを分析し、実際に行動に移すことのできる皆さんの行動力の高さにとっても驚きました。特に、作文を書き新聞社に投稿したと聞いたとき、ごみをなくすためにどうすればよいのかという問題に皆さんが真摯に向き合っていることが伝わってきて、とても感心しました。また、ごみからはがきを作れることを知ったとのことだったのですが、再利用という一歩進んだことまで目を向けられていて、皆さんの視野の広さを感じました。とても勉強になることが多くありました。ありがとうございました。
 - 近年は喫煙場所が限られたり、歩きタバコを規制したりしている市や県が増えています。しかしそうした状況の中で、たばこの吸い殻がこれほど落ちているというのはやはり問題だと感じました。ポスターや作文での呼びかけはとてもいいと思います。一人一人がマナーを守りきれいな街ができるといいですね。
 - わたしも道を歩いていると、たくさんの捨てられたごみを見ます。そのような時に、どうしたらよいのかという様に感じます。そのため、皆さんが自分たちで考えて、町からごみをできるだけ無くしていく活動を行っている事は、とても素晴らしい事であると思いました。またこの発表を聞いて、リサイクルの大切さをあらためて学ぶ事が出来、これからの生活でもきちんと行っていこうと思いいになりました。ありがとうございました。

- 牛乳瓶のふたがはがきに変身するといったことは知らなかったことなので大変勉強になりました。大学生になってもまだまだ知らないことはたくさんあるので、こうしたことを知ることができるのは非常に面白く、良いことだなあと感じます。様々なごみがポイ捨てされているというのは悲しいことですが、それらがポイ捨てされているのは、それらが再利用できるとは知らないからかもしれません。そのことを周りの人に伝えられたらポイ捨ても減るかもしれませんね。とても良い発表でした。ありがとうございました。
- 半年もの間ゴミ拾いを続け、分析したのがすごいと思いました。ポイ捨て防止ポスターを作ったり新聞社に意見を投稿したり、自分たちの意思と行動で今のポイ捨て問題を解決しようとしているのがすごいと思いました。今回の発表を聞いて、私もポイ捨てをしないのは勿論、ゴミを見つけたら拾うようにしようと思いました。

会場③-2 山ノ内町立南小学校(6年生)

活動テーマ 守りつなぎたい志賀高原の「きれいな水」

発表概要

昨年、学校近くの田んぼでとれた米が食味コンクールで金賞を受賞した経験から、子どもたちは「水」に目を向けた。そして、「きれいな水」とは何かを疑問に学習を始めた。信大COIを訪問したり、学校周辺で水質検査をしたり、志賀高原の源泉付近で水質調査をしたりして、疑問を解決していくうちに、「水を守りつなぎたい」という意欲を高めていった。そのために何ができるか考えたい子どもたちは、奈良県や飯田市の施設、行政との交流から考えを深めていった。

実践記録

2021年度ESD/SDGs実践記録

1 実施校、対象(学年、人数) 山ノ内町立南小学校 6学年 16名

2 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) テーマ 「川の上流部の学校で考える、つなげる「きれいな志賀高原の水」

(2) 目 標 ①志賀高原の水の状況を知り、水の価値について考えを深める。
②他地域との交流から、山ノ内町を見つめ直す。

(3) ねらい 「水」に対する価値観の変容を促し、それを広げる行動を起こす。

(4) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念・・・相互性 「きれいな水を守るためには、森、ゴミ問題など様々なことが関連する」
責任性 「何もしなければ、下流部にも未来にもきれいな水をつなげられない」
公平性 「みな水が恩恵を受けられることができる社会をつくる」
有限性 「水不足の問題が現実としてあるように、きれいな水は限りある資源だ」
連携性 「きれいな水をつなぐためには、多くの人との協働が必要だ」

②資質・能力・・・未来像を予測して計画を立てる力

多面的・総合的に考える力
つながりを尊重する態度(色々なものや人のお陰で自分があることを感じる。)

(5) 関連するSDGs 6安全な水とトイレを世界に 11住み続けられる町づくり 14海の豊かさを守ろう

(6) 探求課題・活動実践の概要

① 世界で起きている問題を知ろう(バトンタッチ SDGs視聴)

・砂漠化 ・森林伐採 ・人口爆発(日本は人口減少、高齢化社会) ・異常気象
・海洋プラスチックゴミ ・移民 ・人種差別 ・水不足(信大COIの訪問)

② 修学旅行での学習

・氷見海浜植物園の方との学習。(海岸で海洋ゴミの実態を調べる)
・大町市SDGs共創推進係との学習。大町市の水の政策や源流部としての取組を知る。

③ 様々な場所での水質調査

・校内の池、理科室の水槽、生活排水、近隣の三沢川・伊沢川などでの水質調査の実施。志賀高原の源流部での水質調査の実施。

④ 交流と発信

・山ノ内町の政策の理解・総合計画についてのお話(行政の方との交流)、奈良県川上村「森と水の源流館」の方による川上村の取組の紹介、飯田市「天竜川総合学習館」の方による中流域での水を守る活動の紹介、やまのうちESD交流会での町内の6年生同士の発表と地域の人との懇談など。

3 流れ(指導計画の概略) (数字は実際に使った時数)

4月 米作りのふり返り① 番組視聴② SDGs調べ学習②

5月 信大COI調べ学習③ 信大COI訪問④ バックテスト(学校の池など)②

6月 バックテスト(生活排水、三沢川など)③ 修学旅行(氷見・大町)⑫ ゴミ仕分け②

7・8月 修学旅行のまとめと発表の準備⑤ 校内発表①

9月 志賀高原源泉調査③ 町の計画調べ① 奈良県川上村についての調べ学習④ バックテスト(戸狩・上林=ESD体験学習)②

10月 奈良県川上村との交流会① 天竜川総合学習館の調べ学習と交流③ これまでの学習のまとめと整理⑤

11月 やまのうちESD交流会と校内発表⑤

12月 My水きれい宣言の作成

1～3月 松本市の学校との交流 信州ESD成果発表交流会

他教科との関連:国語「今わたしたちにできること」 社会「世界の中の日本」 図工「ふるさと自慢」など

4 効果、反応、所感

「志賀高原の水はきれいだと思う」「おいしい水はどこにでもある」という感覚だった子どもたち。しかし、上にあげたような学習を通して、「本当に志賀高原の水はきれいなんだ。(数値による科学的な根拠をもつ)」、「きれいな水は貴重だ」、「きれいな水をつなぐには、何かをしなくちゃいけない」という意識の変化があった。また、「役場に〜してほしい」から「自分たちも含めた住民の意識が高まらないと何も変わらない」ということに気がつくことができた。これは主体性と参画に関する当事者意識の変化と考えられる。

5 指導方法、体制の工夫(協力者や資源)

① 養田 武さん(山ノ内町役場) ② 氷見海浜植物園の井出さん

③ 信州大学教育学部 水谷瑞希先生 ④ 奈良教育大学 中澤静男先生 大西浩明先生

⑤ 奈良県川上村森と水の源流館 尾上忠大さん

⑥ 飯田市天竜川総合学習館かわらんべ 久保田さん ⑦ 奈良県川上村役場 加藤さん

⑧ 大町市役所企画調整係SDGs共創推進係 下川さん ⑨ ACCUユネスコアジア文化センター



感想

会場③-2 山ノ内町立南小学校(6年生) 発表を見た方からの感想

●きれいな水とは何かという疑問から志賀高原のきれいな水を守る、そのために何ができるのか学校内だけでなく、学校外との関わりから考え方を広げたり、考えたりできたのは本当にすごかったです。

●様々な場所に出向き積極的に活動をされており、コロナ禍でも子どもたちにとって素敵な体験・経験ができていると思います。学校、先生方が一生懸命感染対策しながら工夫され、調整されているかと思っています。南小の子どもたちは先生方や地域のみなさんにとっても恵まれているんだなと感じました。

●素敵な活動について発表ありがとうございます。きれいな水の学びのために5年次の米作りから繋がっているのは、学びの追究になるので良いと思いました。エコバックを利用するなど、1人1人が日常生活でやることを決めていて責任感も付けれると思いました。

●まず自分たちの自分の住む地域の特性やブランド米など特産について理解し、その原因について考え、それを未来に繋げる、残すべきであるという考えにいたるところが取り組む姿勢として素晴らしいものではないかと思いました。

●「きれいな水とは何か」というテーマから、信州大学の研究を体験したり実際に水質調査をしたりなど、様々な経験に繋げることができていて良かったと思います。そういった体験があるからこそ、「この水を守りたい」という新たなテーマが生まれて学びを深めることができたと思います。

●皆さんが山ノ内、志賀高原の“水”から多くのことを学んだ事がよくわかりました。5年生の時に作ったお米がなんで賞を取れたのか、そこから水について着目したのがなるほどなあと感じましたし、学校の活動でそんなにおいしいお米を作ることができた5年生の時の活動も個人的にはとても気になりました。水がきれいだという実感を持っていても、皆さんが行ったようにバックテストをやって具体的な数値できれいさが分かるとその実感がより強く持てますよね。いろいろな場所の水質について科学的な見方から深く考えている様子が伝わってきました。また、皆さんが活動を進めるうえでいろいろな人とたくさん交流してきたということがわかりました。いろいろな人と関わることで自分たちの地域の良さや他地域との比較と見方が広がっていてそういったところにも交流の良さ、大切さを感じられました。毎日飲んだり、生活でたくさん使っている水ですが皆さんの発表を聞いて自分たちが取り組まなければいけない課題もあると気が付かされました。とても勉強になる発表でした。ありがとうございました。

●美味しいお米を作る上での川の水に注目した活動であり、非常に面白いと思った。稲作に焦点を当てている活動は多く見かけるが、水にまで視野を広げている活動事例は初めて目にした。また地域や大学などと連携して活動する姿にも感心した。

●生活排水がどのように処理されているのか、ポイ捨てされたレジ袋やその他のゴミはどこへ行くのか、知識として知っていたり、話では聞いていたりするかもしれないけれど現実味が感じられないと思います。しかし、みなさんは実際にその光景をその目で確かめてとても衝撃を受けたんだと思います。そこで、その問題を放っておくのではなく、他の人々にもこの問題を現実の問題として認識してもらいたい、と考えて行動していることはとても素晴らしいと思いました。私も微力かもしれませんが、これまで通りポイ捨てをしないように意識したり、エコバッグを使ったりなど心掛けていきたいです。これからも頑張ってください。応援しています。

●米作りや修学旅行などの活動から、水に関して、大学や志賀高原など様々な場所へ行き、活動を見学することで、施設の考えなどを直接知ることができると感じました。直接水に関する被害や問題を目の当たりにし、それを解決しようとする活動に触れることができるのは今後の水環境を守るための考えの基となる貴重な経験だと思います。

●綺麗な水を調査するという事で、これほどまで突き詰めた実践を行えることは本当にすごかったです。水に関して研究している人や、先進的な取り組みを行っている専門家の方々と交流できる機会があったことは、子どもたちの中に新たな視点や考えが生まれ、さらに探究したいという子どもたちの主体的に学びに向かう姿勢を育むことができていたと感じました。

●雪白米という山ノ内町の地域素材から、工学部の研究を見学する過程を経て、水をきれいにしたいという課題まで、児童の探求心を主体として活動を繋げている点が素晴らしいと感じました。「山ノ内町の良さを生かしてきれいな水を残していきたい」という児童の想いは、導入部で地域素材を扱っていたことから生まれたのではないかと思います。

●5年生の学びと関連し、そこから発展した学びを科学的な視点を持って調べている点がとても面白いなと感じました。また、実際に川の上流に見に行った時にゴミが落ちていたり、その場所を大切に思い、きれいにしたいとい

う心を持つことの大切さを学ぶことができたので、きっと将来周りの環境を大切にしてくれる大人になってくれるのではないかなと思いました。

- 水をテーマに資源を大切にすることを学んでいく児童の姿が手に取るように分かりました。実際に研究している現場や限ついでに足を運ぶことで子ども達の当事者意識も育てられていると思います。飲用できる水などは枯渇が心配されている資源です。これからも守っていきましょう。
- 発表を聞いて、山ノ内町立南小学校6年生の素晴らしいところは、現状や出てきた答えに対し、常に「本当にこれでいいのか？」と批判的に考える力が身についているところだと感じました。調べて「そうなんだ」とどまるのではなく、本当に水は綺麗なのか？看板だけでは水を守ることはできないのではないのか？町の総合計画はこのままでいいのか？と追究したからこそ様々な人との交流や川上村の良さが見えてきたのだと思います。素敵な実践発表ありがとうございました。
- 水がきれいかどうか・科学的に調べたり、インターネットを活用し、山ノ内町の取り組みを調べたうえで、きれいな水を残していくためにどのようにするべきか自分事として、より探求的に調べているのがすごいと感じました。山ノ内町の強みであるきれいな水を残すことの大切さを大人たちに伝え、実現できれば良いなと思いました。
- お米の食味コンクールで金賞をとった経験から、「きれいな水」に追求する姿勢に感心しました。私は、信州大学のために東京から長野に来ましたが、「水がきれい」と思いましたが、「きれいな水」とは何か考えたことはありませんでした。この「きれいな水」を研究した経験から、ぜひとも未来や下流部に残してほしいと思いました。水は、様々なものに利用できて、「きれいな水」は長野県の分化の1つだと思います。
- 皆さんが作ったお米が金賞を獲得したのはすごいですね。私は神奈川県出身なので皆さんの身近に志賀高原という豊かな自然があってとてもうらやましく感じました。身近な自然について考える授業を通して学んだことを忘れずに未来へ語り継いでいってください。長野に自然は皆さんに任せました！
- 私は安曇野市出身なので綺麗な水を守りたいと日ごろから思っており、テーマが「水」ということに物凄く興味を持ちました。水を守るために一人一人がどのように行動していくべきか、何ができるかをまとめることでまずは自分から動こうという意識が芽生えたのかなと思います！
- 「きれい」とは抽象的なことばであるがみんなで意見を出し実際に外へ出て触れて考える、ということはとてもいいことだと思います。信州大学へ来て研究に触れることや川上村や飯田市と交流することで学びが深まったという経験はとても大切だと思いました。学びは学校だけではなく日常にあるということを忘れないで欲しいと思いました。
- 自分たちが米作りをしたことをきっかけに、自分たちの暮らす地域の水に関心を持ち、その水がどこから来ているのか、水を美しいままに保ち続けるにはどうしたらよいかを考察し、地域の水を守っていくという姿勢が素晴らしいなと思いました。これからも水を美しく守っていくという活動を頑張ってください！
- まず、お米がおいしく作れたことに満足せず、なぜおいしいお米が作れたのか分析していたところに、皆さんの向上力を感じました。また、きれいな水について調べ、守るために、実際に現地を訪れたり、他の地域と交流したりしている皆さんの姿を見て、皆さんがこの問題にとっても真剣に取り組んでいることが伝わってきました。私自身、長野県の水はきれいだというイメージがあったのですが、私たちが何も意識せずに生活を続けていたらきれいな水を保つことはできないと感じ、少しずつ意識を変えていく必要があると考えるようになりました。とてもためになる発表でした。
- たくさんの活動をする中で、自分達で山ノ内町の「水の保全」についての課題を見つけ、次から次へと様々な活動を行い、解決策を考えていくという皆さんの活動は、とても素晴らしい事であると強く思いました。山ノ内町の志賀高原の水をこれから先も守っていくために、皆さんの活動はとても役に立つものであると感じます。小学校を卒業した後も、自分達の町を大事にしてほしいと思います。ありがとうございました。
- 「きれいな水」とは何かから考え、パックテストを行い水質を数値でみるというのは、現状を知り水質を向上させていくうえで具体的な指標となるためわかりやすくいいと思いました。自身の地域と他の地域の取り組み路知ることによってそれぞれのよさや欠点を知り、最も適した方法が見つかるといいですね。
- 自分たちで作ったお米が金賞をとれたのはなぜだろうと考えて、水がきれいだからなのではないか、という意見が出たというのは非常に良い着眼点であるなど大変関心いたしました。私が小学生の頃、こうした発想に至ったのだろうか考えると、おそらく至っていないのだと思います。水質検査を行うために志賀高原まで行ってみたい、非常に面白そうな活動をされており、私もこんな活動してみたかったなと思いました。とてもよい発表でした。ありがとうございました。
- 「きれいな水とは何か」について私も考えさせられました。今の水の状態をきちんと知り、どう改善しようかを考

えているのがすごいと思いました。自分たちの手本となるところがどこか考え、実際に川上村に話を聞いているのが行動力があって良いなと思いました。山ノ内、川上村の良いところ、悪いところがそれぞれあるのを学べていてすごいと思います。色々なところと交流しているのは、新たな学びにつながるのととても良いと思いました。

会場③-3 **飯田市立和田小学校**

活動テーマ お茶の収穫から販売へ

発表概要 和田小学校では、持続可能な和田小学校を目指すために、南信濃特産のお茶を栽培し、お茶販売を行っている。5月には、小学校児童のみならず、保育園の友だち、保護者や地域の皆さんと一緒に茶摘みを行った。製茶されたお茶を地域の「わだっ子応援隊」の皆さんと一緒に袋詰めし、販売へとつなげている。子どもたちは、お客さんに喜んで買ってもらうための方法を考えて練習し、販売日当日を迎え、完売することができた。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～



- 1 学校名：飯田市立和田小学校
- 2 対象：3年生 2名 4年生 6名 計8名
- 3 活動内容
 - (1) 活動名 お茶の収穫から販売へ
 - (2) 活動の目標
 - ・ 地域の方と一緒に、お茶を収穫したり販売したりすることで、和田小学校について知ってもらい、持続可能な和田小学校をめざす。
 - ・ 身近な自然の中での体験や活動を通し、南信濃の豊かな自然を守っていこうとする気持ちを育てる。
 - (3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

<input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること）	<input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に）
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている）	<input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること）
<input type="checkbox"/> 有限性（限りがある）	<input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って）
<input type="checkbox"/> その他（ ）	


②育成する資質・能力

<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連する SDGs

12 つくる責任 つかう責任	15 陸の豊かさも 守ろう
	

(5) 活動の内容

活動の時期 流れ	内 容
4・5月 ①茶畑の手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ボランティア（わだっ子応援隊）を中心に、茶摘みができるまでの作業を行う。茶畑が3ヵ所あり、それぞれを学校と地域とで分担して管理を行っている。ピーバーを使い、危険も伴う為、児童の作業とは別日にして大人だけで行った。地域の方々のみならず、卒業生も参加しての作業となった。 
5月23・25日 ②お茶摘み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月23日（土）は、地域公開参観日の後半をお茶摘み作業としていたが、コロナウイルス感染拡大の為、和田小学校児童と一部のわだっ子応援隊の皆さんのみで実施した。 ・ 5月25日（火）は、一部の地域の方、保育園児・小学生児童と一緒に茶摘みを行った。わだっ子応援隊の方が一人一人に蓑を編んでくれ、皆で蓑をかけ、茶摘みの歌を歌うなど、和やかな雰囲気の中で茶摘みを楽しむことができた。「一芯一葉」という言葉やお茶の摘み方を教わり、丁寧に茶葉を摘んだ。 
10月11日 ③お茶の袋詰め	<ul style="list-style-type: none"> ・ わだっ子応援隊の皆さんと一緒に製茶されたお茶を袋に詰める。3・4年生が中心となりお茶の袋詰めを行うが、複式学級の7名では手が足りない為わだっ子応援隊の皆さんに声をかけると、17名の方が道具を持って来てくれた。作業終了後は「わだっ子茶」を味わっていただき、心からのお礼を伝えた。 
10月 ④販売練習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月24日（日）のわだっ子茶販売に向け、「買ってもらえるようにするための練習」を行った。言葉や声の大きさなどを考え、売り手と買い手に分かれ、お茶の置き方など工夫しながら練習を重ねた。 

<p>10月24日 11月21日 ⑤お茶の販売</p>	<p>・飯田市天龍峡で開催された「天龍峡マルシェ」のブースを借り、「わだつ子茶」を販売する。50g入りの袋を400袋余り、午前10時から12時過ぎまでの間、精一杯販売した。</p> <p>・南信濃芸術祭で行われた街道縁日で「わだつ子茶」を地域の方々に100袋以上販売した。販売活動も2回目になり、自信をもって取り組む様子が見られた。</p>	
-------------------------------------	--	--

4 活動の成果

《子どもたちの振り返りカードより》

- 一つの若い枝に若葉が三枚ついている部分を取ります。これを「一芯三葉」と言って、お茶摘みではよく使われる言葉です。このことは今まで知りませんでした。一緒に摘んでくれた人に教えてもらって、言葉通り若葉の部分で摘めるようになりました。若い芽をよく見てたくさん摘みました。全部で150キロになりました。初めてだったけどたくさん摘むことができ、しかも去年よりたくさんになって嬉しかったです。
- 10月11日にお茶の袋詰めをしました。わだつ子応援隊の人たちに助けられました。50gきっちり合わせたり、こぼさないように入れたりするのが難しかったです。いくつも入れていくなれてきたので、苦勞しないのでできるようになってきました。みんなで協力して袋詰めが出来て、時間通りにできてよかったです。これも町の皆さんが手伝ってくれたおかげです。私は、わだつ子応援隊の人たちには、感謝しなきゃいけないと思いました。
- お茶販売のため、袋にシールを貼りました。500枚以上ありました。大変でした。クシャクシャになったり、ななめになったり、ずれたりしたこともありました。真ん中に貼り、しわにならないように気をつけて作業をしました。商品として恥ずかしくないように気をつけて貼りました。
- 天龍峡マルシェでお茶を売りました。最初はお茶売り係でした。お茶売り係は、お客さんが頼んだ数だけお茶を渡して、お金を払ってもらって、おつりがあればおつりを渡すことをします。素早く計算をして、お客さんにおつりを渡します。1袋300円だったので、3の掛け算をすればすぐ計算できました。30分たつと交代なので、呼び込み係になりました。呼び込み係は、「お茶売ってるよー」と言って人を呼ぶ係です。大きな声で「お茶売ってるよー」と呼び込みをしましたが、一人も来ません。教頭先生がいたところは、全員ほぼ買ってくれるのに、なんでだろうと思って考えたことは、教頭先生がいたところだと、お茶売り場が見えるから買ってくれるんだと思ったので、お茶売り場がどこにあるか指で指しながら「お茶売ってるよー」と言いました。でも結局一人も来なかったです。疲れたので、一回お店に戻って休憩してから、お店の前に立って一番大きな声で「お茶売っているよー」と呼び込みをしたら、まあまあ人が来てくれたのでこっちの方が効率が良いと気づきました。

このような児童の振り返りから学習の成果を次のように考える。

- ① 地域の方とかかわる中で「一芯三葉」という言葉を知り、実際に言葉通りによく見てやってみる姿や、まちの皆さんが袋詰めを手伝ってくださったことへの感謝の気持ちが育まれている。
- ② 地域の皆さんとの対話を通し、児童が自分の家族以外の方と触れ合いをもつ大切な機会となった。
- ③ お茶を買ってもらうためには、「50gきっちり」「こぼさないように」「しわにならないように」「商品として恥ずかしくないように」などと、丁寧かつ慎重に相手意識をもって取り組むことができた。
- ④ わだつ子茶の販売を通して、かけ算や引き算を素早く計算することで、実体験から計算力を身につけることにつながった。
- ⑤ 販売活動の呼び込み係の体験から、「なんでだろう」「どうしてだろう」と自問することで、自分の考えを行動して試し、振り返り、さらに考えてやってみるなど、問題解決的に活動が進められ、達成感や成就感を得ることに繋がった。

5 指導方法・体制の工夫

- 地域とともに、持続可能な和田小学校について考え活動をしている。
- 豊かな自然を満喫しながら、児童がのびのびと活動している。
- 学校運営協議会の委員の皆さんや、地域ボランティア「わだつ子応援隊」の皆さんが、積極的に児童とかかわっている。
- 毎年、受け継がれてきている活動であり、来年度以降も継続される。
- 地元のみならず、東京都品川区立品川学園や都文館グローバル高校とも交流があり、全国へ向けで発信している。

感想

会場③-3 飯田市立和田小学校 発表を見た方からの感想

- お茶を収穫した時や販売した経験を始めて聞いた人にも分かるように、何をしたのか、思ったことを分かりやすく説明できていたので良かったと思います。私も和田小学校のお茶を買って、飲んでみたいと思いました。
- お茶摘みから販売までの体験を通して、物を売ることの大変さや嬉しさなどが実感できるととても素晴らしい機会だと思いました。地域の方との関わりも素敵なお関係だと思えます。また、売り上げを全校生徒に還元したり、他の作物の売り上げで消毒液などを施設に寄贈したりという取り組みがとてとても素晴らしいもので、もっと全国の人にも知っていただきたいと思いました。他にも持続可能な学校づくりのために広報に活用するなどの取り組みも素晴らしいと思いました。頑張ってください！
- 児童の皆さんのしっかりしたご発表や、質問・コメントの時間の積極的な発言の姿勢をすてきだな、と思いながら拝見していました。同じ牛乳瓶のフタを使ってハガキを作っている山ノ内南小の取り組みをすごい、という感想がありましたが、作り方を教えてもらってお互いに作ったハガキでやり取りができたりしたら素敵ですね。自分たちが摘んだお茶をプレゼントして飲んだ感想をもらったりしても、よい交流になりそうな気がしました。学校のご事情を十分に把握しないままの単なる思い付きで申し訳ございませんが、日頃から学校間の交流に関心があるので、そのようなことを思ったりしました。他の学校の皆様も含め、すばらしいご発表をありがとうございました。
- 発表ありがとうございます。普段活動することのないお茶摘みを体験する中で、苦勞を感じながらも楽しさを見いだして活動が充実していて良かったと思います。袋詰めも町の人との協力で行ったことから地域の人へ感謝を伝えたい気持ちをもつことができているのは、周りの助けを感じることができているのでとても良いと思いました。
- 自分たちが生活する地域の特産であるお茶摘みを通じて農業の中でも生物育成の部分に触れたり、その育てたものを販売するための梱包や販売などの体験を行うことで、商品を丁寧に扱うということや、接客などお金を取り扱うことで社会生活における役割を理解することが出来るようになったのではないかと思います。
- お茶摘みの体験をもとに、販売まで携わるのは非常に貴重な体験だと思います。収穫できたお茶の葉の重さや袋詰めしたあとの袋の数など、具体的な数字で成果が見られていたので、子ども達がとてもうれしそうでした。お店でお茶を販売する活動では、地域の方々と交流を持っていたので、とても良い活動になっているように思いました。
- お茶の栽培、茶摘み、販売を通して皆さんが考えたことや学んだ事がよくわかりました。お茶摘みの経験はなかなかできることではないと思います。私はお茶畑も1、2回程度しか見たことがないのでお茶摘みが毎年できる皆さんがとてもうらやましいなと感じました。お茶の販売ではどこで呼び込みをすればいいのか、どうやって声を掛ければ売れるのか等お客さんへの働きかけ、また販売の活動をする上での友達との協力を中心としたコミュニケーションの力がとても高まっていたのだなと感じました。また皆さんの発表を聞いて、飯田でもお茶がつくれることを初めて知りました。お茶というと静岡など少し暖かいところで土地の傾斜を活かしてというイメージがあったので、そういったところのお茶と比較して飯田のお茶やお茶づくりはどんな特徴があるのかなと少し気になったのでそういった部分も追及してってもらえたら面白いかなと思いました。そして皆さんが摘んで、気持ちを込めてパッキングしてくれたお茶をぜひ飲んでみたいなと思いました。素敵なお発表をありがとうございました。
- お茶の栽培の体験という非常にユニークな内容だった。お茶の栽培は自分もやったことが無かったので非常に興味深い内容だったのと同時に、子供たちにとっても貴重な体験だったように思う。活動の最後に、お茶を販売するという活動を取り入れており、一連の流れとして一貫性のある活動だと思う。
- 私はお茶が飲めるようになったのは高校生からです。小学生の頃からお茶の美味しさが分かって、飲めることにとても驚きました。私はお茶摘みをしたことがありませんが、みなさんの発表を聞く中で、やってみたいなと感じました。体験のような活動があればぜひ参加してみたいです。みなさんが作ったお茶も機会があれば買いに行きたいと思います。貴重な体験だと思うので大切にしてもらいたいと思います。お疲れさまでした。
- 飯田市ではお茶が摘めるということを知りました。皆さんの活動の写真を一緒に見ることができ、楽しさや詰んだ量、袋詰めしたお茶の量が分かりやすかったです。お茶摘みも、接客、販売も、大きくなってから貴重な経験になります。大切にしてほしいです。
- まず最初に感じたことは、その子どももハキハキと自分たちの実践を自分たちの言葉で語っていたことが非常に印象的でした。一生懸命取り組んだという様子がうかがえました。お茶を売るということを通して、子どもた

ちが、どのようにしたら売れるかを考えたり、お金の管理や運営を主体的に行っており、社会経験として貴重な体験ができているように感じた。子どもたちもそれぞれ自分の考えたことや、成長を語っており、子どもたちの成長の様子がうかがえた。

- お茶摘みの体験から学びを得るだけにとどまらず、摘んだお茶を販売する活動と合わせた経験として学びを得る児童の姿勢にとっても驚かされました。「和田小学校の児童にとっては当たり前の活動なのかもしれないが、素晴らしいことだ」という先生のコメントもあったように、私もそんな体験をしてみたいと素直に思います。
- 私も飯田市出身なので、南信濃地域に行くとお茶畑が広がっているのを見たことがあります。地域の特産品を使った活動によって、地元の方と関わり、地元愛も深まったのではないかと思います。お茶摘みだけでなく、お茶を淹れる、他の加工品を作るという発展的な学びもできるのではないかと思います。
- 茶葉の収穫から販売までの一連の流れを通して流通という社会の流れを体験できるのでこの活動は素晴らしいと思います。活動を通して自分が社会の歯車の一部になっていること、地域の人たちの温かさに触れたことなどとても貴重な体験だと思います。
- お茶を摘んだり和田っ子茶を製造・販売したりすることを通して、和田小学校3、4年生の皆さんが一人ひとりどのようなことを学んだのかよく分かる発表でした。和田小学校さんのような実践は他の地域ではなかなか経験することはできません。お茶の学習、体験を通して学んだことを他の活動にも活かすときがきっと来ると思います。素敵なお発表ありがとうございました。
- 子どもたちがお茶を買う人やお茶を飲む人の目線に立って、お茶の袋詰めやお茶売りをしているのがすごいと感じました。私の出身が北信であったため、あまり南信について知らなくお茶が有名であることを知らなかったのですが、この発表を聞き、飯田市のお茶について興味がわきました。これからは自分たちが育てたお茶を使った活動を頑張ってください。
- お茶摘みについて。私はお茶摘みの経験がないのでわからないことがたくさんありました。私も、お茶を摘むのは若い芽のものがいいと思っていましたが、「一枝三葉」という用語があるのを知って驚いた。お茶を摘むことから、販売まで袋詰めや販売の声掛けなどたくさんの工夫がみられて感心しました。
- お茶の収穫から袋詰めから販売を町の方々と協力してやり貴重な経験となったでしょう。私はこのような体験をしたことがないのでとてもうらやましいです。どうすればお客さんが集まるか声掛けを工夫して効率の良い声掛けを自分たちで見つけたのはナイスプレーでしたね。私が何かお店をやるときは是非皆さんに手伝ってほしいです！
- 私はお茶摘みをしたことがなかったので、お茶摘みの様子がどのようなものか知れてうれしかったです。また、お茶摘みだけではなく、お茶の袋詰めや、お茶売りなど、お茶が人の手に渡るまでの一連の流れを体験することで、普段仕事をしている人の苦勞が分かるいい体験となったのではないかなと思います！
- 地域の人達と交流することで、地域の風習を体で感じる事が出来たり、コミュニティの我が広がりとてもいい事だと思います。お茶つみからお茶売りまで経験しつつもは買う側だが、反対の売る側になり、物が生産されてから売るまでに多くの人の手が携わっていることを感じ、誰かのおかげで自分の元にこうして物があるということをお忘れずに、ものを大切にしたいと思いました。
- お茶摘みをする事や、そのお茶を販売することを通じて、自分たちの暮らす地域の人との交流を深めていったことが分かりやすく丁寧にまとめられていて良いなと感じました。また、お茶の販売で会計金額の計算をすることで、計算力が成長したことも副次的な効果として非常に素晴らしいものだなと感じました。これからは、お茶に興味関心を持って活動や生活をしていって欲しいなと思います！
- 私はお茶摘みをしたことがないので、皆さんの発表は初めて知ることばかりでとても面白かったです。また、お茶摘みだけでなく、袋詰めから実際に商品を売るまで皆さんの手で行ったと知りました。皆さんにとって初めてのこともあったと思うのですが、発表の中で、うまく活動を行うために改善したことを伝えてくれていて、楽しさだけでなく、より良い活動を行うためにたくさん考えていたことがわかりました。とても楽しい発表でした。ありがとうございました。
- 私は、お茶つみをじっさいにやった事がなく、あまり知りませんでした。しかし、今回のみなさんの発表を聞いて、どのようなことをしたのかがわかりました。また、ふくろづめやお茶売りも、じぶんたちの力で行ったという事を聞いて、すばらしいことであると感じました。この発表を聞いて、わたしも、お茶つみをしてみたいと思いました。ありがとうございました。
- 私はずっと長野県に住んでいるのですが、長野でお茶が作られていることは初めて知りました。街の皆さんの協力を感じ取って、感謝を忘れることなく自分たちの成長へと繋げられていていいなと思いました。時系列順にそ

それぞれ分担をして発表をしていましたが、皆さん発表が上手で大変聞き取りやすく良い発表だなと思いました。

- 私の祖父母が和田地域の近くの出身であり、叔父が現在和田に住んでいることもあり皆さんに勝手ながら親近感を抱きながら発表を見させていただきました。お茶摘みから販売まで行ったということで、非常に面白い活動であったろうなと思います。ほかの地域ではなかなか行っていない活動ということもあり、大変貴重な体験ですね。また、発表や発言も元気よく、そしてしっかりしたもので、皆さんが頑張っていることが伝わってきました。大変良い発表でした。ありがとうございました。
- お茶摘みから袋に詰めて、売るところまで自分たちでしているのがすごいと思いました。私が小学生の時はそのような事はしなかったので良い経験をしているなと思いました。お茶摘みのときに家でのことを思い出したり、袋に詰めるときにどんどんコツを掴んだり、売る時にどこで声をかければ効率が良いかを考えたりと行動の中で成長しているのがすごいと思いました。また、地域の方の協力にしっかり感謝出来ていて良いと思いました。

会場③-4 高山村立高山中学校

活動テーマ 地産地消の効果(数学)

発表概要

- ・学校給食について、「センター便り」等から、地域食材についての情報を集める。昨年度用いられた地域食材について、日本国内の主な産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べ、CO2排出量や輸送費などから、その有効性を検証する。
- ・栄養教諭からのアドバイスを受けて、今年度のデータでさらに有効性を検証する。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：高山中学校

2. 対象：2学年 68人
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 「地産地消の効果」(数学)

(2) 活動の目標

本校生徒が持続可能な発展に関わる高山中学校(高山村)の取り組みとして、学校給食での地産地消を上げている。その効果について、数学的な手法を用いて、分析・判断することを目的とする。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性(多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性(一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性(関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性(互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性(限りがある) | <input type="checkbox"/> 責任制(責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

②育成する資質・能力

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

- ・この項目については特に関連させることを目標としていません。

(5) 活動の内容

- ・学校給食につて、「センター便り」等から、地域食材についての情報を集める。
- ・昨年度用いられた地域食材について、日本国内の主な産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べる。
- ・CO2排出量や輸送費などから、その有効性を検証する。
- ・栄養教諭からのアドバイスを受けて、今年度のデータでさらに有効性を検証する。
- ・学校内で共有する機会を設ける。

4. 活動の成果

- ・ネット上の情報を用いて、単純にCO2排出量などを比較しても、地域食材の方が環境負荷が少ないことは当たり前であり、実感を伴った学びとするには更なる工夫が必要であることが分かった。
- ・「フードマイレージ」などの既成の言葉をそのまま使用するのは無く、具体例などで計算する経験などが大切であることが分かった。
- ・村としては、最も地域食材が収穫できる夏休み期間中の食材を有効に活用することが課題であることが分かった。
- ・村産品だけでなく、域内・生活圏内で考えていくことも必要と思われる。

5. 指導方法・体制の工夫

- ・数科学習(数学)の中で行い、総合的な学習の時間の活動報告とならないよう区別した。
- ・本校の強みである。栄養教諭が常駐することを生かすことができた。

感想

会場③-4 高山村立高山中学校 発表を見た方からの感想

- 地産地消はいいものだという事は知っていましたが、運送費やCO2の排出量など具体的な数値で考えたことはなかったので新鮮でしたし、どれくらいお金やCO2が抑えられるのか具体的に考えることができました。地産地消の良さを改めて感じる事ができました。私も地産地消を意識して生活していきたいと思います。
- 丁寧に計算式を考えて、違いを出して検討している点が、中学らしい活動だと思います。そうした拠り所をしっかり押さえて客観的に考える姿勢を持ち続けてください。
- 発表ありがとうございました。他県からの輸送量、輸送から排出されるCO2などを項目として、他県とふるさとセンターで比較することで、ふるさとセンターから給食で利用する材料を輸送する方が良いことが分かりやすく、地産地消の良さを理解しやすく感じました。
- 野菜などを漠然と地産地消が良い、ではなく輸送コストや、それに伴う二酸化炭素の排出量に着目して地産地消のメリットを考え、その中でもフードマイレージ、二酸化炭素排出量を自分で計算してそこから事態を考察していくのは事柄についての解像度が上がり、教材としてよいのではと思いました。
- 地産地消をCO2やフードマイレージなどの観点から注目することによって、数字のエビデンスを持って環境に関して考えることができている良かったと思います。また、給食から考えることができている、今回の学習で分かったことや考えたことをより身近に感じる事ができたと思います。
- 学校給食における地産地消の良さについて具体的な数値を用いながらとても分かりやすい発表でした。私も家庭科教育を専攻していて食生活の領域でフードマイレージについて学んだ事があります。ですが実際にどのくらいの数値でということまでは考えていなかったのが今回の高山中学校の皆さんの発表を聞いて、地産地消の時とそうでないときにこんなにも差があるのだと実感できました。学校給食での地産地消、フードマイレージを活動の中心にしようと思ったきっかけがとても気になりました。発表ありがとうございました。
- CO2や輸送コストを計算して、かぼちゃを北海道や鹿児島から輸送するよりも地産地消したほうが良いという結論を導いている姿に感心した。地域の農業のことを考えて、地産地消を推奨する意見は多いが、こういった計算やデータに裏付けられたものはより説得力があり、充実した内容だったように思う。
- 地産地消が良いと言う話はよく聞きますが、その良さとは何なのかについて、経済面や環境面など様々な視点から分析していたことに驚かされました。言い方は少し悪くなりますが、上辺だけの考えではなく、しっかりと踏み込んで真剣に地産地消について考えていることが伝わってきました。実際のデータとして算出し、それを他者にも分かり易いようにきちんとまとめられていました。高山中学校のみなさんの『考える力』と『伝える力』が高い証拠なんだと思います。お疲れさまでした。
- データや計算で求めた数字を用いて地産地消について考察しており、この方法は研究において説得力や信頼性という観点から、重要な要素になります。この経験を中学校でできることがすごいと思いました。また、スライドも分かりやすくまとめられ、温かみがありました。素晴らしい発表でした。
- 地産地消について、様々な視点から分析しており、発表を聞いていて私自身も始めて考えることがあり、勉強になりました。地産地消が良いというのはよく聞く話ですが、実際に何がいいのかを深く考えたことはありませんでした。二酸化炭素の排出量や、費用の問題など、環境と深く関わっていることがよく分かったため、子どもたちが以下に真剣にこの活動に取り組み、徹底的に調べたかがとても伝わってきました。
- 高山中学校の生徒からは、「地産地消だから良いものだ」といううわべの意見ではなくなぜ地産地消が良いのかという着眼点を持って探求を始める姿勢を感じました。そういったなぜ？を探求していった結果に地域の良さを再確認する経験は、ESDの領域を超えて生徒の資産になると感じました。
- 地産地消の良さを考える点で、二酸化炭素の排出と関連付けて考えるうえで、ストーブをどれくらい使っているのかと比較する点で地球環境について考えやすくなってよいと感じました。今回はトラックを使った場合の影響について考えていましたが、それ以外の手段でどうやったら二酸化炭素排出量を減らせるか考えてみるのも面白いと感じました。
- まず私は学校給食が地産地消であることに驚きました。地産地消を行うことで経費の削減を見込めるだけでなく、地域の産業の活性化が期待できるのですね。また、フードマイレージという考え方を新しく知ることが出来ました。おうちでも地産地消を意識していきたいと思います。
- 地産地消の良さを数学的な見方・考え方で捉えていく。流石中学生！と思わず言いたくなるような実践でした。自分たちが食べる食べ物の実際の輸送費やCO2排出量、フードマイレージなどを計算する活動はなかなかしづ

とく地道な作業ような気がしますが、それを根気よくやり遂げたことが素晴らしいです。計算したことによって、わらに実態を把握できたのではないのでしょうか。面白い実践発表ありがとうございました。

- 地産地消の良さを環境面から輸送費、CO2排出量、フードマイレージなど具体的な数値もとに述べており、説得力がすごいと感じました。これらの根拠をもとに、地産地消を地域で増やしていくためにどのような活動が展開されるのか気になりました。
- ジャガイモに視点を置いて、最も著名である北海道からの輸送時間、輸送費、CO2排出量、フードマイレージについて具体的な数値を提示しながら、説明されたためそこにある課題について分かりやすかった。私もこの「輸送」に関する無駄は多いと思っていて、「地産地消」の重要性を改めて感じるとともに、地産地消を文化として、そのうえで近郊との余剰物交換(経済)を回していく必要があると思う。
- 細かな産地から輸送費、輸送によって排出されるCO2量を計算するのはさすがでした。根拠を提示することで物事の説得力が一気に高まりますよね。地産地消は以前から心がけていましたが、より一層意識して買い物しようと思いました。長野の食材をたくさん食べてもっと大きくなってください。
- 中学生だからこそできる発表だったなと感じました。実際に体験することも重要だけれど、考察する力があってこそその体験だと思うので今回の発表は考察する力が物凄く分かる発表でした！計算大変そうなのにすごいです！ここからさらに体験を試してみた時にどうなっていくのか楽しみだなと思いました。
- 給食で出されているものがどこからきているものなのかということと全く意識したことがなく、お金の換算したこともなかったが、計算で出すことができ、それを環境問題と結びつけることが出来ることはすごいことだと思います。一見関係がないように思えることでも実は関わりがあるということは他にもあると思うのでその視点を大切にしたいと思いました。
- 自分たちの普段食べている給食に使われている野菜などの作物が、どこから来ているのかに興味関心を持ち、トラックでの輸送にかかる金額やCO2の排出量などを調べ、地産地消をすることの良さを考えたことが、着眼点や内容を含め、素晴らしいと感じました。これからも皆さんが、地産地消に関心を持って日々の生活や、活動をしていくことを応援しています！
- 地産地消という言葉はよく聞きますが、産地や輸送費など、実際に私たちの手元に届く背景を知ることがなかったので、とても勉強になりました。また、多くの食材を取り上げた点や、二酸化炭素やフードマイレージなど様々な観点から地産地消をとらえた点から、皆さんの視野の広さに感心したと同時に、地産地消のよさを伝えたいという皆さんの思いが伝わってきました。皆さんの発表を見て、地産地消のメリットが伝わり、日々意識して生活しようと思いました。とてもためになる発表をありがとうございました。
- 輸送費や排出される二酸化炭素の量を計算し目に見える形にすることで、どれだけ環境に負荷をかけているかなどが一目でわかり良いと思いました。また講評でもあったように日本は食料自給率が低く海外からの輸入に頼っているため、海外からの輸入についても比較してみるといいと思います。需要と供給の関係についても考えながら、可能な限り地産地消に取り組めるといいですね。
- CO2排出量や輸送量などの様々な目線を基の一つの物事を視ている事によって、「地産地消を進めていくべきだ」という意見に、とても大きな説得力を持たせることが出来ており、素晴らしいと思いました。地産地消を進めていくために、これからも頑張っていってほしいと思います。ありがとうございました。
- 地産地消の良さというのを、数字を使った具体的な例を出して説明しており、大変わかりやすい発表でした。CO2排出量というのは青森から運ぶだけでもこんなにあるんだ、と大変驚きました。とても良い発表でした。ありがとうございました。
- 地産地消のメリットを、具体的な数値から導き出しているのが凄いいと思いました。しっかり計算することで説得力のある発表になっていると感じました。地産地消という身近な話題を、給食という身近な例から紐解いているのが良いと思いました。

会場③-5 信州大学教育学部附属松本中学校

活動テーマ 廃材でReCycle! 笑顔がつながる持続可能な社会づくり

発表概要 3年間の総合的な学習において大切にしたい総合理念「協力」「笑顔」「繋」を決め、それに基づいて各グループで活動を行っています。古紙を再利用して紙を作ったり、廃材を用いてベンチを作ったり、古着を裂き織直すことによって新たな布を作ったりしながらリサイクルや再利用の魅力に気づき始めています。現在、9つあるグループの活動の魅力を互いに伝え合ったり、感じ合ったりしながら来年度の見通しを立てています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表 & 交流会

～実践記録～

1. 学校名：信州大学教育学部附属松本中学校

2. 対象：1年生 生徒38名

3. 活動内容

(1) 活動名 「廃材でReCycle! 笑顔がつながる持続可能な社会づくり」

(2) 活動の目標

- ・限りある資源を有効的に活用し、捨てられるものが、自らの手で新たなものに形を変える喜びを味わい、自分や相手、地域が笑顔になることを実感することでリサイクルの価値を再確認する。
- ・地域の廃木材や間伐材を利用している方々との交流を通して、木材を通して住み続けられるまちづくりに取り組もうとする方々の思いを知る。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 3 気候変動に具体的な対策を
- 1 5 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

- ① 3年間の総合的な学習における理念(大切にしたいこと)を決定する。
 - ・「協力」「笑顔」「繋」に決定。3年間の総合的な学習において、友と協力し、活動を楽しみながら自分たちが笑顔になったり地域の人が笑顔になったりする時間にしたい。(共通意識)
- ② 夏休み中に自分の興味のあることを実際に活動して見て、クラスに伝えよう。
 - ・家に余っている木材で棚を作る
 - ・マツクイムシに侵された木材で箱を作る
 - ・古着を裂いて、織り直し布を作る(さきおり)
 - ・牛乳パックから和紙を作る → プレゼン大会①



③ プレゼン大会①で魅力を感じたことをもとにグループに分かれて活動しよう。

- ・古紙から和紙作り、廃木材からベンチ作り、廃木材から箸作り、古着からさきおり、マイボトル推進、井戸水PR、身近なリサイクル、曲作り、捨て猫保護の9つに分かれて活動を行う。



④ 3カ月間活動を行ったからこそ感じる魅力やグループの共通点を見つけよう。

- ・自分たちのグループの魅力を伝えるためにグループで1時間をコーディネートし、体験会を行う。(例：古紙から和紙づくり)

教室に設置されている古紙回収ボックスに捨てられている紙を再利用し紙をつくる体験会を行った。「これがあの紙?」「こんなにドロドロになっちゃって紙になるの?」という声から体験会は始まった。各グループに紙づくりグループのメンバーが入り、友に指導していく。やがて「お!紙っぽくなった!」や「ハガキにもなるね!捨てられていたなんてもったいないな」という声が生徒からつぶやかれるようになった。 → プレゼン大会②



4. 活動の成果

本校では、「自らの内に問いを立て、主体的に探究していく総合的な学習の時間」をテーマに学習を行っている。1学年では9月に行われた志賀高原体験学習において、ユネスコエコパークやSDGsに関する学習を行ってきた。その結果、環境に関する興味や関心をもち、夏休みの実践では、リサイクルや環境などに関する活動が多かった。プレゼン①後は、生徒自らが活動を決めだし活動を行ってきた。1月中旬に行われた「紙づくりグループ」の体験会では、全員が紙づくりを体験できるように、班の数(8つ)分の木枠を廃木材を使って自ら作成し、捨てられるものから自らの手で新たな物へと変化していく魅力を伝えることができた。体験した生徒の感想を以下のように記す。

古紙がドロドロになっている原液を触るととてもドロドロしていた。再生紙ということは、一度使った紙をとがして、もう一度使えるようにするってことだから、とても環境に良い活動だと思った。楮を一から作るのにはすぐにはできないけど、身近な古紙を利用しようとした発想がいいと思った。私たちが環境のことを考えて活動しているので、やっている活動は違うけど環境やリサイクルといった点でよく似ている。次回は、廃材ベンチづくりのグループの発表だけど、このクラスは、活動はたくさんあるけど、環境・リサイクルがやりたいことの根底にあるのかもしれない。	2年生からの活動を決めだすことを目的として各活動の魅力を体験した。まず初めに思ったのは「楽しい」ということだ。総合的な学習の理念を決めた時、「自分たちが笑顔じゃなきゃ地域の人が笑顔になるはずがない」というような意見が話し合いで出た。今日紙づくりをやってみて本当に楽しかったし、捨てられるものが自分達の手で新たなものになる良さを感じることができた。自分の紙が出来た時は達成感もあったし、ハガキや障子、ライトスタンドの紙にもなるのではないかと思った。可能性はたくさんあるし、試行錯誤しながら改良できる良さも感じられた。
---	---

このように、自分たちで活動を決めだし、それらを体験し合うことを通して、互いの活動の魅力を認め合いながら、来年度の方向性を吟味する生徒の姿に出会うことができた。

5. 指導方法・体制の工夫

- ① 廃材 (木材・古紙・古着) ② 廃材パレットを譲っていただいたKさん

感想

会場③-5 信州大学教育学部附属松本中学校 発表を見た方からの感想

- 生徒自身の考えや先輩達から受け継いだ内容を、自らの課題として地域に根を下ろした活動の今後が期待されます。
- 話し合いから活動を決めるのではなく、自分の興味のあることを実際に経験し、そこから活動を決めるというのは新しいと思いました。そこからものづくりグループは廃木材や古紙、古着の再利用、環境グループでは捨て猫やマイボトル、リサイクル、PRグループでは松本の曲や井戸水のPRというようにそれぞれ活動するだけでなく、互いの活動を知りたい、関わりながら活動したいというのは素晴らしいと感じました。1年C組の皆さんには関わり合いを大切に地域、世界とのかかわりを感じながら活動して欲しいです。
- 発表ありがとうございました。総合の理念を協力・笑顔・繋とし、夏休みに興味・関心のある活動から、その理念を達成できる活動を選ぶことは、深い学びにできると思いました。また、理念を先に決めていることで、大きな目標もあることから、生徒もゴールが見やすいと思いました。
- 昨今注目度が上がっているSDGsを取り上げ、数ある項目の中でも自分の興味があるものをまとめプレゼンしたり、グループにわけ様々な活動を行うことで、クラス内での理念に向かって進んでいるというのが活動内容として素晴らしいと思いました。
- 課題を子ども達自身が設定するという活動は、興味を持って自主的に深い学びを追究できるように思いました。また、紙の活動を通して、自分たちの本当にやりたいことはなにかを追究できていて素晴らしいと思いました。
- 活動の3年間の見通しを持ちながら生徒の皆さんを中心として探求、学習を深めている様子が進められていることが印象的でした。ものづくり、PR、環境とそれぞれのグループが独立して活動を進めているんだなと最初は思いましたが、お互いの活動を体験することで魅力や共通点を探し2年次への活動へつなげると聞いて、それぞれのグループの活動の魅力を活かしつつクラス全体での活動も2年次では展開されるのだなと想像すると皆さんがどのような活動につなげていくのかとても楽しみにになりました。発表ありがとうございました。
- 信州大学教育学部附属学校には、教育実習でもお世話になったが、そこでも感じた通り、自主性や思考力が存分に発揮された内容だったように思う。教師任せにするのではなく、自分達でサイクルを回していく様子が画面越しからも伝わってくるような発表であり、改めて感心した。
- 生徒たちの「やりたい！」という想いや願いを積極的に取り入れられている実践に感心させられました。今回の発表では写真しか見れていませんが、生徒たちの熱意や笑顔が容易く想像できる気がします。また、ただ好きなことを楽しんで終わりではなく、好きなことを通してリサイクルや環境保護などを行っていることがとても素晴らしいと感じました。その他の環境グループ、PRグループのこれからの活動もとても気になりました。応援します！
- 総合理念を基に、3年間打ち込む活動を決めるという手法が興味深かったです。他学級や他学年のものも気になります。活動内容も生徒自身が体験して決定するということをすることで、実践を行い続けることができると考えました。資源の再利用には多くの可能性があります。今後の追求も頑張ってください。
- SDGsに関連する取り組みを年間を通して幅広く行っていることが非常に印象的でした。子どもたちが実際に自主的に考え、体験して興味を持ったことについて、クラスの仲間がそれに賛同し、実践に取り組んでいたことが非常に魅力的でした。また、バラバラの活動ではなく、それを重ねていきたいという子どもたちの願いから、彼らの仲間意識や協調性を感じることができました。
- 学級総合でどんな活動をするか、ということに対して理念から学級で話し合い決めていく過程に1年C組の皆さんの気概を感じました。話し合いから生まれた理念が、活動によって生まれたものにしっかりと反映されているところが素晴らしいと思いました。
- 子ども達のうちから総合理念を決め、それを目指していくところが面白いと感じました。また、いくつかのグループに分かれて学習することで、子ども達にとって取り組みやすいことから始められるし、他のグループの活動を体験することで、自分が所属しているグループ以外の視点も持つことができるので、良いと感じました。
- 廃木材から箸やベンチなど生活でもよく使われているものに加工していくという考え方が素晴らしいと思いました。私自身ものづくり技術教育コースに所属しているので私も授業の題材としてこれが扱えないものかと考えてしまいました。それぐらい魅力的な活動です。
- 私がこの実践を見てすごいなぁと感じたことは、総合的な学習の時間の活動をおこなう前に子どもたちに総合的な学習の時間で何を学ぶのか、何を目標とするのかしっかりと考える期間を設けたことです。生徒たちを信頼し、教師が生徒の芽生えを待てるからこそ、子どもたち自身で学習目標を設定することができたのだなと感じました。

- 子どもたちが個々にやりたいことを見つけそれを行う活動から、学級としての活動にしていくためにそれぞれの活動を体験していく中で、子どもたちが他の活動の良さを見つけているのが良いと感じました。これから他の活動を体験していく中で、子どもたちがそれぞれの良さや自分たちの活動との共通点を見つけていき、学級としての活動のどのように展開していくのか気になりました。これからも活動を頑張ってください。
- まず、活動の決定の際に、「興味・関心」もあるものでなく、「実際に経験したこと」を決定の重きに置いていることに感心した。また、取り組みとして「ものづくり」「環境」「PR」のグループに分かれて「協力・笑顔・繋」が達成できそうな活動を決めて、これらを1つ1つで考えるのではなく関連づけ、共通点を見出すことが素晴らしいと思った。互いの研究を互いに紹介する。この発見と反応は今後重要になると思います。
- リサイクルやマイボトルなどは環境という点で見た時に真っ先にあげることが多いけれど、捨て猫に着目するというのは思いつきませんでした。また、PRの活動はとて面白い活動だなと思いました。それぞれの活動自体良いものですが、三つの分野が重なる部分を探究していこうとする意欲に感動！
- 年間を通して様々な活動を行っているのが凄いいと思いました。また、グループごとの活動にとどまらず、それぞれで得たことを共有し学級でひとつの目標を定めようとしているのが良いと思いました。学級という集団を上手く生かし、活動に取り組んでいるのが凄いいと思いました。
- 普通なら捨ててしまうものを少し形を変えて使えるようにすることはとても素敵な事だと思います。ものづくりグループ、環境グループ、PRグループはそれぞれ別のことをしているがどこか1つで重なる部分があり、お互いに協力することでもっと大きなことができると思いました。
- 年間を通して、自分たちの暮らす地域の自然や環境に興味関心を持ち生活をしていくという姿勢が素晴らしいと感じました。プレゼンを聞き、「協力・笑顔・繋」を達成するために、ものづくり、環境、PRという3つの分野で活動を行い、3つの分野が重なる和紙作りへと発展させていったことに感心させられました。これからも皆さんが、自分たちの暮らす地域の自然や環境に関心を持ち、それらを保全、維持をしていくことを応援しています！
- 先輩たちの取り組みから、自分たちの目標を決めたり、話し合うのではなく、一人一人が興味をもったことから決めたりしたと聞き、大変なこともあったと思いますが、楽しく活動できたのではないかと思います。また、班別で活動を行うことと、別の班の体験を行うことで、より自分たちの学びを深められたのではないかと感じました。皆さん、環境に真摯に向き合い、ひとつでも多くの体験をしようという意欲が感じられ、発表を聞いていて、楽しかったと同時に、私も皆さんと一緒に活動を行いたいと感じました。とても楽しい発表をありがとうございました。
- 廃材や古紙、古着などを利用し新しいものが作れるように、普段は捨ててしまうようなものの中にもまだ使えたり、作り変えたりできるものがあると思います。今回の経験を通し、新たに目を向けてみるのもいいかもしれません。松本のPRとして井戸に注目していたと思います。年配の方が水をくむのに苦労していることから、ベンチを置くなどの工夫はいいと思いました。また井戸を利用している方は年配の方が多く、若い人が利用しているところを私はあまり見たことがありません。若者の利用者を増やす工夫も考えてみてはどうでしょうか。
- 3つのグループに分かれ様々な活動を行う事は、たくさんの経験をする事が出来るため、とても良い事であると考えました。また、これからの活動の役に立つため、実際に活動してみて気づいた課題を明確にしている事が素晴らしいと思いました。これから色々な活動を組み合わせ、皆さんだけの特別な活動が出来るようになっていけたらいいと感じます。ありがとうございました。
- 話し合いを重ねて行動理念を決めて、それからどのような活動を行っていかうかと考えているところに、計画性を持ち、ぶれない活動を行おうという意味が感じられ、皆さんの熱意が伝わりました。私も参加してみたいなぁと思ってしまいました。とても良い発表でした。ありがとうございました。
- 梅の収穫、ボランティア、ベルマークや松本城清掃といった様々な活動を学校で行っていることに非常に驚きました。また、志賀高原での学習から、一人一人プレゼンテーションをして、「環境」、「ものづくり」、「PR」の3グループに分かれて活動し、また、その活動を共有するといった、今後の活動まで考えて行動していることがすばらしいと思います。
- SDGs等に注目すると、人のため社会のためという意識に向きがちであるが、自分たちの楽しみ、幸福感も大切にしたいというその願いが反映された実践が魅力的だった。実践のそれぞれに「つながり」が意識され、目標に向かって前進していることが感じられた。特に、夏休みに自分たちが取り組んでみたいことに挑戦し友達と共有し、授業に結びついていく実践は、家庭学習や長期休みの課題等に対する考え方が見直されるきっかけとなった。ありがとうございました。

会場④-1 岐阜県高山市立荘川中学校

活動テーマ 総合学習(郷土教育)

発表概要 ESD/SDGsの取り組みは、コロナ禍のなかで思うように行えないこともありながら、変わる活動をのびのびと行うことができました。演劇・獅子舞・笠踊り・絵本作り・梅花藻の育成など意欲的に願いを持って取り組んだ。ESD/SDGsを子どもたち自身が意識して自分の活動と結び付けて考えるようになったことも大きな一歩であった。荘川ならではの、荘川だからできることに誇りをもち活動した。

感想

会場④-1 岐阜県高山市立荘川中学校 発表を見た方からの感想

- SDGsの目的を意識しながらの活動が具体的でわかりやすいです。
- ダム の 記念碑 の 掃除 や 折り鶴 を つくり 地域 の 方々 に 配る など の 地域 に 貢献 して して 良い 活動 だ と 思いました。また 劇 を 行 っ た り して いて、面白 い と 思 っ た。一 人 一 人 は き は き と 話 して いて、非常 に 聞き やすい 発表 でした。
- コロナ禍によって予定を変更しつつも、「今できる事を行うことで将来につながる」という意識のもとで活動を行っている姿に感服しています。バイカモの生息地を掃除した活動について、学年をまたいで活動を継続し、生息地がどのような様子であるのか、バイカモは増えたのかなどの観察を行ってほしいと思いました。
- 地域の繋がりが希薄になっている中、マップから袋を作ったり、劇をすることによって、地域の関わりや地域の素晴らしさを伝えていく活動をすることで、少人数だからできる地域の触れ合いがあるのだなと思いました。
- 全体の発表を通して、荘川という場所の素晴らしさ 地域の人たちとのつながり、温かさを強く感じることができました。子どもたちが世界に誇る大きなことではなく自分たちが今できることを続けていくことが大切と言っていたのを聞いてその通りだと改めて再確認することができました。
- 地域の特色を活用した実践が多くなされていて感心いたしました。郷土教育というだけあり、みなさんの地元愛が伝わってきた発表でした。地域に働きかける活動では、絶滅危惧種の保全に奔走し、学校内においても荘川の名物活動を実際に体験してみるなど、様々な活動から、掲げている校訓を体現されているようでした。
- 自分たちが目の前でできることを考えて行動することが大切だと気づき、それをもとに様々な活動を行っていて、すごいなと思いました。その中でも、絶滅危惧種である梅花藻を保全する活動は、写真で見てもきれいであり、それをぜひ残してほしいので、その取り組みは続けてほしいと思いました。SDGsについて、荘川中学校が達成することができたとき、ぜひその実践を、地域から全国にも発信してほしいと思っています。楽しみにしています。
- 地域の方と協力して絵本を作るなど、地域に根差した活動が行われていてとても良いと思った。絵本を利用して小さい子にも地域の良さを伝えたいとの言葉が印象的でした。子供からいろんな人に伝えたいとの思いが出てきたのはとても大切なことだと思います。
- 地域に伝わる伝統芸能に興味を持ちました。現在私の住んでいる地域でも過疎が進んでおり、地域に伝わる獅子舞の練習に来る子供たちが少ない状態となっています。獅子舞や笠踊りは自発的に練習に参加していたのか、無意識のうちに練習をしていたのか、そのきっかけが気になりました。
- 発表の最後に17の目標全て達成されたときに荘川がどのように変わっていくのかという話をしている、全てが達成された荘川を私も見てみたいと感じました。とてもまとまっていてわかりやすい発表でした。ありがとうございました。
- 発表ありがとうございました。地元の自然や歴史、お祭りなどを基にしたオリジナルの劇の発表や絵本作りなど地域の方と一体となって活動されていて素晴らしい行動力だなと感じました。私が中学生の時は、皆さんほど自主的に活動は出来ていなかったの、うらやましい限りです。発表の中でも写真やスライド、模造紙形式による説明など多くの工夫が見られ分かりやすく聴くことが出来ました。
- 荘川町がとても魅力的に感じました。荘川中学校の皆さんが今自分たちができることは何かを考えて行動することが素晴らしいと思いました。コロナ禍の中でもできることは何かを考え、今できることを最大限できていたのではないかと思いました。荘川町の魅力が最大限発揮できており、これから先、荘川町の発展が見込まれる活動なのではないかと思いました。これからも荘川町の魅力が残るとともにこれからの子ども達のためにもなるのではないかと思いました。
- コロナ禍で思い通りに行動ができないこともあったが地元の伝統や自然を守るためにできることをやり、地域に貢献していて素晴らしいと感じました。学校ぐるみで自分たちの地域や自然を守っているのだなと感じました。

- 皆さんが作った地図や封筒のクオリティがとても高くてびっくりしました。SDGsの内容を劇や獅子舞と結び付けているのも興味深かったです。SDGs14のゴールがある中で特定のいくつかではなく様々なゴールと活動を結び付けていることが印象的でした。
- 地域の伝統や自然やダム建設に関わる歴史に目を向けて、演劇や川の整備など身近なところからSDGsに取り組んでいたことが印象的でした。できることからやるという姿勢やそれを続けるという習慣はきっと力になると思います。
- 自分たちが一生懸命活動していることに関して、決してすごいことだ、世界に誇れることだというようにおごることなく、自分たちにできることを当たり前のようにしているだけだという姿勢がとても謙虚ですてきだなと感じました。また、昨年参加したことをきっかけに、身近なところからできることを大切にしていこうと思ったと言っていたのが印象的でした。
- 元氣な始まりが印象的でした。小学校などができて、地域に後輩と呼べる人が増えると思うので、先輩として尊敬されるようになってほしいです。コロナ禍での活動のなかで自分たちなりに活動していたのがすごいと思いました。自分の故郷のマップは、地域の人に好かれながら、新しく来た人にも、ありがたいものになるなと思いました。環境活動という大きなものを行うにあたって、地域の要素を取り入れた劇はいいアイデアだなと思いました。絵本で地域の大人だけではなく、次世代の子どもを巻き込むというのは素晴らしいと思いました。島田さんなど、地域の大人から学んだことを将来につなげられるように形に残すことが大事だと思います。SDGsの活動は継続的なものになるので、今後も頑張ってください。
- 地域の人々と協力して地元を活性化する活動をされていてとても素晴らしいと思いました。高齢化・過疎化・情報化が進み、人と人のつながりが薄くなりつつあるこの時代に地域の人同士のつながりを持つ活動が行えたのは人が幸せに生きていくのにとっても価値ある活動であるように感じます。また絵本作成やオリジナル劇・うちわづくりをすることでより地域について様々な人にその地域を知ってもらえ、その地域がこれからも発展することにつながると思います。これからも荘川の地元愛を大切にこれらの活動を続けてほしいなと感じました。
- 発表お疲れさまでした。地域への強い愛情が伝わってきました。また、様々な年代に働きかけ、誰一人として取り残さない姿勢が印象的でした。私自身規模の小さい地域、学校出身ですので、小さな地域、学校でもこのように様々な活動が行うことが出来るということを知り、将来への期待が高まりました。これからも頑張ってください。
- 郷土教育に着目し、自分たちの住んでいる地域を大切にしようという気持ちがよく伝わってくる発表だったと思います。地元の桜を題材にした演劇を行うという取り組みが最も印象に残りました。演劇を絵本として形に残すことによって、演劇を見ることができなかった人も見るができるし、絵本を作るという作業もほかの人たちと協力して作り上げているという点がとても良いと思いました。地元の大切にしたいものをいろいろな形で守り、発信していくことの大切さを学ぶことができました。
- コロナ禍によって予定を変更しつつも、「今できる事を行うことで将来につながる」という意識のもとで活動を行っている姿に感服しています。バイカモの生息地を掃除した活動について、学年をまたいで活動を継続し、生息地がどのような様子であるのか、バイカモは増えたのかなどの観察を行ってほしいと思いました。
- 今日は、発表ありがとうございました。発表の導入が、元氣が良くてとても良いと思いました。SDGsのどの項目について取り組むのか、紙を見せながら話してくれたので、内容が理解しやすかったです。ダム建設の劇や絵本を地域の方と協力して作ったり、獅子舞などの地域の伝統行事に誇りを持っていることが良く伝わりました。活動が制限されている中で、自分たちができる小さなことを探して、地元の伝統や誇りを守ろうとする姿勢、次世代につなげ、持続可能な地域作りをしようという心意気が素晴らしいと思いました。SDGsの17の目標を達成したときの荘川町がどのようにになっているのか、どうなっていてほしいのかという自分たちの願いを大切にこれからも活動を続けていってほしいと思いますし、受け継いでいったり、活動範囲や幅を広げていってほしいと思いました。
- 演劇や絵本を作って地域の方との関わりを深めながら、荘川の清掃や折り鶴の寄付など、地域に貢献する活動を多く行っていることが知れました。地域のことを知ることは自分の大きな強みになると思っています。地域全体で協力して住みやすいまちづくりのためにこれからも活動を続けていってもらえるといいなと思います。発表お疲れさまでした。
- 学校を子どもたちだけでなく、地域の人々とも交流できる場にするという発想はとても魅力的に感じました。一つのテーマに対して多くの活動をして、積極的なメディア化で試みを広げている行動力には驚きました。「世界には誇れないけれど……」と序盤で言っていましたが、試みを考えて実行することは世界に誇れると思います。
- 荘川が大好きで守っていきいたい、という気持ちが強く伝わってきました。コロナ禍で活動が制限されているにもかかわらず、今できることを考えて活動していることが素晴らしいと思いました。清掃作業は体力を使うことな

ので地域のお年寄りの方々は大変だと思うので若い皆さんが行うことで助けになっていると思います。また鶴は千羽鶴以外にも作品のようになっていて私も作ってみたいです。最初に映っていた封筒は観光などに行った際に欲しいです。莊川を封筒で知ることができるのは魅力的だと感じました。これからも活動頑張ってください。

- 地域の方を巻き込んだ学校という枠だけに収まらない活動を行っている点が印象的でした。様々な角度から地域の良さを掘り起こし、さらに伝承を行っていくことはなかなかできることではないと思います。地域のことをたくさん調べ、多くの人と協力しながらこれまで取り組んできた様子が良くわかる発表でした。これからも地域の中で自分たちができることをたくさん探して取り組んでいってください。皆さんの一生懸命な発表、とても格好良かったです！ありがとうございました。

会場④-2 福島県只見町立只見中学校

活動テーマ 地域と共に学ぶ只見中学校

発表概要 本校のESDは地域の方々との協力のもと活動を行っている。今回の発表では4つのポイントに絞って発表を行う。学校の組織としてSDGs委員会の立ち上げ、全校生徒によるSDGsに関するポスターセッション、ペットボトルの利用抑制活動、自然素材の活用について、地域と協働で行っている。この内容について世界発信を目論み、サマリーを英語で発表する。

感想

会場④-2 福島県只見町立只見中学校 発表を見た方からの感想

- 英語で発表することによって、様々な地域の方も理解することが出来るプレゼンテーションとなっていました。また劇を用いて発表することによって、引き込まれる内容となっていました。
- 他の発表とは異なって中学生が語り合う設定から始まったのでなにが始まるのだろうととてもワクワクしました。英語もとても流暢で聞き取りやすく只見中学校のみなさんが行っているSDGsの取り組みを知ることができました。最後の演劇で意識することは昔も今も変わらないという言葉が印象に残ったので、今の自分たちが未来のこどもたちにつなげていくことの必要性を実感しました。
- 英語での発表に驚きました。実際の政策から発想を得たSDGsの活動や、グローバルな視点からの切り口、また、自然に目を向けた取り組みなど、社会的観点・環境的観点を両立させている実践が印象的で、地域を巻き込み新聞紙のレジ袋利用など、継続の実現のうえ、地域拡大している点において感動しました。
- 新しくSDGs委員会を立ち上げたことは、今の時代に合わせたとても良い考えだと思いました。その中で生まれたペットボトルを利用しない日である「PET Free Monday」は、簡単にできる良い取り組みで、私は毎日のようにペットボトルを利用することはないけど、毎週月曜日はペットボトルを使わない生活をするとか、この月は使わないとか意識すると、自然と普段の生活でもペットボトルなしの生活に慣れていくと思い、個人的にやってみたくまりました。課題として、人口増加によって町への愛着が薄くなったことがありました。自分が住む地域に、ほんのわずかでも、自然に貢献した活動があって、そこに地域の若い人が来たくなるような要素を盛り込めば、「この地域に住んでよかった」と思えるようになると思うので、そのような活動をぜひやってみてください。
- 劇仕立てにしてわかりやすく課題を示している点が役作りも含めて完成度が高いです。英語の発音も聞き取りやすいです。これらを含めた活動全体が統率ある者となっているのが中学生らしいです。
- 英語での発表に驚きましたが、面白いやり方だなと思い、感心しました。英語の発音がよく、聞きやすかったです。私たち一人ひとりも地球温暖化に対して小さくても行動をおこすことによって抑制につながると思いました。
- 英語での発表だったことに驚き、地域を巻き込んで幅広く活動していることに面白さと活動への熱意を感じました。SDGs委員会の活動が恒常的にできるようになってきたと述べられていましたが、そこに至るまでに長い道のりがあったのだろうと思うと尊敬の念を抱きます。もし、直にポスターセッションや発表物を見ることができるといい機会があったなら、ぜひ見に行きたいです。特に、箒の原料と完成品に興味があります。
- ペットボトル飲料を利用しない日を設けるといのがとても驚きました。そういった環境保全に向けて具体的な行動をすることはとても良いと思いました。また、地域の人たちを巻き込むことが大切という言葉が印象に残りました。自分たちの取り組みを地域の人たちに伝えたいという気持ちが伝わってきました。
- 英語での発表が印象的でした。SDGsに関する取り組みは身近なことであっても積み重ねることで持続可能な社会の一端を成すため、まずは身近なことからと考えさせられました。いつか世界に英語で発信している姿を見たいです。
- ペットボトル飲料を利用しない日を設けたり、自然素材の活用をしたりなど、地球温暖化のための私にはない視点の発想であったため、勉強になりました。SDGs委員会を中心にこれからどんな活動が繰り広げられるのか楽しみです。ありがとうございました。
- 発表ありがとうございました。まず、英語で発表されていてそこに驚きました、素直にすごいなぁと感心してしまいました。発表の中で100%自然の材料(アカソ)で作った掃除用具の活用が挙げられていましたが、思えばかつての日本では竹かごや箒、藍染めといった自然に戻る製品が使われていたので、かつての日本から学ぶべきことが多いのかなと感じました。
- SDGsについて個人が理解するのではなく、みんなで共有することで初めて意味があるのではないかと今回の発表から考えさせられました。世界に発信するために英語で発表を行っていた点も素晴らしいかったです。また、校

舎のみの活動で終わらせることなく、地域全体で活動することで地域のためにも世界のためにもなるのでこれからも続けていってほしいとともに只見町と同じことをする地域が増えればいいなと思いました。環境問題についてはこれから先ついてくる問題でもあるのでこれから先を生きていく私たちはもっと深刻にこの問題に向き合っていかなければならないと考えさせられました。ありがとうございました。

- ポスターセッションが印象的でした。自分たちで気づいたことを多くの人に聞いてもらい、保護者の人にも意見をもらい多くの学びができるのではないかと感じました。また全校生徒で行っていることに驚きました。劇での発表も面白かったです。
- 発表の仕方の工夫がとても魅力的で、英語での発表も素晴らしかったです。個人的にはPETfree Mondayの活動が魅力的でした。毎日とは言わずとも大学に入ってからペットボトル飲料を買う機会が増えましたが、タンブラーや水筒を使うなどできることはたくさんあるなどハッとさせられました。一人だと小さな行動かもしれませんが、皆さんのように声を上げ、活動が広がれば地球環境を変える大きな一歩になりますね。発表ありがとうございました。
- PETボトル飲料を飲まない日を設けたり、自然素材から作ったぼうきに着目したり、取り組み方への発想に驚きました。2040年から見たという状況設定や英語での発表も良かったです！
- 現在世間的にもレジ袋の有料化などをきっかけに、海洋プラスチックごみ問題や地球温暖化について注目が高まっている中で、SDGsに関連付けて、例えば、レジ袋を新聞紙で制作するだけでなく、実際に地域の商店などに協力をしてもらい、そこで使ってもらうなどの活動がとても魅力的でした。
- 最初の寸劇で環境が悪くなってしまった未来の話が面白かったです。英語の発表で読み方、使う表現が工夫したのだなと感じました。保護者の方が入り、新たな気づきを得た経験から、様々な人に聞くことで何かしら得ることができる、活動が広まるといったことがあると思いました。学校の中で、ペットボトルの利用の禁止は週1でもだいたい効果が出る活動だと思いました。問題解決のために、地域を巻き込み、大勢の人で考えようとする考え方は、個人が生きていくうえでも大事な考え方だと思いました。「今日から頑張ろう」という姿勢を今後も大事にしてほしいと思いました。
- 英語での発表と対話形式の発表でとても工夫されており、楽しく聞くことができました。Think Globally, Act Locally という言葉があります。世界のことを考えて、自分たちの足元から行動しようという意味ですが、その言葉のように活動されていると感じました。地域での活動(PET FREE MONDAYや新聞紙レジ袋・自然素材の活用など)をより広く、いずれは世界に知ってもらうためにも、英語での発表は素晴らしかったです。
- 発表お疲れさまでした。身近な地域の変化に気づき、歴史を振り返ることによって原因を探っているということが印象的でした。また、グローバルな視点を持っていることが、英語での発表で実感しました。衝撃的でした。これからも頑張ってください。
- 活動内容が学校の中だけにとどまってしまうのではなく、地域とも連携して活動に取り組んでいる点が素晴らしいと思いました。活動の中で最も印象に残ったのは、「PET Free Monday」という活動です。ペットボトルを減らすという取り組みによって学校や周りが一丸となって活動に参加することができるので、主体的に活動をしているという意識を持つことにもつながると思いました。
- まず英語での発表だったことに驚き、地域を巻き込んで幅広く活動していることに面白さと活動への熱意を感じました。SDGs委員会の活動が恒常的にできるようになってきたと述べられていましたが、そこに至るまでに長い道のりがあったのだらうと思うと尊敬の念を抱きます。もし、直にポスターセッションや発表物を見ることができる機会があったなら、ぜひ見に行きたいです。特に、箸の原料と完成品に興味があります。
- 今日は、発表をありがとうございました。タイムスリップというストーリーにした発想が面白いと思いました。また、世界へ発信することを見据えて、英語で発表している点が非常に良いと思いました。英語の発音がすごくきれいですね。活動の中で、私が特に素敵だと思ったものは、ポスターセッションです。生徒、保護者など多様な価値観での交流が生まれる活動だと思いましたし、この活動を通して、今自分たちができることは何かあるのかと温暖化やSDGsの取り組みについて関心を広げることにもつながると思いました。これからも自分たちができることを探しながら発信し続けていってほしいなと思いました。
- SDGs委員会の発足やPET Free Mondayは身近なところから積極的に活動している様子が伝わってきました。PET Free Mondayの活動は家族も巻き込むことで、兄弟姉妹の学校や両親の職場でも広がっていく気がして、もっと多くの人が行える活動になっていきそうだなと思いました。英語での発表には驚きましたが、発表者の流暢な話し方に私ももっと英語を頑張りたい、と思われました。発表お疲れ様でした。
- 発表方法がユニバーサルデザインされているようで驚きました。英語の発音も自然で素敵でした。自然のものを取り扱った発表で、私も自然に興味があるのでとても親身にきけました。発表の仕方に工夫がされていて面白く聞けました。

●劇を使っていたので具体的で分かりやすかったです。未来のことを予想している点が工夫がされていて未来へ繋がっていく感じが伝わってきました。また、英語での発表は中学生なのに発音がきれいで分かりやすい英語を使っていて聞き取りやすかったです。英語で話すことで、世界の問題だと意識されました。ペットボトルを使わないというのは週に1回という無理のない範囲で行っていて継続できそうなので私も月曜日使わないで生活しようと思います。家族・地域への協力も大切だと感じました。保護者に意見を聞くというのを聞いて、大人に意見を求めることも良いなと思いました。これからも頑張ってください。

●ストーリー性とグローバルな世界に目を向けた英語での発表が素敵でした。温暖化対策として、様々な活動を通して学校から地域へと発信する姿勢が表れていると感じました。そしてどの活動も自分ができることを中心にしながらも、狭い視野でなく世界に目を向けて考えられているところが一歩先へ進んだ視点であると思いました。私もペットボトルを使用しない日を設けて取り組んでみたいと思います。ありがとうございました。

会場④-3 長野県佐久平総合技術高等学校

活動テーマ 酒粕をアップサイクル ～カスを価値に 未来へ佐久咲け！～

発表概要 本校のある長野県佐久市は、市内だけで11蔵元もあるほど日本酒造りが盛んな地域である。本校では、令和元年度より地元酒造会社「戸塚酒造」と連携した日本酒製造を行っているが、その中で、日本酒製造の副産物として得られる「酒粕」の需要が低迷していることを知った。そこで私たちは、酒粕の需要拡大に向けた取り組みを行い、食品ロス削減や地域活性化につなげたいと考えた。

感想

会場④-3 長野県佐久平総合技術高等学校 発表を見た方からの感想

●酒粕を使って具体的な販売ルートやレシピ、扱ってくれるお店を開拓していて、さすが高校生だなと感じました。具体的な活動だったので、これからも活動が続いて、酒粕が有効活用される未来を祈ります。

●地域の特産物である酒粕を自分たちは作る責任使う責任があると感じている言っていて高校生で地域のためを考えることができる環境は素晴らしいと感じました。発表を聞いて酒粕の栄養が含まれる酒粕を使ったメロンパンやクッキーを食べてみたいと感じました。佐久平たからこそできる地域に根付いた活動であると強く感じました。

●佐久の名物を取り上げ、時代の需要に合わせた取り組みを行うという視点を素晴らしく思いました。地域の現状に寄り添い、店舗と店舗、人と人とを結ぶことに貢献したうえ、地域を盛り上げていく様子が目に浮かびました。また、活動は留まることなく、次の企画へと発展していることも知れ、日本酒だけでなく、酒粕を利用した商品が名物になる日が来てもおかしくないと感じました。

●銘酒の地としても有名な佐久市ですが、その日本酒製造の過程で、どうしても大量に出てしまって、その利用方法も難しい「酒粕」に焦点を当てたことは、すごいなと思いました。酒粕は、栄養素は高いけど、どうしても癖が強くて、そのまま料理に用いるのは、好き嫌いが分かれてしまって、お酒を造る過程で大量に出してしまうのは、とても大変だと思います。しかし、今回の取り組みのように、メロンパンに混ぜてみたり、クッキーに使ってみたりすると、有効利用できることがわかったのは、大発明だと思います。しかし、まだまだ消費量が少ないとのことなので、メロンパンやクッキーにとどまらず、様々な研究を重ねて有効利用の道を探してほしいと思いました。酒粕からもう一度新たにお酒やジュースをつくることとかできないのかなとも思いました。

●酒粕というもの自体自分は初めて知ったので興味深かったです。自分たちで酒粕を有効活用したいという思いを持って商品開発に熱心に取り組んだ姿が伝わってきました。その結果地域のお店同士のつながりも生まれ、地域の活性化も合わせて進んでいると思います。

●佐久の有名な純米酒をカギとして地域を盛り上げようという活動はこれからも続いていくのだろうと感じました。いつの日か成人になった際には考えた新製品と一緒に名産のお酒を飲み交わすのでしょうか。

●酒粕がこんなにも余っている物だとは知らなかったため、発表をお聞きし、私もそういった活動の商品などを買って貢献出来たらいいなと思いました。とても考えられた活動で勉強になりました。これからさらに酒粕に価値が出てくるといいなと思いました。ありがとうございました。

●発表ありがとうございました。酒粕については日本酒の製造工程で副次的に生まれることは知っていましたが、具体的なその量の多さや粕漬け以外の活用の難しさは今日初めて知ることが出来ました。具体的な数値のあるアンケート調査や地域社会。企業との連携など高校生ならではのアイデアや行動力が光った活動ではないかなと感じました。

●食品ロスと地域の活性化に目を向けてそれに対する行動力が素晴らしいと思いました。産業廃棄物が有効活用されるために何ができるか、課題は何かを分析、有効活用するための案を出し、実際にやってみて失敗したらまた考えてを繰り返し、協力しながら有効活用できたことはこれから先、他の産業廃棄物の手本となるとともに今はあまり目を向けられていないものの有効活用の手助けになるのではないかと思います。このような活動がほかの地域でも行われることでさらに食品ロス問題の解決につながるのではないかと思います。

●地元の産物の日本酒の知識は自分では知らないことばかりでびっくりしました。また産業廃棄物を有効利用するために生徒自身のアイデアでメロンパンやクッキーが作られていてすごいと感じました。さまざまな協力も地域を守ることという気持ちの表れだと感じました。

●酒粕の活用というと漬物くらいしか思いつきませんでした。健康にもいいと聞いたことがあったのでその活用はとても興味がありました。地元企業との連携をしながらメロンパンにクッキーととてもおいしそうな商品が

できていてすごいなと思いました。また皆さんの働きかけから新しい商品が続々と出ているのもいいなと思いました。発表ありがとうございました。

●100gあたり、タンパク質が14.9g含まれていたり、食物繊維やビタミン群が豊富だったり栄養の面でとても魅力的だと感じました。サクサククッキーめっちゃ食べてみたいです！

●酒粕というもの自体は聞いたことがある人も多いと思うが、実際にもろみというものからしぼりをしたときに出る副産物であるという丁寧な説明のおかげで、これを機に酒粕を知ることができた人も多いと感じました。また、酒粕の利用について、食品用と飼料用のそれぞれの割合なども知れて非常に興味深かったです。

●自身の地域にある特産物に関連のあるものを題材にするのが素晴らしいと思いました。117tもの酒粕が生まれるのに驚きました。「作る責任・使う責任」という言葉で作る側にも焦点をあてていて驚きました。問題を提起にして、それに対して解決策を考える、そこから試行錯誤の中で、企業などほかの存在を巻き込む動きがすごいと思いました。酒粕メロンパン・サクサククッキーを食べてみたいと思いました。酒粕の利用方法をほかの店が考えるようになったきっかけづくりを果たしたのがすごいなと思いました。一般家庭に向けた酒粕自体の販売は広がりを見せているのか気になりました。

●食品加工について専門的に学んでいっしょるだけあってとても現実的で実用的で素晴らしい活動であると感じました。今までカスであった酒粕を有効利用していて、私も酒粕を使ったクッキーや、パンをぜひ食べに行きたいと思います。栄養面でもよいものだというのも魅力的です。軽井沢など観光客や県外の人が多くいらっしゃる場所で販売しているのも、この佐久の特産品を知ってもらう良い機会だと思いました。

●発表お疲れさまでした。地域との連携を通した商品開発・広報を行われたということで、頭の中で考えるだけでなく、実行に移していることに驚きました。それと同時に、頭の中で理想を唱えるだけで、行動に移すことが出来ていない自分が恥ずかしく感じました。まずは身近なことから行動を起こしたいと感じました。これからも頑張ってください。私自身も頑張りたいと思います。

●自分の地元にある高校なので、どんな活動をしているのかとても興味があり、今回知ることができてとても勉強になりました。専門的な学科があるという強みを生かして、食品に関する発展的な活動を行っているのが印象的でした。発表の中で佐久市が日本酒を多く製造していることは全く知らなかったので、地元のことを良く知るという意味でも聞いていて面白かったです。実際に商品開発に携わり、販売するところまで広く活動し、いろいろなところと連携して取り組んでいる様子がよく伝わってきました。

●酒粕を現代の消費形態に合わせた形で活用するための取り組みは、とても興味深く拝見しました。実は、私は酒粕をパンや菓子に活用させることについて、材料として使われる以外にどのような側面が消費につながるのかわからずにいました。今回、ケーキ屋の方が「来年は100グラム仕入れたい」といった報告を見て、材料としてだけでなく、酒粕が活用できること自体の認知度を上げることにつながると分かりました。一般家庭レベルでは活用できるのか考えてみようと感じました。

●今日は、発表していただき、ありがとうございました。地元で有名なものなのに地元で課題となってしまう酒粕に注目し、酒粕を産業廃棄物ではなく身近な食として広めようとしている姿が非常に良いと思いました。企業と協力し、パン作りやクッキー作りに取り組んだり、それを実際に販売していく発信力が素晴らしいです。パンやクッキーの味がとても気になりました。実際に購入して食べた人の感想を聞いてみたいと思いましたし、自分も食べてみたいなと思いました。なぜ、パンづくりに焦点を当てたのかというところが疑問に思いました。他の試作した料理と何が違っていたのでしょうか。酒粕についての取り組みやSDGsへ興味・関心を増やす目的でリーフレットを作成したこともよいと思いました。これからも酒粕を再び資源にするために、探求する姿勢を大切に頑張ってください。

●日本酒の酒粕に着目する視点が素晴らしいなと思いました。佐久酒粕プロジェクトを通して商品開発をすることで、地域の方々のSDGsの認知度が上がったことは、活動の成果が出ている証拠だと思います。ぜひ酒粕を利用した商品を食べてみたいなと思いました。発表お疲れさまでした。

●高校生が酒粕を広める、という主題だけでもグッと興味を惹かれます。試みの過程の中で、SDGsのどの項目に注目しているかが明確にされていて、目的を見失わないという点で素敵です。また、私も佐久酒粕プロジェクトで作られたパンを食べてみたいと思いました。人と人とのつながりを感じるプロジェクトだと感じます。

●スライドを使ってゆっくりと話してくれたのでとても聞きやすかったです。私は酒粕についての知識が全くなかったので、最初から詳しく説明してくれたおかげで何が問題なのか理解しやすかったです。数字で示して、実践しているので説得力もあると感じました。将来に繋がり、地域に根付く提案や課題が挙げられていてつながりが目に見えていたのでとても良いと思いました。また、高校生では佐久平総合技術高校さんしかできない取り組みだと思うので自分たちの強みを生かしている点も良いと思いました。パン食べてみたいです。これからのサクサク

プロジェクト応援しています。

- 日本酒造りからもたらされる副産物の酒粕の有効活用、という視点は食品にかかわる皆さんならではの視点で、独自性がありました。確かに酒粕はなじみが薄く、あまり自発的に購入するものという印象はありません。こうした食材を商品に活用し、地元の酒造場、パン屋さんや工房と協力してその有効活用に取り組むことは食品ロスだけでなく、地域の産業をも動かす大きな意義のある取り組みであると感じました。私も酒粕や皆さんの携わった商品にとっても興味が沸きました。ありがとうございました。
- もの作りとしての課題意識や、自分たちの関わり方を意識しながら解決へと向かう姿は、完成度の高い活動です。さらにステップアップしてください。
- 高校生が酒造の方と協力し、お酒を造るという活動は面白いと思いました。廃棄物を有効利用することは環境への負担を配慮することができ、良い活動だと思いました。酒粕が捨てられているというのは発表で初めて知りました。
- 地域の特産物から余っている酒粕に焦点を当てて有効的な利用方法を使うという視点がまず、素晴らしいと思った。こうして酒粕から見ると、他にも産業をする上で捨ててしまう食品もあるのだなと感じさせられた。私自身、作る責任、使う責任について改めて見直そうという気持ちが芽生えました。
- 酒粕を現代の消費形態に合わせた形で活用するための取り組みは、とても興味深く拝見しました。実は、私は酒粕をパンや菓子に活用させることについて、材料として使われる以外にどのような側面が消費につながるのかわからずにいました。今回、ケーキ屋の方が「来年は100グラム仕入れたい」といった報告を見て、材料としてだけでなく、酒粕が活用できること自体の認知度を上げることにつながると分かりました。一般家庭レベルでは活用できるのか考えてみようと感じました。

会場④-4 文化学園長野高等学校

活動テーマ

『人と人をつなぐ ヘアドネーション』誰一人取り残さない社会を目指して

発表概要

がん治療の副作用、脱毛症などの病気、けがなどで髪の毛を失い、日常生活に悩みを抱える子どもたちを支えたいとの願いから2018年度より、自分の髪の毛を伸ばし、切ってNPO法人などに送り、医療用ウィッグを作る材料にしてもらうヘアドネーション(髪の毛の寄付)活動を開始。本校生徒会役員ら有志がヘアドネーション活動や、そのような仕組みがあることを広くPRする活動に取り組んでいる。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：文化学園長野中学・高等学校

2. 対象：中学・高校
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 『人と人をつなぐ ヘアドネーション』誰一人取り残さない社会を目指して

(2) 活動の目標 SDGsの達成に向けて身近な課題の解決を図る活動から「地域活性化」と「SDGsの自分ごと化」を目指す

- ①捨てられてしまう髪を、髪を必要としている誰かのために役立てる。
- ②誰一人取り残さない社会を目指す。
- ③思いや願いを持続させる。
- ④活動を通して、地域社会活性化に貢献する。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input checked="" type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう

17. パートナリシップで目標を達成しよう



(5) 活動の内容

- ①ヘアドネーション学習会を開催。身近にも髪の毛を失い、髪の毛を必要としている人々がいることを知る。その後、自分たちに何ができるかを議論。
- ②広報活動をする。
 - ・広報動画を作成する。
 - ・県内ユネスコスクールをはじめとする教育機関を含む「信州 ESD コンソーシアム構成団体」48 団体と活動の共有する。
 - ・ESD 推進の一環で行われる「信を州 ESD コンソーシアム成果発表会」(信州大学)にて、本年度の活動をプレゼンテーションする。
 - ・NAGANO SDGs PROJECT「みんなのSDGs宣言」への参加。
 - ・信濃毎日新聞「ヤングジャーナルSDGsコーナー」にて活動をPRする。
 - ・「長野コレクション実行委員会」主催のヘアショー (NBS長野放送)にてプレゼンテーション。生配信後はアーカイブ動画で全世界発信する。

- ③本校文化祭（すみれ祭）でステージショーを開催する。
 ・前夜祭にて全校生徒に向けたステージショーにて、長野市内美容室のご協力を得て「ヘアドネーションショー」を開催。地域と生徒とが協働したヘアショーを実現する。



「長野コレクション実行委員会」主催のヘアショー（NBS長野放送）にてプレゼンテーション



信濃毎日新聞「ヤングジャ SDGs コーナー記事」 美容室りんごの木様とコラボで実現：ドネーションショー

4. 活動の成果

- ・ヘアドネーションは国籍、居住地、年齢、性別、髪色、髪質を問わず、誰でも髪の毛を寄付することができるから、私にもできる社会貢献。2年かけて伸ばした髪を切って送った時、達成感と自己有用感を持ってた。(中学2年)
- ・「誰一人取り残さない」の理念に立ち、地域社会を巻き込みながら、全ての人のウェルビーイング(well-being)を目指した活動であるため、「自分のできること」から関わった。(高校2年)
- ・関わり方は大きく3つあり、誰でも自分の興味・関心に基づいて活動が可能であるという。(高校2年)
- ①髪を伸ばして提供する活動 ②周知・広報活動 ③誰もが楽しんで参加できるイベント活動
- ・つながりの希薄化が進む現状において、特に地域への関心を持って欲しい若い世代に向けて発信力を高めるための SNS 等のツールを積極的に活用すること、また高齢世代に向けて地元新聞社等に協力頂くことは、つながり合うインクルーシブな地域社会のための手立てとなった。(高校2年)

5. 指導方法・体制の工夫

- ・PDCA サイクルでフィードバックをしながら、持続可能な活動にするために、定例会開催した。
- ・男子生徒によるヘア提供の壁という新たな課題発生した。「男子なのに長髪？」を乗り越えるにはどうしたらよいか。男子も巻き込んでジェンダー課題に向きあいたい。
- ・多様なステークホルダーと共創で、更なる地域活性化を目指した。

【協力諸団体】

広 報： ○信濃毎日新聞社 ○長野コレクション実行委員会(NBS長野放送) ○NAGANO SDGs PROJECT
 ○ユネスコスクール加盟校 ○信州 ESD コンソーシアム加盟 48 団体

SDGs 連携： ○早川美容商事

髪送付先： ○つな髪* (大阪市)

カット先： ○美容室りんごの木 ○美容室フォルビチローロ

感想

会場④-4 文化学園長野高等学校 発表を見た方からの感想

- コロナ禍での人との繋がりを中心に考えて、ヘアドネーションを用いて、人と人とを繋ぐプロジェクトは今までなかったしてんだなと感じました。これからも活動が続いていくことを期待しています。
- 自分自身もコロナの流行によって予測不能な社会であることを感じ、不安定な社会に不安を感じることも多かったですが、そのなかでなにか大切なのかを考え、人とのつながりが必要だと考え段階を踏んで行動しようと踏み出せる文化学園の生徒はとても素晴らしいと感じました。
- 時代の情勢に焦点を合わせた課題分析と提言は説得力があり、問題を身の回りに認知させることに成功しているように見えました。ヘアドネーションの重要性や有用性を校内だけに留まらず、外部に発信していく様子が素敵でした。女性教員の協力の元、実践につなげていた様子は驚きでしたが、校内で髪を伸ばす生徒が増えるというきっかけを与えてくれたのだと思います。またそれに伴って新たなバイアスの問題などが課題になっている様子も発見できており、次につなげられそうだと感じられました。
- ヘアドネーションの取り組みの素晴らしいですが、私はそれに至るまでに、しっかり5つのステップを踏んでいる点について、人と人とのつながりがあることによって、人々は幸せになれるという考えがあったのヘアドネーションがよかったと思います。このような時代になって、人々が直接面と向かって関わるのが難しい世の中になりましたが、ヘアドネーションのように、何かを介してつながりを維持することも、一つの選択肢なんだと私自身が気づかされました。しかし、今回の課題として挙げられた、アンコンシャスバイアスのような、その道にふさがる課題は多くあります。そのような昔から形だけが残っている共通認識についても、今回の活動を軸に、今後深く考えてほしいと思います。
- 人とのつながりはとても考えさせられる活動でした。脱毛に悩む人に対する支援は自分にはない支援でした。ただ学校全体で見たときにこの活動は女性の生徒の方が興味を持って取り組むのではないかという印象を持ちました。男性の生徒からすると興味持つ生徒の割合が少なく、活動の意味が薄れてしまうのではないかと思います。ただ、男子生徒もヘアドネーションに興味を持ったのは良かったと思います。
- ヘアドネーション活動は以前よりも有名にはなってきたけど、まだ知名度は高くないと聞きました。ただヘアドネーションの活動を発信するだけでなく、男子の長髪に対する偏見が大と考えることで、発信の仕方も変わっていくのだらうと思いました。
- ヘアドネーションは私も興味があり、いつかやってみたく思っていた活動であったため、とても楽しく興味をもってお話を聞くことができました。やはり認知度の低い活動はその活動に良さがあっても広まっていけないため、認知してもらうためにPR動画を作成したりしてよい取り組みだと感じました。ありがとうございました。
- まず、たった一人にもかかわらず長い時間発表をいただきありがとうございました。ヘアドネーションについては言葉自体は知っていたが実際に髪を切られている様子は見たことが無かったので、皆さんの発表から知ることが出来て貴重な経験になりました。テーマの設定から実践、結果・考察、次の課題設定など客観的に活動がまとめられていて、大変分かりやすい発表でした。
- ヘアドネーションは女性がメインだと思っていましたが男子学生にヘアドネーションの関心が生まれたことに驚きと自分の考えが固定概念であったことを感じました。ヘアドネーションは知っていましたが実際に行っている人はあまり見たことなかったのですが病気などで悩んでいる人のためには必要な活動であると感じたとともにそのような見た目で人の印象が決まってしまう今の時代の考えは変わっていくべきなのではないかと思いました。髪がないからと悩ませる今の時代の考えがなくなればそのようなことで悩む必要もなくなると考えられる。そのような考えになるための一つとしてヘアドネーションを知ってもらう活動は一人一人が違う人間であり、それを受け入れるきっかけにもなるのではないかと感じました。これからも頑張っていってください。
- 人とのつながりをテーマにして、困っている人を助ける活動へつながっていることにとっても素晴らしいと感じました。また、髪を伸ばすという男の人には少ししづらいことはやはりジェンダーの課題につながっているのだと知りました。
- コロナ禍になっても幸福度が上がっていてなぜだろうと思いましたが理由を見て納得でした。ヘアドネーションという活動を幸福度を上げるという観点、SDGsにつなげるという視点が面白いなと思いました。皆さんのような活動をし、積極的に発信することでつながりが生まれること、一人ひとりでは微力でも集まると大きな力になることを実感できました。発表ありがとうございました。
- 幸福度に着眼しての活動が印象的でした。全校、美容院、新聞社など様々な人たちを巻き込んだ活動にも驚きました。幸福について振り返る良い機会になりました。

- 私自身、世界幸福度ランキングというのを初めて知ったのですが、先進国であり、日常生活にほとんど困らず生きていけるこの日本のランキングが、56位であることに非常に驚きました。また、発表において、様々な大学の研究データや心理学からの観点なども引用していて、とても興味深かったです。
- 自身のおかれた環境の中で、課題を見つけているのがいいなと思いました。コロナ禍において、幸福度が上がったという人が想像以上に多くて驚きました。ヘアドネーションに注目しているのが興味深かったです。自身の活動の有用性を高める研究を取り上げているのがいいなと思いました。ヘアドネーションのPR活動において、ヘアドネーションのおかげで救われたひとの例を紹介したり、実際にどのように使われているのかの様子を映したりできたら、もっとヘアドネーションの必要性がPRを見た人に実感として届くのではないかなと思いました。
- 今、私もヘアドネーションをしようと思っている最中なのでとても興味深い発表でした。ある男子生徒が、ヘアドネーションのために髪を伸ばしていたら「男子なのに長髪？」という言葉で髪を切ってしまったのはとても残念に感じます。そう言うことを言われてしまうこと、それによって髪を切ってしまうことは今の価値観では仕方ないのかもしれませんが。男性らしさ・女性らしさのイメージ、ジェンダーの問題を解消すべきだと私も思いました。様々な活動をしていると、新しい課題がどんどん見えてくると思います。添えでもあきらめずに、芋づる式に様々な問題が解決できるように私も、皆さんも頑張り続けましょう
- 発表お疲れさまでした。私もヘアドネーション経験者です。ヘアドネーションの実演は見たことも行ったこともなかったため、斬新な活動に衝撃を受けました。映像越しではなく、リアルタイムで見るということで伝わる情報量が多くなるのではないかと感じました。また、高校生の時にヘアドネーションを校内で推進する活動も行っていました。その際、文化学園長野高等学校さんと同じように、性別への偏見が問題となりました。今後、引き続きヘアドネーションの推進を行いつつ、ジェンダーの問題にも取り組むことが重要であると改めて感じました。これからも頑張ってください。
- 今の時代の現状を、幸福度という視点から考え、ヘアドネーションという活動へとつなげているのが印象的でした。環境の取り組みなどを行っている学校が多い中で、ヘアドネーションに目を付けたのはとても新鮮で驚きました。人と人がつながるということにおいて、変わったところから見ているのが面白かったです。ジェンダー的な意見がなくなればもっと規模の広い活動になると思いました。
- 「つながり」について考えるとき、連絡手段が年齢によって異なるということはかなりの障害になります。それぞれに適切なツールを使用する事の大切さが良くわかりました。ヘアドネーションについて、男子の希望者がいたこととそれによってジェンダーの壁が明らかになったことは、非常に興味深い事柄です。特にジェンダーの壁について、これは実際に行動しなければわからないことであり、男女平等を議論する新しい切り口かもしれないと感じました。
- 今日は発表していただき、ありがとうございました。ヘアドネーションは私もしたことがあります。1つのウィッグを作るために何十人もの髪の毛がいるのにも関わらず、ヘアドネーションが広がっていないのは悲しいですね。人と人とを繋げるという発想からヘアドネーションやSDGsの3の目標につなげていったところが非常に良いと思いました。文化祭で実際にドネーションを披露したり新聞社と協力したりと発信力が素晴らしいと思いました。まずは自分たちの周りから広める姿勢が大切だと思いました。ヘアドネーションは誰もができることであるけれども、すぐできることではなく時間がかかるものです。ヘアドネーションをした側、ヘアドネーションで提供してもらった髪でウィッグを作ってもらった側、それぞれの感想があるともっと広まっていくのではないかなと思いました。ジェンダーという新たな課題が生まれたので今後も課題解決、克服に向け、頑張ってください。
- 高校生に代わっての発表、お疲れさまでした。ヘアドネーションという言葉は何度も聞いたことがあり、私自身髪が長いので、友人や家族からやってみたら？と言われることも何度かありましたが、勇気が出ずやったことはありませんでした。今回の発表を聞いて背中を押してもらった気がするので、やってみようかなと思います。男子生徒が髪を伸ばすのをやめてしまった話を聞いて、いまよく耳にする多様性という言葉がもっと広がってジェンダーの壁がなくなり、個人の自由にできるような環境づくりも大切だと考えさせられました。男性だから、女性だから、といった考えや偏見を持つ人が今より少なくなって、全員が生きやすい社会になることの大切さを改めて感じました。
- 予測不可能な時代を生き抜く中で、人と人の繋がりが大切になってくる／しなければいけないというのはとても同意できる主張でした。偏見など人間の無意識的な行動や心理ほど克服するのは本当に難しいという点も同意です。だからこそヘアドネーションのうように、人を思いやる行動を意識していきたいと思える発表でした。
- ヘアドネーションは最近よく耳にしますが、高校の文化祭の中で行うのはとても画期的で広められる活動だと思いました。世代に合わせて広報の方法を変えている点もしっかりと考えられていて参考にしたいです。また、髪の毛を通して繋がりを作るという考え方がとても良いと思いました。ジェンダーの問題については私も考えていることで講義で学んでいました。人の役に立ちたいのにジェンダーバイアスによって妨げられてしまうの

は残念です。問題点は出てくるとはありますが、これからも頑張ってください。私も考えていきたいと思います。

- スケジュールの変更で大変であったと思いますが、発表者の中学生の方がしっかりと話しされている姿が印象的でした。人とのつながりという視点からヘアドネーションの取り組みにつなげるという発想はおもしろいと感じました。私も高校生の頃にヘアドネーションについて知り、一度寄付をしたことがあります。もちろん寄付をするという貢献の仕方もありますが、広報活動やイベントの企画など様々な活動へのかかわり方を示されている点が素晴らしいなと思いました。ありがとうございました。
- ヘアドネーションは多くの人の髪が必要なため、非常に大変だということを知りました。PR動画を作ることで周りの人に周知させることができ、良い活動だと思いました。発表でもおっしゃっていたようにジェンダーの観点から男性が髪を伸ばすというのには抵抗もあり、まだまだ課題が残っていると思いました。
- ヘアドネーションに興味がありましたが知らなかった事がありまた自分も人の役にたてるようになりたいとおもいました！また友達などに広めていければいいと思いました!!
- 「つながり」について考えるとき、連絡手段が年齢によって異なるということはかなりの障害になります。それぞれに適切なツールを使用する事の大切さが良くわかりました。ヘアドネーションについて、男子の希望者がいたこととそれによってジェンダーの壁が明らかになったことは、非常に興味深い事柄です。特にジェンダーの壁について、これは実際に行動しなければわからないことであり、男女平等を議論する新しい切り口かもしれないと感じました。

会場④-5 **長野県木曾青峰高等学校**

活動テーマ 青峰里山プロジェクト(ビデオ発表)

発表概要 地域で遊休化している農地を整備し、地域の子も達に自然豊かな里山を体験してもらえる機会をつくることを目標に、「青峰里山プロジェクト」に取り組んだ。地域の方々にご指導いただきながら、草刈り、道路や水路の整備、野草観察、水田ビオトープづくりに取り組み、沢山の生き物が訪れる「青峰里山パーク」が完成した。11月には、地元保育園や小学校の子も達とともに、里山の自然にふれあう交流企画を実現することができた。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表 & 交流会

～実践記録～

1. 学校名：長野県木曾青峰高等学校

2. 対象：高校3年生・6名
(学年・人数)

3. 活動内容

(1) 活動名 「青峰里山プロジェクト」

(2) 活動の目標

- ・地域で遊休化している農地や山林など里山を整備し地域農林業の活性化をはかる
- ・地域の子も達に自然豊かな里山を体験してもらえる機会をつくる

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- 多様性 (多種多様な現象が起きていること)
- 公平性 (一人ひとりを大切に)
- 相互性 (関わりあっている)
- 連携性 (互いに連携・協力すること)
- 有限性 (限りがある)
- 責任制 (責任を持って)
- その他 ()

②育成する資質・能力

- 批判的に考える力
- 他者と協力する力
- 未来像を予測して計画を立てる力
- つながりを尊重する態度
- 多面的・総合的に考える力
- 進んで参加する態度
- コミュニケーションを行う力

(4) 関連するSDGs

- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

- ①地域の里山調査 (写真1)
地域で遊休化している里山を踏査し、その歴史や管理の課題について、地域の農家さんと地主さんから聞き取りを行った。
- ②遊休農地の整備 (写真2)
調査をもとに、遊休農地の整備計画を立て、地域の方や本校卒業生の指導をいただきながら、草刈り、圃場や水路、通作道の整備に取り組んだ。
- ③水田ビオトープの整備 (写真3)
長年遊休化していた水田の水路や畦を再生し、沢水を活かしたビオトープに再整備した。今後水田をとして活用する準備を行った。
- ④植物調査と野草園の整備 (写真4)
長年薬草研究に取り組み、信州大学でも講師をつとめた小谷宗司先生のご指導のもと、対象地の植物調査と植物名やその活用方法をしめす案内プレートの作成に取り組んだ。
- ⑤間伐材を活用した休憩施設や橋の整備 (写真5)
間伐材に活用方法を探り、ベンチや圃場間を移動するための橋の整備を行った。
- ⑥里山の魅力と整備の大切さを伝える里山講座 (写真6)
地元保育園や小学校を対象に、里山の自然の魅力や、整備の大切さを体験から伝える講座を企画し、交流を深めた。



写真1 写真2 写真3



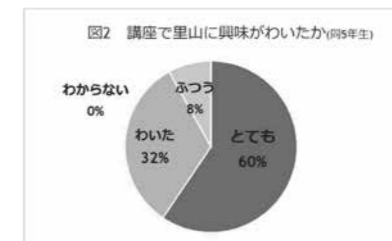
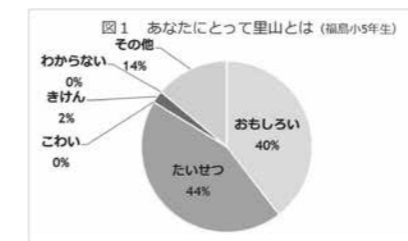
写真4 写真5 写真6

4. 活動の成果

プロジェクトでは、これまで人の手が入らず、獣害被害の原因ともなっていた荒廃山林や農地の整備を行い、高校生をはじめ地域の方々から自然について学び親しむことのできる場として再生した。整備活動では、これまで地域環境を守られてきた先輩方のご指導をいただくとともに、仲間と試行錯誤しながら、環境保全技術や自然と人の関わりについて一年間を通して学ぶことができた。

自然植生に配慮した除草管理や、水田ビオトープ整備により、40種以上の植物や、多様な昆虫、水生生物を観察することができ、多様な生物を育む里山環境となった。

一年間の活動をまとめ、子ども達に里山の自然を体験してもらい里山講座を企画し、地域の自然や人の関りで生まれる里山環境の豊かさを、体験をもって伝えることができた。子ども達の感想やアンケート結果(図1, 2)から、身近な生物や里山への関心を深めることができたと考えられる。



5. 指導方法・体制の工夫

- ①地域農家さんのご助言 ※地域の歴史や獣害対策
- ②土木技術者(本校卒業生) ※水路や畦の整備(生物に配慮した土水路整備について)
- ③薬草研究者小谷宗司先生 ※植生調査・野草園の整備

感想

会場④-5 長野県木曾青峰高等学校 発表を見た方からの感想

- コロナ禍で大変な中、交流を大切に地域の里山の活性化を図っていて素晴らしいと感じました。子供たちと交流することによって、里山を大切にしようという姿勢が子供たちにも伝わっていくと感じます。
- 高校でのプロジェクトを行う時に、高校生と教員だけでなく地域のプロフェッショナルな人たちと活動できることで、活動の幅が広がり学ぶことが多いことを強く感じました。里山を利用したプロジェクトは自分が想像している以上にあることを知れたので、地域の自然を未来につなげる大切さを考えるきっかけになる素晴らしい発表でした。
- 放置された里山に目を向けることは、人間が過去に自然とどう付き合い生活してきたかを知るきっかけともなり、自然に対する在り方と環境破壊の現実について学べる契機になると感じました。ガーデン利用のイノシシ被害は残念でしたが、どれほど荒廃しているかの認知にもなり、それを伝えていく手段として交流を設けていたのも次世代に語り継ぐ視点において、非常に有用であると感じました。
- 里山活動を地域の子どもたちとつなげるための、3つのプロジェクトを立ち上げたこと、そしてそのどれもが内容の濃いもので、素晴らしいと思いました。その中でも、私は2つ目の関心やモチベーションを挙げるために、オリジナルの作業着を作ったり、木曾ヒノキをつかったベンチやスモールハウスをつくったり、伝統野菜や山菜を活用した取り組みが興味深かったです。木曾ヒノキは、小さい頃私が木曾にある赤沢自然休養林に行ったときに初めて木曾ヒノキの香りを知り、好きになったので、それでベンチやスモールハウスを作ったのは良いなと思いました。次世代に青峰里山プロジェクトを引き継ぐことが課題であるとありましたが、良い伝統を引き継ぎつつ、その時代に合わせた取り組みを次の世代にも続けてほしいなと思いました。
- 里山を子供たちに体験させる場を設けたいという思いから、整備をするという活動を高校生がすること自体すごいことだと思いました。自分は出身地が比較的都会で自然とは正直無縁だったので地域の自然を大切にしたいという思い自体大切にすべきだと感じました。作業着の商品開発にも表れていると思いました。
- 大学の里山についての講義や県が主催する里山活用について考えるワークショップに参加した際に、課題の顕在化と解決策の立案を行ったことがありました。発表を聞き、解決方法を考えるだけの活動は机上の空論に終わってしまうのだと感じました。実際に手を動かし、生活を体験することで次世代に真の課題が見えるのだと感じました。
- 里山の多くの活用の仕方を見出し、それを広めたり実際に行動に移している姿を見て感心しました。私はあまり里山について深い知識はなかったのですが、わかりやすい発表で、里山の活用の可能性が感じられました。今後どのように活用されていくのか楽しみです。ありがとうございました。
- 発表ありがとうございました。木曾地域の農林業への解決策として青峰ガーデンの整備をしていく中で自然災害や害獣といった実際の農業の中でもみられる困難を受けつつも、自分たちにできることを考えて、実際に成し遂げていらっしゃるのを見て見習うべきところが多いなと感じました。木曾地域は自然豊かで自然と触れ合える里山などがあれば移住してきたいという人もいるのかなとも思いました。
- 里山の保全とそれを生かした子どもたちのための環境整備は私も重要だと感じていました。今の子ども達は外に出ることがなく、家の中で過ごすことが多いため子どもの運動能力が低下している現実があります。実際、転んだ時に両手が出ない子どももいるそうです。その結果大けがしてしまうこともあるそうです。その面から子どもたちに外での活動場所の提供は必要なことでありそれに伴って里山を整備することは町のためにもなるのでとても素晴らしい活動だと感じました。いまの日本では放置されている里山が多くあるのに対し高齢化が進むことでこのままだと生態系にも影響が出ることからもっと里山について考えるとともに活用していくことが多くの地域で求められると感じました。ほかにも農業も里山と関係あることから様々な面で問題をとらえる必要があると感じました。これから先、里山について考えなくてはならないときが来ると思うので是非皆さんの活動が全国に広まってほしいと感じました。これからも頑張ってください。
- 地域の環境、自然を守るためにさまざまな交流を通して、問題点を抱えながらも活動を行っているのがとてもいいと感じました。農業をする人の人工不足はとても大きな問題だなと感じました。これから今まで普通に食べられていたお米などが食べられなくなると思うとぞっとしました。
- 里山を活用し農林業活性化の活動を地域の子どもたちとつなげていっているのがいいなと思いました。作業着の作成やベンチの作成、野菜の栽培など幅広い活動をし、さらに世代をこえ、地域を巻き込んだの活動が持続可能な社会に向けてとても有効的だなと思いました。発表ありがとうございました。
- 自然や整備されていない土地をそのままにせず、活用できるもの、人々が繋がれるものを目指していることが伝わってきました。コロナで活動が滞ってしまったことは残念ですが、これからもっと良いものになっていくと思います。

● 豊かな自然を次の世代へ引き継ぐ！というテーマにおいて、人間が自然とどう共存していくのかというところだけでなく、世代を超えたつながりを活かすという文言がとても素敵だと思いました。また、地域の方々との協力しながら活動している点もすごく良いと感じました。

● 人口減少・高齢化の問題が特に深刻であるので、全国で起こりうる問題に対して、問題解決するモデルケースの先駆けになり、試行錯誤も難しい中すごいなと思いました。今後、似た境遇の地域が出てくると思うので、参考などにできたらいいなと思いました。イノシシなどの獣害の原因とそれに対する解決策は実現できない困難な問題だったのか気になりました。子ども達が楽しめる施設づくりにおいて、提供する側は安全を確保できるように多くの知識が必要だと思うので、この取り組みはすごいなと思いました。また、子どもに楽しんでもらえるような工夫も考えていて、すごいなと思いました。特産品開発において、地元の人にアドバイスをもらいながら、若い皆さんのアイデアを取り入れることができたな良いなと思いました。

● 過疎化や高齢化がとても重大な課題となっているとても感じました。コロナによってリモートワークが増え、郊外に移住する人も少なくないそうです。青峰高等学校さんの活動によってそのように木曾やいろいろな地域に人が戻ってくるといいなと感じました。またインスタグラムも早速フォローさせていただきました。プロフィール欄にどんな活動をしているのか、どのような団体のインスタなのか説明文があるともっとわかりやすくなり、フォローしてくれる人が増えるんじゃないかなと思いました。

● 発表お疲れさまでした。私自身、過疎化やそれに伴う獣害、森林害虫被害が深刻な問題となっている地域の出身です。高校、大学への進学と同時に地域から離れてしまったため、地域で直接活動できる機会がなかなか持てず、そのことを心苦しく思っていました。しかし、木曾青峰高等学校の活動を知ることにより、さらに下の年代へ引き継ぐ、伝えるということも重要なことであると学びました。私は現在教育に関わる仕事に就くことを目指していますが、このように下の年代に働きかけるという形で関わることが出来るということで、今後への期待が高まりました。今後も頑張ってください。私自身に自分のできることを頑張りたいと思います。

● 里山を活性化させるためにベンチやスモールハウスを建て、子どもや地域の人たちと交流を図る点が最も印象に残りました。ベンチやスモールハウスを作るのにも木曾のヒノキを使うことで、森林を活用しているところが良いと思いました。また、作業着を作るという試みも新しく、興味深いアイデアだと思いました。いろいろな工夫を重ねながら、里山を守っていく様子がよく伝わってきました。

● 里山について先輩に教えてもらうだけではなく、「里山教室」で知識をさらに広げている姿に活動の広がりを感じました。特産品の生産や木材の活用に関する様々な活動も、さらに広がればと願っています。ヒノキで作ったベンチについて触れられていましたが、どんな場所に設置されたのかについて知りたいと感じました。

● 今日は発表していただき、ありがとうございました。自分たちの地域にはどんな問題があるのか、その問題に対してどのようにアプローチしていくのが良いかを考え、実践していく姿勢が良いなと思いました。里山プロジェクトを始動させ、獣害対策、水田の再整備、ピオトープや山菜田、野草園の整備、農林業の活性化のために作業着を生徒自ら作ったり、世代間を超えた交流として地域の子どもたちへの里山体験会を開いたりと本当に様々な活動をしていて素晴らしいと思いました。他の里山を活性化させようとしている地域との交流会をするとまた新たなアイデアが増えて面白いのではないかと思います。これからも頑張ってください。

● 農林業の担い手不足を解決するために作業着を作成したり、伝統野菜・山菜の商品開発をしてもっと関心をもってもらおうとする活動に魅力を感じました。また、子どもたちに里山教室を開くのは、子どもたちの興味関心を得るために効果的な活動だと思います。私自身、祖父母が農業を少しやっていますが、小さいころから野菜や土に触れてきたので農業に対する関心はある方だと思っています。小さい頃に農林業に触れることで、年齢を重ねても関心は薄れにくいと思うので、子どもたちに里山教室をこれからも開いてほしいなと思いました。発表お疲れさまでした。

● 私も地元で里海プロジェクトに参加した経験があるので、里山づくりプロジェクトにとっても興味が湧きました。作業着を自分たちで染めて制作する活動も伝統芸術の分野に絡んでいて、広い分野で活動していると感じました。自然を楽しみながら挑戦している姿勢がとても魅力的でした。

● 里山が大事だということはよく聞きますが、それを行動に移して活動していることが素晴らしいと思います。地域の問題を自分たちのこととして考え、子どもたちに興味を持ってもらえるイベントにするのは良いと思いました。また、作業着を作ることで一体感も出るし、世代間の交流にも繋がると感じました。先輩を頼るといっても、後輩に頼られることは嬉しいと思うのでそういった縦の繋がりを大切にしていることがとても魅力的に感じました。これからも里山を守る活動を頑張ってください。

● 里山プロジェクトに際して、先輩から学んだり、子どもたちと遊びながらその学びを伝承したりする姿が印象的でした。学ぶ中で難しさを感じながらも、課題に向けて取り組み続けることが大切なのだと感じました。SNSを通して活動を発信されているとのことで、拝見させていただきました。楽しそうな活動の様子が伝わってくる写

真ばかりで、こうした投稿に興味を持ち、活動が広がることもあると思いました。ありがとうございました。

- お疲れ様でした。私は普通科高校の出身で当時の自分の学びを振り返ると、特色ある学びのある高校をうらやましく思います。とことんつきつめていきたいと思えるようなことが、高校時代に一つでもあったら、また私の高校時代ももっと面白かっただろうと振り返るからです。現在、小学校教諭として小学校で勤務しておりますが、地域とのつながりというと、多くは社会人や高齢者とのつながりが多く、高校生とのつながりはあまりありません。しかし、みなさんのように、地域のこどもたちと一緒に、地域のことを考えてみたり、これからを想像してみたりすることは、小学生の子供たちにとってエネルギーがわくものであると感じます。勤務校の近くの高校生と何かできないか、考えてみたいと思います。ありがとうございました。

- 地域の課題を根拠ある資料などを基にしながら、皆さんの周辺にある課題を解決する組織立てた活動は、頼もしく感じられます。また、それを後輩の諸君に伝えようとする姿に、もの作り(職人)としてのたくましさ、地域を存続させるために後輩諸君に課題を伝える教える者としての眼差しが感じられます。一層の発展を期待しています。

- 関心を持ってもらうため作業着を作成していて面白いと思いました。里山を最大限活用していて非常に感じました。また野菜などの栽培や作業着の作成によって広い世代の人たちが里山に興味関心をもってもらえると思いました。

- なぜそういった活動をしようと思ったきっかけは何でしょうか。

- 地域の問題に根差した活動、関心いたしました。特に地域の保育園などとの交流は本当に素晴らしいなと思いました。本校も3年前から自然科学部という部活で飯山市の里山で地域の方の指導のもと、棚田での米作りや森林整備などの活動をしています。こちらはあくまで普通科ですので、まだまだ学んでいる段階ですが、またどこかで里山部との情報交換の機会が持てたら嬉しく思いました。本日はお疲れさまでした。

- 里山について先輩に教えてもらうだけでなく、「里山教室」で知識をさらに広げている姿に活動の広がりを感じました。特産品の生産や木材の活用に関する様々な活動も、さらに広がればと願っています。ヒノキで作ったベンチについて触れられていましたが、どんな場所に設置されたのかについて知りたいと感じました。

会場⑤-1 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(5年生)

活動テーマ 創ろう、魅力ある屋久島

発表概要 八幡小学校の5年生は、昔ながらの米作り体験を通して、屋久島の文化や産業について考えてきました。昔ながらの米作りの利点や課題を整理していく中で、屋久島の環境を守っていくためには、昔ながらの方法も続けていくべきだと考えるようになりました。当日は、SDGsと関連させて学習のまとめを発表します。

感想

会場⑤-1 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(5年生) 発表を見た方からの感想

- 花壇を田んぼにすることは画期的な発想だと思いました。稲作は遥か昔から存在するのでこの経験はとても大切であり、思い出にも残ると思います。自らの手で作るコメは達成感と米作りの大変さが分かったと思います。また、課題点や解決策なども理解していて素晴らしいと感じました。

- 私も小学生のころコメ作りを行ったので、大変だということをよく知っています。それと同時に、米作りのやりがい、皆と協力することの楽しさ、そして自分で作った米のおいしさを味わえたと思います。示してくれた写真の様子から、楽しそうに作業しているみんなの様子が伝わってきて、素晴らしい発表でした。

- 体験したことについて順を追って説明があったことで、様子が目に浮かぶようでした。スライドには英語での説明が書かれており、工夫されていると思いました。さらに良いところだけでなく、課題と解決方法に分けて分析していたことで、深い学びができたのだと感じました。

- 具体的に考え課題をもって活動していてよいと思いました。米作りから学びを得ているところがよいと感じました。米作りの良い所をみんなで考えて箇条書きで書かれていてわかりやすかったなと感じました。これからも地元のことについて学びを深めていってほしいです。

- 花壇から新しく田んぼを作って米作りに挑戦してみたということから環境について学んでみたということでしたが、昔の道具を使ってだっこしたり、わらをにわとり小屋に使ったりと素晴らしい活動でした。今回の活動を通じて米作りだけでなくどんな活動がSDGsと結び付けることができるのか考えていけるとさらに良いと思いました。これからも考え続けてみるということを頑張ってみてください。

- お米作りを通した発表で、とてもよく活動できているなと感じました。課題を見つけるだけでなく、きちんと解決方法まで考えられていてとてもよいと思いました。特に、一人では作業が難しくくて大人数で作業する必要があることに気づけたことは、体験しないと気づかないことだと思うので、とても素晴らしいことだと思いました。これからも頑張ってください。

- 分からない言葉があっても、写真や絵と共に説明がされていたのでとても分かりやすかったです。体験をするとより深い学びができるし、お米を小学校で作ること下下の学年にも受け継いでいけることで米作りを継承できるという考え方が素敵でした。米づくりの課題から解決方法も見つけ出して活動しようとしているところがいいと思いました。

- 昔ながらの方法で米作りの体験をしたというところと、それがSDGsと関連付けられている、というところに今回の活動の価値がとても感じられました。今回のような自然を相手にした体験は、今後行う活動にもきっと活かすことが出来ると思います。

- 花壇を田んぼにするところから始めていて驚きました。自分たちの経験から米作りの課題と解決策を考えつつ、SDGsとの関連性を明らかにすることができていて、主体的な学びができていました。今後は米作りで得た学びをさらに深めて「14海の豊かさを守ろう」「15陸の豊かさを守ろう」に着目し、田んぼが自然の一部としてどのような役割を担っているかなど考えてみたら面白いのではないかと思います。

- 稲の田植えから収穫まで一連の流れをしっかりと振り返る事ができているため、もし次に田植えをするときには、すべて教えて貰わなくてもスムーズにできるようになっていると思います。一方で、農薬を使わない＝安全ということ説明していましたが、農薬を使わなかったら収穫量や収穫物の見た目はどうなるのでしょうか。皆さんが普段食べている野菜などは安全面を考慮した上で農薬が使われているものが多いと思います。興味があったら、農薬に関してもう少し詳しく考えてみてください。また、私は新潟県出身で、お米に対しての愛とプライドがあります。鹿児島からも美味しいお米をさらに広めて行って欲しいと思います。

- 素敵な発表ありがとうございました。せんばこきなどの昔の道具を使ってどんなことを感じましたか？現代は収穫や脱穀がすべて機械できる中で、昔ながらの大変さや昔の人の苦勞が感じられたら良いなと感じました。

●お米作りを一から生徒たち主体で行っている様子は、とても良かった。自分が聞き逃してしまっただけかもしれないが、専門の方をお呼びして、行ったのか、学校の人たちのみで行ったのか気になった。問題解決をし、さらに課題が出てくることは素晴らしいことだと思う。

●学校の花壇にコメ作りをするに当って何をするのか言葉だけではなく、自分達で描いた絵や写真で説明していたので、分かりやすい発表でした。稲作をするにあたっての課題を自分達で見つけて解決方法を考えることは主体的な学習であると思いました。

●説明の際に日本語と英語が書かれた文章とイラストや写真を示していたのは、グローバルかつバリアフリーで、分かりやすくとても良い工夫だと思いました。毎日食べているお米を扱うのは親しみやすく楽しく学べる教材だと思いました。

●田植えをしてから稲刈りをするまで水の管理や草刈りなど丁寧に米作りをされていましたね。皆さんの発表にもあったように、見るだけでなく実際に自分たちでやってみると初めてわかることがたくさんありますね。また、課題も見つけながら活動されていたところが素晴らしいと思いました。

●素晴らしい発表をありがとうございました。屋久島町立八幡小学校の皆さんの発表を聞いて感じたことは、米づくりを田んぼづくりから始め、昔の道具を使うなど、八幡小学校だからこそできる活動を行っている点が、地域の特色(自然の豊かさや人の温かさ)を活かしていて素晴らしいなと思いました。私も小学校第五学年に米作りをしました。私の地元では五郎兵衛米というブランド米があります。その地域にあるブランド米の歴史や作り方を学習し、実践するという活動は今でも強く印象に残っています。私たちの地域で作られる五郎兵衛米は東京や大阪など遠くの地域で食べられておいしいと言われていることを知り、嬉しかったという思いもしました。そこで、八幡小学校のみなさんにも、自分たちの地域で作られたお米はどこで食べられるのか？歴史や文化にはどのようなものがあるのかを知るとさらに自分たちの地域に愛着が湧くのかなと思いました。

●作業を一つ一つていねいに米作りをしていたことが発表から伝わってきました。私も小学校五年生のときに米作りをしました。ここまで細かくやっていなかったと思います。今回学んだことを活かして、これから米作りにチャレンジする人たちに伝えていってください。発表ありがとうございました。

●地元の人から、稲刈りの仕方や大変さ、それを昔から行っていることに驚きました。どれだけ不便で大変な事だったんだろうと私も感じました。また、この発表を聞いて、コメ作りを始めて詳しく聞いてよくわかりました。

●花壇を田んぼにして、その花壇で米づくりをすることを通して様々な課題を子ども達で発見し、その課題を子ども達自身で解決していく姿が伝わってきました。また、水の管理など難しく、毎日行ったことを聞いて、子ども達の中で継続する力も身についたのではないかと思わせる実践でした。

●屋久島の米作りをきっかけに、自分の町の文化や産業の特色を学ぶと追う流れが素晴らしかったです。また米作りの課題点を話すことが問題解決を実践の場で行うことにつながっており、勉強になりました。そして現在重要視されるSDGsと関連付けた発表になっており、素晴らしかったです。

●米作りを初めて行ったということで、米を作ることだけでなく、お米のいいところや作ることのよさなどに気づくことができていたのではないかと思います。また写真や手書きの絵などを見せて頂いたことによってより活動の内容が分かりやすく伝わったと思います。

●屋久島で稲作ということがすでに驚きだったのですが、子どもたちがそれぞれに体験に終始せず、課題をもってやっているのが素晴らしいと思いました。

●実際に米作りを体験したからこそ感じるができる良さや大変さが見えるということを学ばせていただきました。田車を用いた活動など、現在だと農業等で済ませてしまう部分を人力で行うことで、環境にかかる負荷を軽減することができる上、先人たちの苦労も学ぶことができる素敵な活動だと思いました。また、わらやもみ、ぬかも鶏や畑の肥料に活用することは循環型農業を肌で感じられる活動だと思いました。ただ単に米作りをするという活動から、先人のことを考える視点、循環型社会を考えるという視点が組み合わさる素晴らしい米づくりの活動になっているように感じました。米作りの活動に対する考え方が少し変化してきました。ありがとうございました。

●米作りを体を通して具体的に経験して行くことを課題解説していく姿に、探究的な姿勢が見られました。

●お米のことが調べられており、様々な観点から発表ができていて素晴らしいなと感じました。今後も地元のことをテーマとした活動を続けていってほしいと思います。発表も堂々としていて素晴らしかったです。

●花壇を田んぼにして、地域の方々指導をいただき、稲作を体験出来て良かったですね。「つくろう魅力ある屋久島」をスローガンに取り組まれているのは素晴らしいです。翌年のためのもみの確保もされていることは持続可能な活動としてとても大事だと思います。SDGsにおいて、2・12・14・15に関して繋がる活動だったと思います。

会場⑤-2 高山村立高山小学校

活動テーマ 高山小学校 ひとりだち ともそだち

発表概要

長野県の北部にある高山村。地域と学校が一体となって、未来ある子どもたちを育てています。今日は、地域と共に歩む学校の地域学習、親子で学べるわくわく村、そして6年生を中心に活動する児童会活動、4年生の総合的な学習の時間「ごみへらし大作戦」の取り組みを紹介します。今日発表者をつとめる4年生の子どもたちは、社会科のごみの学習で見学した村の施設「地力増進センター」の仕組みをきっかけに、自分たちのできるごみの減量方法を考えました。ごみの減量が地球温暖化を防ぐことにつながることを視野に入れながら、自分たちができることで小さな一歩を踏み出そうとしています。

感想

会場⑤-2 高山村立高山小学校 発表を見た方からの感想

●児童会でもSDGsに繋げた活動を児童たちで考えて取り組んで、意識を高めて行こうとしている様子が伝わってきました。また、地域やPTAと協力し合い、児童たちと大人たちが一緒に学ぶ機会があることもとても印象的でした。そして、児童たち自身で考えた活動を自分たちで主体的に活動している様子が伝わりました。

●素敵な発表をありがとうございました。地域の方から学ぶ「わくわく村」の取り組みは面白いと思いました。災害時に役立つサバイバル飯など面白そうな講座ばかりだと思いました。高山小学校のみなさんはSDGsの一つ一つの内容を理解して取り組んでいることが伝わってきました。

●素敵な発表ありがとうございました。漠然とSDGsに取り組むのではなく、どのゴールに対して、どのような活動が必要なのかが考えられていたところが良かったと感じました。SDGsをしっかりと理解しているのだなと伝わってきました。

●学校と地域が強くながっているはとても良いと感じた。学校内だけではできないこと、教師だけでは目が届かなくなってしまう場合があっても地域の人との密着があれば様々なものに挑戦することができると思った。8つの隊の内容はどのようにして決めたのが気になった。

●生ごみ再生を学んだことから、ごみを減らすために自分たちにもできることはないのかということを考え実行に移していく様子から、大きな問題を解決するために身近な問題から解決していくという問題解決の本質に近いものを感じ取りました。これからも8つの隊の活動を引き継いでいきながらゴミの少ない未来づくりのための活動を続けていっていただきたいです。素晴らしい発表ありがとうございました。

●沢山の活動を通してこの活動はSDGsのどの項目を満たしているのかを見ることで生徒の関心がより高まると思いました。社会科で学んだゴミについて、興味を湧いて相互の学習として自分達にも出来る事がないのかという教科の繋がりがあって素晴らしいと思いました。

●地域の人や保護者、公民館などとのつながりが多く、活動の幅が広くていいなと思いました。高山村のゴミが栄養のある土に変えられていることを知ったり、3Rから様々な隊を作り上げたりと、社会科から学んだ内容をよく活かすことができていると思いました。再利用などをして作った作品のクオリティがとても高かったです。

●高山村が生ごみを出さないというのはすごい取り組みですね。今回は全てのチームのことを詳しく聞くことができなくて残念ですが、ほかのチームの取り組みも聞いてみたいと思いました。Tシャツを作り変えるという活動では、考えるだけではなく実際に自分たちで作るところまでやっているのが素晴らしいと思いました。

●素晴らしい発表をありがとうございました。高山村立高山小学校の4年1組のみなさんは、学級目標を立てる際、児童達の中からSDGsという言葉がでて、そこからSDGsに関心を持つようになったとありました。SDGsについて調べ、そこからSDGsの歌を歌い、全校に広めていく活動をしていました。特に印象に残ったのはSDGsの目標を達成するために「目的・意義」「具体的な活動」をそれぞれに挙げて、実践している点です。4年1組では「～隊」というグループごとに役割を変え、その隊で何をするのか？その活動で何を達成したいのかを各々に明確にしていました。そして、学級訪問で活動を紹介する際には、具体的にどのような活動が自分たちに出来そうかを紹介することでうわべだけの活動で終わらせないという思いも伝わりました。今後、高山小学校4年1組の活動を多くの人に拡め、たくさんの「～～隊」ができることを願っています。私も「～～隊」を出動させます！

●発表からごみをつくりかえて新しい価値を生みだすよさを伝えたいという思いが伝わってきました。今回の発表を聞いて私もこれからいらないものを使えるものにつくりかえて再利用していきたいと思いました。発表ありがとうございました。

●SDGsについて深く考え始めたのは中学生くらいだったのにこの時期から考え自分には何ができるのか、体験を様々

行ったりと多くの学びができたのではないかと感じます。自然に囲まれているから環境について興味がわくが、都会だと環境への興味がわきづらいと感じました。

- 児童会のSDGsへの取り組みやわくわく村、ゴミを減らすための活動など高山小学校の様々な活動について知ることができました。特にゴミを減らすためにいらぬ服をぞうきんやマイバッグにする活動が印象に残った。子どもが作ったマイバッグを見させてもらったがとても良くできていて驚きました。
- 小学生ながらにSDGsを意識するマインドが身につけており素晴らしいと思いました。またSDGsを知識として身に着けるだけでなく、ゴミを減らすための活動を通して自分たちで達成するものとして考えていることでありとても参考になりました。
- SDGsの活動に関してリサイクル、リデュース、リサイクルなどの視点から考えてみたり、自分たちにもできることはないかと模索している姿は自分も見習わなければならないと感じました。またSDGsについて他学年にも知ってもらう活動も行って、周りにも影響を及ぼすいい活動だったのではないかと思います。
- これから課題になってくる環境問題に真剣に向き合っている姿が伝わりました。地域の人々と協力することはSDGsの解決に近づく方法の一つであると思うので、良い取り組みであると思いました。グループ活動は協同する力を育むことに最適な活動であるので、これからも続けていってほしいです。
- 地域とのつながりの深さがとても伝わってきました。また、総合的な学習の時間以外での学びを、総合的な学習の時間に生かして、様々な方向からSDGsのために活動していることがよくわかりました。具体的な物を提示しての発表は、非常に伝わりやすかったです。
- 地域との連携活動については、目に浮かぶような詳しい説明でした。その中でも、「総合的な学習の時間」でのゴミ出し大作戦の発表が印象に残りました。社会見学がきっかけとなり、3Rを意識して8つのグループに分かれ、自分たちにできることを始めたとのことでした。コロナ禍で学校外での活動が制限されている中、それでもできることを考え、工夫して行っていることが伝わってきました。コロナ収束後の、地域に広げた活動に期待しています。
- SDGs観点で児童会を進めており、良いと感じました。社会見学でゴミの施設を見て自分たちでゴミ拾いをしようと考えたことがすごいと思いました。8つのチームが行っていることは一つ一つ社会にいい貢献をしていると思います。とても良い活動です。特にTシャツからマイバッグを作っていることが素敵でした。発表の準備も丁寧になされており、自分自身も学ぶことがあると思いました。
- ゴみのリサイクルや自分たちの使わなくなった服を使ってエコバックやぞうきんを作るなど八つの部門に分かれて調べ学習をしていてとても良いと思いました。長野県の川から海でのプラスチック問題に触れていくという活動もすばらしいと思ったのでこれからも疑問に思ったことを調べるといことを大切に環境について学んでいっててください。
- 自然やゴミ問題についてよく調べられていました。特に、紙のリサイクル箱を新聞紙で作ったりペットボトルでコップなどを作ったり具体的な行動を起こしてすごいと思いました。川のプラスチックゴミに関しても、普段長野県に住んでるとあまり気づけないことであると思うので、さらにいろいろなことを調べてみると面白いと思いました。
- 委員会の活動でSDGsに繋がった活動を行っていて、SDGsの生徒への関心が増えていることが素敵でした。自然豊かな地域で社会科見学や自然の中でただ過ごすだけでなく、その場所だからこそ学ぶことができることを精一杯学ぼうとしているところがよかったです。長野県は海がないけど、長野県からの水が海につながっていると知ってそこから海を綺麗にしようとする対策やゴミを減らすための方法を考えているのがいいと思いました。
- 3Rに基づいたゴミの削減についての発表ありがとうございました。特に使わなくなった服で作ったエコバックがきれいでぜひ使ってみようと思いました。児童会が行っている全校でのSDGs活動や地域の方々から学ぶ学習会を今後も続けてほしいなと思います。
- 自分たちで工夫してゴミを減らしたり活用したりする活動をしていて素晴らしいと思いました。今後はもっといい方法はないか、自分が実施した活動の問題点は何で、どうすれば解決できるのかを考えていくと、より深い学びになると思います。(例えば、使わない文房具を海外に送る活動は、無駄をなくすという環境的な面から見ると持続可能かもしれませんが、しかし、文房具を受け取っている海外の方は自分たちで生産して使っているわけではないので、他国から文房具が送られてこなくなると自国でどうすることもできません。それは持続可能といえるのでしょうか？ぜひ考えてみてください！)
- 児童会活動でゴミの削減に取り組んでいると聞き、学校全体でSDGsを考えている点が魅力的でした。また、「○○隊」で活動することにより、クラスの中で色々な見方や考え方が生まれるため、とても良い活動だと思いました。更に、各○○隊が模造紙に自分達の取組みを書くことで相互に評価し合ったり、意見交換をしたりすることがで

きるため、一人一人の理解が深まると感じました。今後もそれらを発展的な学習に結びつけられるように継続して取り組んで欲しいと思います。

- 自らの生活を省みながらゴミ問題について取り組んでいたのが素晴らしいと思いました。
- 「海なし県だからこそ考えなければいけないこと」を高山小学校の発表から考えさせていただきました。私も昨年度まで担任をしていた6年生でプラスチックごみを削減する活動を行ってきました。実際に学校のそばを流れる川へ行き、ごみ拾いを行い、どんなごみが落ちているのかを調査しました。すると、ペットボトルやお弁当の容器、空き缶など、わずか100mの幅に多くのごみが散乱している現状を目の当たりにしました。「これはまずい」「海に流れたら」等、口々に言い合い、みんなでプラスチックごみの削減に動き出しました。残念ながら新型コロナウイルスの関係でお店でのPRはできませんでしたが、新聞紙によるエコバッグづくりなどをしていきました。高山小学校のみなさんのように、昨年度の活動に対して、自分たちの活動がSDGsの何とつながるのかと、位置づけを行っていければ、より自分たちの活動に自信と前向きさをもって取り組めたのではないかと考えてしまいました。高山小学校の取り組みが世間に発信されたことで、地域の方にどのような変化があったのかも知りたくなりました。ありがとうございました。
- まず「ふるさと学習、地域の為に」という考えで活動をされていることが素晴らしいと感じました。そして児童会が中心にSDGsに取り組まれていることも素晴らしいです。児童会の活動を、SDGsの観点で整理されていることは、自分たちの活動の意味を知ることにも繋がりますし、全校の児童の皆さんへの意識づけになりますね。わくわく村の活動も地域・PTAと一体となって活動されており地域の団結を感じます。ゴミをなくすための8つのチーム。沢山のチームで素晴らしい活動をされており、堂々と発表をさせている姿に感動しました。

会場⑤-3 茅野市立永明小学校

活動テーマ みんなでやろうリサイクル

発表概要 学習し終わったプリント類や給食で毎日出る牛乳びんのふたのゴミを何気なく可燃物にしていた子どもたち。ごみを燃やしたらどうなるのかや、燃やした後はどうなるのかを学び、「できるだけ燃やさなくてすむ方法でゴミを片付けたい」という願いをもった。まず学級でゴミを分別し、リサイクルすることに取り組んできた。そしてその活動を全校にすすめて、ゴミを分別してリサイクルを行い、可燃ゴミを減らしたい。

感想

会場⑤-3 茅野市立永明小学校 発表を見た方からの感想

- SDGsを目指すことを児童から提案され、クラス目標に据えて、分からないことを学ぶという主体性が素晴らしいと感じました。また、学んだことを歌に表したり、給食で出るゴミに着目し、全校へ向けて伝えようと様々な活動に取り組んでいることが印象的でした。
- 素敵な発表をありがとうございました。牛乳瓶のふたのごみを一ヶ月間ためてみるという経験は貴重だと思いました。自分も毎日何気なくゴミを捨てていますが、一週間でとてもたくさんゴミが溜まります。プラスチックの袋の汚れを落としてしっかりと分別してリサイクルに繋がりたいと思いました。
- 素敵な発表ありがとうございました。毎日のごみはとても少ないため捨てるでも何も感じませんが、一ヵ月ためるとすごいっぱいのごみになることは、頭ではわかっていても目で実際に見ないと実感できないことだなと感じました。全校の皆さんに発表したとありましたが、全校の皆さんにもよい機会になったと思いました。
- SDGsに関して、自分たちには何ができるのか生徒たちが主体で考えることはとても良いことだと思う。これはクラスごとに行う項目が違うのか、学年で行っていることなのか興味を持った。自分たちができることから実践を始めていることは素晴らしいことだと思う。
- 燃えるごみを減らす活動の中で使うものを減らすのではなく燃えるゴミにしてしまうプラスチックを洗ってプラゴミにするという持続可能な方法で解決に向かっていく様子を感じ取れました。これからも工夫によって行われる問題解決で燃えるゴミが少ない未来づくりの活動を続けていっていただきたいです。素晴らしい発表ありがとうございました。
- 学級目標がSDGsを意識してエナジーの頭文字を上手く使っていて面白かったです。皆でSDGsの目標を掲げながら音楽会で歌っていて、インパクトのあるSDGsの紹介だと思いました。そこから給食におけるゴミが多いという問題から、麺の袋等を洗いたいという考えに至ることは素晴らしいと思いました。
- クラスの子が言ったSDGsという言葉から深く学んだ探究心が素晴らしいと思いました。音楽会での振付や目標を掲げる様子や、他のクラスへお知らせをしに行くための練習の様子を見て、一生懸命に活動を行っていることが伝わってきました。
- 自分たちにできることを考えて、学校で実際に活動しているところが素晴らしいと思いました。やり方なども詳しく説明してくれたので、初めてやる人たちにもとても分かりやすく伝わったと思います。これからも取り組みを続けていってほしいと思います。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。茅野市立永明小学校の3年3部の皆さんの発表を聞いて、私も学校現場に立った際に参考にしたいと思う点がありました。それは児童達と共に活動をする中で、活動の意義や目標をはっきりする点です。今回はSDGsに絡んだ目標を考える際に、自分たちの活動はどんなところにSDGsと絡んでいるのか？なぜ自分達はこの活動をしているのかを明確にすることで、活動の意義を子ども達の中に落とし込むことが出来ると思います。活動をする中で目標を置くことでやらされている活動より、自らやる活動へと変換できると思います。また、クラスだけの活動ではなく、学級訪問を通してゴミの減量へ繋がってほしいという姿は素晴らしいと思いました。
- 全員でごみを減らしていきたいという思いが発表から伝わってきました。一つのごみは小さいものでも、集まるとふくろがいっぱいになることにおどろきました。私自身もこれからごみの量を減らし、地球にやさしい生活を心がけようともう一度確かめられました。発表ありがとうございました。
- SDGsについての歌があるのだと初めて知りました。発表もとても分かりやすく、はっきりとはきはきと発表されていてとても聞きやすかったです。全校生徒にどうやって、ごみの量を感じてもらおうのかみんなで考えていて素晴らしかったです。

●SDGsに対してリサイクルや分別、牛乳パックをストイックに行っており、それを学級訪問で他のクラスにも自分達の目標をはっきりと伝えられている素晴らしい学級訪問だと感じました。子ども一人一人がしっかりと明確な目標を持っていられると感じる素晴らしい実践でした。

●普段の生活を改善することは難しいと思いましたが、実際にゴミがどのように処理されて、どのように環境に影響を与えるのかということ学ぶことで根本からリサイクルの意識が改革されており素晴らしいと思いました。自分たちだけで終わらず全校に広めようとする活動も非常に良いことだと感じました。

●クラス目標の中にSDGsに関連した目標が掲げられておりとても意識が高いクラスだと感じていました。また音楽会の場でSDGsの歌を歌っていましたが、そのおかげでSDGsについて知ることができた人が大勢たのではないのでしょうか。そういった広めることだけでもとても素晴らしい活動だと思います。

●SDGsを楽しみながら学び、そこから分かったことや考えたことを見つめる経験をしたことはとても素晴らしいと思いました。地球をきれいにしたいという気持ちをお互い持ち続けましょう。そして、このような伝統を引継ぎ、永明小学校の強みとして誇れる活動をこれからも頑張ってください。

●小学生とは思えないほどの発表で、驚きました。一つのクラスだけでなく、全校でSDGsに取り組もうとしている姿勢が伝わってきて素晴らしいと思いました。ソフト麺の袋さえただ捨てるのではなくほかに活用するということは、大学生でも思いつかないようなことなので、参考にさせてもらおうと思います。

●音楽会でSDGsの歌を歌ったことで、全校生徒にSDGsというものがあること、SDGsとはなにかということを知ることができたように思います。さらに、学校給食でリサイクルに取り組み、学校でできそうなことを全校を巻き込んで取り組もうとしていて、SDGsについて良い学びができたのだと感じました。

●目標を「エナジー」と掲げており、とても素敵な目標だと思いました。SDGsを広める活動が印象に強く残りました。ごみのリサイクルをクラス訪問など通して全校に広める活動は周りを巻き込める素晴らしい活動だと思います。一か月で集まったプラスチックの量を示すことで、自分も気を付けようという意識が芽生えてよいと思います。自分たち大学生よりもSDGsについて詳しく考えられていると思います。自分たちも気を付けようと思いました。

●学級目標にSDGsという文字を入れたり、環境目標について歌を歌ったりと環境について日常生活から環境について考えられているのがとても良いと思いました。クラス内で出たごみを減らすためにどうすればよいのかという改善策もしっかりと考えられていたことも素晴らしいと思いました。次は身近な環境問題から世界で起こっている環境問題を結びつけて考えていけるいろいろな知識が身につく将来の自分のためになるので頑張ってみてください。

●SDGsについてとてもよく調べられているなど感じました。牛乳瓶の蓋やソフト麺のビニールごみなどの一回や一人あたりの量はそれほど多くないと思いますが、塵も積もれば山となるということわざもあるとお集まれば大量のごみになってしまうので、一回一回のごみの削減がとても大事だと思いました。これからも頑張ってください。

●SDGsのことを知らなかったから自ら調べたり、全校のみんなに知ってもらうために歌を歌ったりしているところがすごいと思いました。みんなでこれからの地球を守っていくために、リサイクルの協力を具体的な内容を言って呼びかけるという取り組みがいいとおもいました。

●給食でのリサイクル活動についての発表ありがとうございました。小学校の頃からSDGsについて考えていて子どもたちの着眼点に驚きました。また自分たちができるプラスチックの削減を全校生徒に広めていて感動しました。

●自分たちでごみの量を可視化して、問題を解決しようとする姿勢が素晴らしいと思いました。今後は、洗う時に水がムダになっていないかを考えてみてほしいなと思います。プラごみに出しても約6割は燃やされているという現状があるので、洗うことと可燃ごみに出すことを天秤にかけて、今の取り組みよりもいい方法はないかなと考えてみたら面白いのではないのでしょうか。

●皆さんが歌った「SDGsの歌」に感銘を受けました。その理由は、自分達がまず行動に移して、ゴミの削減に取り組むことも勿論大切ですが、SDGsの問題を改善していくためには、多くの人の理解が必要不可欠であるため、「皆に知ってもらうおう」という活動は重要だと感じたからです。私もSDGsを広める手段として「歌」を使いたいと思いました。

●丁寧に学習を行っており、活動をやりっぱなしになっておらず、常に探究している様子が素晴らしいと思いました。

●自分たちの出したごみをリサイクルする活動はとても面白いと思いました。全校で毎日出るごみがしっかりリサイクルされれば、それだけでも大きなことのようにも感じました。ただ同時に、リサイクルのために水を使って容器等をきれいにするのは、水資源に付加はかからないのかと疑問に思っていました。ただ焼却するよりリサイクルできれば素敵なことだと思いますが、ただ焼却するのと洗ってリサイクルするのはどちらの方が環境にかかる負荷が大きいのか調べてみたいと思ってしまいました。発表ありがとうございました。

会場⑤-4 文化学園長野中学校①

活動テーマ [4つのR]プロジェクト

発表概要 [4つのR]プロジェクト
・環境4つのR (Reduce, Recycle, Reuse, Refuse) に基づいたプラスチックゴミ削減案を提案し、川の源流地域から海をきれいにする。
・生徒が主体的に活動を行い、生徒会執行部が全校を束ねてPDCAを回す。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1. 学校名：文化学園長野中学校

2. 対象：中学生徒会（全校・71名）

3. 活動内容

(1) 活動名：「4つのR」プロジェクト

(2) 活動の目標

- ・環境4つのR (Reduce, Recycle, Reuse, Refuse) に基づいたプラスチックゴミ削減案を提案し、川の源流地域から海をきれいにする。
- ・生徒が主体的に活動を行い、生徒会執行部が全校を束ねて、PDCAを回す。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

① 構成概念


<input checked="" type="checkbox"/> 多様性（多様な現象が起きていること）	<input checked="" type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に）
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている）	<input checked="" type="checkbox"/> 持続性（互いに連携・協力すること）
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある）	<input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持つて）
<input type="checkbox"/> その他（ ）	

② 育成する資質・能力

<input checked="" type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	

(4) 関連するSDGs

11.住み続けられるまちづくりを、12.つくる責任 つかう責任、13.気候変動に具体的な対策を、14.海の豊かさを守ろう、15.陸の豊かさを守ろう、17. パートナリーシップで目標を達成しよう



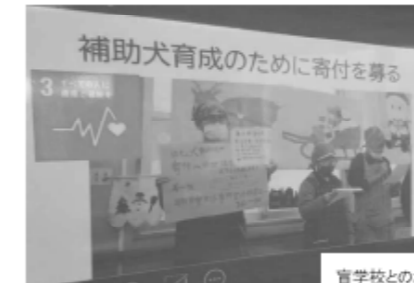
(5) 活動の内容

昨年度、中学では海洋プラスチックゴミ問題を取り上げ、その原因を取り除くべく「脱レジ袋」を目標に「環境4つのR」を実践し、新聞紙でエコバッグづくりをはじめ、イベントで配布した。「新聞紙だってゴミになるからエコじゃない」という市民の声に、どう答えていくのか。まずは、本校の中でもう一度「プラゴミ削減」の目的を見つめ直すために、マインドマップを作成しながら考えた。検討の結果、丈夫なリサイクル素材で「エコバッグの寿命を延ばし、廃棄までの時間を長くする」ことを考えた。様々な素材を検討する中、たどり着いたものの一つが、「点字」を打つ紙。日常的に点字用紙を使う長野盲学校へと連絡をしたところ、先方でもプラゴミ削減の取り組みを行っているとのことで、協同に向けた交流が始まった。

オンラインで2回の会議を行い、10月に行われる「ワールドフェスタ」（主催：長野市国庫産）でエコバッグ配布の予定であったが、イベントが開催未定の順延となった為、参加を断念。来年度の生徒会に活動を託した。

12月に生徒会役員が引き継がれたことをきっかけに、活動をさらにブラッシュアップ。現在、「4つのR」に基づく廃油石鹸の製作販売を行う計画を練っている。

4. 活動の成果



盲学校とのオンライン交流の様子



活動の場であったワールドフェスタが順延、不参加となったこともあり、大きな成果を残すことができなかったという反省が残った。

一方で、点字用紙に目を付けた生徒会長のアイデアが発展し、盲学校との交流を生んだことは、ものごとのつながりや広がりを実感する出来事であった。学校外の他者の視点が入ることで、広く社会を揺る視点があったのではないかと思われる。

また、生徒会の新役員がこれまでの活動を継承し、新しい活動を生み出すことにも繋がった。2年間にわたり、批判的視点や計画性、持続性を目配りさせてきたことが生き、生徒が主体的に活動のアイデアを表明し、計画を遂行させようとする力になりつつあることを感じる。生徒会を自治組織として機能させ、主体的に行動できる一人一人を育てていく基盤になっていくことを期待している。

5. 指導方法・体制の工夫

生徒には、常に批判的な思考をするよう促し、自ら思考を深める習慣づけをした。（コットンのエコバッグや廃油石鹸は本当に環境によいのか、レジ袋の海洋汚染はプラゴミ全体の何%か、原材料の生産過程で環境負荷が高いものはないか、など）

協力者：長野盲学校
長野市 商工観光部 観光振興課 インバウンド・国際室

感想

会場⑤-4 文化学園長野中学校① 発表を見た方からの感想

- 4つのRをテーマに生徒会で活動を行っている様子が印象的でした。コットンのエコバッグが本当に環境に優しいのかという批判的な視点から生徒たちで試行錯誤をしている様子が素敵だと思いました。また、盲学校の生徒たちとも交流を深めている様子が見られ、とても素敵な活動をしていると思いました。
- 素敵な発表をありがとうございました。盲学校との子どもとの関わりの中で、先入観があったということに気づけるということはなかなかできないことだと思います。水を汚さない、廃油石鹸づくりという取り組みはとても興味深かったです。ジェンダーレスという視点は蔑ろにされがちであるので、このような取り組みがもっと広まってほしいと思います。
- 素敵な発表ありがとうございました。一度得た失敗や改善点を次に活かしていたところが良いと感じました。ジェンダーレス制服や廃油せっけんなど根拠に基づいた活動を行っていて素晴らしいと感じました。制服の歴史はとても分かりやすく面白いと感じました。
- あまり触れるのが難しい、ジェンダーに関することを、自分たちの身近に合わせて考えていることは、良いことだと感じた。実際に行っていくうえで、当事者の心のケアなどはどのようにして行っていたのか気になった。
- 事実を列挙するのみではなく、事実を基に視点を絞った考察また活動の省察が行なわれていた点が素晴らしいと思いました。廃油せっけんや点字紙エコバックもジェンダーレス制服も必要性は大きいものの壁も厚い問題であると思います。しかし達成をあきらめずに主張を続けていただきたいなと思いました。応援しています。
- 生徒会の取り組みについてレジ袋を使わないためにマイバックを作る取り組みについて分かりやすい成果発表でありました。今までの生徒会の活動の課題から全校で活動できる取り組みについて考えて、昨年の取り組みも入れつつ、今年の活動に取り組んでいると思いました。
- 盲学校の人たちからエコバッグを作ることにする技術や情報だけではなく、その他のことについても学びを得ていることが素晴らしいと思いました。相手を理解すること、当たり前を疑うことは何事にも大切な考え方になってくると思います。廃油石鹸は多くの目標に関わっていて驚きました。ぜひ商品化してほしいと思います。制服は生徒の意見反映と時間の関係を表すスライドがとても分かりやすく、ニーズの立場になって深く調べられていると思いました。
- まず素晴らしいと思ったのは、調べがものすごくされているということ。自分たちで主体的に調べ、考えたということが非常に良く伝わってきました。すぐに解決できる問題ではないと思いますが、考え続けることが大切だと思いました。バック作りも試行錯誤されていましたね。またチャレンジしてよいものが作れるといいですね。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。文化学園長野中学校では、SDGsの目標と絡めて、長野盲学校の皆さんとも協力して実践していました。エコバックは本当に必要か？やジェンダーレス問題に触れるなど、難しい問題・深い問題について考えてみました。その両者の問題において、今に至るまでの歴史や背景を知り、その上で自分たちの思いはどうなのかを考える姿は素晴らしいと思いました。前者の環境問題、後者の社会問題は私たちすべての人間が考えていかなければならない問題であると考えます。そういった意味で、文化学園長野中学校のみなさんの素晴らしい考えや発想力を是非多くの人へ発信し、多くの人と考え合っていてほしいと思いました。
- 環境負荷の小さいエコバッグやジェンダーレス制服について真剣に考えている様子が印象に残りました。今回の発表を聞き、私も一見正しいと思われるものを疑ってみる姿勢を見習いたいと思います。発表ありがとうございました。
- レジ袋は有料になったが、確かにエコバックはエコなのか考えたこともありませんでした。エコの考えかたについてとても考えさせられる発表だと感じました。いろいろなエコバックを見て調べ自分で使っていきたいと思いました。
- 環境に対しての活動としては廃油を使った石けんを作る活動ということだったが、文化学園長野中学校さんの発表を聞いて改めて油というものは水質汚染の主な原因になっているのだと感じた。また、LGBTQについて私は議論したり考えたりする経験が少なかったが、今回の発表から新鮮な意見を聞くことができた。個性を尊重し、自身の性を表現する制服を着ることが自身の性のカミングアウトにもなってしまう葛藤を抱えている人は多く居るのではないかと感じた。
- 環境問題に対して自分たちができることを考え実践することは、環境問題を身近なものとしてとらえ活動できるため非常に有意義だと感じました。また全校を巻き込んでPDCAを回すことは子どもたちの将来のために重要になる経験だと思います。

- 4つのRの活動を軸にエコバックの耐久性などについて考え、その問題を解決するために動いただけでなく、そのほかの問題に関しても解決をしていこうという意欲が見えていたのでそれが普段の学校生活でもできているからこそ今回もできているのではないかと感じました。
- エコバックが逆に経済に負担がかかることは驚きました。またSDGsの活動に伴い、盲学校の生徒と関わることで、得たものが多くて良い経験だと思いました。4Rを基に総合的な学習の時間を学ぶことを応援してます。制服の多様性はこれからどんどん広がると思います。今から詳しく考えて、課題点や解決策を見つけていて素晴らしい活動だと思いました。
- 4つ目のRがあったことは知りませんでした。新たな学びを与えてもらいました。「新聞紙が破れやすい」「新聞紙も捨てる、ということに反論できなかった」というように、できたことだけでなく、見えてきた課題も発表できていて素晴らしかったです。また、SDGsから盲学生とのかかわりにまで奥のことを学んでいることがよくわかりました。パーム油については、私も大学で学びました。本当に様々な視点での活動が行われていることが伝わってきて、非常に驚かされました。ジェンダーについても、私は大学で学び、かなり自分でも調べました。文化学園の発表は、とても調べられていたと思います。少し気になったところとして、「カミングアウト」や「LGBTQ」など、専門用語が多く見られたので、その説明をもう少し詳しくすれば、もっと素晴らしい発表になったと思います。
- プロジェクトそれぞれにおいて、詳しい資料が提示されたため、説明の補足となり理解しやすかったです。様々な視点から学校でできることを考え、実行に移すことはなかなかできることではないため、感心しました。また4つのRについて最初に述べられていた点が、利き手の理解を促す工夫だと感じました。
- 前半、批判的な目をもって、エコ活動に着目しているのがよいなと思いました。点字紙に着目すること、そして試行錯誤をしていて興味深いと思った。エコバックに焦点を当てて活動していたためまとまりがあるなと感じた。いい視点で物事をとらえられていました。これからも継続していただきたいです。後半、服装は個性を表現するもの変わったという説明が分かりやすかったです。着目点が時間と生徒の意見と明確であり、グラフを使った分かりやすい説明が印象的でした。目指すところも明確でよいと思った。発表として抜かりない準備と調査だと思いました。この調べたことを今後の生徒会にどう生かすのか楽しみにしています。
- 4Rについてとジェンダーの問題について取り組んでおり4Rの観点では別の学校と協力して環境問題の解決に努めているということが素晴らしいと思いました。ジェンダーの問題では、学校の制服問題について触れ、制服の変更の時期から考察してどう改善していけばよいのか考えていることがとても良いと思いました。どちらも調べたことが思うような結果でなくてもまた別の方法でトライしてみるということをしており、継続していくことが大切になってくるのでこれからも頑張ってください。
- 点字紙を利用したエコバックはなかなかひらめかない素材だと思うのですがいいと思いました。紙が固かったり取っ手をつけられなかったりとうまくいかなかったようですが、デメリットをメリットに変えるような工夫が必ずあると思うので、もう少し粘っても良いと思いました。また、ジェンダーレス制服に関しては、講評でもあったように、貧困の視点からも考えるとさらによい提案ができると思うので、頑張ってください。
- 実際の取り組みから課題を見つけその克服に向けて活動を行なっていることがいいとおもいました。そこから盲学校と協力している中で目の見えない人はそれぞれ見え方が違うという違いに気が付いていることが素晴らしいと思います。小学校からレベルアップした学習内容から活動計画を立てていたり、実際にやってみる前にメリットとデメリットを考えていたりするところが素敵だと思いました。そして、制服までに着目して歴史的变化や時代の変化に合わせた制服の変化からどんな制服が必要か考えられているところが素晴らしいと思いました。私はLGBTの人は自分に合った制服を着たいのではないかと考えていましたが、カミングアウトになってしまうことや形だけということを知り、自分では考えもしなかったことなので新しい学びでした。
- 点字紙を用いたプロジェクトの発表ありがとうございました。ビニール袋の有料化に伴い、本当に環境にやさしいのか批判的な視点から物事を考えていて感銘を受けました。また、ジェンダーについて、歴史などを鑑みて20年に1回ほど学校の制服を見直すことがいいとわかりました。今後もレベルアップして多様性が認められるようになると良いなと思います。
- 自分たちなりに色々考えながらPDCAサイクルを上手く回せていると感じました。これこそが探究的な学習だと思いました。及川教授が仰っていたように、廃油や点字紙の活用は一時的に効果があるものの、持続可能とは言いがたいものがあります。しかし、活動をする中で様々な人とかがかわったり、その活動をしていなければ知らなかったことを知ることができていたりと思うので、今後も探究的な学びを続けてほしいと思います。
- 合成洗剤やパーム油、ジェンダーに関する資料やデータを集め、分かりやすく整理してあるところが印象的でした。また、生徒自身が関心を持って主体的に取り組んでいる姿が感じられました。水質汚染を考える上では、様々な技術が関わってくるので、それらの技術などについても調べて見ると良い改善策が考えられると思います。そして、ジェンダーに関する問題について私も興味があるので、今後も継続して取り組み続けて欲しいと思いました。

- かなりセンシティブな話題について生徒主体で課題意識をもちチャレンジしようとしているのが本当に素晴らしいと思いました。自らの課題意識について追究し続けているのが、課題が変わっても生きる力だと思います。
- 一教師として、ものすごく考えさせられる発表でした。LGBTQに関する話題を生徒がとことん探究し続けた、その熱量がまず驚きでした。いくら自分たちが着る制服だからといっても、あそこまで課題探究を多面的・多角的に行うことは、教師という立場からすれば非常に難しかったでしょうし、根気があることだったと思います。だからこそ、その熱量を生徒たちにいかにもたせ続けるか、その熱の発生を教師がどうとらえ、どうつなげていったのが非常に気になりましたし、ぜひまたお話を伺いたいと思いました。本当にありがとうございました。
- 生活排水と制服に共通するのは、どちらも自分たちが変えようという意思を強く持ち、文化的背景や社会的背景をしっかりと踏まえて、未来志向で両方の問題と向き合っていることだと強く感じました。自分たちで変えていくため、自分事として行動するための用意がなされ、足場や思想がしっかり固まったうえで活動が行われているように思われました。また、盲学校の生徒との交流なども自分の先入観や当たり前を疑うといった意味で、他者を認め合いより高みに向かって歩みだす様子が見て取れました。活動を進める上での方向性等たくさんの示唆をいただきました。ありがとうございました。
- ウェルビーイングに向けて人々のつながりをつくる、そんな取り組み・考え方が素敵であると思いました。髪の毛は人の印象を決める重要な要素として働いているということにも着目し、どのように人々とのつながり、協力を求めていくかを考えるその過程にとても魅力を感じました。単に髪の毛を集めて困っている人のために…ではなく、そのことによって社会の幸せを創り出そうとするゴールが感じられる実践と発表でした。ありがとうございました。
- 自覚的な課題設定の基で組織的に活動が展開されています。引き続き発展するように期待します。

会場⑤-5 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生①)

活動テーマ ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる

発表概要 1 学年
志賀高原研修旅行を通して、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめる。




実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立山ノ内中学校
2. 対象：

(学年・人数)	※網掛け・ゴシック体が発表&交流会参加生徒
1 学年・77名	(8名)
2 学年・85名	(13名)
3 学年・73名	
3. 活動内容
 - (1) 活動名
地域活性化のために自分たちができることをやろう
 - (2) 活動の目標
本校では、ESDを「自分たちの山ノ内町を持続的に発展させていくためには何をすべきか」ととらえ、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題に対し、中学生として、また卒業してからも、何ができるのかを考え、地域や町当局に発信し、自らもできることをやろうとする中学生を育成することが目標である。
 - (3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること)	<input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)	<input type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること)
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)	<input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)
<input type="checkbox"/> その他 ()	
②育成する資質・能力	
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連するSDGs

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		
11 住み続けられるまちづくりを		
12 つくる責任つかう責任		
 - (5) 活動の内容
1 学年：志賀高原研修旅行 (ユネスコエコパークでの探究的な学び) ▶ 魅力の発見
2 学年：草津研修旅行 (課題解決に向けた探究的な学び) ▶ 魅力の比較
3 学年：修学旅行・中学生が夢みる町づくり討論会 (学んだことを提案・実行力) ▶ 魅力の発信
4. 活動の成果
各学年での取り組みによって、生徒自身が問いをもち、その解決に向けて調べ、探究していくといった学習活動のサイクルが構築されてきている。その結果、自然と「地域活性化のために何かやろう！」といった意識へと繋がり、主体的な活動として深まってきている。
今後は、昨年度より本校でも大切にしているが『ESD カレンダー』をもとにした、各教科における学びも位置づけ、より日常の中で生徒が考えたり、グループで深めあったりしていけるよう、検討していく。
5. 指導方法・体制の工夫
校内研究グループと連携しながら、教科とESDの繋がりの可能性を今後も探していきたい。(負担感のないようにESDに関わる授業実践を公開し、研修していく。※今年度は1学期と2学期の2回、金沢大学の加藤隆弘先生を招いて研修を行った。)

感想

会場⑤-5 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生①) 発表を見た方からの感想

- 廃油で石鹸をつくるなど実践的な学びをしているところが素晴らしいと思いました。
- 自分たちだけで盛り上がるのではなく、「外部に向けて」という視点をしっかりもっている活動のように感じました。発表もとても分かりやすかったです。自分の住む地域が大好きで、その大好きな山ノ内をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いが伝わってきました。ありがとうございました。
- 自主性をもってABMORIとSDGsを考えることは大学生でも難しい内容です。そのため、その二つの関係性を学び、自然な経験をしたことは素晴らしいと思いました。それがこれからの人生の良い刺激になると思います。
- 「ごみ問題を解決する」というような観点とは異なった、「自然の魅力を伝える」という観点が新しいなと思いました。今起こっている問題に解決するのももちろんですが、今も素晴らしいところに焦点を当て、その素晴らしさをもっと伸ばすことでSDGsに取り組むという考え方は私にはないものでした。非常に素晴らしい発表でした。
- 自然との共生、自然の良さということをテーマに、果物狩り、フォトコンテスト、ABIMORIなど、地域共生について様々な視点から考えられていてとても興味深かったです。ABIMORIという言葉は初めて聞きましたが、詳しい説明があったことで理解できました。
- 地元のことに着目して活動をしていていいと思いました。SNSを利用した企画は現代にぴったりの企画だと思います。SDGsを意識した活動にもつながっていていいなと感じた。山ノ内に行ってみたいと思う発表でした
- 自然をテーマにおいて発表しており自然の良さを広めるためにはどうすればよいのか、ABMORIを通じてどんなことが環境に影響を及ぼしているのかよく考えられていると思いました。果物狩りやフォトコンテストなど若い人が環境に目を向けられるような活動があげられていることも素晴らしいと思いました。次は自然に関連して長野県外ではどのような活動をしているのかということにも目を向けて言った活動をするとうSDGsの理解がまじりではないのかと思いました。継続こそが大事であるので、これからも疑問に思ったことを学んでいくということを忘れずに頑張ってください。
- 自然との共生ということで、長野県に住んでいて周りに自然がたくさんあるといっても、なかなか植樹などに参加する機会はないなと感じていました。今回の発表を聞いて、植樹だけでなくSNSを利用した活動なども行って、意外と身近に自然を感じられる機会がたくさんあったのだなと気づかされました。これからも頑張ってください。
- 志賀高原の実習の前に、行く場所を調べているところが素敵でした。自然の良さを広めるために果物狩りの期間や値段が詳しく書かれていたり、Instagramという身近にあるものを使用したりすることで目にする機会が増えるという企画がとても素敵な企画だと思いました。植樹という名前は聞いたことがあっても体験するとまた違う感覚になるということを知って体験してみたいと思いました。
- ABMORIを通した活動の発表ありがとうございました。果物狩りやInstagramを通した景色の投稿など、若い人々に向けたプロジェクトが推進されていて現代的でいいなと思いました。また植林などを通して大きな規模で環境保護を行っていて驚きました。
- 志賀高原研修を通して、自然のよさや町のよさを発信する活動が行われていることをきちんと学ぶことができている、素晴らしいと思いました。今後は、一年次に得た学びを活かして、自分たちにできることを考えたり実行したりすれば、面白い活動になるのではないのでしょうか。
- Instagramを活用して情報を発信する取組みは令和らしいもので、拡散性が現実的にも高いように思いました。今後は植木で得られた成果などを次世代に伝承していくような取組みをしても良いと感じました。そして、私はABMORIを初めて知ったので新鮮な気持ちで聞くことができました。より深い学びができるように今後も頑張ってください。
- ABMORIの活動から、参加者にアンケートをとる事で、参加者がどのような思いで参加しているのか、参加してみてどのように感じたかを知ることで生徒たちの活動への意欲も高まったのではないかと感じました。ここからさらに、他の人へ伝えるための活動を続けていって欲しいです。
- 素敵な発表をありがとうございました。山の内町のさくらんぼはおいしいですね。さくらんぼ狩りは利用させてもらいます。ABMORIというものは初めて耳にしました。市川海老蔵さんと植樹を下という貴重な経験をしたんですね。豊かな自然を守るための取り組みがもっともっと広まっていくと良いと思いました。
- 素敵な発表ありがとうございました。ABMORIは初めて知りました。勉強になりました。現代の環境に問題があ

る中で、失われた土地を取り戻すという着眼点が面白いと思いました。普通の学校が体験しない活動なので、一回一回を大切にしてください。

- 地域との共生の良さが伝わった。なかなか町の外に自分たちの町の良さを伝えることは難しいことだと思うので、SNSを活用して伝えていくことは、とても良い方法だと思った。実際に学校で、写真を投稿するときなどはどのようにしていたのか気になった。
- 地域の良さを伝える活動が皆さんに伝わり、その活動が皆さんによって私たちにつながっていく感覚がありました。このようにつながりでこれらの活動がもっと広く伝わっていくと良いと思いました。活動の狙いや内容などもとても見やすくなっており伝わりやすかったです。素晴らしい発表ありがとうございました。
- おいしい果物をより多くの人に知らせたいという願いからInstagramという流行を活用して、若い人にヒットすることが出来ると思いました。ABMORIで育てた木々をバットなどにして私たちの生活に活用していくことで、自然と人間社会の共生を可能にしていると思いました。
- 小学校で取り扱っていたコカリナを中学校でも調べるなどして扱っているのは、小学校と中学校のつながりがあって、町全体が同じ方向や目標を向くきっかけになるのではないかと感じました。様々な世代に注目してもらえるよう世代に合わせた活動や工夫があり深く考えられていると思いました。
- 皆さんが調べた「果物がり」や「フォトコンテスト」は私も興味を満ちました。ぜひ美味しい果物を食べに行ってみたいと思いました。今までにもいろいろな体験をされてきたと思いますが、まだ一年生ということなので、これおからも自然の中で自分の体で様々な経験をしていってほしいと思います。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。山ノ内中学校第一学年の皆さんは、志賀高原研修旅行を通して、ESD学習をしていました。具体的には、自然の良さを広めるために、果物狩り(サクランボ・リンゴ)やフォトコンテスト(SNS)を行ったり、ABMORIという自然と人間社会の共生を実現するモデル地域としての活動のために、ABMORIとコカリナの関係を学んでいたりしていました。ユネスコスクールに認定された自分たちにできることは何か？を確かめるために現場(志賀高原)に自らの足で見に行く姿は素晴らしいと思いました。私も志賀高原に何度か訪れたことがあります。志賀高原の自然豊かさは県内、日本国内でも唯一無二であると思います。山ノ内中学校のみさんから多くの人に志賀高原の魅力を広め、志賀高原を多くの人に知ってもらい、大切にしていってほしいなと思います。
- 自然の良さを広げたい思い、ABMORIを通して地球全体を思う気持ちが伝わってきました。私はABMORIを知っていましたが、そこに込められた思いを今回の発表で初めて知りました。発表ありがとうございました。
- 地元に根付いた発表だと思いました。自分の地元をほかの人にもっともらうように様々な工夫がされているように感じました。写真は誰でもいつでもとれるものであるし、景色に目をやり、この地域を好きになると思いました。
- 山ノ内の自然を生かした素晴らしい活動に感じました。特に植林については近年SDGsについて関心がある人はとても多いため、かなり注目が集めることができる活動であると感じた。この活動は都会と地方の山ノ内をつなげることのできると思う活動なので今後は是非力を入れていってほしいと感じた。
- 志賀高原研修旅行をきっかけに自分の町と他の町を比べる活動は、自分たちの山ノ内町を客観的に見つめなおすことができるため、良いと思いました。またユネスコスクールとしての自覚が中学生1年生ながらにあり、責任感をもって学び考えており素晴らしいと感じました。
- 自然の良さを広めるためにさくらんぼやリンゴ狩りについて調べたり、山ノ内町のいいところをより広めていくためにフォトコンテストなどの活動があるのではないかと提起してくれていました。現代だとSNSが非常に普及しているため、こういった活動を投稿していけば興味を持ってくれる人が大勢出てくるのではないかと考えました。

会場⑥-1 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(3・4年生)

活動テーマ 発見、発信、屋久島の自然

発表概要 八幡小学校の3・4年生は、「屋久島のすばらしい自然をどのように守っていこうかな」という課題をもち、レンジャー体験をしたり、調べ学習を行ってきました。海でおきている海洋ゴミの問題や、山でおきているヤクシカが増えすぎている問題を知り、ゴミ拾いを呼びかけたり、給食に鹿肉を出してもらうように頼んだり、子どもたちなりに解決のための取組を考え活動しました。当日は、取組の成果と課題を発表します。

感想

会場⑥-1 鹿児島県屋久島町立八幡小学校(3・4年生) 発表を見た方からの感想

- 自分たちの住む地域を代表する海の環境問題を取り上げ、その改善に取り組むことは自分たちにとってもメリットがあると考えることが出来、そのためにどうすればよいかを考え行動できているのがとても素晴らしいと思いました。
- 発表ありがとうございました。海のレンジャー体験では、海でのごみ問題から考えた課題から、ごみ拾いキャンペーンなど自分たちが実施できる活動をポスターなどで呼びかけているのは全員が海を守ろうとしていくためには重要だと思いました。他にも色々な活動にも参加してみたいと思いました。
- 地元の自然環境に密着した現実的な問題を扱っていたことで、子どもたちも積極的に取り組みたいと思えるような実践になっていて、参考にしたいと感じました。子どもたちがまっすぐな瞳で私たちに対してお願いしていた姿からも、子どもたちがその問題に本気で取り組み、深刻さを実感したことが伺えました。
- 屋久島という自然に囲まれているという環境を上手く利用した活動だと思いました。自然の豊かさがあるからこそ、海の汚れなどの負の部分が強調して見えてくるのではないかと思います。その解決のために試行錯誤できていて良かったと思います。
- 地域の特色として屋久島があり、その視点から環境問題解決するためにグループに分かれて活動しており、それぞれのグループで各々の特色ある発表が展開されていた。ポスターなどを用いた発表は視覚的に捉えやすく、伝えたいことが明確に分かる内容だった。
- 自分たちの暮らす地域の自然を守るために何ができるのかを一人一人が真剣に考えていて感動しました。どの活動にもきちんと背景があって、明確な目的意識を持って取り組まれていることもとても素晴らしかったです。自分たちで考えて、実際に行動に移していくことは簡単そうで実は難しいのではないかと思います。その実践を行っている八幡小学校3・4年生のみなさんの姿勢は私も見習わなければならないなと感じました。みなさんのお願いに微力ではありますが協力していきたいです。これからも頑張ってください。応援しています。
- 私は生まれてから長野県にずっと住んでいるので、海岸に届くごみや海の環境について、長野県では考えることの無い分野で、興味深かったです。ごみ拾いキャンペーンでLINEを利用するという発想が素晴らしいと思いました。元気ある発表で、ごみについて考えを深め、ポイ捨て等気を付けようと思いました。
- レンジャー体験から普段の生活では感じられない屋久島の課題を考えられた様子が伝わってきました。長野県は海がないので海のごみについてはあまり実感がわかりませんが、海岸であんなにも大きなごみが流れていて、また海外からも多くのゴミが流れているとは思わず驚きました。また山のごみも海に影響があるとのことでしたがこれは長野県にいる私達でも協力できることだなと思ったので気を付けていきたいなと多かったです。またジビエについては長野県でも積極的に料理に使われていると思います。自分たちがいる場所でできることを大切に、自然を守っていききたいなとみなさんの発表を見て感じました。発表ありがとうございました。
- 自分たちが住む屋久島を守るという目的のための活動は子ども達にとっても取り組みやすく、屋久島が抱えている問題について、自分たちができる簡単なことから取り組むというところが大切なことだと感じました。子ども達にとって簡単に取り組むことができることは、大人もできるはずなので、子ども達から変えていくことはとても効果的であると感じました。
- 鹿による獣害というのは長野県でも実例があります。そして獣害を減らそうと取り組みを行う方々もいます。しかし、八幡小学校のように小学生が取り組みに参加して、地域に貢献しようとする姿は屋久島町特有のもので素晴らしいと思いました。
- 海洋ゴミの削減に目をつけているのが素晴らしいと思いました。海洋は地球上の7割を占めているので海洋ゴミが増えると生命の源とも言える海が汚れてしまうことになり多大な影響を及ぼします。今は私内陸圏に住んでいますが、当事者意識を持ってゴミの削減に取り組みたいです。

●レンジャー体験を通して、子どもたちが海と山がつながっていることに気付いていることがすごいなと感じました。海と山が身近にある屋久島だからこそできる活動なのだろうと思います。今回の発表のように屋久島や海や山を守るため何をすればよいか発信することの活動を頑張ってください。

●屋久島にある様々な環境問題に対し、それぞれの問題を解決するために自分たちはどんな取り組みができるか考えることができましたね。QRコードを利用したゴミ拾いキャンペーンのアイデア。誰もがスマートフォンやタブレット端末を持っている時代にぴったりのアイデアだと思いました。発想が素晴らしいです。素敵な発表ありがとうございました。

●屋久島が抱えている問題から、自分たちにもできる簡単なことから取り組もうという考えを持ち、課題解決のために自分たちにできることは何なのか考えて活動することが出来ていて良いと思いました。また、そこで終わりではなく、どのような効果が期待されるのかまで考えられていて素晴らしいと思う。屋久島で生活しているからこそわかることをこれからももっと発信してほしいと思います。

●海も山も自分で遊んでそこから問題を見つけ、自分たちにできることを考えているのが良いと思いました。ポスターや新聞、手紙を大人に作ってもらうのではなく、自分たちで作っていたところから、海や山を守りたいんだな、住んでいる町が大好きなんだなと思っているように感じました。シカ肉を給食などで出せば、命の大切さも伝わるのではないのでしょうか。自然を守っていくためには、まずは今の状態を知ることが大事なことだと分かりました。心温まる発表をありがとうございました。

●屋久島が抱える問題をしり、「自分たちができること」ということを中心に取り組みを考えていたことは、この研究成果を見た人たちが実践しやすいものであるから、行動に移しやすいと思うのでいいと思いました。ごみ拾いキャンペーンなどの計画も細かくされており実現性のあるもので期待される効果もはっきりしていたので見た人たちに協力してもらえんと思いました。どのチームの発表も資料がたくさん示されていて見ている人に伝わりやすい発表だと思います。各チームの最後に「みなさんへのおねがい」という部分があり、一番伝えたいことは何か分かりやすかったのでいい発表だったと思います。

●とてもハキハキした発表で聞き取りやすく、誠意が伝わってきました。私が住んでいる場所からとても遠い場所にある屋久島の問題を知り、その原因を学ぶことができました。その地域に住んでいる児童の皆さんだからこそ伝えられることがあると思います。地域を大切にしたいという思いが伝わってきました。「～したいと思います。」ではなく「～します。」という決意の言葉が多くあり、私もその言葉に感化されました。屋久島から離れたところに住んでいる私たちでもできることは多くあることに気づかされました。私ができることから取り組んでいきます。

●まずは、屋久島の自然を守るために私たち自身がまず行動できることがあると教えてくれてありがとうございました。私は屋久島に入ったことがないので知らなかったのですが、屋久島の文化を守ろうという皆さんの固い意志が感じられたことが良かったです僕も普段からごみの分別等心がけていきたいなと感じました！

●海でのごみの取り組みに対して、私たちは海がない所に住んでいるため海の問題に対する実感などあまり湧かないと思うが、しっかり自分たちにもできる取り組みをされていてすごいと思いました。自分たちからできる小さな取り組みもなかなか継続できることではないので素晴らしいなと思いました。これからも継続できるように頑張ってください。

●屋久島の自然・海を守るために、何をしたらいいかを考えて実行していることが素晴らしいと思います！自分たちでゴミを拾ったり、ポスターを作ったり、新聞を作ったり、給食センターに手紙を書いたり、実際に具体的な活動をしていることがとても大切だなと感じました！これからも屋久島という恵まれた環境を守るために、自ら考えて行動するという気持ちを忘れずにがんばって下さい！私もゴミを拾うなど、自分でできることをしたいと思います！応援しています！

●グループに分かれて解決したい問題、そのためにする行動、ほかの人への協力のお願いが分かりやすくまとめられていると思いました。自然が豊かな屋久島でも海洋問題や害獣問題を抱えていることを初めて知り、私自身が直接屋久島の環境に何かすることはできませんが、私が簡単なことからできることをやっていきたいと思いました。

●鹿肉を食べることでヤクシカを減らすという案について、とても良い案だと思いました。豚肉や牛肉と違い、ほとんどの人は鹿肉を食べる習慣がないので、鹿肉のおいしさが給食を通じて伝わることで、この習慣が広がっていくのではないかと思います。

●自分たちで発見した地域の課題について、ごみ拾いを行ったりポスターを作成したりと、解決に向けて実際に行動を起こしているのが素晴らしいと思いました。こういった、みなさんの行動一つ一つが積み重なれば、やがて大きな問題を解決できると思うので、これからも、地域のために自分たちができることをしたいという気持ちを持ち続けて生活してくれたらいいと思うし、私自身もその姿勢を見習いたいと思いました。

- 発表ありがとうございました。山や川へ観察に行く活動をしたからこそ、それぞれの子どもにとって身近な課題が見つかったのだと思いました。ヤクシカの給食の問題は、ヤクシカと人間の共生という大きなテーマにもつながるのではないのでしょうか。今後子どもたちのヤクシカへの捉えがどのように更新されていくのか楽しみになりました。また、小グループに分かれてのプロジェクトは、それぞれのプロジェクトでの相互作用もありそうだと感じました。発表ありがとうございました。
- 身近な課題であるゴミ問題を、ICTを使いながら活動して皆さんの海を守ろうとする姿がたくましく感じられました。
- QRコードを使ったゴミ拾いの活動、アイデアがとても面白かったです。
- 「自分のできる小さなことから始めてほしい」という思いが心にとまりました。屋久島、さらには世界はわたしの生きるところ。私たちの地球であるということを考えさせられて、それは決してこれからも生きる地球、くらす屋久島だったり長野を思いやり、そこに生きる「わたし」にできることからやることはみんな共通していると学ばせていただきました。

会場⑥-2 長野市立信里小学校

活動テーマ リンゴ栽培を通して、信里のリンゴ栽培の未来について考える

発表概要 リンゴづくりの名人に教えていただきながら、花摘み、摘果、葉摘みの体験をし、収穫したリンゴを校内で販売した。実際に食べておいしいと実感し、選果場のセンサーにかけても高い評価が得られた。信里でこんなにおいしいリンゴが栽培できるのに、高齢化と若年層が農業をしないことなどで、リンゴ畑が減少している現実を受け止め、今、自分たちができることは何だろうと考えてきた。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名： 長野市立信里小学校
2. 対象： 3学年 6人
3. 活動内容
 - (1) 活動名 「リンゴ栽培を通して、信里の未来を考える」
 - (2) 活動の目標
 - ・ぼく・わたしの住む信里探検をし、その特徴やよさを知る。
 - ・信里の特産物のリンゴ栽培を通して、ひとと関わり、地域の愛着を深める。
 - ・リンゴづくり名人の指導から、リンゴの栽培方法や技術を知る。
 - (3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

<input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること）	<input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に）
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている）	<input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること）
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある）	<input type="checkbox"/> 責任制（責任を持つて）
<input checked="" type="checkbox"/> その他（ふるさとを大切にする）	

②育成する資質・能力


<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	
 - (4) 関連する SDGs

中心目標 「4. 質の高い教育をみんなに」


8. 働きがいも 経済成長も

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう


15. 陸の豊かさを守ろう



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



15 陸の豊かさも
守ろう
 - (5) 活動の内容

リンゴ栽培を通して、信里のリンゴ栽培の未来について考える

 - ①信里の地域を探検しよう。
 - ・ぼく・わたしが住む地域を案内する。
 - ・ため池や神社について地域の方から話を聞く。
 - ・南斜面にはリンゴ畑が多くあることを知る。
 - ・地域で見つけたことを地図やカードにまとめる。
 - ②リンゴの栽培に挑戦しよう。
 - ・リンゴづくり名人からリンゴについてのお話を聞く。
 - ・リンゴ栽培について教えていただきながら、花摘み、摘果、葉摘みなどの体験する。
 - ・リンゴ栽培がなぜ盛んなのかを教えてもらう。
 - ・リンゴ栽培で大切にしていることやリンゴ畑が荒れていく理由を教えてもらう。
 - ③リンゴを味わったり、学校みんなに食べてもらう。
 - ・自分たちで栽培したリンゴを味わう。
 - ・校内で保護者や先生方に販売する。
 - ・JA青果選果場で自分たちのリンゴの糖度や色つきなどを機械で測定してもらう。



4. 活動の成果

本校の学区で生産されたリンゴは同じ長野市内なかでもおいしいと人気のあることを知っていた子どもたちであったが、地域探検をすることで耕作放棄されたリンゴ畑や田んぼが多いことを実感として受け止めた。

リンゴづくり名人と出会ったことを通して、リンゴづくりの手順を教えてもらったり、リンゴづくりへの思いに共感したりしながら、「おいしいリンゴにしたい」という思いを持ちながら作業をすすめた。収穫までの作業を自分たちで行ってきたことで、信里の一員としての自覚が芽生え、信里への愛着がより一層深まったと感じる。

また、おいしい信里のリンゴを絶やすことがないよう、自分たちができることは何だろうと考えていくことができた。

5. 指導方法・体制の工夫

- ・作業体験を3年生と4年生とで合同学習
- ・リンゴづくり名人
- ・地域の農家の方
- ・JA 青果物流通センターのみなさん

感想

会場⑥-2 長野市立信里小学校 発表を見た方からの感想

- 学校内にりんごの木があり移動時間を多く取らずに栽培の体験が出来るということに驚きました。また、品種が一種のみでなくいくつか種類があり、その違いや販売などを通して学ぶことは多かったのではないかと思います。
- 発表ありがとうございました。SDGsの目標と繋げて活動を行い、りんごを育て、販売する活動は貴重な体験だと思うので、これからも探究して学んでいってほしいと思いました。りんごを育てることはしたことがなかったので、月ごと活動が色々と変わっていることなどがとても興味深く感じました。
- 1年間を通して、りんごの育て方、育っていく様子を最後まで世話できることは、子どもたちにとって非常に心に残る体験になると思った。また、自分たちの手で育てたものが実際に消費者の手に渡る過程も実際に見て、行ったことで、何かを作り、それを人々の手に渡し食べてもらうことの楽しさや、うれしさ、そして大変さを、学ぶことができたのではないかと感じた。
- りんごの栽培を通して、1年間で子ども達は多くの事を学ぶことができていたと思います。動物育成の実践はいくつか学習しましたが、植物を用いて1年を通して学ぶ活動では同じ生き物を扱っているが、また違った学習ができることが改めて分かりました。
- リンゴ栽培に関する活動だが、長野の特産品に焦点を当てたものであり、地域とのつながりを実感できるよい内容であると思う。リンゴ農家の方の話を実際に聞いたり、調べる活動を通して、後継ぎ問題の解決法について自分達で考えており、素晴らしいと思った。
- みなさんがこの一年間一生懸命りんごを育ててきたことがとても伝わってきました。このみんなで共に協働して活動したことはきっと貴重で大切な経験になると思います。また、ただ育てるのではなく、SDGsを取り入れながら活動を行っていることも素晴らしいなと思いました。地域の産業に親しみをもちながら、地域愛を育ててほしいです。
- 自然豊かな環境で栽培を行うことができ楽しそうだなと思いました。1年を通してりんごの栽培、収穫を行っている様子を写真と一緒に見ることができ、大変さや楽しさが伝わってきました。りんごチップスが美味しそうでした。長野県の特産であるりんごを守っていく活動を進めていってほしいです。
- 長野県はリンゴが有名で私もよく食べます。ですがどうやって成長して収穫するのかあまり知りませんでしたが、皆さんの発表を聞いてよくわかりました。育てていると摘果の作業は少し寂しくなりますね。自分たちで育てたリンゴはきっと特別な味がしたのだらうなと思います。またセンサーを通して評価してもらえるとどのくらいいいリンゴなのかが分かって頑張ってたよかったです！と思えたのではないのでしょうか。自分たちで手をかけて一生懸命作ってみると、その後野菜や果物をスーパーで買うときに生産者さんの気持ちも考えながら買うことができそうですね。皆さんが作ったリンゴを食べてみたいと思うとともに信里のリンゴ栽培についてとても勉強になった発表でした。ありがとうございました。
- りんご栽培を通して、実りのありがたさを感じたり苦勞を体験することができたと思います。また、収穫したりりんごのなかで規格外のものはりんごチップスにするということも露が、ごみを減らすという観点でとても大切なことだと思いました。また、地元のリンゴ栽培が抱えている問題について調べて、自分たちにできることについて考えることができてよかったです。
- 信里小学校の皆さんがりんごを通じてたくさん自然と触れ合っている様子が伝わって、うらやましく感じました。自身の体験から気候変動や地域課題をかんがえるきっかけを掴む経験も含めて、素晴らしい実践だと思いました。
- りんごの生産から販売まで経験することができて素晴らしいと思います。農地や耕作地の荒廃化は深刻な問題ですね。農業従事者の減少を減らすためにはやはりあなたたちの活動をいろいろな人に知ってもらう必要があると思います。見てくれている人は必ずいるので継続していきましょう。
- 地域の人と協力しりんごを栽培したこと、自分たちの地域のリンゴ栽培の問題点や信里のリンゴの良さを見出しているのがすごかったです。今回見つけた信里のリンゴの良さを生かしながら、リンゴ栽培を発展させていくために子どもたちが今後どのような活動をしていくのか楽しみです。
- きはきはした声や皆さんが作った資料のおかげで、とてもわかりやすく聞きやすい発表でした。りんごを栽培する人が減り、人が手入れしていない荒れたりんご畑が増えると、自然が壊れてしまう問題は、皆さんが調べたように様々な原因が関わっていて、決して簡単に解決できるものではありません。しかし、その解決方法や自分たちにできることを考える経験は将来の信里にきっと役立ちます。りんご作りの経験をもとによくSDGsについて学べたと思います。素敵な発表ありがとうございました。

- SDGsの学びからリンゴ栽培を行っていました。そこから、信里の地域発展を考えていて良いと思いました。一年間の活動のまとめを行い、そこから自分たちの疑問を考えていることも新たな問題解決への一歩になり良いと思いました。そして、それぞれでまとめてある資料もとても見やすかったです。また、地元信里のリンゴの良さを分かりやすく伝えており魅力がとても伝わってきて、ぜひ一度食べてみたいと思いました。
- 実際にリンゴ栽培を体験することで、食べられることのありがたさや作る大変さがよく分かると思います。私も小学生の時にリンゴ栽培の体験をしましたが、思っていたよりも大変でした。その分、自分たちも手伝って作ったリンゴは普段よりも美味しいように感じのが懐かしいです。リンゴ栽培から環境に繋げて、自分たちでもできることを考えているところが、他人事ではなく自分も関わる問題だと捉えているように感じられて良いと思いました。楽しい発表をありがとうございました。
- 最初に今注目されているSDGsに絡めて何を考えたのかテーマの発表ができていてこの発表でどのような部分について考えればいいのかわかりやすかったです。実際にリンゴの観察をすることでリンゴを身近に感じ、だからこそ気が付いたことや知れたことが発表されていて、興味深い発表でした。時期に沿った発表だったので、リンゴの一年がよくわかりました。また、リンゴに今と昔を比較したことで問題てんが明確化していて考えないといけないことがわかりました。
- 信里小学校の卒業生です。私も信里が大好きです。私の実家もりんご栽培をしており信里のりんごが大好きです。信里の大切なりんごの生産という文化が信里小学校のみんなの手で引き継がれていてとてもうれしく感じています。りんごの生産や販売などの皆さんの活動が信里の地域の輪を広げていると思います。私は今勉強のために信里から少し離れたところで暮らしていますが、信里に帰りみんなと一緒にりんごを作りたくなりました。「信里讃歌」にもあるように地域みんなが協力をして伝統を引き継いでいることを知り、信里が自分の故郷であることがとても誇らしくなりました。これからは信里の自然を大切に友達、そして地域の方々と一緒に信里でしか経験できないことを経験し、学んでいって欲しいと思います。いつか素敵な皆さんと一緒に信里の地で遊んだり学んだりしてみたいです。
- まず、小学校のころから自分たちの活動とSDGsに関するをつなげて考えていてすごいなと感じました。自分たちでリンゴを栽培するところからセンサーで見てもらったり販売するところまでする、なかなか私たちもしないいわゆる「事業」のようなことをしていてすごいなと感じました。もっと自分たちが行ったことを地域の方たちにぜひ発信してあげてください！
- 信里のリンゴについてよく発表がまとめられていました。とても良かったです。やはり、信里のりんごを守るためには信里の地域以外でも「信里のりんご」を売ることはとても良いことだと思います。私がもし、リンゴを売る立場だったら長野県のあらゆる高校や大学・専門学校にりんごを売る場を設けたり、スーパーに信里のリンゴをアピールする売り場を作ります。これからはリンゴを守る取り組み頑張ってください。
- 私も信里出身なので、信里のリンゴや自然が危ないということを知り、悲しくなりました。しかし、皆さんのリンゴに対する思いや考えを聞き、まだまだ未来は明るいと感じました！リンゴを実際に育てて売り出したり、リンゴについてSDGsとかかわりながら、幅広く学んだりしたことによって、より信里のリンゴを守りたいという思いが強くなったのではないかなと思います。この思いを忘れずに、これからは信里のリンゴを守るためにどうしたらいいか考え、発信して欲しいと思います！応援しています！
- りんごを通じて自然についてや地球温暖化について考えられていて、また、自分たちが体験すること作業の意味や大変さを体感していて貴重な学習をされているなと感じました。温暖化によって悪い影響だけでなく、適した温度になるという良い影響が出ていることに驚き、少子化問題にもっと対応していく必要をより感じました。
- 日本と海外のリンゴを比較できている点が素晴らしいと思いました。また、食習慣の違いも捉えられており、非常に質の高い研究だったと感じました。私は群馬県出身でリンゴ栽培はあまり身近では無かったため、この発表でリンゴ栽培のことを知れてよかったと思います。
- まず、取り組みの目的や内容が明確で、非常に見ていてわかりやすい発表で驚きました。そして、現在の問題点の原因をしっかりと分析して、そこから自分たちの経験などを通して的確な解決策を提案できているのも素晴らしいことだと思います。りんごの栽培から販売まで行ったというのは誰でもできる経験ではないので、今回得た知識などを活かしてこれからは地域の発展のために頑張りたいと思います。
- 出てきた葉への疑問、咲いた花への感動、摘果へのためらい、りんごの木の成長と共に様々な思いになる様子が発表を聞いていて想像されました。また販売、流通センターへの社会見学、気候、地元信里地域の歴史や農業の問題、日本と海外のりんごの比較、りんごの栽培を中心に本当に様々な観点・角度へ学びが広がっていることがわかりました。とても勉強になりました。発表ありがとうございました。
- リンゴ作りを通して、SDGsの目標と併せて考えている姿が疑問を明確にしている活動がよいと思います。

- 最初にとっても勉強になりました。僕はリンゴ栽培をして販売するといったことはしてこなかったので、行ってみたいなと感じました！

会場⑥-3 文化学園長野中学校②

活動テーマ English Camp「ブータンの学校と交流しようーブータンを学び、日本を知ろう」

発表概要 English Camp「ブータンの学校と交流しようーブータンを学び、日本を知ろう」例年、合宿形式で行われているEnglish Campおよびカナダへの語学研修が、本年度も開催不可能となり、その代替として、異文化理解学習を企画したものである。ブータンの子ども達との文化交流を軸に、伝えようとする気持ちを持つ事によって言葉の力に気付き、英語学習への意欲を高め、主体的に学ぶとする態度を育成する。また、同年代による異文化コミュニケーションから、文化の多様性と相互理解を経験するとともに、自文化への興味や誇り、アイデンティティを実感する。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1. 学校名：文化学園長野中学校

2. 対象：中学1・2年、45名

3. 活動内容

(1) 活動名 English Camp「ブータンの学校と交流しようーブータンを学び、日本を知ろう」


(2) 活動の目標
例年、合宿形式で行われている English Camp およびカナダへの修学旅行が、本年度も開催不可能となった。その代替として、異文化理解学習を企画したものである。
ブータンの子ども達との文化交流を軸に、伝えようとする気持ちを持つ事によって言葉の力に気付き、英語学習への意欲を高め、主体的に学ぶとする態度を育成する。また、同年代による異文化コミュニケーションから、文化の多様性と相互理解を経験するとともに、自文化への興味や誇り、アイデンティティを実感する。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念	②育成する資質・能力
☑多様性 (多様な多様な現象が起きていること)	☑批判的に考える力
☑相互性 (関わりあっている)	☑未来像を予測して計画を立てる力
☐有限性 (限りがある)	☑多面的・総合的に考える力
☐その他 ()	☑コミュニケーションを行う力
☑公平性 (一人ひとりを大切に)	☑他者と協力する力
☑持続性 (互いに連携・協力すること)	☑つながりを尊重する態度
☑責任制 (責任を持って)	☑進んで参加する態度

(4) 関連するSDGs

4. 質の高い教育をみんなに、10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正を全てのの人に、17.パートナーシップで目標を達成しよう



(5) 活動の内容

●ブータンを学び、ブータンを知る
青年海外協力隊としてブータンで活動した職員が、ブータンの概要について紹介。文化背景の違いを深く理解するため「日本と似ている、けれどちょっと違う」ものに着目し①衣装、②食、③民間にも触れた。

●ビデオレター交換
交流先が、首都ティンブーにあるロゼリン中学校 (Loselling Middle Secondary School) の8年生40名 (日本の小6に相当) に決定。
お互いの文化を理解し、交流するためのビデオを作成。衣装、食、民間の3グループに分かれ、ブータンと異なる文化をどう伝えるか考えた。見る相手の視点に立つことで、日本らしさや他国から見た日本の素晴らしさについて再発見した。ビデオはグループごとの協議により全編英語で作成した。
ブータンからもビデオレターが書き、日常の学校の様子を見て、英語力の高さに驚いていた。

●オンラインで交流
自分たちとブータンの子ども達の英語力に差があることを実感し、リアルタイムの交流に向けて入念な準備を行う必要があることに気付いた生徒たち。事前に質問を交換してもらい、回答を作成した。
9月3日、現地とZoomでつないだオンライン交流を行った。質疑応答を中心に、お互いの文化などを紹介し合った。

●手紙の作成
一人1通、英語で手紙を書き、ブータンへ送った。トウガラシをたくさん食べる文化のブータンの子ども達に日本の唐辛子を味わってもらおうと、八幡屋雄五郎の七味唐辛子のオリジナルデザイン缶 (交流記念デザイン) を同梱した。

●七味唐辛子割合体験
日本文化を鑑賞するために、八幡屋雄五郎のスタッフに、七味唐辛子割合の出前講座をしていただいた。なぜ長野で七味唐辛子なのか、ブータンとの共通点も理解した。教員も一緒に体験し、ブータンの唐辛子も混ぜ、世界でたった一つのオリジナル七味唐辛子を割合した。

4. 活動の成果



ブータンの地域や気候、宗教、国家体制などを鑑賞し、相手の価値観を常に気にしながら活動する姿が多く見られた。
例えば、日本の果物が大きすぎることについて紹介しようとしたグループは、「ブータンの果物は小さく、日本の果物は大きい」という当初の相対的表現を批判的に吟味し、「私たちは日本の果物に誇りを持っている」という表現に変更した。真在する相手と交流しようとする意識が、自分たちの言葉を注意深く振り返ることに繋がり、結果として他者の尊重をしながら言及するというスキルを育てたものと考えられる。
ブータンが唐辛子をたくさん食べる文化であることに興味を持ったことから、信州の七味唐辛子をブータンに紹介したグループもあった。
唐辛子の使い方の違いを説明し、「頂きます、ご馳走様」といった日本独特の礼儀作法にも言及できていた。自文化を尊重する気持ちが芽生えたことで、他文化も同じように尊ぶことに気付き、文化に優劣はないことを実感した様子であった。
オンライン交流では、練習したブータン国歌を披露した。すると、ブータンの子ども達はすぐにすつと立ち上がり、歌の終わりに深くお辞儀をした。これは、国歌に敬意を示すブータンの習慣である。ブータンからの質問も、「国」についてが多く、それに答えられない自分たちに気付くことができた。
外と内との往復視点で、映し鏡のように自分の国や地域、自分自身を見つめなおすきっかけとなった。また、他国の人を身近に感じ、「自分と同じように尊ぶ他者」としてとらえることもできるようになった。



5. 指導方法・体制の工夫
英語を公用語とし、日本との時差が小さな国であり、職員が青年海外協力隊として派遣されていたため、ブータンに相手国に決定。ブータンは約東事が必ず履行される土地柄ではないため、南アジアを得意とする旅行会社にご協力いただき、上田市に留学経験のある現地ガイドの伝手で交流先を探した。電気やネットワークが安定しているのは首都だけであり、対象が限られたことで、交流先決定までに3か月かかった。
オンライン交流当日も、時間通りに相手Zoomに入ることができず、10分以上遅れが生じたが、これも文化やインフラ事情の違いと説明することで、かえって異文化を実感する出来事となった。
教材：ブータンの民族衣装、生活用品、唐辛子など
協力者：(株) @トラベル&サービス 代表 山名剛謙、シェラブ・ウォンディ様
ロゼリン中学校 ソナム・ベマ教師、8年生の皆さん
(株) 八幡屋雄五郎 金井様、北條様

感想

会場⑥-3 文化学園長野中学校② 発表を見た方からの感想

- 他の学校では環境問題が主立っていた中で、他国との異文化交流という点で興味を引きました。また、食文化などの違いが驚くほど違うため、そのギャップに発表を悩んだのではないかと思いましたが、伝わるように相手の言語に合わせたり、伝わるような工夫を凝らしており素晴らしいと思いました。
- 発表ありがとうございました。ブータンの文化について分かりやすく説明されていて、信号がないことは初めて知ったので驚きました。日本と他国の文化を触れ合うことで多文化に関わることができるので、より文化や伝統を大切にしたい気持ちがつくようになると思いました。
- ブータン王国と交流することで、異文化の良さを知り、それに触れていくことで、子どもたちのグローバルな視点を養うことができるのではないかと感じた。また、異文化に対する理解を深めるだけでなく、日本の文化を再認識し、新たな発見をすることができていた。その中で、知らないことも多くあることに気付いた子どもたちが、自国に誇りを持ち、分からないことを積極的に学んでいこうとする姿勢を持っていたことは、印象的だった。
- ブータンとの交流のために、文化を調査したり動画を作ったりしていて、とてもおもしろそうだなと思いました。グローバルな交流を持つこと、特にオンラインで直接交流する経験は、とても貴重なものになると思いました。
- 英語を活発に活用した国際交流が印象的な発表だった。パワーポイントやプロジェクターなどのICT活用や着物を紹介するランウェイなど、ユニークなものも多く、非常に面白い内容だった。国際的な観点からのアプローチは珍しいので、個性的な活動だったと思う。
- ブータンのような海外の国の学生と交流したことはなかったので、発表の中で様々な文化の違いを聞いて驚かされました。とても貴重な体験だったのではないかなと思います。また、本活動を通して、当たり前だと感じていた日本の文化や生活をまた違った視点で捉えなおすことが出来たのではないかなと思います。素晴らしい実践の紹介ありがとうございました。
- ブータンとの交流を通して学んだことについて、写真やイラスト、動画を用いてわかりやすい発表でした。発表を見ていて私もブータンに興味を持ちました。ビデオを通しての交流が楽しそうで、相手の国を知るにあたって、自分の国について知る必要があるという異文化交流に必要な要素に気づけることが素晴らしいと思いました。
- ブータンという国について、チェーン店がない、唐辛子をたくさん使う等面白い文化がたくさんあるんだと思いました。また日本というわらしべ長者のブータンのお話は考え方が逆で驚きましたが、ブータンの考え方もとてもすてきだなと思いました。自分の国の文化を他国に紹介することで自分の国の文化についても新たな寝て知る機会となりますね。私も家庭科教育を専攻していますが、浴衣や着物を着れるかといったら自信がありません。他国の文化に知ることはもちろん自身の国の文化を大切にしていけることも大事ななと感じました。発表ありがとうございました。
- ブータンとの交流で、服装や文化などの違いについて紹介していただきました。日本のわらしべ長者に似たヘレヘレ爺さんの話では結末が逆ですが、相手の幸せをうれしく感じるというブータンのお話もいいなと感じました。ほかの学校ではあまり文化の異なる人との交流という活動がないので、非常に面白そうだなと感じました。今回の交流で日本の文化についても少し学ぶことができたのではないかなと思います。様々な文化を大切にしていってほしいなと思います。
- ブータンにある学校と交流を行うという課題に対して、童話の比較や食文化のちがいといったさまざまな切り口を通して、交流してみたいという思いへとつながっていることはとてもすばらしい実践だと思いました。地域の企業とも連携したり、テレビの取材を受けていたり、珍しい体験としてうらやましく感じました。
- ブータン王国との交流を通じて日本の文化の良さを伝えていて素晴らしいなと思いました。文化や言語は違っていてもお互いがお互いを知ろう・伝えようという気持ちがあればつながることが出来るのだなと感じることが出来ました。
- ブータンとの交流をしながら、子どもたちがブータンと日本文化の共通点や類似点を見つけたり、自分たちがあまり日本文化を知っていなかったことから、自分たちの文化を見つめ直しているのが良いなと感じました。これらの活動で知った日本文化をもとに、これからもブータンなどの他国との交流を頑張ってください。
- 発表を聞き、印象的だったのが「伝えようとする気持ちが言葉の壁を越えて心を繋ぐ」という言葉です。相手の文化や考えを理解しようと勉強したり、相手の言葉を理解できず悔しい思いをしたりした皆さんだからこそ、このような言葉が出てきたんだと思います。言葉で上手くコミュニケーションできなくても、気持ちが通じ合う瞬間がそこにはあったのだと感じました。素敵な発表ありがとうございました。

- ブータンの特徴を日本と似ているところ、違うところの比較をしながら話題を展開していて良いと思いました。その中でもブータンと日本の幸せの違いはあまり着目しにくい点ではあるが、重要なことでもあるかと思いつつも印象に残りました。
- 塩が貴重だから唐辛子を使うというところから、他国の文化を地理とつなげているのが良いと思いました。体育の時の服装は発表を聞いていて私も気になったので、気になったことはそこも調べたり話を聞いたりして発表に取り入れられたら更に良くなるのではないのでしょうか。劇や実際に着物を着るなど実践を行っていて、言語の壁があってもコミュニケーションが取れると感じました。私が知らないことがたくさんあって新鮮でした。国際交流から自分たちの地元に興味を持った姿を見て、私も日本や自分の地元についてももっと詳しくなりたいと思いました。興味をそそる発表をありがとうございました。
- ブータンの文化や日本とに違い、似ている部分を資料を示しながら説明することで理解を高める発表であると思いました。実際に紹介ビデオを作ることで自分たちの日本に関する理解も深められたと思います。私はブータンについて何も知らなかったので興味深く、見ていて楽しかったです。ブータンとの違いを知ることで自分たちの英語力のなさや課題を知れたということはこれからの学びの励みになると思いました。
- 日本とブータンの似ているところ、違うところをあげ、それがなぜなのかまで調べられておりとても勉強になり、ブータンについてどのような国なのかもう少し知りたくなりました。他国の方と交流をするとき、やはり言語の壁があると思いますが、翻訳機を使うのではなく課題としてしっかり受け止め、心と心でつながることを大切にしている素敵だと感じました。コロナでできていない活動もあると思いますが、コロナだからこそできたこともあると思うため、そうした経験も大切にしていって欲しいです。
- 私も外国との学校の交流をしたことが中学校と高校で一回ずつありましたが、私たちとは違う視点で交流をされていてすごいなと感じました。ほぼ自分たちで活動をし、テレビでも開示されるまで行くのは相当すごいのだなということも思いました。これからも探求を深めていってください！
- 「自分が得をするのではなく、相手が得をするのが良いこと」という言葉が印象に残りました。日本にはこのような文化があまり見られないような気がしますが、日本でもこのような文化ができればいいなと思いました。また、ブータンとの交流から自分だけの七味づくりの作成への発展がすごいと思いました。長野県は、七味で有名なので私も七味づくり体験をしてみたいと思いました。素晴らしい発表ありがとうございました。
- ブータンの人と交流したことで、英語力が上がっただけでなく、コミュニケーションの難しさや楽しさ、そして異文化を学ぶことの大切さを感じることができたのではないかなと思います。また、七味の調合では、それぞれの七味を作ることによって、個性の大切さや多様性の尊重についても関わる学びができたのではないかなと思います。異文化を知り、考えることは他人について知り、考えること、さらには、自分について知り、考えることにもつながると思います。これは今後につながる大切なことだと私は考えています。今回の学びや感覚を忘れずに、これからも学びを深めていってほしいと思います。応援しています！
- ブータンと交流を通してブータンと日本の両国の文化について学習し、また、英語の学習もされていて、日本との比較や実際の交流によってたくさんの学びを得られていてうらやましく感じました。英語のネイティブスピーカーとの交流は自身の英語の能力によってもどかしさを感じることもあると思いますが、貴重な体験だと思っているので大事にしていってほしいです。
- 言葉の壁を越えて心をつなぐということはとても大切なことだと感じました。また、わらしべ長者とヘレヘレじいさんの話から日本とブータンの考え方の違いが分かりました。日本の良さを周りに発信する際に自分が日本のことをよく理解していないといけないということについて、その通りだと思いました。
- 言語の壁に対する工夫や、交流前の入念な下調べをしていて、遠い国の子どもたちと歩み寄る姿勢がとてもいいなと思いました。また、交流からブータンと日本の様々な違いや共通点を発見し、相手のことをたくさん知るだけでなく、自分たちの国や地域の良さに気づくことができたのはとても良い体験だと思います。この貴重な経験で得たグローバルな考え方を今後様々な場面で活かして欲しいと思います。
- インターネットやオンライン会議システムの発達で、リアルタイムで国を超えて繋がれることに、とても可能性を感じましたし、自分たちの届けたものが伝わったことや、返信が来ることで、海外とコミュニケーションが取れているということを生徒たちは実感しながら活動していたことが、この活動に対する生徒の積極性につながったのだと感じました。発表ありがとうございました。
- 文化を知る活動を通して、自国の文化に対する認識を新たにできる機会だと思いました。このような活動が高等学校へ進んでからの学習(国語科の言語文化等)に活かせると思います。

会場⑥-4 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生②)

活動テーマ ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる

発表概要 1 学年
志賀高原研修旅行を通して、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめる。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立山ノ内中学校

2. 対象：
(学年・人数) ※網掛け・ゴシック体が発表&交流会参加生徒1 学年・77名 (8名)
2 学年・85名 (13名)
3 学年・73名

3. 活動内容

(1) 活動名

地域活性化のために自分たちができることをやろう

(2) 活動の目標

本校では、ESD を「自分たちの山ノ内町を持続的に発展させていくためには何をすべきか」とらえ、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題に対し、中学生として、また卒業してからも、何ができるのかを考え、地域や町当局に発信し、自らもできることをやろうとする中学生を育成することが目標である。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

<input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること)	<input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)
<input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)	<input type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること)
<input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)	<input type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)
<input type="checkbox"/> その他 ()	

②育成する資質・能力

<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 他者と協力する力
<input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力	<input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 進んで参加する態度
<input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	

(4) 関連する SDGs

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任

(5) 活動の内容

1 学年：志賀高原研修旅行 (ユネスコエコパークでの探究的な学び) ▶ 魅力の発見
2 学年：草津研修旅行 (課題解決に向けた探究的な学び) ▶ 魅力の比較
3 学年：修学旅行・中学生が夢みる町づくり討論会 (学んだことを提案・実行力) ▶ 魅力の発信

4. 活動の成果

各学年での取り組みによって、生徒自身が問いをもち、その解決に向けて調べ、探究していくといった学習活動のサイクルが構築されてきている。その結果、自然と「地域活性化のために何かやろう！」といった意識へと繋がり、主体的な活動として深まってきている。

今後は、昨年度より本校でも大切にしているが『ESD カレンダー』をもとにした、各教科における学びも位置づけ、より日常の中で生徒が考えたり、グループで深めあったりしていけるよう、検討していく。

5. 指導方法・体制の工夫

校内研究グループと連携しながら、教科と ESD の繋がりの可能性を今後も探っていきたい。(負担感のないように ESD に関わる授業実践を公開し、研修していく。※今年度は1学期と2学期の2回、金沢大学の加藤隆弘先生を招いて研修を行った。)

感想

会場⑥-4 山ノ内町立山ノ内中学校(1年生②) 発表を見た方からの感想

●日本ではあまり経験しない外国人との交流やその対応について着目し、まず自分たちの住む地域がどのような対応を取っているのかを調査してよい点や問題点を精査し、今後どのような活動をすればよいのかを自分たちで考えられる活動内容となっており、素晴らしいと思いました。

●発表ありがとうございました。外国人が来やすくするためのアンケートから、施設ごとはおこなっていても町全体ではまだ行えることがあるという考えをアンケート調査から見つけていることは良いと思う。結果から新しい改善案を見いだすことができることは、今後将来生きていくためにも必要な力だと思うのでこれからも育ててみてください。

●山ノ内の観光事情について、アンケート結果を分析し、それらをSDGsと結びつけ、細かく分析していたことから、子どもたちが非常に考えている様子がうかがえた。アンケート結果を受けて、子どもたちがこれからどうしていきたいか、感想を述べていたので、子どもたちの願いを受けて、これからそれらを実践していくことができると良いですね。

●志賀高原ユネスコエコパークに外国人観光客を誘致するかを考える取り組みを通して、地域について改めて学ぶことができると共に、外国人の立場に立って考えることもできると思いました。地域の宿泊施設にアンケートをとるなど地域との関わりもあってとても面白かった。

●SDGsの観点から長野の観光産業について捉えており、面白い視点だと感じた。特に外国人は施設で食事はせず、外食をすることが多いという統計は初めて知ったので、私も学ばせてもらいました。山ノ内町の良さをのより多くの人に伝えていって欲しいなと思います。

●事前のアンケート調査を行って、結果を分析して課題点を見出していることがとても素晴らしいと感じました。また、SDGsとも関連付けながら観光産業についてまとめられていて面白かったです。この先、見つけた課題点などを基にどのような活動を実際に行っていくのかとても楽しみに感じられました。素晴らしい発表ありがとうございました。

●アンケート結果から町が外国人観光客への対応として、問題と考えられるものを考察できていることが素晴らしいと思いました。観光の視点から、SDGsを考えることで、達成していかなければならない課題を把握できており、今後追求して行ってほしいです。

●山ノ内が外国人の方にとってどうであるかをアンケートをもとによくまとめられていてすごいなと思いました。やはりレストランや宿泊施設等実際に働いている人からの意見はとてりリアルでどんな部分が課題であるのかがとても明確にわかりますね。皆さんの活動から町全体で外国人の方にとってよりよい街に！という活動に発展すると素敵ですね。発表ありがとうございました。

●山ノ内町の観光に関して発表をしていただきました。私も大学の授業で志賀高原に行ったことがあるのですが、様々な西部地が生息しているとても良い場所だと思います。観光に関する整備が必要ということをもとめていただきましたが、外国人などを対象とした観光業を推進していく際に環境を守るための取組も推進しちくことができれば山ノ内町、志賀高原の大切な自然を守ることができると思うので、環境に関連して、そのようなことも考えられるとよいと感じました。

●地域の特色として観光を挙げ、アンケート調査から山ノ内町が抱える課題を見つけそれをSDGsと関連付けて捉えるところに山ノ内中学校の実践の独自性を感じました。地域課題からSDGsを見ているところが「Think globally, act locally」を感じる非常にレベルの高い実践だと思いました。

●今の日本における外国人の満足度の話にもつながってくるお話でしたね。今回のアンケートの結果から状況が好転するよう改善していかなければならないと強く思いました。外国人に向けた環境整備をすることは私たちの生活環境向上にもきっとつながってきます。素晴らしい活動だと思います。

●インターネットではなく、実際にホテルの人など観光業の人にアンケートを取り、自分たちで実際に調査をしたうえで、山ノ内町の外国の方向けの観光の問題点を見出しているのが良いと感じました。子どもたちが今回調べたことをどのように活用し、実際に解決するためにどのような活動をしていくのか楽しみです。

●山ノ内の外国人の方への配慮や工夫の現状をアンケートを使って上手く調査することができましたね。アンケート結果を読み取り、何が課題なのか見えてきたと思います。その課題をどうしたら解決できるか皆さんの意見を聞いてみたいと思いました。素敵な発表ありがとうございました。

●外国人のための視点から、良い点と課題点を導き題して良いと思う。今はコロナ禍で難しいと思うが、ぜひ

この活動を引き継ぎ実際に外国人の声を聞いてみても面白いのでは中と思いました。また、アンケートを用いて自分の声だけでなく、地域の方の声も用いて調査をしていて、説得力もあがるので良いと思いました

- 自分たちの視点だけから考えるのではなく、旅館の人など実際に外国人の方と関わっている人の話を聞いたのは良い観点だと思いました。アンケート結果がグラフできれいにまとまっていて分かりやすかったです。SDGsともしっかりつながられていたと思います。素敵な発表をありがとうございました。
- 最初にどのようなことを課題として設定するか考えた経緯を示していて導入が良いと思った。アンケートを取ることで感想だけでなく、数値としてデータが示せていたので論理的でレベルの高い発表だと思いました。観光の役割についてしっかりと考えられていて、SDGsに絡め考察、自分たちができることについて考えられていてよかったです。
- 地域の特色を分析し、行動することによって普段生活するだけでは見えてこない課題を見つける力に感銘を受けました。また課題に対して一人一人向き合い、自分なりの解決法を提案していて実現できたら楽しい町になりそうだなと思いました。この経験を通して自分たちの地域を知ると同時に世界との関わりを大切にしたいなと思いました。
- 山ノ内町の外国人との対応について自分たちから率先して外国との国際交流をしたいなと感じたこと自体がまずすごいなと感じました。そこでいろんな視点からSDGsに関することにつなげていることに関しても感心しました。ただ行うのではなく、そこに自分の意見も織り交ぜながら行っていることがさすがと感じました。
- 発表から、フリーWi-Fiや循環型周遊バスの取り組みは外国人観光客を助けるだけではなくその地に来る日本人観光客を助けることになり、全体的な観光客の増加につながるのではないかと思います。山ノ内町だけではなく、長野県では松本市や長野市のような主要な都市以外の市町村では、まだまだ英語に対する対応がなっていないと思うので、私の住んでいる市でも公共交通機関をはじめ様々な場所で英語に対する対応をしてきたらよいのではないかと思います。スーパーなどで働く人の英語力を上げるのも一つの手なのではないかと思います。
- 山ノ内町の観光について、実際にどんな情報が必要か考え、アンケートを取り、解決策を考えるという実践的な学びをしていて素晴らしいと思いました。また、SDGsと関わりながら観光を考えるなど、広い視野を持って山ノ内町の観光を見つめなおしていることはとても大切だと感じました。自分たちの学校がある地域の活性化を考えることで、様々な学びができたということをお忘れずに、これからも色々な問題に目を向けて、解決に向けて考えることを続けていってほしいと思います。応援しています。
- 自分たちの地域での外国人との交流を考えられていて、地域の方へのアンケートを行われていて、自分たちの意見だけではなく、多様な意見が取り入れられていていいと思いました。現在コロナウイルスの影響で海外からの観光がしにくい時期だと思うので、この状況が打破されたときによりよく迎えるために活動を続けてほしいと思いました。
- 海外の方にとって自分たちの住む場所がどう見られているかなどをアンケートを通して研究している姿が見受けられその調査を活かしてこれから自分の町ではどういう意識、物が必要なかが明確になったのではないかと思います。それらを活かしてより住みやすい街づくりにつなげられることを願っています。
- 改善する点に関して、山ノ内のよさを残し継承しつつ改善すべきところを工夫していくことが要であり、改善するために良さを犠牲にしてはならないと感じました。国際的に発信したり、発展していくのは、まぎれもなく山ノ内町を見つめることが、外国の人にとっても、そして何より今山ノ内町で暮らしている人、これから生まれてくる子どもにとっての心地よい町に創造していくことに繋がるのかもしれないと、発表を通して考えさせられました。
- アンケートを通して、山ノ内町の観光を調べて行った様子がよくわかりました。分析をして課題や良い点を知ることができたことは、生徒たちにとって地元のことを考える第一歩になったのではないかと思います。何か今後アクションが生まれそうな予感がして、ワクワクしました。発表ありがとうございました。

ビデオ発表

根羽村立義務教育学校根羽学園

活動テーマ

根羽杉のブランド化

発表概要

根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動を通して、木材に付加価値を付けて産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちにできる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるようにする。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会

～実践記録①～

1. 学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園
2. 対象：8年生（中学2年生） 生徒7名
3. 活動内容

(1) 活動名 「根羽杉のブランド化」

(2) 活動の目標

根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動を通して、木材に付加価値を付けて産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちにできる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるようにする。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

相互性（関わりあっている） 連携性（互いに連携・協力すること）

②育成する資質・能力

他者と協力する力 未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度 コミュニケーションを行う力

(4) 関連するSDGs

11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう

(5) 活動の内容

①林業のことを知ろう

- ・村の森林組合を訪問し、丸太が板状の木材に加工されていく様子を見学する。
- ・東京で林業を営む会社についてのニュース記事を見て、なかなか儲けにつながらない林業の現状と、木工体験会を開いて人を呼び、自分だけのオリジナル家具を作ることで儲かる林業にしたいという会社の工夫を知る。

②自分たちにできる取り組みを考えよう

- ・根羽の木材に付加価値を付けていくためのアイデアを考える。
- ・「木で何かを作ることで根羽をPRし、根羽に貢献していきたい」、「自分たちで製品を作って、ロゴを入れることで木材に付加価値を付けていきたい」という願いをもつ。
- ・木工教室を開催している飯田市の工務店を訪問し、工務店の方の思いや工夫を知る。

③試作品とオリジナルロゴをつくらう

- ・森林組合からいただいた杉の端材を使ってものづくりをする。
- ・「多くの人に根羽をPRしたい」という願いに立ち返り、村内のお店に置いていただき、使っただけのものを目標にものづくりをする。
- ・一目で「根羽」と分かるロゴを考え、レーザープリンターを使って、試作品にロゴを入れる。

④つくったものを使ってもらおう



4. 活動の成果

生徒たちは、根羽村の特産品である根羽杉に着目し、根羽杉を多くの人に知ってもらい経済価値を高めていくことで、村の発展につなげることができると考えた。森林組合の工場見学では、学校の近くにあるが何をしているかよく分かっていなかった森林組合の仕事を直に見ることができ、根羽村の林業について知ることができた。工務店訪問では、ものづくりの楽しさを実感するとともに、建築材の端材を使ったものづくりのアイデアを得ることができた。そして、森林組合からいただいた端材を使ってものづくりを始め、自分たちでつくった根羽のロゴを入れた製品を作成することができた。燃やされるだけだった端材を、自分たちの手で誰かに使ってもらえる製品にすることができたことで、生徒たちは自分たちの活動が根羽杉の経済価値を高めることにつながるという自信をもち、今後の活動への意欲を高めることができた。




<p>私たちは木工体験ができるイベントをした いと思っているので、そのときは体験する人が 楽しいと思うように工夫をしていきたいです。 考えるときはどんな意味を込めるのかをみ んなで決めてから作りたいと思います。</p>	<p>私たちは総合の時間でものをつくったり、みん なにものづくりを体験してもらったりしたいと 考えているので、みんなが楽しめ、心が温まるよ うな活動を考え、行っていきたいと思ひます。</p>
---	---

5. 指導方法・体制の工夫
①村内の地域素材(杉) ②森林組合の方 ③工務店の方

～実践記録②～

1. 学校名: 根羽村立義務教育学校根羽学園
2. 対象: 3・4年生 13名
3. 活動内容
(1) 活動名
「自慢の根羽」
(2) 活動の目標
・自分たちの住む根羽村を探索し、その良さや特徴を知る。
・地域の人との関りを通して、根羽村の自慢できることで新聞づくりをする。
(3) ESDの視点、育成する資質・能力
①構成概念
多様性(多種多様な現象が起きていること) 連携性(互いに連携・協力すること)
②育成する資質・能力
他者と協力する力 つながりを尊重する態度
進んで参加する態度 コミュニケーションを行う力
(4) 関連するSDGs
11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう
(5) 活動の内容
・根羽村に生息する「ネバタガカエル」がいる「カエル館」について調べ、実際に「カエル館」に行っ
て観察した。
・根羽川のきれいな水で泳いだり、生き物を探したりした。
・農家さんが都会の人に送っている「お野菜便」に、根羽村のPRをする新聞を作って入れた。
・地域の方にいろいろな野菜の作り方をインタビューして、新聞を作った。

4. 活動の成果
・都会の人から「お野菜便」に入れた新聞に対する感想をもらったことで、根羽村の良さを伝えること
ができたという達成感をもつことができた。度維持に、自分たちも改めて根羽村の良さを実感する
ことができた。
・根羽村の良さを実感することができた一方、根羽村の特色である「森林」を活用した学習につなげる
ことができなかった。子どもたちは「木材を加工してモノづくりをしたい」という願ひをもっている
ので、来年度は「森林資源」を活用したモノづくりの学習をしていきたい。

5. 指導方法・体制の工夫
地域プロデューサー(杉山さん) 農家さん(片桐文子)

信州 ESD コンソーシアム

本園活動テーマ「自然環境を大切に育む」
具体的活動 ① 資源回収に係わる活動
② 再生資源を使った遊びに係わる教育
③ 環境・資源に係わる教育

信州大学教育学部附属幼稚園

① 資源回収に係わる活動
本園では、通常家庭で破棄されてしまうようなトイレットペーパーの芯
や牛乳パック、空き箱、プラスチックカップ等を、園入口の回収箱で回収
し、遊びの素材として利用している。回収箱は、中身が見える半透明のプ
ラスチックボックスに種類別の写真をつけて設置しているため、保護者だ
けでなく子どもたち自身も分別している。最近では隣接している小・中
学校でもトイレットペーパー芯を届けてくれたり、卒園児の保護者の皆さん
や近隣住民の方も牛乳パックや空き箱等を届けてくれたりと回収に協力
してくださっている。




② 再生資源を使った遊びに係わる教育
本園では、資源回収で集まった素材を必要に応じて洗浄・消毒し、子ども
たちの日々の工作に自由に使える素材として提供している。子どもたちはト
イレットペーパーの芯や牛乳パック、空き箱等を使って、乗り物や生き物、
遊びに必要なもの等を作って遊ぶことを通して、「素材さえあれば、作りたい
ものを作ることができる」という経験を重ねている。また、物品購入の際
に梱包材としてついてくる大きな段ボールは、迷路の仕切りや、子どもが作
るお家のドアや壁としても利用することができ、再生資源を有効に使った遊
びで、子どもたちの想像力、創造力も育むことにつなげている。









③ 環境・資源に係わる学習
子どもたちは、資源回収で集めた素材で乗り物や生き物等の作品を作
り、家に持ち帰っている。そして、家での遊びで使わなくなった乗り物
や生き物等の作品は、子どもと保護者が話をする中で解体して元の資源
に戻し、もう一度遊びの素材として使えるように幼稚園の回収箱に提供
し、再生資源として生かそうとする姿が見られる。
また年長児は、毎年市の環境課の方をお招きし、アニメや〇×クイズ
等を織り交ぜた「リサイクル」についてのお話を聞くことで、環境・資
源を大切にしようとする気持ちを育てている。



附属特別支援学校でのSDGs活動

1. 全校での取り組み アルミ缶の回収作業

長野地区附属学校と地域福祉事務所とが連携



附属長野学校三校全体で協力しながら取り組んでいます。児童生徒それぞれが協力することの大切さを考えたり、自分たちにできることの意義が大きな視野で見るとそのような成果となるのかを知ったりする貴重な機会になっています。この活動には、地域の福祉事務所にも協力をいただいています。



2. 小学部の取り組み 附属長野小学校との交流活動

同じ敷地にある両校の児童が交流することで、それぞれの学びがあり、まなざしを共有することで新たな気づきが生まれたり、交流がはじまったりします。ともに自然の中で見つけたエピソードも大切な学びや発見として児童たちの成長に欠かせない存在の一つとなっています。



3. 中学部の取り組み 地域・学校の花壇整備



花を大切に植える生徒の姿には植物に対する愛情が感じられます。また、地域や校内に生徒が作った美しい花壇が置かれることで周囲に明るい雰囲気を出しています。



4. 高等部の取り組み 福祉事業所・企業での職場実習



地域の福祉事業所や企業の協力を得ながら、高等部の生徒たちが社会とのつながりを作ろうとする姿には、たしかな成長が見られます。

副校長 佐藤幸三先生からのコメント コロナ禍ではありましたが、SDGsに関する取り組みでは、児童生徒の、「自分から自分で 精一杯」の姿がたくさん見られました。附属特別支援学校は、これからもSDGsに主体的に取り組んでいきたいと思えます。

IV

長野県内のユネスコスクール年次報告

信州大学教育学部附属幼稚園

加盟年:2018年

1 2021年度活動分野

減災・防災、環境、持続可能な生産と消費

2 2021年度活動の概要

本園は「自然環境を大切に作る心を育む」を活動テーマとしてESDを学びの場と捉え、ユネスコスクールが重点的に取り組む「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」の実践を通して、資源の再利用を通じた環境保全を主体的に進めようとする力の育成を目標とした。具体的には資源回収、資源の分別、資源の再利用を柱に①資源回収に係わる活動、②再生資源を使った遊びに係わる教育、③環境・資源に係わる教育を行った。

①資源回収に係わる活動

本園では、家庭で捨てられてしまうトイレットペーパーの芯や牛乳パック、空き箱、ヨーグルトカップ等を集めて、幼稚園の回収箱に分別して入れていただいている。回収箱は中身が見える半透明な箱に写真をつけ、保護者だけでなく子どもたち自身も分別できるようになっている。最近では隣接している小中学校でゴミとして捨てられているトイレットペーパー芯を集めたり、卒園児の保護者や近隣住民の方も資源を集めたりして届けてくださるようになってきた。

②再生資源を使った遊びに係わる教育

資源回収で集まった素材を物によっては洗浄・消毒し、子どもたちの創作活動や遊びに自由に使える素材として提供している。子どもたちはトイレットペーパーの芯や牛乳パック、空き箱等を使って、乗り物や生き物を作って遊ぶことを通して、物をゴミとして簡単に捨ててしまうのではなく、資源として生かすことができるという考え方が身に付いてきている。

③環境・資源に係わる学習

子どもたちは、資源回収で集めた素材で乗り物や生き物を作り、家に持ち帰っている。子どもと保護者が話をして、使わなくなった乗り物や生き物は元の資源に戻し、もう一度遊びの素材として使えるように幼稚園の回収箱に持ってくる姿が見られた。②と同様、子どもと保護者が話をする中で、資源としてもう一度生かそうとする姿が見られる。また昨年度同様今年度も、市の環境課の方から年長児を対象に〇×クイズも織り交ぜた「リサイクル」についてのお話をいただき、資源を大切にしようとする気持ちを育んできた。

3 2022年度の活動計画

令和4年度のコロナの状況にもよるが、県内の国公立幼稚園に職員が出向き、家庭から出た資源を使った遊びをその園の職員に伝えていく。また、幼稚園を公開する際には本園の回収ボックスや素材置き場も積極的に公開し、他園の幼稚園の職員にも本園の回収方法やリサイクルの仕方を広め、環境問題について共に考える活動を展開していきたい。またPTAや地域住民に子どもたちと協力を願い、幼稚園のみならず地域にも、広く資源の再利用を呼びかけ、幼稚園とPTA、地域住民で協働した資源再利用の取り組みをさらに進めていきたい。

茅野市立永明小学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、持続可能な生産と消費、貧困

2 2021年度活動の概要

本校は2017年度にユネスコスクールとなった。学校目標は『ともに拓く』～なかよく・かしこく・たくましく～。今までの教育活動をESDの視点で捉え直し、「つむぎ合い」を中心にすえて取り組んできた。

具体的には、①書き損じはがき集めに係わる活動、②「縄文科」学習、③SDGsを意識した学習、④地域の自然と関

わる活動、⑤ベルマーク募金、⑥ユネスコスクールのロゴを使って各通信の発信 を行った。

①書き損じはがき集めに係わる活動

回収ボックスを昇降口に置き、1月下旬まで回収する。世界には公的教育を受けられない小学生がいる事実を知り、自分ができることから行動に移そうとする姿を育むことができた。

②茅野市では二体の国宝土偶が出土していることから、市内全小中学校で「縄文科」学習に取り組んでいる。本校では3学年で、「縄文人は火を使っていた」ことから火起こしに取り組んだ。火を着けることは簡単ではないこと、協力や協働なくしては着けられないことを知り、縄文人も力を合わせて生活していたことを体感した。

③SDGsを意識した学習

3年3部は、給食で出される牛乳ピンのふたを、ゴミとして捨てられていることを疑問に思った。「ビニールと分けて捨てられないのかな。」「ふたを紙としてリサイクルできないのかな。」ということ調べて、まず自分たちのクラスで実践を始めた。しかし、クラスだけでなく学校全体にこの有意義な活動を広げたいと願い、クラス訪問を行って呼びかけることにした。その訪問練習から、環境問題やリサイクルに関する取り組みであることを強くアピールすることが大事だと、気づいていく子どもたちであった。

④地域の自然と関わる活動

1学年は、春に地域にある「永明寺山」に遠足に行く。永明寺山ふれあいの森を創る会の方々に、道案内をしていただき、途中途中で見どころや草木のこともお話しいただき、自然に親しんでいた。秋になってリース作りをするとき、再び永明寺山に行ってみたいと計画し、松ぼっくりを拾ってきた。それは、永明寺山を身近に感じたからこその姿であった。

⑤ベルマーク募金

一人でも多くの子どもが学校に通って学べるようになってほしい。そして、世界の子どもたちが、私たちと同じように、自分の話す言葉の文字が読めるようになってほしいという願いから、昨年度末集まったベルマークの中から、2万円分を「アフガニスタン寺子屋プロジェクト」に友愛援助資金として寄付した。

⑥学校だよりや学年学級通信等にユネスコスクールのロゴを掲載し、児童や保護者、地域の方にユネスコスクールであることを広く発信した。

3 2022年度の活動計画

①ユネスコ協会の取り組みとして行っている書き損じはがき回収に引き続き協力していく。

②全学年が縄文科の学習を通して、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。知恵を働かせ、協力して生活していた素晴らしさについて、体験を通して学ぶ。

③ESDの理念や「持続可能な開発目標(SDGs)」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。具体的には、学年別指導計画をSDGsの視点がねらいとなっているものを、シンボルマークで示す。また、生活科および総合的な学習の時間を学級の中核活動にすえ、各教科横断的なつながりを付け加え、ESDカレンダーを作成し、SDGsを意識して授業を展開する。諸外国について学ぶ機会を、講演会や社会の授業、平和学習などを通して行っていきたい。

④ベルマーク募金について、継続していきたい。

高山村立高山小学校

加盟年:2015年

1 2021年度活動分野

減災・防災、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、人権、福祉、健康、食育、エコパーク

2 2021年度活動の概要

高山小学校のユネスコスクールの活動は、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に、高山村の人や環境から学び、地域のためにできることを見つけることを目的として学習を進めている。具体的には、2015年のユネスコスクール加盟時から継続的に取り組んでいる三つの取り組みを柱としている。一つ目は、学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」。二つ目は、生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に

学ぶふるさと学習。三つ目は、学校支援ボランティアの支援による教育活動である。また、その成果の発表として「しらかば学習発表会」を位置づけ、地域にも発信している。しかしながら、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、活動内容について変更や中止をしなければならない状況が続き、本来の活動を変更したり、見直しをしたり、次年度に持ち越したりすることも多かった。実施できた活動、内容を変更して実施した活動、中止とした活動等、その時期の感染状況に左右された部分も大きかったが、ユネスコスクールとしての責務を果たすために、身近な活動を地道に積み重ねた本年度となった。

①学校・PTA・公民館が力を合わせた「わくわく村」講座の取組み

親子ふれあい体験講座である「わくわく村」を本年度は18講座開設する計画を立てた。親子のふれあいだけでなく、地域の人々との交流・自然環境のすばらしさに触れたり、歴史や文化といった風土にも学んだりして、その魅力を肌で感じることができた。

＜2021年度に開設された講座＞

・切り絵教室「いろいろな切り絵を作り、村内のいろいろな場所に飾ろう」 ・わくわく自然教室「村内を道草しながら散策しよう」 ・アートとデザイン教室「美術に親しもう」 ・俳画教室「一茶の俳句に合わせて絵を描こう」 ・ホタル学習教室「ホタルの観察と村内生息地の整備を手伝おう」 ・ハーバリウム教室「お粉実の花を入れて素敵な作品を飾ろう」 ・サバイバルメシ体験教室「サバメシ(防災ご飯)を作ろう」 ・文化財を訪ねて教室「村の文化財を散策しよう」 ・星空の学習と観察教室「星空の観察の仕方を学び夜の星空観察しよう」 ・朝活、ゆったり太極拳「太極拳で身体をリフレッシュ」 ・古道を歩こう教室「高山村を探検し古道を歩こう」 ・一茶の里学習教室「小林一茶の歴史を学ぼう」 ・大田せぎ ・湯倉洞窟探検教室「大田せぎと湯倉洞窟に行って歴史を学ぼう」 ・親子レクリエーション教室「ニュースポーツを親子で楽しもう」 ・布ぞうり」と和綴じ作り教室「古着で布草履を作ろう」 ・親子高山太鼓教室「親子で太鼓の演奏を覚えよう」 ・親子木工教室「親子で木工作品を作り、村にベンチを置こう」 ・手作り紙飛行機教室「親子で飛行機を作って飛ばそう」計18講座

②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶ体験学習

生活科・総合的な学習の時間の活動では、地域に学ぶ学習を行った。また、年間の活動の計画をSDGsとの関連をアイコンで示した「ESDカレンダー」を作成した。例年11月に実施していた「しらかば学習発表会」の単独開催はせず、2月の参観日に学年ごと発表会や掲示等で活動の成果を発信する予定。

＜各学年の主な取り組み＞

1年生…「秋探しに行こう！」「来入児との交流」 2年生…「前田牧場へ行こう」「給食センター見学」「みそ作り体験」 3年生…「村内桜めぐり」「りんご栽培体験」「共同選果場見学」 4年生…「ごみ減らし大作戦」「パラスポーツを楽しもう！」 5年生…「米作り体験」「パラリンピックから学ぼう」 6年生…「高山村探検隊」

③学校支援ボランティアの方の活用による活動

1学期はコロナウィルスの感染拡大防止を最優先にしたため外部講師の来校を控えていただき、2学期より本来の活動支援をしていただいた。

＜支援いただいた主な取り組み＞

・りんご栽培体験学習(3年) ・みそ作り学習(2年) ・書写指導(3, 4, 5, 6年) ・米作り体験学習(5年) ・英語の紙芝居(6年) ・読み聞かせ(全学年)

④2月上旬「信州ESDコンソーシアム実践発表会」への参加

地域のコンソーシアムで自校の実践を発表するとともに、SDGsと関連づけた近隣の学校の取り組みを知ったり、交流をした。

3 2022年度の活動計画

令和4年度高山小学校のユネスコスクールの活動計画は、新型コロナウイルスの収束を願いつつ、「withコロナ」「afterコロナ」を見据えながら、本年度同様「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に学習を進めていくことになるだろう。先に述べた①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習③学校支援ボランティアによる活動支援を継続させながら高山村の自然や文化を深く知り、持続させていくことを願う心情をもち、高山村を通して日本や世界の今日的な課題にも目を向けられる子どもたちを育むような活動を展開していきたい。

山ノ内町立東小学校

加盟年:2014年

1 2021年度活動分野

生物多様性・環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、持続可能な生産と消費、食育、エコパーク、その他の関連分野

2 2021年度活動の概要

本校は、「よく考え行う子 なかよく力を合わせる子 気力にあふれやりぬく子」を学校目標とし、ESD活動における具体的な姿を『「なぜ」「わからない」を追究していく子ども』『「気づきを大事に協力し合い、表現・発信していく子ども』『「試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組む子ども」と捉え、「自ら考え判断する力」「友と協力して伝える力」「たくましく挑戦する力」を育てていくことを目標とした。

①1年生「子ヤギさんを飼おう」

人になかなか慣れない子ヤギと仲良くなって、一緒に遊ぶにはどうするかを考えながら飼育活動を行ってきた。毎日関わる中で、子ヤギの気持ちを想像し、自分に置き換えて、どうしたら子ヤギさんが元気に過ごせるか考えてきた。

②2年生「おいしいやさいをそだてよう」

ミニトマト、ジャガイモ、サツマイモ、大豆、ダイコンといった様々な作物を育て、天候に気を向けながら栽培することの大切さや獣害から作物を守る大変さを学ぶことができた。育てた作物を町の給食で使っていただき、給食センターの見学も行った。普段食べている給食の調理には栄養士さんや調理員さんの工夫や思いがあることがわかった。

③3年生「りんごの1年」

農家さん(児童の祖母)の協力を得て、学級でりんご栽培に携わせてもらった。りんごはどのように育ち、おいしくなっていくのかを作業を通して学ぶことができた。また、畑のりんごがどのように流通するか、加工されるかに関心を寄せ、共撰所に行き、りんごの選別や梱包の様子を見学することができた。

④4年生「山ノ内から世界へ 山ノ内の宝 コカリナ」

志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習してきた。演奏の鑑賞、楽曲の発表、工房の見学を通して、コカリナに込められた願いを知り、山ノ内町役場で国際交流員との交流を重ね、山ノ内町の魅力も伝えられるよう、活動にとり組んできた。

⑤5年生「山ノ内のブランド米『雪白舞』にチャレンジ」

米・食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞を受賞することを目標に、山ノ内のブランド米「雪白舞」の栽培に挑戦した。米研究部会のIさんにご協力いただきながら、田植えから収穫までの作業を体験した。活動を通して米研究部会の方たちや保護者の協力への感謝の気持ちや、収穫できた喜びを味わうことができた。

⑥6年生「未来のふるさと～動物と人間が共存できる自然豊かな山ノ内を願って～」

未来の山ノ内町の姿をイメージしたとき「自然豊かな山ノ内」を願いながらも、子どもたち自身も日常的にサルの被害に悩まされることに課題意識を持った子どもたちが、被害状況や生態系、環境の様子を調べてサルと共存できる町づくりに向けて自分たちができることを考えた。自分たちがまとめ、考えた内容を町内のESD交流発表会で提案した。

3 2022年度の活動計画

- ①「ABMORI～いのちを守る森作り～」に関わる活動やふるさと志賀高原遠足、高原学習(志賀山登山)、コカリナなど、志賀高原ユネスコエコパークに関わる活動を来年度も活性化させていく。
- ②また、ESD活動を子どもたちの成長に有効に繋げるために、教職員が活動を通して育成を目指す具体的な資質・能力を一層留意し、様々な教科との関連を意識しながら活動を仕組み、指導・評価を行っていく。
- ③さらに、児童自身も自分たちの学習や活動とSDGsがどのように関連しているのかを意識づけるために、ESD活動の中に、校内、地域、他地域などへの情報発信や他校との情報交換の場を充実させていく。

山ノ内町立西小学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

生物多様性、海洋、エネルギー、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、持続可能な生産と消費、健康、食育、エコパーク

2 2021年度活動の概要

本校は、ESD活動において、身近な地元の材に目を向け(E…いつまでも S…住みよい町に D…できるかな)を目標として、自ら考え判断し、知識技能を活かしながら主体的協働的に問題解決できる児童の育成に取り組んでいる。

①1年生の活動「自分達と周りの人達と共に」

1年生は毎年飼育している烏骨鶏を大切に育て、烏骨鶏の生と死を体験し、命には限りがあることや、命の大切さを実感することができた。またアサガオの栽培や学校敷地内の落ち葉を使った絵を作ったり、どんぐりでコマを作ったりしながら、季節を十分味わって自然の豊かさを感じることができた。

②2年生の活動「炭焼きをしよう」

2年生は、SDGsの目標である「陸の豊かさを守ろう」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関連した森林資源の持続可能な開発を視野に入れて活動を行った。かつて山ノ内地域で炭焼きが盛んであったことを学び、校区内の間伐材を使って炭焼きを行ったり、作った炭を使ったりして、間伐材の意味と間伐材を利用する事の良さを実感することができた。

③3年生の活動「羊たちといっしょに」

3年生は1年生の時から共に生活してきた羊が2頭の子どもを生み、3頭の羊と共に過ごしてきた。子羊の成長に伴い断尾や去勢をしなくてはならないことを受け入れ、3頭が共に健やかに育っていくために、自分達の思いで一方的に関わるのではなく、世話の仕方や関わり方について、相手の立場に立って解決方法を考えたり、行動したりできるようになった。

④4年生「池復活大作戦」

4年生は、学校の枯れた池に水をため、様々な水生生物が住める場所にすることを目標に活動した。水漏れの原因を見つけて修理し、川からパイプを繋いで池に水をためてコイを放したが、すぐにサギに襲われてしまったことから、生き物の住み続ける環境は絶妙なバランスで成り立ち管理することは難しいと感じつつ、再チャレンジへの意欲をもつことができた。

⑤5年生「私たちの米づくり」

5年生は、学校田でお米づくりの全ての作業を自分達で行い、「米」となるまでの大変さを実感した。また並行して須賀川地域の方の協力を得ながら米づくりを行い、その米が米・食味分析鑑定コンクールで「特別優秀賞」を受賞したことから、おいしいお米を作るには、自然豊かな土地と、人々の努力が必要であることをに気づくことができた。

⑥6年生「須賀川地域おこし隊 ～子どもの声が響く町作りを目指して～」

6年生は、昨年、米づくりでお世話になった地域の方々から聞いた「地域で子どもの声がきけなくなり寂しい」という声に対し、自分達ができることは何かと考えた。そして「須賀川地域おこし隊」として、今年は須賀川地区で大豆作りに取り組むと共に、地区を歩いて調べ、その良さを紹介するパンフレットを作り、広く発信しようと働きかけることができた。

3 2022年度の活動計画

①コミュニティースクール…CS)学校運営委員会を活かしたESD活動の充実

今年度、役割や専門性を発揮できるようCSの組織を編成し、CSと連携しながら教職員の地域研修を重ねてきた。そこで行ってきた地域素材の教材化について、今後はさらに、本校が目指すESDの目標と本校の「目指すその子ども像」をCSと共有しながら、子ども達の活動への支援をお願いしていく。

②持続可能な活動を目指して

持続可能な活動にしていくためには、子どもたちが願いをもって主体的に活動し、なおかつそれが楽しいと感じることが大切である。五感を使って行う体験学習や自己有用感・達成感を感じられる体験活動に軸を置き、そこから多角的に学びを広げていく。

③交流活動の推進

人口が減っている自分たちの地域において、世代が違う人々が互いにコミュニケーションをとり、知識や情報を得て、生活をより豊かに楽しくしていくことは、地域に暮らす人々にとっては、社会を維持するために大切な営みである。そこでまずは、校内、校種間、幼保育園と交流をしながら、子ども達の小中9年間の発達段階に応じた活動になるよう、互いに学び合い、刺激しあえる場を作るとともに、ESD活動の中に、地元や他地域への情報発信や交流を位置づけ内容を深めていく。

山ノ内町立南小学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

生物多様性、海洋、エネルギー、環境、福祉、健康、食育、エコパーク

2 2021年度活動の概要

本校はユネスコスクールとして、国内のESDの推進拠点という役割を担っていると自覚の上に学習活動を展開しようとしている。私たちはESDを、地域学習、環境学習といったものにとどまらず、地域と共に学び、地域に貢献するための行動化を促す学びであると考え。それが地域の持続可能性を高めることであり、子どもたちにとって将来の幸せを追求することにつながると考えている。今年度は目指す子ども像を次のように設定した。

○複数のものや事象の関連性に目を向け、課題の解決に向けて他者と協働し発信する子ども、○身の回りの課題をみつけ、「本当か」と問い直し、多面的に考えを深める子ども、○身の回りの他者と関わりながら、自分の世界を広げていく子ども、○豊かな原体験の中で、自分のやりたいことを満たす子ども

今年度は、これらのことに「多様なステークホルダーとの協働の学び」によって迫っていきたいと考えた。

各学年の学習

①1年生 ほなみ保育園へ行こう～ほなみ保育園との交流～

ア 保育園に行こう・学校周辺の散歩

・入学前まで通っていたほなみ保育園への散歩 ・ほなみ保育園の園児との遊び

イ 保育園のきりん組さん(年長児)とともにする遊びをつくり出そう

・保育園のきりん組さんとのリレー遊び(保育園から働きかけられての遊び) ・1年生がつくるきりん組さんとのリレー遊びの準備 ・きりん組さんと楽しむリレー遊びの交流

ウ きりん組さんを学校に招待してみんなで楽しむ遊びをしよう

・みんなが一緒に行く保育園での遊び ・学校への招待の計画・準備・交流

子どもたちは当初ほなみ保育園で自分が楽しく遊びたいという思いで散歩をし、自分で遊びを見つけ遊んだ。繰り返し保育園に行くなかで多くの保育園児と遊ぶようになり、人とのかわりが広がった。また、保育園の先生からの提案できりん組さんとリレー遊びをしたことをきっかけに、自分たちで遊びをつくり出したいという思いや願いを持ち、準備を進め交流した。その後、1年生ときりん組さんのみんなでひとつの同じ遊びをしたいと願い遊んだり、きりん組さんを学校に招待して遊び、学校のことを教えたいと願うようになったりした。本活動を通して、子どもたちが自分を主にした思いから年長さんを思いやる姿へと育ってきている。学校と保育園との垣根が低くなり、双方の行き来が生まれるようにもなった。

②2学年 ～りんご栽培・販売にチャレンジ～

ア りんごを育てよう

・花摘み(6月) ・マイりんごを決めて観察

イ りんごを育てよう

・マイりんご日記の作成。(パワーポイント) ・葉摘・販売準備(ポスター作り, SBCラジオ生放送・看板作り)

ウ りんごを育てよう

・感想(メールや手紙)を送ってくださった方にお礼の手紙を書こう。

子どもたちは、りんごの栽培活動や販売活動から、りんごを育てることには多くの人に関わっていることや、山ノ内町のりんごがおいしく評判のいいことを知り、山ノ内町の良さをもっと知り、県外の方々に伝えたいと言う意識を持ち始めた。感想を送ってくださった方へのお礼の手紙に、山ノ内町の良さを書こうということになり実施し、居住地域とは異なる地域の方とのかかわりが生まれていった。

- ③3学年 ～ゴミを減らそう 自分たちにできることをしてみよう～
- ア 昨年6年生と行った新聞エコバッグのことを思い出す。NHKの「みんなのチャレンジ。」を視聴し自分たちで出来そうなことを考えてみる。
- イ 全校ゴミ拾いのゴミを分別し、考えてみよう。
- ウ 紙のリサイクルのついて考えよう。牛乳のフタからハガキ作り。
- エ プラスチックについて考えよう。山ノ内町のプラスチック工場を見学しよう。
- オ ペットボトルのフタからブローチを作ろう。
- 子どもの日記には「今日はわたしは、午後Mさんとおふろのちゅう車場を二人でゴミ拾いをしました。落ちていたゴミは、ひげそり、CD、かご(中略)こんなにたいりょうのゴミが落ちているなんて、思わなかったのでびっくりしました。これからもゴミを落とさないで、きれいな町になれば良いと思います。」という記述があった。ESD体験学習後の作文には「今日、ESD体験学習で志賀高原に行きました。～～(中略)～～～志賀高原に行つて、花の名前やさわってはいけなけれど、どくキノコの事とかいっぱい知れたし、千年ご、一万年ごの人が同じけしきを見られたらいいなと思いました。」これらのことから、子どもの中に少しずつ環境などへの関心が高まってきたように感じている。
- ④4学年 東京2020を楽しもう ～パラスポーツを通して深める他者理解～
- ア 東京2020を応援しよう
- ・一人一国運動で世界の国を応援しよう
 - ・パラリンピック種目を知ろう
- イ 「障がい」って何？
- ・アイマスク体験
 - ・バリアフリーって何？
 - ・知的障がい者ってどんな人？
- ウ パラスポーツを体験しよう
- ・シッティングバレー
 - ・ゴールボール
 - ・ボッチャ
 - ・車いすバスケット
 - ・フロアホッケー
- エ スペシャルオリンピックス世界大会に出場した選手と交流しよう
- 障がい者は、「介助が必要な特別な人」「かわいそうな人」という意識を持っていた子どもたちが、本活動で「目が見えない人は、360度どこからでも音を感じることができる」「車いすバスケットの選手は、手で漕がなくてもすごいスピードで車いすを操作できる」というような驚きを持つことができた。そのような「障がい者」について新たな認識を持って、健常者である自分との違いに気付くことで、物質的なバリアフリーのだけでなく心のバリアフリーの大切さに気付いていく素地ができつつある。
- ⑤5学年 ～水を通して考える持続可能なまちづくり～
- ア 水生生物を観察しよう
- ・生物の減少
 - ・水生生物が生息できる環境の減少
 - ・地域の田んぼ、須賀川のビオトープの観察
- イ 水について考える
- ・サントリー水育学習
 - ・メダカの飼育
- ウ 志賀高原学習
- ・ユネスコパークの意義理解
 - ・志賀高原の動植物、地形の成り立ち調査、核心地域散策
- エ ESD体験学習
- ・エコパーク散策
 - ・水力発電所の発見
- オ 自然エネルギーの調査
- ・自然エネルギーによる発電
 - ・地球温暖化の実態調査
 - ・各発電方法の調査
 - ・自然エネルギーによる発電に挑戦
 - ・小水力発電の見学
- カ 外部との交流
- ・町内6年生のESD交流会への参加、視聴
 - ・エコジャパンシステム工場見学
- 子ども達の多くは、異常気象などが毎年のように起こる地球環境から、「CO2を排出しないクリーンなエネルギーを使うべきだ」と考えた。一方、日本の発電方法の割合を見ると、火力発電や原子力発電が多いことが分かり、「どうして自然エネルギーを使った発電がもっと普及しないか」という問いを立てて、実際に風や水を使って発電することに挑戦した。この活動により安定して多くの発電できないことを痛感した。このような経験から、改めて今後のエネルギー問題を見つめ直し、どのような発電が持続可能な社会づくりになるのか、1人1人が、各発電方法のメリットだけに目を向けるのではなく、デメリットにも注目してこれからの考える深い学びにつながった。
- ⑥6学年 川の上流部の学校で考える ～つなぎ・守る志賀高原のきれいな水～
- ア 世界で起きている問題を知ろう(バトンタッチ SDGs視聴)
- ・砂漠化
 - ・森林伐採
 - ・人口爆発(日本は人口減少、高齢化社会)
 - ・異常気象
 - ・海洋プラスチックゴミ
 - ・移民
 - ・人種差別
 - ・水不足(信大COIの訪問)
- イ 修学旅行での学習
- ・氷見海浜植物園の方との学習(海岸で海洋ゴミの実態を調べる)
 - ・大町市SDGs共創推進係との学習
 - 大町市の水の政策や源流部としての取組を知る。
- ウ 様々な場所での水質調査

- ・校内の池、理科室の水槽、生活排水、近隣の三沢川・伊沢川などでの水質調査
 - ・志賀高原の源流部での水質調査の実施
- エ 交流と発信
- ・山ノ内町の政策の理解
 - ・総合計画についてのお話(行政の方との交流)
 - ・奈良県川上村「森と水の源流館」の方による川上村の取組の紹介
 - ・飯田市「天竜川総合学習館」の方による中流域での水を守る活動の紹介
 - ・やまのうちESD交流会での町内の6年生同士の発表と地域の人との懇談
- 「志賀高原の水はきれいだと思う」「おいしい水はどこにでもある」という感覚だった子どもたち。しかし、上にあげたような学習を通して、「本当に志賀高原の水はきれいなんだ。(数値による科学的な根拠をもつ)」、「きれいな水は貴重だ」、「きれいな水をつなぐには、何かをしなくちゃいけない」という意識の変化があった。また、「役場に～～してほしい」から「自分たちも含めた住民の意識が高まらないと何も変わらない」ということに気がつくことができた。これは主体性と参画に関する当事者意識の変化と考えられる。

3 2022年度の活動計画

- ①コミュニティスクール(CS)運営委員会との連携体制
- 本校では南小コミュニティスクール運営委員会を組織し、様々な方に関わってもらっている。しかし、担当の職員以外はあまりかかわることがなかった。地域の方も巻き込み子どもたちの学習を展開するならば、これまで以上に連携を強くする必要がある。そのためにESDカレンダーの作成など学習活動の見通しを持つ段階から、CS運営委員会の方にも周知を図っていきたい。そして、学校と地域とが互いに求めるものや目指すものを理解し合う場を設けていく。そうして学校が地域包括的にESDを推進する上での拠点となっていきたい。
- ②交流活動の推進
- 多様な見方・考え方に触れる機会を大事にするということからも、来年度も子どもたち同士、職員間の交流の場を探りたい。それが価値観を揺さぶられる機会となるのではないだろうか。本校は陸域の小さな学校であるので、海域の学校、都市部の学校、温暖な地域の学校、本校と同様にユネスコエコパーク内の学校などとかかわりをもてるようにしていきたい。そのためにも、職員が積極的に研修などに参加し、つながりの輪を広げていくことを大切に考えていきたい。
- ③中学校との連携
- 中学校との連携の在り方も大きな課題である。「〇年生で～～をする」ということを決めることには弊害を感じるが、大きな柱として、どのような力をつけ、どんな姿で小学校・中学校を卒業していくのかを共通イメージの大きな描きをする必要がある。

信州大学教育学部附属長野小学校

加盟年:2018年

1 2021年度活動分野

生物多様性、減災・防災、エネルギー、環境、国際理解、人権、福祉、食育、エコパーク

2 2021年度活動の概要

- ①大根の栽培活動(2年生)
- 1年時に、学校近くにある神社へ出かけ、落ち葉掃きをしたり境内でおにごっこをした子どもたち。この時出会った99歳のおばあちゃんが畑での農業を引退することを知り、そのおばあちゃんにお願いをし、おばあちゃんの畑を借り、その畑で大根とさつまいもを育てることを決め、活動が始まりました。学校で校内の環境整備を担当する先生から畑の耕し方、種の蒔き方、サツマイモの苗の植え方を教わり、おばあちゃんから借りた『わたしたちの畑』の野菜の成長の様子を観察していきました。秋になり収穫の時。立派な大根を抜き、大きなサツマイモを抜き、おでんにしたり、焼き芋にしたり、自分たちが育てた大切な野菜の命を、みんなでいただくことが出来ました。また、収穫した野菜が、様々な交流にも繋がっていきました。子どもたちは野菜作りを通じて、野菜が育つ過程や、育てていく工夫、さらには野菜のすごさを知ることができました。
- ②藍染め(2年生)
- 学校の畑に藍の種を蒔きました。藍は水やりが大切です。夏休み中も親子で水やり当番をし、立派な葉っぱの藍となりました。その葉っぱを使った藍染めが始まりました。緑色の葉っぱを見つめ、「緑の葉っぱが、本当に

藍色に染まるのかな]そんな疑問を抱きつつ、生葉を使い初めての染める作業。葉を茹で、そこに真っ白なハンカチを入れ、水で洗い空気にさらす。すると次第に藍色へと変わるように、「本当に藍色になってきた」「藍ってすごい」そんな声が聞こえてきました。初めて染めた振り返りでは、「もっと違うものを染めてみたい」「もっと濃くしてみたい」そんな声が聞こえてきました。藍を大量に収穫していたので、染める活動はその後、何回も行うことができました。バンダナを染め、Tシャツを染め、2月には音楽会に向けて♪藍染めの歌♪も完成し、染めたTシャツを着てオリジナルソングを歌うこともできました。そして、副校長先生には、藍で染めた大きな生地に、クラスで大切にしている『本気』の文字を、書き加えていただきました。2年2組でしか飾れない、素敵な旗が完成しました。活動は、これからも続きそうです。

③生き物との暮らし(3年生)

3年生は、1組(トカラヤギ)も2組(ヒツジ)も1年生から生き物を飼っています。今年はトカラヤギ(トカちゃん、ララ)は4匹の赤ちゃんを、ヒツジ(よつば)は1匹の赤ちゃんをそれぞれ生み、家族となった生き物のお世話を継続して行いました。そして、両クラスともにクラス替えを控えているため、1組は7頭の行き先を、2組は2頭の行き先を探していきました。1組ではもともと借りていた牧場だけでなく、オスのトットの行き先を自分たちで探し、小川村にある宿泊施設に託すことを決断しました。2組はよつばとふたばの2頭を、よつばと結婚をしたしゅんくんの行き先でもある静岡県の農園に託すことを決断しました。3月には、お別れの時を迎えます。お別れをした先でも幸せに暮らせるようにと、そのお別れをするその日まで、ひとりひとりが精一杯にヤギとヒツジのお世話を続けています。

④特別支援学校との交流(4年生)

附属特別支援学校小学部との交流を続けています。コロナ禍ということもあり、オンラインでの交流から始まりましたが、そのオンラインの不具合をきっかけに、線路の向こうにある特別支援学校の芝生場にお邪魔し、直接ふれ合いことが実現しました。また、小学部のみなさんが学校へ来て、小学部のみなさんが取り組むバスポム(入浴剤)づくり体験をすることもできました。さらには、子ども達は障がい者スポーツへも目をむけ始め、学級の活動の1つに『ポッチャ』を取り入れ、小学部さんとの交流をきっかけに、学級の仲間同士の交流を深めていくこともつながっていきました。ポッチャをやっていく中で、次のパリ五輪での日本代表を目指す市内の選手とも出会い、ポッチャの奥深さを知るとともに、障がいと向き合い本気で五輪代表を目指す方のすごさ、すばらしさを感じることもできました。

⑤志賀高原遠足(5年生)

7月に、大学の施設のある志賀高原へ出かけました。志賀高原はユネスコエコパークにもなっていて、ガイドさんの説明を聞きながら午前のおよそ3時間、志賀高原の森を探索しました。志賀高原の歴史、樹木のこと、野鳥のことなど、ここに来なければ気づくことの出来ない学びをすることができました。ヒカリゴケにも出会い、志賀高原の涼しさを感じ、自分の目はもちろん、五感を通して志賀高原を味わうことができました。午後は、それぞれの学級が中核活動(総合的な学習の時間)につながる、紙漉き体験(1組は再生紙づくり)、薪窯見学(2組は陶芸)を行うこともできました。太古の時代から、人々は自然を生きながら知恵を使い生活をし続けていることを、改めて知ることが出来ました。

⑥イギリスのキングスイーリー校との交流(6年生)

5年生の時から交流があるキングスイーリー校の6年生との交流は、6年生になっても続いています。中核活動で行っている竹とんぼを、ひとりひとりが自分のものとしてではなく、キングスイーリー校の6年生ひとりひとりに届ける“おくりもの”として作成し、国際便で郵送しました。数日後、わたしたちがつくった竹とんぼが海を渡り、キングスイーリー校の6年生がイギリスの空へと飛ばす映像がメールで届きました。もちろん子どもたちは大喜びでした。2月には、オンライン交流会も実現しました。イギリスと日本の時差は9時間なので、子どもたちは下校せず学校へ残り、午後5時30分過ぎから交流が始まりました。イギリスは登校したばかりの午前8時30分。運動会の美と力の技(クイックピラミッド)の前を当てるクイズや給食について紹介するクイズなどが出されました。キングスイーリー校から地域(キングスイーリー)を紹介するクイズなどが出されました。日本もイギリスの子どもたちも当たるとガッツポーズをし、外れると悔しがり、「国が違えど、海のこっちと向こうであろうと、“らしさ”は同じである」そんな風を感じました。

⑦森林を見つめる(6年生)

長野県の森林、日本の森林について学習を進めてきました。そんな中、長野県には『森林税』があることを知り、この森林税の用途の1つに助成金制度があることを知った子どもたちは、助成金を活用して森林の現状を知ってもらうためのプロジェクトを企画しました。その1つが長野県の間伐材を活用したベンチづくりでした。完成したベンチをどう使うのか。ベンチはいくつつくる必要があるのか。そのためには製材がいくつ必要なのか。安全で頑丈なベンチ設計図をどうするのか。なにかもをも、担任に頼ることなく、自分たちで考え制作を進めていきました。そして、子どもたちはベンチが完成しても満足することなく、使う人たちが気持ちよく安心して使えるように、最後の最後までやすりで磨き続けていました。完成したベンチは長野市内の施設に寄贈しました。そのベンチの一角には『未来につながる森林プロジェクト』と刻印がされています。今回の森林について

探究した学びが必ずや未来へとつながっていくと思います。

3 2022年度の活動計画

①人権に係わる学習

附属校園の特別支援学校との交流を続けている。今年度は、交流をきっかけに『障がい者スポーツ』へと活動が広がり、この探究的な学びによって巡り会えた人との交流が生まれた。来年度も、これまで同様に交流活動を続けていくが、交流のその先にある学びを見据え、かけがえのない人との出会いを通して、未来につながる学びをしていきたい。

②外国に暮らす小学生との交流学习

昨年度始まった、スウェーデンとの交流が、今年度はイギリスのキングスイーリー校との交流へと発展した。また昨年度に引き続き、時差を克服してLIVE交流も行うことができた。来年度も、スウェーデン、イギリスに限らず、外国で暮らす小学生との交流を大切にしていきたい。

③SDGsと繋がる学び

持続可能な社会をめざす一人として、探究する学びを実現させ、全校ひとりひとりが答えのない『問い』と向き合い、とことん探究していきたい。

信州大学教育学部附属松本小学校

加盟年:2018年

1 2021年度活動分野

減災・防災, 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等, 人権, 貧困

2 2021年度活動の概要

本校は、「心身ともにたくましく心豊かな真の地球市民の育成と、国際的・地球的視野から崇高な生命と地球を保全し、社会と人類の幸福に貢献することのできる児童の発達に寄与すること」をねらいとして、活動を行っている。

①“暮らす”の観点に係わる学習

自分たちの生活するこの地域はどんな災害があるのだろうか。もし災害に遭ったときにはどんな備えが必要なのだろうと考えた子ども達。一つの目標に向かって、全員で同じ活動を行うのではなく、各自が必要だと考えた防災グッズ作りを行ったことで、積極的かつ発展的に、よりよい解決策を考え続けることができた。作った後に確かめて、新たな課題を見付け、改良していく歩みを繰り返した。その中で、思い付きに頼るのではなく、見通しや目的意識を明確にもって計画を立て実行する力が付いた。

②“暮らす”の観点に係わる学習

歴史の学習を行う中で、戦国時代から江戸時代にかけて多くの城主が変わった松本城。なぜ、多くの大名が松本城を手に入れたかったのか、戦国大名との位置関係から少しずつ松本のもつ地理的・歴史的な特徴に気づいていった子ども達。水が豊かで多くの湧水地帯があること、善光寺街道・野麦街道の交わる要所であること、豊かな穀倉地帯であり、古墳時代から多くの馬を育てている場所でもあることに気づきながら、城下町松本が発展・継承していったことを理解することができた。そしてそれらにかかわる人々の姿を通して、地域社会に対する誇りや愛情、地域社会の一員としての自覚を深めることができた。

③“生きる”の観点に係わる学習

昨年度に引き続き、児童会本部と、ユネスコ委員会が協同でユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加した。服のチカラプロジェクトとは、子どもたちが主体となって、不要になった子ども服を回収して、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける活動である。この活動を通じて、次世代を担う子どもたちが国際問題や環境問題に関心をもつだけでなく、服のチカラを知り、自分にもできる社会貢献があると気づくねらいがある。この活動を通して、現在世界には「難民」と呼ばれる、戦争や紛争、政治情勢の悪化に伴って、家をはなれ、国を追われることになった人々が約6850万人以上いる状況を理解し、そうした人々に対して、自分たちが行えることは何か考えることができた。子ども達は、委員会などを通じて、服の収集を呼びかけた。ポスターをつくったり、校内のあちこちに集めるためのボックス置いたり、呼びかけを行ったりして服の収集を行った。

3 2022年度の活動計画

- ①児童は、自然や生き物、環境のことに興味を持ち、主体的に取り組むことができているので、次年度も各学級での取り組みは継続したい。
- ②保護者や地域の方々にも理解・協力していただいている活動(エコキャップ集め、リサイクルバザーなど)は次年度も継続する。
- ③持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれているので、ESDの考え方を念頭に置きながら教育を実施していきたい。
- ④chromebookを積極的に活用しながら、学んだことをさらに発信していきたい。

高山村立高山中学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

持続可能な生産と消費、食育

2 2021年度活動の概要

本校は、「自ら学び高めゆく」を学校目標とし、自身が興味・関心・意欲をもって、よりよい自分づくり・仲間づくりへの高まりを追い求めてゆく生徒の育成を目指している。

本年度は、3つの分野の②における持続可能な発展に関わる高山中学校(高山村)の取り組みとして、学校給食センターで取り組まれている地産地消への意識を高めるための取り組みとその効果について、数学的な手法を用いて、分析・判断することを通して、そのよさをより実感をもって価値づけることを目的とした。

補足:本校では、生徒が学習活動の中で生産した、米・野菜・味噌などを給食に取り入れていただくことも多く、また、センターが隣接(直結)していることから、生徒の学びに合わせて給食メニューを工夫し、調理の様子を見学させてもらうなど、給食センターとの関りが深いと考えられる。

- ①学校給食について、「センター便り」等から、地域食材についての情報を集めた。
- ②昨年度用いられた地域食材について、日本国内の主な産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べた。
- ③CO2排出量や輸送費を調べたデータから算出し、地域食材とそうでない食材を使った場合(仮定)を比較し、地産地消の有効性を検証した。

3 2022年度の活動計画

- ①地球市民および平和と非暴力の文化
 - ・地域の方のお話や歴史から、戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、自ら判断して行動できるようになる
- ②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
 - ・地産地消の学びを進展させ、生産と消費の在り方について、データをもとに検証し、その学びを実生活に役立てる
- ③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重
 - ・人権学習を通して世界の子供たちの環境などに目を向け、自分たちのやるべきことを考える

山ノ内町立山ノ内中学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

生物多様性、気候変動、エネルギー、環境、文化多様性、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、エコパーク

2 2021年度活動の概要

本校は、ESDの目標を「地域活性化のために自分たちができることをやろう」と定め、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の②「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」に関わって中学3年間のESD活動を設定して取り組んできた。

1学年では「山ノ内を知る」というテーマのもとで、魅力の“発見”を、志賀高原研修旅行学習を通して調査・研究した。(1学期から2学期10月)志賀高原ユネスコエコパークとESDの関連で5つ追究領域(共生、自然、地域、文化、国際)を設定し、4,5人グループでそれぞれ課題を持ち、全校アンケートや、町の観光連盟、町役場等で調査しその成果をパワーポイントでまとめ、文化祭や学年発表会で発信してきた。

2学年では、「他地域の取り組みを参考にする」というテーマのもとで、魅力の“比較”を、志賀高原ユネスコエコパークでもある、群馬県の草津温泉を訪れ研究調査した。追究課題を4つ(温泉、ホテル・旅館、施設、食べ物・お土産)に設定し、事前調査や実際に訪問した上での調査結果をまとめ、草津温泉の良さをどう山ノ内に活かしたら良いかを比較することができた。

3学年では、「魅力ある山ノ内を発信する」というテーマのもとで、魅力の“発信”を、町の理事者や議員に参加いただいた「町づくり討論会」で、持続可能な山ノ内町のために自分たちが考えたアイデアを提案し、検討していただいた。提案されたテーマは、「農林・商工業」「観光産業の発展」「保健・福祉、人をつなげる交流の町づくり」「スポーツ・文化活動、住みよい町づくり」と大きく4つに分け、12の提案がなされた。この討論会には、町の教育委員会からも取材があり、その成果の一端を「山ノ内町ESD通信」にも取り上げられた。

これらの3年間の活動を通して、生徒たちは持続可能な山ノ内町に、自分がどう関わっていったらよいかを考え、ESDで育みたい資質・能力の「多面性」「伝達性」「関連性」等に気づけていけたと考える。

3 2022年度の活動計画

4月 ESD・SDGsオリエンテーション(全校)「私のESD・SDGs宣言」、修学旅行(3学年)

5月 第12回国際ユース作文コンテストへの取り組み

6月～7月 1学年志賀高原研修旅行…グループ別課題追究並びに踏査研修、2学年草津研修旅行…グループ別課題追究並びに踏査研修

8月～9月 3学年町づくり討論会提案課題追究

10月～11月 1学年地域調査、2学年職場体験学習 3学年町づくり討論会

12月 全学年:「私のESD・SDGs宣言」振り返り

信州大学教育学部附属長野中学校

加盟年:2018年

1 2021年度活動分野

生物多様性、海洋、減災・防災、気候変動、エネルギー、環境、平和、人権、福祉、健康

2 2021年度活動の概要

本校は、「ともに学び 一人となる」を学校目標のもと、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、未知の社会を力強く生き抜いていくために必要な資質・能力の育成を目指しています。具体的には、総合的な学習の時間、学友会活動を中心に実践を積み重ねています。

①総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」

7月中の5日間を、終日総合的な学習の時間に取り組む「ヒューマン・ウィーク」として設定し、生徒は自らが設定した課題解決のために学習を進めました。

1年生は、「持続可能な社会の実現のためにできること」を視点にして追求課題を設定しました。環境グループでは、地元の企業の全面的な協力を得て、長野市戸隠に環境調査に出かけ、自然環境調査の方法や実際の調査活動を行いました。生徒はこの学習を通して、SDGsについて考えを深め、自分なりの答えを出すとともに新たな追求課題を設定していきました。

2年生は、社会でよりよく生きていくために必要なことを考えるために「14歳の問い」として、個々にテーマを設定して追求しました。そして、実際に社会体験として職場で働く体験を通して、また職業人としての大人と意見交換することを通して、自分なりの答えを出していきました。

3年生は平和学習を進め、講演会や資料映像の視聴を通して、平和を自分事として考える学習を進めました。ある学級では長野市の松代大本営に見学に行き、当時の様子を聞く中で、身近な戦争の爪痕やそこでの悲惨な出来事を学びました。この学習を通して生徒は、平和についてより深い追求を進め、自分なりの答えを導き出していきました。

②生徒会活動

生徒会活動では、SDGsに関わって、省エネルギーのための節電を推進する活動や、紙資源の有効活用を進めてきています。これに加えて、新型コロナウイルス感染症に対して、全校生徒がより安全に学校生活を送るために取り組む目標として『FCGs』として取りまとめ、今年度取り組んできました。このような取り組みにより、身近な問題を自分たちで解決していく力が高まってきていると感じています。

3 2022年度の活動計画

ESDの理念を大切に考え、現在行われている本校の教育活動の質を高めていきたいと考えています。

- ①総合的な学習の時間をSDGsを視点にして、追求課題を個々の生徒が設定し探究していく活動を設定します。その中で問題解決能力を高めていきます。
- ②特別活動、学友会活動等では、他者とつながる活動を展開していきます。そして、話し合い活動を重視し、多様な意見を認め合う集団づくりを進めていきます。
- ③本校の教育活動を更に発展させ、より現代的な課題を取り上げ、生徒が主体的に取り組めるような学習を展開します。また、教科横断的な学習を数多く設定し、総合的に問題を解決していく力をはぐくみます。

信州大学教育学部附属松本中学校

加盟年:2011年

1 2021年度活動分野

環境、持続可能な生産と消費、エコパーク、グローバル・シチズンシップ教育(GCED)

2 2021年度活動の概要

本校は、「たくましく心豊かな地球市民」を学校理念として、ESDの活動を据えることを具現のための手がかりと捉え、ESDの実践を通して生徒に内在する自己表現力・課題探究力・社会参画力を視点におき、生徒の学びの姿を追った。具体的には、教科等の総合化を柱に、①環境に係わる活動、③持続可能な生産と消費に係わる活動、③エコパークに関する活動、④グローバル・シチズンシップに係わる活動を行った。

①環境に係わる活動

地域の文化財を大切に、郷土を愛する生徒を育てるために、国内外から多くの観光客が訪れる松本の街のシンボル「国宝松本城」の本丸や外堀の落ち葉掃きを中心にしている。また、住みよい環境を持続できる生徒を育てるため、生徒会を中心に有志を募り、学校内の環境整備、落ち葉掃きなど各種活動を推進した。

②持続可能な生産と消費に係わる活動

全校生徒がユネスコスクールの生徒であることをさらに自覚するために、学校行事や生徒会活動において、SDGsの17の項目とのつながりを意識し、各委員会が主体となって、各種活動を企画・推進した。

③エコパークに係わる関する活動

地球規模の気候変動や普段体験することのできない環境での生態系を学ぶことで、日常生活について再度感謝の気持ちをもつことができるよう、志賀高原ユネスコエコパークでのトレッキングツアーを実施した。

④グローバル・シチズンシップ教育に係わる活動

地域への誇りと愛着や「持続可能な社会」づくりへの担い手を育み、自分の生き方を問い続けることができるよう、学級単位で3年間を通して行う総合的な学習の時間を、実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に課題を解決していく時間としている。また、SDGsの17の項目とのつながりを意識して活動を推進している。本年度はさらに「地球市民集会」と題した時間を設け、総合的な学習の時間における各学級での探究的な学びを、小グループで共有し合い、自分たちの学級の取組を振り返ることで、新たな視点で活動内容を再構成し、視野を広げた。

3 2022年度の活動計画

- ①「たくましく心豊かな地球市民」の具現のために、自己表現力・課題探究力・社会参画力が発揮されるためのカリキュラム開発の推進を継続していく。その際、幼小中一貫教育を展開していることを活かし、学校園としての12年間にわたる児童生徒の学びについての成果と課題をまとめていく。
- ②次年度も、SDGsの17の項目の目標と生徒会活動や総合的な学習の時間がどのような関連性があるのかを考え、17の目標を意識して生活できるようにする。また、1～3年時の宿泊行事の目的の一つに、ESDの視点を盛り込み、持続可能な社会の実現のために系統立てて展開していくことを継続していく。
- ③コロナ禍でも国内外のユネスコスクールとの交流を強化するために、オンラインでの交流などを工夫していく。

長野県中野西高等学校

加盟年:2015年

1 2021年度活動分野

生物多様性、減災・防災、環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、福祉、持続可能な生産と消費、食育、貧困、エコパーク

2 2021年度活動の概要

本校は「教育基本法」の精神に則り、平和的な国家・社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信とに満ちた学園を創る」を学校目標としている。ESDの実践を通して、生徒の人間性やコミュニケーション能力を磨き、「自ら問題意識を持ち、行動できる」生徒を育てること、地域社会や国際社会に目を向け、学校の中にとどまらない幅広い視点で活動することによって、生徒の社会性・国際性を養うことを教育目標としている。具体的には、ユネスコスクールとしての活動を「総合的な探究の時間」に位置付け、全校生徒が5つのグループ(A「環境・自然・科学」、B「イベント・暮らし」、C「健康・衛生・福祉」、D「国際・政治経済・異文化理解」、E「地方自治・防災・平和・地域史」)に分かれ、関連する課題を探究するとともに、特色ある「体験的学習」に取り組んでいる。この他にも全校参加のクリーン・オリエンテーリング(COL:中野市内をゴミ収集しながら、地域の歴史や文化を学ぶ活動)を創立以来継続して行い、地域の環境美化に貢献している。

Aグループ

例年、学校近くを流れるホタル川の水環境整備と生息地を守る活動、山ノ内町志賀高原での植樹活動「AMMORI」と植樹後のモニタリング調査を継続して行っているが、感染症拡大のため「ABMORI」のみの実施となった。

Bグループ

中野市一本木のバラ公園で行われる「バラ祭り」のイベント企画と運営の補助、バラの手入れや中野市を活性化するための新たなイベントに参加した。例年中野市の文化振興イベント「信州なかの音楽祭」や幼稚園や福祉施設と連携し、幼児教育や子育て支援に関わる実践に参加しているが、感染症拡大のため実施できなかった。

Cグループ

市の機関や社会福祉協議会等と連携し地域の医療、福祉の課題(認知症や感染症予防、医療制度など)について探究し、校内外に発信している。地域の総合病院と連携し、生徒が主体的に行う県内高校生対象の「医療人セミナー」実施を計画していたが、感染症拡大のため実施できなかった。

Dグループ

チョコレートやコーヒーを通して経済格差や児童労働、貧困の解消について探究している。コーヒーについては豆の「フェアトレード」について学び、その豆を使った本校オリジナルコーヒーを企業の協力を得て開発・販売し、児童労働や公平な貿易についての理解を深めた。また開発したコーヒーは地域のイベントで販売することで、啓発活動としても意義あるものとなっている。

Eグループ

例年、地元から満州に渡った開拓団について学び、平和について考えているが、慰霊祭が急きょ感染症拡大で中止となり、十分な活動ができなかった。また水害や豪雪に関わるボランティア活動を行い、地域に貢献している。今年度から中野市と連携し、市政ワークショップなどで中野市についての研究活動にも参加している。

3 2022年度の活動計画

- ①環境保護教育においては例年行っている活動については定着してきており、引き続き環境保全の大切さへの理解を深めながら参加していく予定である。また地元関係者との地域協働活動においてもボランティアスタッフ・企画運営スタッフ・高校生研究員として継続して関わっていく予定である。フェアトレードコーヒーの活動については有志の輪を広げながら、生産国の情勢を学び、原産地への協力・支援ができるつながりを持ちたいと考えている。
- ②校内においては、全校発表会を行い、各グループの活動を校外に発信する予定である。また、年1回「ユネスコウィーク」を設定し、教科横断型のコラボ授業や特別講座を通してユネスコスクールとしての理念やSDGsに対する理解を深めたい。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大で、地域のイベントが中止になり、ボランティア活動全般にも支障をきたしたが、来年度は実際の活動を通して発見したことを土台にした「実のある」探究活動を展開していきたい。また、国内外のユネスコスクールとの連携を図り、相互交流による意見交換などを通して活動を発展させたい。
- ③「総合的な探究の時間」を今年度以上に有効活用し、これまで蓄積してきたプログラムを継続しながら、全校生徒のユネスコ精神やESDに対する理解が一層深まるよう実践していきたい。

長野県長野西高等学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、貧困

2 2021年度活動の概要

本校は、「社会に奉仕するための資質を養う」を教育目標の1つに掲げている。その目標に基づいた教育活動を行う上で、ESD(持続可能な開発のための教育)を重要な学びと考えている。

ESDを本校における課題解決型探究学習の核と捉え、地域や国際社会の課題を自分のこととして考え、ESDの実践を行う中で、自分で考え、周りとの協働し、主体的に行動することを通して、課題を解決に導く力を育成し、広く社会に奉仕する担い手を育てることを目標としている。昨年度は新年度間もなく休校が続き、その後も感染症対策のため特に交流面で制約があったため、リモートや校内での学習が中心になってしまい、実施できたものは「天の河プロジェクト」でフードドライブ、ワールドギフト、ライトアップ等の取り組みであったが、医療従事者や困窮する人を支援しようと主体的に取り組みその先の行動をできるようになった。また、昨年度から2年間にわたり、オリンピックパラリンピック教育推進事業の指定校となり、パラスポーツを題材に「障がい」や「共生社会」について学んでいる。2021年度もこれまでの方針を継続し、「地域や社会とのかかわり・人とのつながり」を柱に、①地域の課題解決に係わる活動、②国際交流・異文化理解に係わる学習、③伝統文化に係わる学習を計画し、昨年度の取り組みを拡大することを目標とした。また、地域やNPO等と連携し、SDGsの実現に向けた具体的行動を「キャンパスSDGs」の取り組みとして広げていこうとしている。生徒会の「ユネスコスクール特別委員会」が中心となり、SDGsへの理解を深めながら、全校の意識を高めるべく啓発活動にも取り組んでいる。

- ①地域の課題解決に係わる活動
 - 地域を知る活動の実施

地域の歴史・伝統・状況等を調べ、地域の課題を知り、自分たちができることを探るために、1年生全員が地域を歩き、コロナ禍にあえぐ飲食業に従事する関係者へのインタビュー等を行い、PR動画を作成し公開した。また、国際教養科の1年生は、グループごとに地域の子供も食堂や養鶏場等SDGsに取り組む諸団体を訪ね、地域に根差したSDGsの理念を学び、課題を見つける活動を行った。2年生は一人暮らしの大学生に日用品を寄贈する取り組みや、文房具、生理用品等を集めて寄贈する取り組みを行った。3年生も地域の食品等の生産者を支援する取り組みを通して、地域に貢献できる行動とは何かを考え実践する活動を行うことができた。

○文化祭における全校活動

地域や社会に対して発信する企画として、「アンブレラスカイ」「フードドライブ」「届けよう、服のチカラプロジェクト」を企画した。「アンブレラスカイ」はコロナ禍でうつむきがちな人々が、空を見上げるようにさまざまな色の傘を300個ほど中庭に吊り上げ装飾し、来場者を楽しませた。「フードドライブ」は生徒、保護者、近隣の住民などから食品を寄贈していただき、フードバンク信州へ届ける活動を行った。まだ安全に食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食料を集め、支援を必要としている方に提供するフードバンク活動に参加することで、「持続可能な生産と消費」、「貧困」、「人権・平和」等を考えるとともに、共生社会の必要性についても認識することができた。「届けよう、服のチカラプロジェクト」ユネスコ委員会が中心となり、着ることができなくなった子供服を回収し、服を必要としている難民キャンプなどの子どもに送るというユニクロの企画に参加した。事前学習として世界の貧困の状況を学び、途上国の子どもの境遇を考えるきっかけになるとともに、服を送ることがどのような国際協力になるのかといった学びを深めていった。

②地域と連携した活動

○スポーツレストラン

スポーツレストランとは、3年生の選択体育の受講生徒が店員となり、様々なニュースポーツをメニューとして提供し、地域の皆様にスポーツを楽しんでいただけるように公開している授業である。一緒に取り組める日のためにニュースポーツやパラスポーツを中心にメニューを考え地域の方々との交流を深めた。

○地域の方々と一緒に防災訓練

全校で防災訓練を実施するとともに、避難所となっている本校周辺に住むの方々にも避難訓練に参加していただく予定であったが、密を避けるために実施することが出来なかった。その代わりに地域の区長を招き、地域の災害の歴史や人々がどのような防災意識に基づいた行動をしてきたのかを話してもらった。

○ボランティア活動

例年積極的に地域に出てボランティア活動を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症のため地域に出られなかったため、書き損じはがきを集めたり、フェアトレードチョコを販売したり、募金活動などの活動を行った。落葉や積雪の際には、生徒会や運動系クラブの生徒が中心となって、学校周辺の落ち葉履きや雪かきを行い、地域に貢献する活動を行っている。開かれた学校づくりを行うとともに、地域について学び、地域が必要としていることを考え、行動に移すことで、社会に奉仕する心の育成につながっている。

③国際交流・異文化理解に係わる学習

国際教養科1学年を対象に善光寺ガイド研修を実施した。長野県通訳ガイドネット会員の方2名を招き、実際に自分たちでガイドする時のことをイメージしながら、熱心に取り組んだ。身近な善光寺について新たな発見があったり、ガイドする際に気を付けるべきことを学んだりすることができた。また、「アートマイル国際協働学習プロジェクト」により、ベルギーの高校との交流を行っている。台湾(台北市)の高校で日本語を学んでいる生徒たちとの交流(リモート)も実施した。大人数での交流ではあったが、日本文化に興味を持つ生徒も多く、活発にやり取りが行われた。発信することに重点を置いた取り組みであった。

④伝統文化に係わる学習

1学年の探求学習として、信州(長野県)の歴史、文化、伝統、地域のすがたや課題を再発見し、SDGsと関連させながら、さらに深く追及し、自らの知識で何ができるのか、地域とどう関わっていくのかを学ぶ活動として、信州学のレポート・動画を作成し、信州の魅力や課題についての理解を深めることに取り組んだ。

3 2022年度の活動計画

ユネスコスクール認定6年目となる。生徒会のユネスコスクール特別委員会が中心となって「SDGsタイムズ」を発行し、イラストを使ってSDGsの目標を分かりやすく解説し、SDGsへの意識を高める活動を行っている。2022年度はこれまでの取組みを発展させ、地域やNPO等と連携し、SDGsの実現に向けた具体的活動をユネスコスクールとして実践し、広い視野で主体的に課題に向かえる学びを実現したい。また、本校の取組みの成果として、学校の枠を超え、NPOや長野市等の自治体の取り組みに積極的に参加し、自らの課題を持って活動する生徒も出てきている。国際教養科を中心とした国際交流事業や、校内ですでに実施している様々な活動が、SDGsの実現に向けたESDであることを認識し、校内の様々な活動を有機的に結び付け、地域や様々な組織と連携して学校全体として組織的にESDの活動を実践していくことを計画している。

文化学園長野中学・高等学校

加盟年:2017年

1 2021年度活動分野

環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、健康

2 2021年度活動の概要

- ①【中学1・2年生対象】English Camp - ブータンの子ども達と交流しよう
年間を通じた活動となったのが、ブータン王国との学校交流である。文化の違いによるミスコミュニケーションを想定しながら、英語を使ってどのように説明するかをグループ活動で考え、ビデオ交流、オンライン交流を行った。交流を終え、自分の文化をあまり知らないことに気付かされ、日本人であることや世界の中の日本を意識することができた。
- ②【中学生徒会】脱プラスチック・エコバッグ大作戦
昨年度の生徒会から引き継いだ活動(別添資料②、③)を吟味し、「4つのR」に基づくエコバッグ作成を検討した。点字用紙をきっかけに、盲学校との交流も始まった。来年度に共同企画を計画中。
【高校有志】ヘアドネーション(別添資料④参照)
- ③【中学1年】SDGs ワークショップ「気候変動から世界を守れ！」(日本科学未来館)
【高校1年】SDGs2030カードゲーム(イマココラボ)
SDGsの理解促進に、外部講師を招いて、ゲーム性を取り入れたワークショップを行った。高校生は、2年生に跨る課題探究活動の基礎学習という位置づけ。
- ④【高校2年】満蒙開拓平和記念館訪問
イギリスへの修学旅行の代替として、県内にある標記施設を訪問し、平和学習を行った。

3 2022年度の活動計画

- ①中学は、生徒会が自治的組織として自立すること、リーダーを育てることを意識し、学校は見守り・サポートを行う体制づくりを構築する。生徒会活動として、引き続き環境問題にフォーカスした廃油石鹸の制作と普及活動などを企画している。盲学校とのコラボによって、生物や人の多様性を尊重し、共生する社会づくりを目指していく。社会・理科・総合・道徳・体育・美術・家庭科などの教科連携によって、活動の中で生まれた子ども達の疑問や課題の解決になるような実践を、適宜組み込んでいく。また、本年度は善光寺御開帳、諏訪御柱祭など、地元の大祭が予定されている。これらの歴史を学び、取材し、世界に発信する活動を行っていく。JICAの協力を得て、今年度と同様の交流ができる国を探していく。
- ②高校:探究学習をサポートするポータルを、学内ネットワークに構築する。ポータルで地域の活動を紹介し、主体的な参加を促すことで、学習が深まることを期待する。また、中学から探究を行う生徒を中心に「全国高校生マイプロジェクトアワード」にも参加予定である。

信州大学教育学部附属特別支援学校

加盟年:2018年

1 2021年度活動分野

環境、人権、福祉

2 2021年度活動の概要

本校中学部では重点目標の一つとして、「身近な人と一緒に活動しようとする態度を育てる」を設定し、目標達成のための手だてとして、「花づくりの活動で、自分の役割を意識した活動を行い、生活環境を豊かにする」「ひととともに活動するよさを感じることができるよう、地域の方や隣接する附属中学校生徒との交流活動や太鼓の演奏活動を計画的に行う」を位置付けている。

高等部では重点目標として、「ともに活動する人と一緒に生活を楽しもうとする心情を育てる」「今と将来の生活を見据え、社会の一員として自らかかわりを持つようとする意欲や態度を育てる」を設定し、目標達成の手だてとして、「ひとに思いを寄せながら製品の製作や販売、広報活動などを行い、願い(目標)の実現に向けてやり遂げる作業単元学習を行う」を位置付けている。

- ①花づくりの活動を通じた地域との交流(中学部)
コロナ禍ではあったが、地域の花壇に出かけ、花づくり・花の手入れの活動を行った。直接地域の方と触れ合いながらの活動を行うことはできなかったが、別の機会に地域の方々から声を掛けていただくなど交流することができた。
- ②行事や生活単元学習を通じた地域との交流(中学部)
例年、お楽しみ会やクリスマス会、新年会といった行事にお越しいただき、地域の方々や附属中学校生徒とともに楽しんでいる。本年度は、生活単元学習「あさひのチャレンジゲームを作ってみなで楽しもう」や「あさひの運動会」を開いてみなで楽しもう」を行い、ともに楽しめるゲームを工夫したり、その準備を行ったりしてきた。コロナ禍であり、直接の交流は難しかったが、地域の方々や附属中学校生徒との交流が生徒たちの意識の中に位置付いており、コロナ禍がおさまったら一緒に楽しめることを願って活動した。活動後には、地域の方や交流相手に伝えたいと願い、「朝陽野通信」を生徒たちが作成し地域の方々や附属中学校に届け、自分たちの活動の様子を紹介した。
- ③太鼓の活動を通じた地域との交流(中学部)
毎週木曜日の音楽の時間に位置付けている太鼓の演奏を通しての交流に取り組んだ。附属中学校の文化祭では、共に息を合わせて演奏し、交流することができた。
- ④作業単元学習を通じた地域との交流(高等部)
高等部には陶芸班・木工班・手工芸班の三つの作業班があり、地域の作品展に自分たちの製品を出品したり、販売会を企画したりしている。地域の方に販売会のチラシを配り、オンライン注文を受け販売を行った。学校に取りに来ていただいた際には、製作の動画を見ていただいたり、工夫した点をカードに書いて伝えたりするなど、コロナ禍であっても伝え方を工夫し取り組んだ。

3 2022年度の活動計画

- ①花づくりの活動を通じた地域との交流・行事や生活単元学習を通じた地域との交流(中学部)
- ②令和3年度に計画・実施した交流を継続していきたい。コロナ禍で直接の交流が難しいが、Web会議システムを活用したり、動画を届けたりするなど間接的であっても交流の機会を確保していきたい。
- ③作業単元学習を通じた地域との交流(高等部)地域の方とのかかわりを確保できるようチラシ配りを継続したり、一昨年実施した公民館活動との連携を継続していきたい。



ESD 通信



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 39

2021.5.1

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：山ノ内南と西小学校でESD研修／附属長野中学校のSDGs／ESD国内実施計画案

4月21日 山ノ内町の南小学校と西小学校でESD研修をおこないました

両校をZoomでつなぎ、水谷が「ユネスコスクールとは」を解説しました。ユネスコの理念のもとに世界規模で展開している学校のネットワークであり、世界で1万校以上、参加校数では日本が最大という説明に、「え、そうなんだ!」という声があがった。具体的にはESDを実践する拠点校であり、日本では学習指導要領に「持続可能な社会のための教育」が明記されたことでESDは教育全体の大きな目標にもなりました。しかし、日本のユネスコスクールには他校との連携や独自のカリキュラムが少ない、国際的な視点が弱いなど今後の改善点も指摘されました。ESDと現在話題となっているSDGsとの関係や、ESDカレンダー、評価などキーになる言葉も簡潔に説明され、ESDに取り組んでこられた方々の再確認になりました。解説のあとは、各校で「教科との連携を考えてESDカレンダーを見直す」をテーマにワークショップがおこなわれました。西小学校では、3年の「ひつじのゆきといっしょに」と5年の「私たちの米作り」をテーマに各班で意見交換しました。年間単元配列表が用意されていたので、テーマに関連しそうな各教科の単元を見つけ出しては誰々さんに頼めば、など具体的な提案もいただきました。また、水の課題では、中野の学校では八ヶ郷について学習したけど山ノ内ではないなど、多彩な意見がだされ、こんなふうに年間計画を組みなおせばよいのかと大いに参考になったようです。最後に、エコパーク＝地域の山との関連も見いだせれば地域社会との関連においてESDにより一層近づけるのではと注釈させていただきました。(水谷瑞樹・渡辺隆一)

4月23日 附属長野中学校のSDGs活動が信毎で紹介されました

ユネスコスクールでもある信州大学附属長野中の学生会がコロナ下の生徒の行動目標をSDGsにならって作成しFCGsとして活動始めたことが紹介されました。総合学習でのSDGsの学びを学校生活に応用し、実践することは持続可能な社会作りの一歩でもありますね。



4月23日 第2期ESD国内実施計画案の説明会が開催されました

国のESD推進計画案に対するパブリックコメントが発表され、その説明会がZoomでおこなわれました。ESDは様々な分野に関係することから国の11省庁にわたる計画であり、その主担当の文科省と環境省から計画案の解説があった。第2期の特徴はSDGsに対応した2030年をみすえて設定されており、2015年に設定されたGAPの推進と国全体として取り組むとされ、以下の4項目が目標となっている。①SDGsに貢献すること、②パートナーシップで推進すること、③学習の变革、教師の能力向上、④先進事例の活用、があげられた。文科省からも学習の变革について、教科書の学習から地域に根ざした学習への転換、变革が求められるとの解説が印象的であった。具体的には教員研修やユネスコスクールの国際交流、学校間のネットワークの構築などがあげられた。最後に、主催したESD支援全国センターより、これまでの個人的な努力によるESDから機関型対応による組織的なESDの推進が求められており、そのためにも全国センターのHPなどを活用して欲しいとのコメントがあった。本案のパブリックコメントの募集は既に締め切られているが、様々な意見は信州ESDコンソーシアムにも随時お寄せください。

SDGs
ニュース

当コンソーシアムもユネスコエコパークを活用したESDに取り組んできましたが、日本自然保護協会の会報581号に「ユネスコエコパークがSDGsの実現を推進」の記事を掲載し、日本の10か所のエコパークの歴史やその意義を解説しています。10のエコパークのうち長野県には3つがあり、豊かな自然とその教育・文化的活用＝ESDの推進が大いに期待されています



信州ESD通信
No.39 2021.5.1

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 40

2021.8.1

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：コンソーシアム総会／ユネスコエコパークオンライン学習会イベント／附属学校園高原学習／学校研修会(山ノ内東小、豊科南中、山ノ内南小)／ユネスコスクール加盟申請(白馬中、遠山三校)

8月28日 信州ESDコンソーシアムの総会が開催されます

今年もコロナ対策のためオンラインで開催されます、ご予約ください。

6月8日 ユネスコエコパークについてのオンライン学習イベントを開催しました

ユネスコエコパーク(生物圏保存地域：Biosphere Reserves)は、豊かな生態系を保全しながら、自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域で、現在はSDGs達成のモデルとしても注目されています。このユネスコエコパークはESD学習の場としても好適であり、とくに自然豊かな核心地域や緩衝地域では、自然体験学習を中心としたESD/SDGs学習実践が多く行われています。しかし一方で、ユネスコエコパークそのものについて学ぶ機会が不足していたことから、ユネスコエコパークでの体験学習が、その後の探求的な学習活動に結びつきにくいという課題がありました。



そこで今年度はじめて、ユネスコエコパーク地域でESD/SDGs学習に取り組む小中学校を対象に、ユネスコエコパークについてのオンライン学習イベントを開催しました。本イベントでは、ユネスコエコパークの制度や理念についてのほか、各地のユネスコエコパークの紹介やユネスコについて、水谷(信州ESDコンソーシアム)が、日本自然保護協会の朱宮丈晴氏、長野ユネスコ協会青年部の長坂朋美氏とともに解説しました。実施日の6月8日は、ユネスコエコパークでの自然体験等の事前学習としての活用とあわせて、関係する2つの国際デー(国際生物多様性の日(5月22日)、世界環境デー(6月5日))を意識して設定したものです。本イベントには4サイトのユネスコエコパークから11校の小中学校が参加し、ライブ配信の同時視聴だけで183人がユネスコエコパークへの理解を深めました(この後のアーカイブ視聴参加者数は、現在調査中です)。参加された児童・生徒の皆さんからは、「ユネスコエコパークやESD、SDGsについてしっかり知ることができた」「地域のエコパークを大切に思えるようになった」といった声が寄せられました。本イベントは今年度の成果と課題を踏まえ、来年度以降も拡大して実施する予定です。(水谷瑞希)

7月 信州大学附属松本中学校、長野小学校が志賀高原で高原学習をおこないました

ユネスコエコパークに登録されている志賀高原では、ESDやSDGsの視点で自然学習に取り組む学校が多く訪れます。今年は信州大学附属学校園のうち松本中学校と長野小学校が、志賀高原での学習に取り組みました。



7月14日に志賀高原を訪れた松本中学校は毎年、志賀高原観光協会・ガイド組合の「環境学習プログラム」を利用しています。このプログラムではユネスコエコパークについての事前学習をおこないますが、この講演内容を松本中学校の要望にあわせてこちらで作成したほか、ガイドの皆さんへSDGs等のレクチャーを行うなどの支援をおこないました。SDGsを意識した事前学習資料は、附属学校園だけでなく他の学校の学習でも活用できることから、地域貢献にもつながっています。

長野小学校は、今年がはじめての志賀高原での高原学習でした。長野小学校は7月2日に出前講座により小学校で事前学習をおこない、7月19日に高原学習で志賀高原を訪れました。志賀高原では自然観察路のトレッキングのほか、紙漉きや炭焼きなど、学級総合に関係した活動を体験しました。体験活動の際には二ホンカモシカも姿を見せ、児童の皆さんは志賀高原の豊かな自然を満喫していました。(水谷瑞希)



6月23日 山ノ内東小学校でESD/SDGs研修会を開催しました

ESD/SDGsについての講演と、ESDカレンダー作成ワークショップの組み合わせによるESD/SDGs研修会は、これまでにいくつかの学校で実施していますが、山ノ内東小学校では今年がはじめての開催です。今回の研修会では、講演「ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方」で基本的な事項について共通理解を図った後に、カリキュラムマネジメントとしてのESDカレンダーの作成に取り組みました。当初は参加者の間に「何をすればいいんだろう」という戸惑いも見られましたが、ワークが進むと「気持ちが前向きになった」「楽しく取り組むことができた」「困っていたことが解決した」など、ポジティブな感想が聞かれました。当日ワークショップで取り上げたESDカレンダーは2学年のみでしたが、この後も引き続きすべての学年で、同様の取り組みをおこないたいとのことでした。参加者は東小教職員と町教育委員会の計12名でした。(水谷瑞希)



7月23日 豊科南中学校でSDGsの校内研修をおこないました

安曇野市はユネスコスクールでもある信州大学附属長野中の学友会がコロナ下の行動目標をSGDsになって作成しFCGsとして活動始めたことが紹介されました。また、総合学習でのSDGsの学びを学校生活に応用することは持続可能な社会作りの一歩でもありますね。



6月30日 山ノ内南小学校でESD/SDGs研修会を開催しました

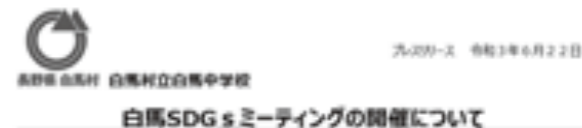
山ノ内南小学校でのESD/SDGs研修会は、4月に続いて2回目の開催です。今回の研修会は奈良教育大学の中澤静男先生を講師に迎え、授業公開(1年、2年、6年)と授業実践への指導・助言、講演といった内

容で実施しました。当初は対面で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けてオンラインでの開催に変更となりました。授業公開はZOOMのブレイクアウトルーム機能を使って3学年の授業の様子を同時中継し、講師の中澤先生から授業実践の内容だけでなく、授業の技術などについて詳細なコメントをいただきました。また講演「ESDの教育実践への理解促進」では、明確な目標(育成する資質・能力や目指すこども像)を設定することや、カリキュラムマネジメントの重要性が強調されました。参加者は南小教職員と町教育委員会の計11名でした。(水谷瑞希)



6月24日 白馬中学校とユネスコスクール申請について打合せをおこないました

白馬中学は国際的リゾート地の学校として早くから地域との連携授業などがおこなわれており、今年ユネスコスクール申請をおこないます。先だって、ユネスコスクールを支援する信州大学教育学部との連携として浅原校長など担当者と改めてユネスコスクールについての学習と今後の進め方について打ち合わせをおこないました。年々、申請校が増えてESDが実質化してゆくことが期待できます。



7月26日 飯田市遠山三校とユネスコスクール申請について打合せをおこないました

飯田市遠山郷にある3つの小中学校(和田小学校、上村小学校、遠山中学校)は、「霜月祭」をはじめとする地域学習が特徴で、以前からESD実践に取り組んでおり、いずれもユネスコスクールへの加盟を目指しています。この日はユネスコスクール加盟手続きのステップの一つ「チャレンジ期間」の終了判定に向けて、3校の先生方と市教育委員会の方にお集まりいただき、ユネスコスクールに求められる「3つの優先行動分野」に関連する取り組みなどについて聞き取りを行うとともに、確認資料提出の打合せをおこないました。また今後の活動の深化に向けて、飯田市が推進するLG教育(ローカルとグローバルを一体的・系統的に学ぶ教育)との連携や、地域での校種間連携等について意見交換しました。(水谷瑞希)



- 7月25日信毎ヤンジャに中野西高校のESD活動が紹介されました。記事中にユネスコスクールの解説もあり、県内に広がる契機になればと。
- 第12回ESD大賞の募集受付が開始。持続可能な開発のための教育(ESD)に積極的に取り組む学校を奨励する「ESD大賞」が募集されました。今年度のユネスコスクール全国大会は11月に開催予定で、最優秀校には『文部科学大臣賞』が授与されます。締切は9月27日、詳細はHPを参照ください。



信州ESD通信
No.40 2021.8.1

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



目次：成果発表&交流会予告／コンソーシアム総会報告

来年2月5日 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されます

今年度もオンラインで開催されますので、県内外のエコパーク関係の学校が多数参加予定です。自然豊かな各地域の特色を生かしたESD活動が報告され、交流することで一層の発展が期待されます。長野県のユネスコスクールも増えており、複数分科会の形式で開催されます。信州大学の学生、院生の参加と講評により小中高生との世代間交流も図られることになっています。ぜひご参加を予定ください。

8月28日 信州ESDコンソーシアムの総会が開催されました

13時より14時15分まで協議と参加者による報告がおこなわれた。25名の参加があった。宮崎会長不在のため、運営委員長の西委員が議長に指名され、進化した。令和元年度・令和2年度についての事業報告が、資料及び成果報告書2020に基づき説明があり承認された。令和3年度の事業計画について説明があり承認された。参加者より「ESDカレンダーについて指導を賜りたい」との意見があり、「事務局に連絡いただければ対応する」と回答があった。以下、下記団体からの活動紹介があった。



- ユネスコ・アジア文化センター：ユネスコスクール事務局を担当し、本年は日本のユネスコ加盟70周年の関連事業を進めている。ESD実践の評価に関するプロジェクト等を実施し、11月後半に全国大会をオンラインで予定している。
- 中部地方ESD活動支援センター：学び合いプロジェクト(<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/12739.html>)及びジオパークESDダイアログ2021(11月13・14日)の紹介。児童に対する支援では、川と山についてのパンフレットを作成したので希望があればお送りする(URL https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/2020guidesheet)。
- 長野県環境保全協会：信州環境カレッジの運営をしている。学校講座が活発であり、20年度は登録事業者83、講座数53、実施は129であった。オンライン実施も可能なのでぜひ参加ください、と。
- 諏訪ユネスコ協会：10周年記念事業のため記念誌を発行した。諏訪6市町村でユネスコ担当者をつけ、年度当初に説明を行った。SDGsポスターを作成し、諏訪の全小中学校に配布した。
- 直富商事：今年1月にSDGs推進企業に認定され、社内で研修等実施した。リモートで小学生対象にリサイクルについて紹介する事業を開始した。
- 信州大学教育学部附属幼稚園：幼稚園の取り組みを紹介。リサイクル・リユースも意識した子どもたちの創作活動をおこない、あそびの中での学びに繋げている。
- 高山村立高山小学校：3つの柱を目標に活動実施。ESDカレンダーの作成と目標の見直し、地域活動と

してボランティア活動も実施、コロナ禍で人の接触がある活動については内容を修正しながら、学びを止めない様々な工夫をしている。

- 山ノ内町立南小学校：ユネスコスクール意見交流会に参加した。ESD児童会が発足し校内発表会を実施した。信大、サントリー等に学びの支援をいただき、保護者へのESDの理解促進も進めている。
- 山ノ内町立西小学校：緑の学習として稲作を発展させ、無農薬の大豆づくりなどに取り組んでいる。ESDカレンダー等の研修も実施した。
- 長野市立東条小学校：ホタル水路の整備活動を継続中。ザリガニ退治、アジサイを植えるなど総合的に活動した結果、5年振りにホタルが復活した。春にも放流予定している。
- 長野市立信里小学校：環境、人権、安全など防災教育を中心テーマに、各学年で実施した活動内容を画面共有にて資料提示し説明があった。
- 茅野市立永明小学校：総合生活で取り組みESDを進めている。1学年の分別、リサイクルの取り組みが全校に広がり、継続した活動ができている。ESD研究部会もあり、推進している。
- 山ノ内町立東小学校：様々な活動がSDGsにどうかかわるのかを中心に教職員の理解を促進する取り組みを実施。各クラスの飼育、栽培をSDGsにつなげ、児童と共有している。ESDボードの設置等も行っている。
- 信州大学教育学部附属長野中学校：身近な社会問題を取り上げて、環境や人権等をテーマにSDGs17の目標を意識して生徒が自主的に学習を進めている。防災の観点から街づくり等についても検討している。
- 信州大学教育学部附属特別支援学校：普段の生活や授業の中でSDGsの目標と何が関連しているかを中心に、教員の意識向上をはかりながら活動を進めている。
- 山ノ内町立山ノ内中学校：志賀高原を中心とした学習を小学校から積み重ねているため、中学校ではその体験をどのように自分たちの地域のために展開していくか考える活動を実施している。コロナ禍で予定通りには進まないが、全校で「わたしのESD宣言」を実施し、自分の目標とSDGsを関連付け活動を実施している。
- 文化学園中学・高等学校：PP資料を提示し、報告した。BGN NEWSを毎月作成し、ユネスコスクール等の解説・紹介など情報発信をおこない、教職員へも理解を深める取り組みをしている。ヘアドネーションの取り組みなどを文化祭のステージショーとして紹介した。新聞紙エコバックづくりを盲学校の生徒たちと共同制作を進めている。
- 中野西高等学校：コロナ禍で予定通りには進まないが、工夫をしながらESDクラブが本年度も活動を継続している。

発表後の意見交換で、渡辺委員より、「ザリガニが外来危険生物に指定される可能性があり、扱えなくなるかもしれない」との指摘があり、水谷委員より、「アメリカザリガニについて、環境省が指定する特定外来生物種に指定される見込みが強い。指定された場合、様々な扱いが変更となる。細かい内容については個別で相談をしていただきたい」との補足説明があった。

最後に、安達委員より、本年度の成果発表会&交流会は2月5日に実施予定である旨告知があり、総会が終了した。



- ユネスコスクール全国大会が11月27日にオンラインで開催される予定です。
- 10月4日(月)から23日(土)まで、リニューアルオープンした信州大学教育学部図書館で「災害アーカイブ展」が開催されています。一昨年の台風十九号災害を中心に自然災害と防災教育との関連資料を展示しています。今回の展示は学部HPからもYouTube配信の予定です。





信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **42**

2021.12.15

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコスクール全国大会・成果発表&交流会

11月27日 ユネスコスクール全国大会が開催されました

今年は、ユネスコ創立70周年と震災から10年目であり、「大震災から明日を拓く教育の在り方を探る」をテーマに宮城教育大学を会場に、全国にはオンラインで開催されました。東北各地での実践から、地域の防災はユネスコスクール活動とも調和し、「子どもが地域を支える視点」として注目されていると報告がありました。それは身近な学びでもあり、また学校から地域に広がる楽しい学びでもあります。見上り学長は、震災前後の様々な学校活動を考えると、「教育は無力ではなかった、今後も、命に寄り添い、災害の伝承に教育の力を」と総括されました。(渡辺隆一)

2月5日 成果発表 交流会が開催されます

ユネスコスクールの活動も充実し、全国のエコパークとの連携事業も進んで、成果発表の件数も増加しました。また、懸案であった各校の交流の時間を確保するために3会場、6分科会と増やしました。オンラインでの開催ですので、ぜひ多くの皆様のご参加と、関係者への広報をよろしくをお願いします。

信州ESDコンソーシアム
成果発表&交流会

ESD (Education of Sustainable Development) は、これから目指すべき持続可能な社会の創り手を育む教育です。新しい学習指導要領全体の基盤となる理念として、またSDGs (持続可能な開発目標) 達成の鍵として、注目が集まるESD。この成果発表&交流会では、各校でESDの学びを実践している子どもたちが、学びの成果を発表し、また交流を通じてその学びを深めます。長野県内だけでなく、各地のユネスコエコパークでESDを実践している学校もオンラインでつながることで、様々な分野での発表や学びの広がりが期待されます。

日時：2022年 **2月5日** 土
10:00~15:00
会場：オンライン開催

参加費 無料 発表・交流をご希望の方は事前申し込み必要
1月14日(金)締め切り

Web (YouTube) 視聴のみをご希望の方は、事前申し込み不要です。特設HP内でYouTube Liveのリンク先をご案内しておりますので、成果発表&交流会当日、QRコードまたはURLよりご覧ください。

【午前の部】	【午後の部】
10:00~10:10 開会行事	13:00~14:15 分科会(4~6)
10:15~11:30 分科会(1~3)	14:15~14:25 講評
11:30~11:40 講評	14:30~14:45 午後の部の共有
11:45~12:00 午前の部の共有	14:45~15:00 閉会行事

午前・午後で3分科会ずつ 最大6分科会を予定
(1分科会 4~5校で発表・交流)

同時 YouTube ライブ配信

お申し込み・YouTubeの視聴はこちらから!

主催：信州ESDコンソーシアム 共催：公益財団法人イオン環境財団

後援：信州大学教育学部、長野県教育委員会、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県ユネスコ連絡協議会、長野ユネスコ協会、ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター、ユネスコスクール支援大学ネットワーク(ASPUnivNet)

お問い合わせ 信州大学教育学部 信州ESDコンソーシアム事務局(担当:松橋・清水)
〒380-8544 長野市西長野6-C TEL:026-238-4034 E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp HP:http://esd-nagano.org/

https://esd-nagano.org/conference2022/



信州ESD通信

No.42 2021.12.15

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **43**

2022.2.15

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：文科大臣表彰／信州SDGsアワード／石川県ESD交流会／コンソーシアム発表&交流会

1月5日 文部科学大臣優秀教職員表彰に山ノ内町南小学校の菅原勇介先生が選ばれました

優れた教職員を表彰する上記表彰にユネスコスクールの山ノ内町立南小学校の菅原勇介先生が選ばれました。全国では812名、長野県では17名でした。表彰の分野は9あり、その7ユネスコ活動で選ばれたのは長野県では菅原さんのみです。校内でのESD研究会を進めるなど積極的なユネスコスクール活動が評価されての表彰だと思います。菅原先生、おめでとうございます。

1月17日 信州SDGsアワードに飯田市上村小／山ノ内南小／中野西高が受賞しました

SDGsの取組を推進し、県内での機運を高めるために今年度長野県が創設した上記アワードに、8小中高校と7企業団体が受賞されました。ユネスコスクールとしては飯田市立上村小学校、山ノ内町立南小学校、中野西高校の3校が受賞しました。SDGsを推進する拠点校としてのユネスコスクールのESD活動が評価されたものでしょう。おめでとうございます。今後とも県内ユネスコスクールの活動が評価され、信州SDGsアワード受賞校が増えることが期待できます。

1月22日 石川県SDGs/ESD児童生徒学習活動交流会に山ノ内町立東小学校がゲスト校発表しました

ゲスト発表として山ノ内町立東小学校の中山先生が6年生の活動を報告しました。山ノ内町は野猿公苑が観光地になっているが、街中にも出没しており大きな問題となっている。野生動物のサルと人の共存をテーマにサルがどこにいるかやどんな遭遇したかなどのサルマップを調査し、観光客や役場から対策を聞いたりして、どうしたら良いかを皆で考えている、と発表があった。日常目にする課題に熱心に取り組む様子がよくわかった。(渡辺隆一)

2月5日 信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されました

オンライン開催の今回は、県内18校、県外5校から29の発表申込があり、午前午後各3会場とし小中高別に十分な交流の時間を設けることとしました。Zoomでの発表、交流にあわせてライブでの配信もおこなわれ、信州大学教育学部の学生など200名上の視聴者に参加いただき、多数の感想、質問をいただくことができました。また、ホームページ上に別途3校のビデオ・ポスター発表も掲載されました。

小学校の発表(各会場の発表順)

●群馬県みなかみ町立新治小学校「調べよう 新治の自然」をテーマに日本を代表する豊かな生態系が息づく「赤谷の森」の実態を知り、郷土の自然の素晴らしさを感じ取るとともに、新治の自然を体験しました。その体験をもとに、どのように自然と関わっていくか、自然を維持発展させるためにはどうすべきかなど、個々の課題について調べて、まとめたことを互いに交流しあいながら、自分たちの考えを広げていきました。

赤谷の森とは

面積：10000ha

自然林：全体の70%

森林の種類：1. 原始的自然林

2. 二次林

3. 人工林

●山ノ内町立西小学校 2年生が「炭焼きをしよう」をテーマに、SDGsの目標である「陸の豊かさを守ろう」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関連した森林資源の持続可能な開発を目指して活動をおこなった。かつて地域で盛んであった炭焼きを学び、森林の維持、利活用のために、校区内の森林の間伐材を使って炭焼きを行い、みんなで協力して炭を作ったり、使ったりする活動を通して、間伐材を利用して作る炭焼きの良さを実感しました。



●信州大学教育学部附属松本小学校 4年生が「より快適に避難所生活を過ごすための防災グッズを作ろう」をテーマに学習し、「校内にある防災倉庫の中には一人一食分の食料しかない」という事実と出会い、足りない分を自分たちで用意することにしました。その際、必要な物を買って済ませるのではなく、自分たちで作って確かめて、改良していく歩みを繰り返し行ってきました。より快適な避難所生活を願いながら挑み続けたプロセスとともに、こだわりの防災グッズを紹介しました。



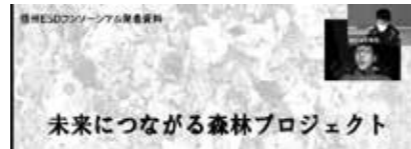
●山ノ内町立東小学校 4年1組は「ぼくたちわたしたちの山ノ内の宝コカリナ」をテーマに、志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習した。「いろんな曲を吹けるようになりたい」という願いを持って、コカリナのために作られた曲である「森の朝」や音楽会で歌う「ふるさと」などの曲を練習しました。9月、製作の工房を見学したことで、「コカリナがある山ノ内町ってすごい」という気づきがありました。町役場の国際交流員のレーガンさんとの交流も重ね、山ノ内町の魅力を世界に伝える活動にとり組んでいます。



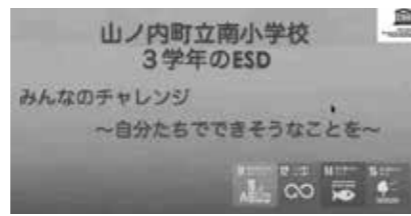
●飯田市立上村小学校 「上村のためにできることを考え、行動しよう」をテーマに、様々な自然体験活動を通して改めて上村の良さに触れました。上村の人口減少等に課題をもち、自分たちにどんなことができるか話し合い、計画を立てました。小学校で育てた椎茸や下栗芋の販売、観光客の方への歌の発表、上村地区のごみ拾い、上村の良い所を飯田市街地で宣伝するなど、持続可能な上村のためにどんなことができるか話し合い、活動してきました。上村を大切にしようとする心情が大きく育まれた発表でした。



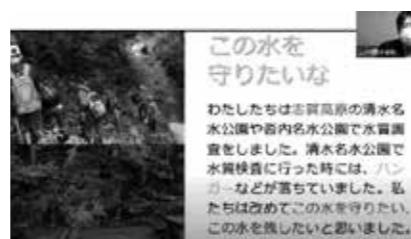
●信州大学教育学部附属長野小学校 「未来につながる森林プロジェクト」をテーマに、森林について学びました。始めは木を伐採することが自然破壊につながる行為だと思っていたのですが、林業に携わる様々な方との出会いの中で、木を適切に伐ることは環境を守ることに繋がっていると学びました。今年は、森林税を活用し、県産材を使ったベンチ作りに取り組み、地域の方に使っていただくことで私たちの想いを届けようと活動しています。



●山ノ内町立南小学校 3年生が「自分たちのできることをしよう～ゴミから深まる学び～」をテーマに、昨年はゴミに目を向け新聞紙エコバックを作りました。5月に児童会活動でクリーン作戦(ゴミ拾い登校)を行うと、通学路には大量にゴミがあった。何とかしたいという思いから月曜日をゴミ拾い登校日と決め活動をしました。しかし拾ってもゴミがなくなる。そこで地域にポスターを掲示しました。他に給食の牛乳瓶の蓋を用いて紙づくりをしたり、ペットボトルキャップでブローチ作りなどゴミのアート化にチャレンジしました。



●山ノ内町立南小学校 6年生は、昨年、学校近くの田んぼでとれた米が食味コンクールで金賞を受賞した経験から、「水」に目を向け「守りつなごう」と志賀高原の「きれいな水」をテーマにしました。「きれいな水」



とは何かを疑問に学習を始め、信大COIを訪問したり、学校周辺で水質検査をしたり、志賀高原の源泉付近で水質調査をしたりして、疑問を解決していくうちに、「水を守りつなごう」という意欲を高めていきました。そのために何ができるか考え、水の学習に取り組んでいる奈良県川上村や飯田市の川の施設、行政などとも交流して考えを深めていきました。

●飯田市立和田小学校 3・4年生が「お茶の収穫から販売へ」をテーマに活動しました。持続可能な和田小学校を目指すために、学校で南信濃特産のお茶を栽培し、お茶の販売を行いました。5月には、児童だけではなく保育園や保護者、地域の皆さんと一緒に茶摘みを行いました。製茶されたお茶を地域の「わだつ子応援隊」と一緒に袋詰めし、販売へとつなげました。お客さんに喜んで買ってもらうための方法を考えて練習し、販売当日を迎え、無事完売することができました。



●鹿児島県屋久島町立八幡小学校 5年生が「創ろう、魅力ある屋久島」をテーマに発表しました。昔ながらの米作りを実践した体験を通して、屋久島の文化や産業について考えてきました。昔ながらの米作りの利点や課題を整理していく中で、屋久島の環境を守っていくためには、昔ながらの方法も続けていくべきだと考えるようになりました。SDGsと関連させて学習のまとめを発表しました。



●高山村立高山小学校 長野県北部にある高山村は地域と学校が一体となって、「高山小学校 ひとりだちともそだち」を目標に、未来ある子どもたちを育てています。地域と共に歩む学校の地域学習である「親子で学べるわくわく村」、6年生を中心に活動する児童会活動、4年生の総合的な学習の時間「ごみへらし大作戦」の取り組みを紹介しました。今日発表者をつとめる4年生の子どもたちは、社会科のごみの学習で見学した村の施設「地力増進センター」の仕組みをきっかけに、自分たちのできるごみの減量方法を考えました。ごみ減量が地球温暖化を防ぐことにつながることを視野に入れながら、自分たちができることで小さな一歩を踏み出そうとしています。



●茅野市立永明小学校 「みんなでやろうリサイクル」をテーマに発表しました。学習し終わったプリント類や給食で毎日出る牛乳びんのふたを何気なく可燃物にしていた子どもたち。ごみを燃やしたらどうなるのかや、燃やした後はどうなるのかを学び、「できるだけ燃やさなくてすむ方法でゴミを片付けたい」という願いをもちました。まず学級でゴミを分別し、リサイクルすることに取り組み、その活動を全校にすすめて、ゴミを分別してリサイクルを行い、可燃ゴミを減らす活動に進めています。



●鹿児島県屋久島町立八幡小学校 3・4年生は「発見、発信、屋久島の自然」をテーマに、「屋久島のすばらしい自然をどのように守っていこうかな」と考え、レンジャー体験をしたり、調べ学習を行ってきました。海でおきている海洋ゴミの問題や、山でおきているヤクシカが増えすぎている問題を知り、ゴミ拾いを呼びかけたり、給食に鹿肉を出してもらうように頼んだり、自分たちなりの解決の取組を考え、活動しました。



●長野市立信里小学校 リンゴ栽培を通して、信里のリンゴ栽培の未来について考えてきました。リンゴづくりの名人に教えていただきながら、花摘み、摘果、葉摘みの体験をし、収穫したリンゴを校内で販売しました。実際に食べておいしいと実感し、選果場のセンサーにかけても高い評価が得られました。信里でこんなにおいしいリンゴが栽培できるのに、高齢化と若年層が農業をしないことなどで、リンゴ畑が減少している現実を受け止め、今、自分たちができることは何だろうと考え、活動しています。



中学校の発表

●飯田市立遠山中学校 “遠山郷を守ろうプロジェクト”は生徒が「出来ることをして地域に貢献しよう」という思いから始まり、生徒会が中心に企画する今年で7年目の活動で、学校周辺のゴミ拾いや公共施設の清掃を行いました。関連活動として“遠山三校絆プロジェクト”や“郷土の舞”の活動があります。地域に住む小中学生が一堂に会してSDGsについて学んだり、重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞を学び、地域の方に披露しています。

●山ノ内町立山ノ内中学校 2年A班は「ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる」をテーマに、草津研修旅行を通して、温泉という共通点と相違点を考えながら、学び考えたことをきっかけに山ノ内町をみつめました。山ノ内は見所が広域であるなど課題もあるが良い点も多いのでまずは町民が地元の良さを知ることが大事だと思いました。また、温泉を農業ハウスや道路の融雪に活用するなど多彩な利用が考えられるのではないだろうか、など多くの提案をおこなった。

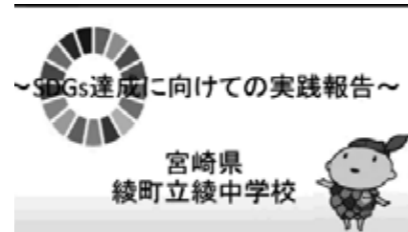
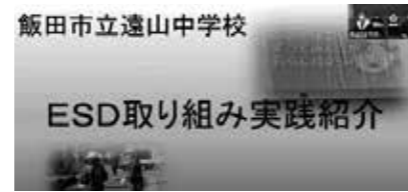
●宮崎県綾町立綾中学校 SDGs達成に向けての生徒会活動報告を1年生が報告しました。本来は自然への探究をテーマにフィールドワークを中心とした学習を行うが、コロナ感染症拡大のために、今年はエコパークセンターの協力による調べ学習を中心としました。リモートセンシングを利用して、綾ユネスコエコパークイオン森における炭素蓄積量を算定しました。新聞紙でエコバッグを作成し、地元の有機農産物販売所に寄贈しました。

●山ノ内町立山ノ内中学校 2年B班は「ユネスコスクールとして山ノ内町をみつめる」をテーマに、草津研修旅行を通して、温泉町としての比較をして学び考えました。草津はコンパクトなど山ノ内町より観光しやすい面があるが、山ノ内の良さであるサルやリンゴの活用、伝統行事など特徴を活かしたスタンプラリーや体験施設の充実などの提案をおこないました。

●高山村立高山中学校 「地産地消の効果」をテーマに、学校給食について地域食材の情報を集めました。用いられた地域食材について、日本国内の産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べ、CO2排出量や輸送距離などから、地産地消の有効性を計算し、検証しました。栄養教諭からのアドバイスを受けて、今年度のデータでさらに有効性を検証しました。

●信州大学教育学部附属松本中学校 1年生は「廃材でReCycle!笑顔が繋がる持続可能な社会づくり」をテーマに、3年間の総合的な学習で大切にしたい理念「協力」「笑顔」「繋」を決め、それに基づいて各グループで活動を行っています。古紙を再利用して紙を作ったり、廃材を用いてベンチを作ったり、古着を裂き織り直すことで新たな布を作ったりしながら、リサイクルや再利用の魅力に気づき始めています。現在、9つあるグループの活動の魅力を互いに伝え合い、感じ合ったりしながら来年度の見通しを立てています。

●岐阜県高山市立荘川中学校 総合学習(郷土教育)でのESD/SDGsの取り組みは、コロナ禍のなかで思うように行えないこともありましたが、演劇・獅子舞・笠踊り・絵本作り・梅花藻の育成などに意欲的に取り組み、のびのびと行うことができました。ESD/SDGsを意識して自分の活動と結び付けて考えるようになったことも大きな一歩でした。荘川ならではの、



荘川だからできることに誇りを持って活動しました。

●文化学園長野中学校 「4つのR」プロジェクトとして、環境4つのR (Reduce, Recycle, Reuse, Refuse)に基づいて、プラスチックゴミ削減案を提案し、川の源流地域から海をきれいにする、生徒が主体的に活動を行う、生徒会執行部が全校を束ねてPDCAを回す、などを実行しました。

●山ノ内町立山ノ内中学校 1年A班は、ユネスコエコパークの志賀高原への研修旅行を通して自然の良さを知り、山ノ内町の豊富な果物や素晴らしい自然のフォトコンテストなど、それらを広めることを考えました。また、ABMORIという自然との共生をめざしておこなった植林活動は、参加者に大きな感動をあたえており、コカリナとも関連あることを知りました。

●福島県只見町立只見中学校 「地域と共に学ぶ只見中学校」をテーマに、本校のESDは地域の方々との協力のもと活動を行っています。今回は、①学校の組織としてSDGs委員会の立ち上げ、②全校生徒によるSDGsに関するポスターセッション、③ペットボトルの利用抑制活動、④自然素材の活用について、の4つのいずれも地域と協働で行っている活動を発表しました。この内容について世界への発信を目指して、サマリーを英語で発表しました。

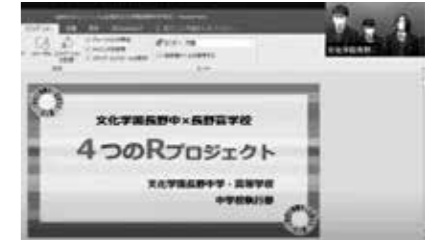
●文化学園長野中学校 English Camp「ブータンの学校と交流しよう～ブータンを学び、日本を知ろう」。例年、合宿形式で行われているEnglish Campおよびカナダへの語学研修が、本年度も開催不可能となり、その代替として、異文化理解学習を企画しました。オンラインでのブータンの子ども達との文化交流を軸に、伝えようとする気持ちを持つ事によって言葉の力に気づき、英語学習への意欲を高め、主体的に学ぼうとする態度が育成されました。同年代による異文化コミュニケーションから、文化の多様性と相互理解を経験することで、自国文化への興味や誇り、アイデンティティを実感することができました。

●山ノ内町立山ノ内中学校 1年生B班は、ユネスコスクールとして山ノ内町のESDを志賀高原研修旅行を通して学び考えました。外国からの来客を増やすために旅館などにアンケートをおこない、言語や食事、交通など多くの課題があることを知り、その改善策を考えました。町中に英語表示を、Wi-Fiの設置、交通面の改善などの具体的な提案をしました。観光も持続可能な社会のために大いに役立つこと知りました。

高等学校の発表

●長野県佐久平総合技術高等学校 「酒粕をアップサイクル ～カスを価値に 未来へ佐久咲け!～」をテーマに活動しました。長野県佐久市は、市内だけで11蔵元もあるほど日本酒造りが盛んです。本校では、令和元年度より地元酒造会社「戸塚酒造」と連携して日本酒製造を行っているが、日本酒製造の副産物として得られる「酒粕」の需要が低迷していることを知りました。そこで、酒粕の需要拡大に向けた取り組みを行い、食品ロス削減や地域活性化につなげたいと考え活動しています。

●文化学園長野高等学校 誰一人取り残さない社会を目指して、2018年より『人と人をつなぐ ヘアドネーション』を行っています。がん治療の副作用、脱毛症などの病気、けがなどで髪の毛を失い、日常生活



に悩みを抱える子どもたちを支えたいと願い、自分の髪の毛を伸ばして、切ってNPO法人などに送り、医療用ウィッグを作る材料にもらうヘアドネーション(髪の毛の寄付)活動です。本年も、本校生徒会役員ら有志がヘアドネーション活動や、そのような仕組みがあることを広くPRする活動に取り組んでいます。

●長野県木曾青峰高等学校 地域で遊休化している農地を整備し、地域の子供達に自然豊かな里山を体験してもらえる機会をつくることを目標に「青峰里山プロジェクト」に取り組みました。地域の方々に指導いただきながら、草刈りや道路、水路の整備、野草観察、水田ビオトープづくりに取り組み、沢山の生き物が訪れる「青峰里山パーク」が完成しました。11月には、地元保育園や小学校の子ども達とともに、里山の自然にふれあう交流企画を実現することができました。



その他ESD実践紹介 (信州ESDコンソーシアムのホームページからご覧いただけます)

●根羽村立義務教育学校根羽学園 中学2年生7名が「根羽杉のブランド化」をテーマに、根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動をおこないました。木材に付加価値を付け産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちにできる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるように活動しています。



●信州大学教育学部附属特別支援学校 1.全校では、アルミ缶の回収をおこなっています。皆で協力する大切さや自分たちでできることの意義を知る貴重な機会となりました。2.小学部では、附属長野小とのESD交流で新たな学びがうまれています。3.中学部では、地域や学校の花壇整備によって明るい雰囲気を作り出しています。4.高等部では、福祉事業所・企業での職場実習で社会とのつながりを作ろうとしており確かな成長がみられます。附属特別支援学校はこれからもSDGsに主体的に取り組んでいきます。



●信州大学教育学部附属幼稚園 「自然環境を大切にすることを育む」をテーマに活動しています。1.資源回収として、家庭からのトイレトーパーの芯や牛乳パック、空き箱などを回収し、遊びの素材として再利用しています。2.こうした素材を使って遊び道具を作ることで貴重な経験を重ね、自宅でも再生資源の有効利用により創造力も育まれています。3.園や家庭での遊びで使わなくなったものは解体して元の資源として回収箱に戻され、再生資源として活用されています。また、市の環境課の方からリサイクルの話や、環境や資源を大切にすることを育んでいます。



コロナ下でもより良い教育を願う関係者の努力により、確かな目的・目標をもつユネスコスクールの歩みは着実に進展していることが今回の発表でも感じられました。6会場ではそれぞれの発表後に外部講師による講評があり、いずれも年々活動が向上しているとの高い評価をいただきました。ありがとうございました。また、オンラインによる全国との交流は、ライブ視聴者の長野県民に屋久島などへ行ってみたいなどの魅力や新たな感動を呼び起こしました。英語での発表もあり、今後の国際交流にもつながる新たな展開も期待される大会でした。今大会はユネスコエコパークの活動支援をおこなってられるイオン環境財団のご援助をいただき開催することができました、ここに感謝申し上げます。



信州ESD通信
No.43 2022.2.15

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアム 成果報告書2021

令和4年8月

編集・発行 信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局
〒380-8544 長野市西長野6-口
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp